講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～４年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第1回　研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第2回　研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第3回	カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】 【授業概要】 カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて 【key words】 【授業概要】 パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第5回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】 【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第6回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】 【授業概要】 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション 【key words】 【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第8回	英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項 【key words】 【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第9回	英語研修(5)　日常英会話　危機管理 【key words】 【授業概要】

		研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業　　Meet with Program Team 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業　　Welcome &Program Orientation 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業　　Campus Orientation & Tour 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ① 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ② 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業　Language History ① 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ②

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第23回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第24回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ① 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ② 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony 【key words】 【授業概要】 レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第29回	研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】 【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第30回	研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 【key words】 【授業概要】 研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。	

	②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	金曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～３年次	2単位(60)	選択
担当教員			
小林　洋子　田口敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　2021年3月14日～3月22日

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	△
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	△
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】

【授業概要】
フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項
【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について
【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
【key words】

【授業概要】
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験

【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第11回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第13回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第14回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第15回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
マニラおよび近郊の文化、観光施設
現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
マニラおよび近郊の文化、観光施設
現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第25回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第26回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】  【課題・予習・復習・授業準備指示】  【予習復習に必要な想定時間】 第27回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】  【授業概要】 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】 【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 【key words】 【授業概要】 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	授業終了後30分間　（変更が生じた場合は適宜指示する）

評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。 【到達目標】 １．礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。 ２．基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。 ３．昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、グループ研究を行うことにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践プログラム①　科目オリエンテーション 【key words】 ・建学の精神　大学生活 【授業概要】 ・新年度オリエンテーション ・基礎演習Ⅱについて説明し、講義内容の確認、課題の提示、評価方法について説明する。 ・環境美化活動、ボランティア活動、履修登録等の説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	進路・資格取得プログラム①　看護の専門性を計画する 【key words】 基礎能力・自己分析、意欲、計画 【授業概要】 人体構造・機能の基礎知識を振り返り、学習を深めて専門性を向上させる。 【教科書ページ・参考文献】 人体構造・機能、イメージできる解剖生理学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	学習統合プログラム①1年間の目標を立案する 【key words】 ・建学の精神　目標　委員会

【授業概要】
・「看護学生の2年目をどう生きるか」について目標の立て方を説明する。
・①長所・短所②看護師としてこうありたい自分の姿③卒業時にこうありたい自分の姿④2年終了時にこうありたい自分の姿⑤目標を達成する上で、現時点での自分の課題⑥自分の課題を解決するためにこの１年で行うこと⑦目標達成の評価を記入する。
・各委員会の役割の説明
・委員会の目標と具体的な活動内容を決める。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「看護学生の2年目をどう生きるか」の用紙を提出する。
・各委員会ごとの目標と活動内容を記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　進路・資格取得プログラム②　進路・資格取得を考える（自己分析）
【key words】
・建学の精神　自己分析　基礎能力　性格、行動、意欲　内面　社会的
【授業概要】
・自己の基礎能力、性格的特徴、行動的特徴、意欲的特徴、内面的特徴、社会的特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　心身の健康プログラム①　自身の健康と実践
【key words】
・自己、健康管理、実践
【授業概要】

「健康について」まず、自身の捉える健康と実践、課題についてまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学習統合プログラム②　グループ学習　「健康」について関心のある事柄を探求する（1）
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　テーマ　文献検索
【授業概要】
・看護研究について説明し、研究テーマを明確にする。また、文献検索の方法について学習する。
・自己の関心のあるテーマの文献を読解力を高める。

【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートにテーマ決定に対しての動機、疑問点、課題を記入し提出する。
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60～180分

第７回　学習統合プログラム③　グループ学習　「健康」について関心のある事柄を探求する（2）
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　健康
【授業概要】
・興味・関心のある領域のテーマの探求、文献検索を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートにテーマを決定した動機、疑問点、課題を記入し提出する。
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　進路・資格取得プログラム③　看護の専門性を向上させる
【key words】
・建学の精神　　基礎能力　自己分析　自己研鑽
【授業概要】
・自己の基礎能力、専門的学習特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・1年次の解剖生理の復習、疾患の復習
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　進路・資格取得プログラム④　看護の専門性を向上させる
【key words】
・建学の精神　　基礎能力　自己分析　自己研鑽
【授業概要】
・自己の基礎能力、専門的学習特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】

・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・1年次の解剖生理の復習、疾患の復習
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　学習統合プログラム④　グループ学習　探究した内容についての検討（1）
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　健康　リーダシップ　メンバーシップ
【授業概要】
・興味・関心のある領域のテーマの探求、文献検索を行い、グループで話し合う。
・グループ学習ではリーダーシップ、メンバーシップを考慮し、行動、発言する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートにテーマを決定した動機、疑問点、課題を記入し提出する。
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　進路・資格取得プログラム⑤　看護の専門性を向上させる
【key words】
・建学の精神　基礎能力　自己分析　自己研鑽
【授業概要】
・自己の基礎能力、専門的学習特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　進路・資格取得プログラム⑥　看護の専門性を向上させる
【key words】
・建学の精神　基礎能力　自己分析　自己研鑽
【授業概要】
・自己の基礎能力、専門的学習特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　進路・資格取得プログラム⑦　看護の専門性を向上させる
【key words】
・建学の精神　基礎能力　自己分析　自己研鑽
【授業概要】
・自己の基礎能力、専門的学習特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　学習統合プログラム⑤　グループ学習　探求した内容について検討（2）
【key words】
・建学の精神　看護研究　研究目的　研究方法　研究結果　分析　考察　文献検索
【授業概要】
・研究目的・方法・結果・分析・考察の書き方について学習する。
・グループで文献等を用いて検討した結果について、テーマに沿って小論文を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　建学の精神と実践プログラム②　前期の目標の評価
【key words】
・建学の精神　目標
【授業概要】
・夏期オリエンテーション
・夏期中の過ごし方、学習の進め方について説明する。
・「看護学生の2年目をどうに生きるか」について前期目標の評価を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期目標の評価を行い、後期に向けて目標の修正をする。
・前期に受けた模擬試験の復習を行い提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　建学の精神と実践プログラム③　後期に向けた目標の修正
【key words】
・建学の精神　大学生活　目標
【授業概要】

・秋期オリエンテーション
・後期の大学生活に向けて目標の修正や追加をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・夏季中の指定課題を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　学習統合プログラム⑦　グループ学習　発表会に向けての準備（1）
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育
【授業概要】
・各グループで健康教育のテーマに沿った発表資料をパワーポイントを用いて作成する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　学習統合プログラム⑧　グループ学習　発表会に向けての準備　（2）
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育　パワーポイント
【授業概要】
・各グループで健康教育のテーマに沿った発表資料をパワーポイントを用いて作成する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
・発表資料の提出
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　学習統合プログラム⑨　グループ学習　「健康教育」に関連した発表会
【key words】
・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育　プレゼンテーション
【授業概要】
・研究小論文の発表
・健康のテーマに沿ってまとめた資料をもとにプレゼンテーションを実施する。
（研究小論文の学びを昌賢祭の健康指導に結びつける）
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　地域貢献プログラム①　　リレー・フォー・ライフ・ジャパンに参加
【key words】
・建学の精神　がん　征圧　コミュニケーション力　判断力　行動力
【授業概要】
・リレー・フォー・ライフ・ジャパンはがんに立ち向かう方々の勇気を称え、がん患者や家族、友人、支援者と共に地域一丸となってがん征圧を目指すチャリティー活動である。がんへの理解を深めながら地域貢献活動に参加し、コミュニケーション力、判断力、行動力について学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　地域貢献プログラム②　　健康チェックの方法を学習する
【key words】
・建学の精神　健康　健康教育　疾病
【授業概要】
・昌賢祭準備
・企画展示（健康チェック）に向けての準備
・各担当箇所を決め、健康チェックの内容・方法を決定する．また、健康教育を行うために、疾病について既習の知識をもう一度学習する．
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　地域貢献プログラム③　　健康チェックの内容を検討する
【key words】
・建学の精神　健康　健康教育
【授業概要】
・昌賢祭準備
・企画展示（健康チェック）に向けての準備
・各担当毎に役割を話し合い、健康チェックの内容・方法を学習しグループで検討する。また健康教育を行うために、疾病について既習の知識を活用し地域の方々に説明・指導出来るように準備をする．
【教科書ページ・参考文献】

・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　地域貢献プログラム④　健康チェックについてまとめる
【key words】
・建学の精神　健康　健康教育　役割
【授業概要】
・昌賢祭準備
・企画展示（健康チェック）に向けての準備を行う.
・各担当毎に役割を話し合い、健康チェックの内容・方法を学習し資料を作成する。また健康教育を行うために、疾病について既習の知識を活用し、説明・指導出来るように準備をする。
・健康チェックのデモンストレーション、前日・当日の役割の最終確認と準備をする。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　地域貢献プログラム⑤　実践　地域住民の健康チェック
【key words】
・建学の精神　健康　健康教育　健康チェック　安全・安楽　地域　住民
【授業概要】
・昌賢祭当日
・学習したことをもとに、地域住民の健康チェックを実施する。健康チェックを実施する際には、安全・安楽を考慮し技術を提供する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
・昌賢祭後に指定の振り返り用紙に記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　建学の精神と実践プログラム④　後期　目標の中間振り返り
【key words】
・建学の精神　大学生活　ボランティア活動　学習
【授業概要】
・冬期オリエンテーション
・後期に修正した目標について振り返りを行い、自己の生活を振り返る。
・冬期中の過ごし方、ボランティア活動の実践、自己学習方法について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
・冬期中の課題を提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　建学の精神と実践プログラム⑤　学生生活の意義を考える（２年次）
【key words】
・建学の精神
【授業概要】
・新春オリエンテーション
・学生生活の意義を考え自分自身の生活を振り返ることで3か月間を有意義に過ごすことができるようにする。
・1・2月の予定について説明する。また、ボランティア活動の実践や環境美化活動についても説明する。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・指定の授業時に振返りテストを行うので、指示された範囲を学習すること
・冬期中の課題を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　進路・資格取得プログラム⑧　進路・資格取得を考える（自己表現力）
【key words】
・建学の精神　進路　マナー　一般常識
【授業概要】
・看護専門職に関する進路・就職・マナー・一般常識について学習する。
・テーマに沿った自己アピールを記入し、その後自己分析をする。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自己の表現力について振り返りを行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　地域貢献プログラム⑥　1年間のボランティア活動からの学び
【key words】
・建学の精神　ボランティア　具現化　課題　情報共有
【授業概要】
・今年度のボランティア活動の振り返りを行い、3つのテーマに絞りグループで情報共有を行う。
・「建学の精神」をもとにしたボランティア活動の具現化を図るため、グループで情報共有を行

	う。 ・情報共有した内容をもとにパワーポイントにまとめ発表できるように資料を作成する。 ・1年間実施したボランティア活動からの学び、課題、後輩に伝えたいことをグループに分かれてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・ボランティア活動のまとめをパワーポイント資料にまとめ提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　地域貢献プログラム⑦　1年間のボランティア活動報告会 【key words】 ・建学の精神　ボランティア　具現化　発表態度 【授業概要】 ・2年次におけるボランティア活動報告会に参加し、他の学生のボランティア活動の内容や学びを共有する。 ・また、報告会では看護研究セミナーで学習した発表態度、発表時における質問方法について実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・指定の振り返り用紙に記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　建学の精神と実践プログラム⑤　　1年間の目標評価 【key words】 ・建学の精神　目標　自己評価　自己課題 【授業概要】 ・年度末オリエンテーション ・1年間の自己評価、次年度に向けて自己課題の明確化を振り返り用紙を用いて行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・指定の用紙に1年間の振り返りを記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 １．基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２．私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３．全体オリエンテーション等の学校行事は、建学の精神と実践教育プログラムに含まれるので必ず出席すること。 〔受講のルール〕 １．授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ２．授業を受ける際、課題に取り組む際には基礎演習Ｉにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループ　ワークのあり方など）を活用すること。 ３．資料の取り扱い。「授業で配布する資料の予備は保管しませんので，出席者からコピーをしてください」
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。 グループワークはリーダーシップ・メンバーシップを発揮しながら学習していくことが重要である。
オフィスアワー	授業時に提示する。
評価方法	演習への取組・内容等（30%）、研究小論文（40%）、クラス課題等の提出物（30%）を総合して評価する。
教科書	・『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎演習Ⅱは生活指導から学習指導まで幅広く学生と関わりを持つ科目である。 医療機関で医療従事者として実践経験のある教員がクラス担任となり生活指導や学習指導にあたり２年生の学生生活を支援する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　総合演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	1単位（30）	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学士力や問題解決能力等を基にして、高度な総合知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である卒業研究・制作では、総合演習Ⅱにおいて完成するべく、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。 ②臨床実習における看護実践を通して、自己の看護研究のテーマを探究する。 ③昌賢祭やボランティアでの総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション 【key words】 前期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 前期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 総合演習Ⅰの内容と評価方法について説明する。 クラスごとに学生委員会を決定し、各委員会の委員長・副委員長を選出する。 【教科書ページ・参考文献】 一年間の自己目標、国試対策年間計画等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活基礎調査シート、環境調査票、自己目標等の提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第２回	地域貢献プログラム①　地域との深まりについて（１） 【key words】 建学の精神、ボランティア活動 【授業概要】 地域との深まりについて（１） 合同ボランティア報告会に向けて発表者の決定と報告会の発表リハーサルを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表練習を行う。発表用パワーポイントデータを指定された教室のPCデスクトップに保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度

	第３回	地域貢献プログラム②　地域との深まりについて（2） 【key words】 建学の精神、ボランティア活動 【授業概要】 地域との深まりについて（2）　合同ボランティア報告会 合同ボランティア報告会に積極的に参加し学びを共有することで、これまでのボランティア活動を振り返り、今年度の目標と計画を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目標シート、成長報告書等を指定の用紙に記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第４回	心身の健康プログラム①　親睦スポーツ大会準備 【key words】 建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【授業概要】 心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会の準備 大会に向けて、バレーボール、バスケットボール、ドッチビー、長縄、グランドゴルフの各競技ごとに練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 体調を整え大会に参加できるよう自己管理を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第５回	心身の健康プログラム②　親睦スポーツ大会 【key words】 建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【授業概要】 心身の充実について（2）　親睦スポーツ大会の参加 学園の「建学の精神」のもと、スポーツを通じて青春を謳歌し、友情を深めながら充実した学生生活の一助にするため親睦スポーツ大会に参加する。スポーツマンシップに則り、種目別ごとにチームワークを高める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツ大会参加レポートを指定用紙に記入し期限内に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第６回	建学の精神と実践教育プログラム②　夏期オリエンテーション 【key words】 夏期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 夏期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行うとともに、前期の振り返り　夏期休暇中の活動について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー参加レポート、長寿作文応募用紙等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー参加レポート、長寿作文等の提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第７回	学士力育成プログラム①　看護研究セミナー発表会参加 【key words】 学士力育成、看護研究 【授業概要】 学士力育成プログラム①　看護研究セミナー発表会参加 ４年生の看護研究セミナー発表会に参加することで、研究のすすめ方、研究方法等を学び、さらに実習の学びを看護研究に結び付けて考えることで、自らの看護研究計画書作成の参考にする。 事前に配布する看護研究セミナー抄録集を参照し、興味・関心のあるテーマを選んで参観する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー抄録集、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー課題1・2を作成し、期限内に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第８回	学士力育成プログラム②　看護研究セミナー発表会参加 【key words】 学士力育成、看護研究 【授業概要】 学士力育成プログラム②　看護研究セミナー発表会参加 ４年生の看護研究セミナー発表会に参加することで、研究のすすめ方、研究方法等を学び、さらに実習の学びを看護研究に結び付けて考えることで、自らの看護研究計画書作成の参考にする。 事前に配布する看護研究セミナー抄録集を参照し、興味・関心のあるテーマを選んで参観する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー抄録集、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー課題1・2を作成し、期限内に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】

		所要時間約60程度
	第９回	進路・資格取得プログラム①　看護師資格試験対策講座 【key words】 進路・資格取得、看護師資格試験対策講座 【授業概要】 進路・資格取得プログラム①　看護師資格試験対策講座 看護師資格試験対策講座に参加し、看護師国家試験に向けての心構え、過去問題の傾向、学習の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対策講座で学習した内容を復習し、国試対策年間計画の修正を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第１０回	建学の精神と実践教育プログラム③　秋期オリエンテーション　後期に向けての目標設定　環境美化活動 【key words】 秋期オリエンテーション、建学の精神、合同環境美化活動 【授業概要】 秋期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 総合演習Ｉの内容と評価方法について確認する。後期に向けて目標の修正や追加をする。 合同環境美化活動を行い学内外における環境美化活動の徹底を図る。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第１１回	地域貢献プログラム③　地域との深まりについて（３）　昌賢祭　参加と振り返り 【key words】 建学の精神　昌賢祭 【授業概要】 地域との深まりについて（３）　昌賢祭 全学部が一体となり協力して昌賢祭を成功させるため学生委員会が中心となり準備、当日運営を行う。 企画展示（ピアカウンセリング）に向けての準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 昌賢祭参加レポートを記入し期限内に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第１２回	建学の精神と実践教育プログラム④　冬期オリエンテーション　　実習の振り返りと進路の明確化 【key words】 冬期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 冬期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 後期に修正した目標および臨地実習について振り返りを行い、4学年に向けで進路について考える。 冬期休業中の生活に関する諸注意、ボランティア活動等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第１３回	建学の精神と実践教育プログラム⑤　新春オリエンテーション　　今からの国家試験対策　実習体験を国家試験に活かす勉強法 【key words】 新春オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 新春オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 後期試験日程を含む1～3月の予定およびボランティア活動報告会、環境美化活動等について説明する。 4月のボランティア活動報告会に向けて、グループワークと発表準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
	第１４回	進路・資格取得プログラム②　就職試験対策　　就職作文模試 【key words】 就職試験対策、就職作文模試、就職説明会 【授業概要】 進路・資格取得プログラム② 就職試験としての就職作文模試を行い、進路について具体的な展望を持ち計画的な就職活動について考える。

	3月に実施される就職説明会の概要を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作文模試をとおして、自らの課題を明確にし課題解決のための手立てを探る。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度 第１５回　建学の精神と実践教育プログラム⑥　1年間の総括：自己点検・自己評価　　年度末オリエンテーション 【key words】 年末オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 年末オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 一年間の自己目標用紙を用いて1年間の自己評価を行い、次年度に向けて自己課題を明確化する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間約60程度
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講に関わる情報］ 1 総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること(貢献度が評価となる)。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。学修その他の活動に積極的に取り組み、提出物等の作成に当たっては予習復習を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後の30分間
評価方法	提出物（50%）、演習への取り組み（50%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」鈴木利定・中田勝、中央法規、2002年
参考書	「知のナヴィゲーター」くろしお出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師・養護教諭として実務経験のある教員が科目を担当する。その経験を活かし、医療従事者・教育者としての資質や態度、礼儀等について指導・支援する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　総合演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(30)	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 本学の見学の精神・教育目標に基づき、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰで身に付けた基礎学士力や問題解決能力を基盤にして、資格取得に向けての高度な専門的知識の修得とプレゼンテーション能力の育成を目指すことを目的とする。また、礼儀、環境美化活動、ボランティア、進路決定等に自主的に取り組み、実習を通じ身に付いた実践力をさらに高め「仁愛」の精神を持つ自立した社会人になるためのスキルアップを図る。 [到達目標] ①礼儀･挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②看護専門職者として、マナー及び問題解決能力を身に付け、主体的に行動できる。 ③資格取得および専門性について理解を深め、各自の目標・課題に向かって自己研鑽できる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自律的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　春期オリエンテーション 【key words】 オリエンテーション、目標、年間計画、修学ポートフォリオ 【授業概要】 ・科目オリエンテーションを行う。 ・4年次の年間計画の説明を行い、各自1年間の目標を立案する。 ・国試受験に向けた年間の学習計画の立案等について説明する。 ・修学ポートフォリオの意義と方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 2者面談までに3年次までの振り返りを行い、4年次の目標を考えておくこと。また、国試の学習計画を立案し、計画表に記入しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	進路・資格取得プログラム①　就職に向けて（面接マナー、履歴書の書き方等） 【key words】 就職試験、面接マナー、履歴書 【授業概要】 履歴書の書き方や面接試験等についての説明を行う。 面接試験のロールプレイを行い、実際の面接試験の場を理解し、就職試験に備える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就職を希望する病院等を検討し、就職試験についても調べておくこと。 進路の手引きを読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	進路・資格取得プログラム③　看護師国家試験ガイダンス 【key words】 看護師国家試験、ガイダンス 【授業概要】 さわ研究所講師から看護師国家試験の概要の説明を受ける。 国家試験合格に向けての勉強の仕方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護師国試模試受験に向けて過去問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	地域貢献プログラム①　学年合同ボランティア報告会準備 【key words】 地域貢献、ボランティア活動、報告会、準備 【授業概要】 ・1～3年次のボランティア活動を振り返り、グループワークを通して学びの共有を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告会で発表できるように資料の準備を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第５回	地域貢献プログラム②　学年合同ボランティア活動報告会（全学年合同） 【key words】 地域貢献、ボランティア活動、報告会、全学年 【授業概要】 ・全学年縦割りのグループでボランティア活動の報告会を行う。 ・他グループや他学年の報告を受けて、これまでのボランティア活動の振り返りを再度行い、今年度の目標や活動について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告会で発表できるように資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	心身の健康プログラム①　健康と体力（親睦スポーツ大会） 【key words】 健康、スポーツ大会 【授業概要】 ・種目ごとにチーム対抗試合を行うことで、チームで協力してスポーツに取り組む意義を学ぶ。 ・スポーツを通した心身の健康の維持・増進を考える機会とする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 チームごとに練習して臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第７回	建学の精神と実践教育プログラム②　夏期オリエンテーション 【key words】 建学の精神、夏期オリエンテーション、前期、自己点検、自己評価、修学ポートフォリオ 【授業概要】 ・前期を振り返り、修学ポートフォリオに入力することで自己点検・自己評価を行う。 ・国試に関する情報提供と後期の国試対策の概略を示すことで、夏期休暇中の国試に向けた学習計画を具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期に行った模試の結果を分析しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	建学の精神と実践教育プログラム③　秋期オリエンテーション 【key words】 建学の精神、秋期オリエンテーション、後期 【授業概要】 ・後期の国試対策、国試受験の手続き等について概要を示し、後期の過ごし方や国試の学習計画を考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 夏期休暇中の活動について修学ポートフォリオに入力すること。 4月に立案した国試の学習計画の修正を行うように。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	建学の精神と実践プログラム④　麗掃の応対について　意義と実践方法 【key words】 環境美化活動、グループワーク、全学年合同 【授業概要】 他学年との合同グループに分かれ、環境美化活動についてグループワークを行う。 グループワークを通して、環境美化活動の意義について考え、実践方法について意見交換する。 【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 環境美化活動について振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　灑掃の応対について　実践活動 【key words】 環境美化活動、グループ、実践 【授業概要】 グループワークをしたグループごとに環境美化活動の実践を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今後の環境美化活動への取り組み方について考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　進路・資格取得プログラム③　社会人としての基礎知識に関する講話 【key words】 社会人、講話 【授業概要】 社会人としての労働・社会保障の基礎知識について社会保険労務士から講話をいただく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会保障について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　進路・資格取得プログラム④　国家試験受験の手続き・準備等について 【key words】 国家試験、受験、手続き、願書 【授業概要】 ・国家試験受験の手続きや願書作成について説明する。 ・願書用の写真撮影を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 願書作成の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　進路、資格取得プログラム⑤　願書作成について 【key words】 国家試験受験、願書作成 【授業概要】 ・国家試験受験までのスケジュールや模試の状況の説明を行い、国試受験に向けた心身の準備について理解する。 ・国家試験の願書の清書を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第12回で説明を受けたことを踏まえ、国家試験の願書の作成に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　学習統合プログラム①　教育講話 【key words】 コミュニケーション、講話 【授業概要】 講師を招きコミュニケーション能力UPについて講話をいただく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会人となった時の場面を想定して講話の内容の振り返りを行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　建学の精神と実践教育プログラム⑥　年度末オリエンテーション　１年間の総括：自己点検・自己評価 【key words】 年度末、オリエンテーション、総括、自己点検、自己評価 【授業概要】 ・修学ポートフォリオへの入力を行い、1年間の自己点検と自己評価を行う。 ・国家試験対策の振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験受験を終え、国試対策や1年間の活動の振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・総合演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ・私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ・各種オリエンテーション、大学行事・模擬試験には必ず出席すること。 ・3分の2以上の出席日数がないと単位が認められない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	その他

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。自主的に学習する姿勢が大切であり、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外での自己学習が必要である。
オフィスアワー	月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の17：30～18：00
評価方法	提出物（80%）、演習への取り組み（20%）を総合して評価する。（詳細な評価基準については授業初回に別紙配布）
教科書	鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ヘルスカウンセリングの原理と方法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
橋本　広信　山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校現場や医療現場で一人一人のニーズに応じた支援を行うために、ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を学ぶ。 【到達目標】ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を理解し、学校などで実践できる支援の意義について理解を深める。
授業の概要	・学校現場で必要となるカウンセリング場面についてもっとも基本的なことを学び、グループワーク等を通して理解を深めながら、実際の子どもの心と発達の支援に必要なヘルスカウンセリングの基本技法とその具体的展開について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：子どもが向き合う心の仕事　入門編 【key words】 保健室、マーラー、分離―個体化理論、愛着、ウィニコット、移行対象、ほどよい親 【授業概要】 前半4回は講義形式で、子どもの抱える生きづらさの基本的理解と支援のための視点について、発達心理学または臨床心理学の視点から解説をします。目的は、主に「保健室」で出会う子どもの問題の背景について、広い視野（縦：時間と横：空間に広げて）で捉える視点をつかむこと。また、子どもの問題をその生育史や家族の背景からイメージする力を磨くこと。子どもの問題を、成長のための「発達上の課題」としてとらえることなどとします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料を使用しますので、資料を閉じておくファイルなどを用意すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考になる文献や資料を提示するので、授業後読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第２回	「親子がつながること」（愛着形成と母性と父性） 【key words】 母性と父性、愛着（アタッチメント）、ボウルビー、ハーロウ、エインスワース、新規場面法、母性剥奪、愛着障害、境界性人格障害 【授業概要】 子どもの問題の背景に潜む未解決の愛着の問題について学ぶ。愛着理論をベースに、親子の間で育まれるべき愛着形成がうまくいかないケースを紹介しながら、子どもの健全な発達にとって、家族が十分に機能することの意義を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、中脇初枝（2012）『きみはいい子』（ポプラ社）、魚住絹代（2003）『女子少年院』（角川書店）他 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボウルビーの愛着理論について、予習をしておくこと。また、境界性人格生姜についても調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第３回	「学び」と「協調」の課題（特に「ともだち」との関わり方） 【key words】 勤勉性　対　劣等感、コンピテンシー、チャムシップ、自我耐性、インクルーシブネス 【授業概要】 今回は、まだ自分の内面を的確に表現する言葉や手段が未熟で、うまく人と関わる力も弱い子ど

もたちが、学校での学びや協調の課題につまずき、支援を必要とするような場面を想定する。そして、そうした子どもが自分と向き合いながら、いかに仲間や味方とつながり、課題を果たしていくかについて考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、金森俊朗（2010）『「子どものために」は正しいのか』（学研教育出版）、岩宮恵子（2009）『フツーの子の思春期』（岩波書店）、岩宮恵子（1997）『生きにくい子どもたち』（岩波書店）他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後、参考文献に目を通しておくこと。最低限、プリントの全文を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　「”自分を生きる”、”自分とつながる”課題」
【key words】
アイデンティティ、アイデンティティ拡散、自我体験、自己一致
【授業概要】
子どもは成長とともに、やがて自分の将来を漠然と描き、他者と自己を比較しながら、それぞれの個性が明確になってくる。前半の講義の最終テーマは、すべての子どもがやがて向き合う「自立」の問題とし、そこで子どもが向き合う「自分を生きる」「自分とつながる」という心の仕事の大切さを解説する。そして、子どもとの接点において、どのように子どもたちの人生と心の発達を支援していくべきかを考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
ＮＨＫスペシャル（2005）『子どもが見えない』（ポプラ社）、山咲さくら他（2006）『私の居場所はどこ？』（農文協）、エリクソン（2011）『ライフサイクルとアイデンティティ』（誠心書房）他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後、参考文献に目を通しておくこと。最低限、プリントの全文を読んでおくこと。レポート課題を配布するので、後半の授業でのレポート課題とあわせて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　ヘルスカウンセリングに生かすカウンセリングの知識と技法
【key words】
ヘルスカウンセリング、養護教諭、健康
【授業概要】
健康相談に生かせるカウンセリングの基本的な態度やスキルについて理解する。
現代的な児童生徒の問題行動及び健康問題や課題について理解し、その対応について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保健室の健康相談に関する情報を新聞や先行研究から収集しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　ケースに学ぶヘルスカウンセリング
【key words】
カウンセリング、養護教諭、健康
【授業概要】
保健室での児童生徒との日常的関わりについて、具体例を基に学ぶ。
傾聴の大切さを理解し、児童生徒の気持ちに焦点を当て、問題や悩みを持ち保健室を訪れる子どもたちへの支援について学ぶ。
健康相談に活用できるカウンセリングスキルについて理解する。
ペアになってカウンセリングスキルの演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代の児童生徒の健康問題、課題について、図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　様々な不適応を示す子どもたちの支援者となるために①
【key words】
カウンセリング、養護教諭、健康課題

【授業概要】
養護教諭に求められる、役割を理解し児童生徒の健康問題、課題について学ぶ。
保健室で活用できるカウンセリングスキルについて理解する。
来談者中心療法や実生活の中で生かせるピア・カウンセリングスキルについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代の児童生徒の健康問題、課題について、図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　様々な不適応を示す子どもたちの支援者となるために②

	【key words】 カウンセリング、養護教諭、健康 【授業概要】 様々な不適応を示す子どもたちへの対応を理解し、コーデイネーター的関わりについて理解する。 支援者となるため、自己理解や他者理解について演習を通して学ぶ。 ペアになってコ・カウンセリング（相互カウンセリング）を実施し、体験を通して児童生徒に寄り添うこと　を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭として、児童生徒に寄り添うためのカウンセリングスキルや対応について再確認し、課題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。 ・また、配布資料や当日のノートや記録をもとに、十分な復習を行うこと。 ・日常的に世の中の出来事、特に子どもと教育に関する事柄に関心を持ち、新聞なども読むこと。 【受講のルール】 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホ等情報機器の使用）は厳禁。 ・授業の感想をしっかり書くこと。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式（前半）・コメントカード方式（後半）
授業外時間にかかわる情報	わからない部分は授業中に解決するよう努力すること。※質問は積極的にして構わない。
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:00～12:40)
評価方法	課題レポート（各講師５０％ずつの評価・詳細な評価基準は授業内で提示） 総合評価は、課題レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	配付資料による。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小学校・中学校・高等学校にて養護教諭として３８年間勤務。児童生徒及び教職員の健康の保持増進に努める。また、教育相談係として児童生徒及び保護者への支援を行う。実務経験から、養護教諭が実施するヘルスカウンセリングの実際について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　文学論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 日本文学（現代文学）の作品の中から、人間の感性・生き方・価値観等を表現した文や書物を選び、文学とは何か、文学をどのように楽しむか、文学から何を得るかについて学習することができる。 ［到達目標］ ①作品（文章）を読み、作者の意図することが把握できる。 ②すぐれた文章表現を学び基本的な文章記述の技法を身につけることができる。 ③作者特有の表現技術を理解できる。
授業の概要	４人の作家の作品をとりあげ、作家について調査研究を行なう。さらに作品を鑑賞してテーマに沿って思考し論述する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業計画・授業の具体・講義内容・講義方法・評価について） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 文学論という授業（授業内容と計画、授業方法と講義の受け方、計画）について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文学の本質、文学のジャンル、作家研究、作品受容、作品研究について考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	文学の本質・ジャンル、作家研究、作品受容、作品研究の仕方について考察する。 【key words】 文学の本質、ジャンル、作家研究、作品受容、作品研究 【授業概要】 文学の本質・文学のジャンル、作家研究、作品受容、作品研究について「近代文学研究法」長谷川泉著によって考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 夏目漱石の履歴を調べてレポートする。プリント「坊っちゃん」を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	「坊っちゃん」作品の研究 【key words】 夏目漱石、坊ちゃん 【授業概要】 用意した「坊っちゃん」の抜粋文を読み、父母の「坊っちゃん」に対する接し方、清の「坊っちゃん」に対する接し方を比較する。さらにはその両者はどのような価値観の違いによるものなのかを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業で価値観の違いによって生じる人間の成長について話し合い、自己の生き方、人としての在り方について考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　「坊っちゃん」を通して人としての生き方、在り方を探り、さらには文学作品としての漱石の文章の妙について哲学する。
【key words】
現代文学、慶応～大正という時代、夏目漱石、坊っちゃん

【授業概要】
西洋化を急ぐ日本社会とその中に生きる人間の心理を分析・追究する漱石の作品「坊っちゃん」について人間のあり様を探る。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業　芥川龍之介「鼻」小説の抜粋資料を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　「鼻」作品の研究を行う。
【key words】
芥川龍之介、鼻、明治25年～昭和2年

【授業概要】
用意した「鼻」の抜粋文を読み、最後に鼻が元の姿に戻って、「はればれとした心持ち」になった内供は、もはや長い鼻を気にかけることも無くなったのか、それとも以前のまま鼻にこだわる気持ちは続いたのか、内供のその後を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業で「鼻」が夏目漱石に絶賛されて作家としての地位を得たこと。さらには現実を理知によって再構築しようとした芥川龍之介にせまる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　「鼻」作品から内供のその後をシュミレーションしつつ現実を理知によって解き明かそうとする芥川について考察する。
【key words】
内供のその後、現実を理知によって再構築する

【授業概要】
内供は長い鼻を気にかけることは無くなったのか、それともいまだ長い鼻にこだわりの気持ちをもっているのか。現実を理知によってとらえようとする芥川について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業　村上春樹「沈黙」小説の抜粋文資料を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　「沈黙」作品の研究
【key words】
怖い人間、人間に欠けているもの、生き方の価値観

【授業概要】
「僕が怖いのは青木のような人間ではありません。」と大沢さんは語るが、では本当に怖いのはどのような人間だろうか。またそのような人間に決定的に欠けているものは何であると大沢さんは考えているのか。彼自身がどのような生き方に価値を置いているのかを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業で「大沢さん」が価値を置いている人としての生き方を考察しつつ、現代社会に生きる人間の生き方を考察する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　「沈黙」作品から現代社会に生きる人間の生き方について考察する。
【key words】
人間の生き方、現代社会、村上春樹の作品

【授業概要】

	「大沢さん」が価値を置いている人としての生き方を哲学しつつ、現代社会に生きる人間お生き方を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 多様な価値観を知り、共存しながら人間としての真の在り方、生き方を哲学する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・人間としての在り方、生き方について深く考える。 ・文学作品を楽しむ [受講のルール] ①討論・発表を中心に授業を行うので欠席・遅刻はしない。 ②態度や身だしなみ等が整っていない場合は受講を認めない。 ③心を豊かにしておく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画に示されている作品は事前によく読み要旨の把握とともに自己の感想をまとめておく。 ・文章中の難解語句は辞書で調べておくこと。
オフィスアワー	・月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・課題の取り組み（レポートの内容・記述・提出）２０％　・発表（内容・方法・態度）１０％　試験は小論文の提出　７０％
教科書	・授業ごとに講義の内容、進行を資料として配布する。授業で取り上げる作品は事前に読んでおくこと
参考書	・講義の中で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として38年間教育に携わった。 その経験をもとに教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　チームケア入門Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
剱持　貴史　小島　優子　黒澤　磨由美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ねらい「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 ①　事例を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 ②　事例を通して、多職種連携の必要性、連携上の留意点を討議することができる。 ③　チームケアの目標について考えることができる。 ④　チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、学部・短大の枠を超えて3学部1学科合同チームによる「チームケア教育」を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	″科目のオリエンテーション　　福祉・教育・リハビリ・看護職の機能と役割・チームケアの目的、多職種連携 【key words】 チームケア・多職種連携・福祉・教育・リハビリ・看護職の各機能 ″ 【授業概要】 科目のオリエンテーション　　福祉・教育・リハビリ・看護職の機能と役割・チームケアの目的、多職種連携の基本、社会福祉・リハビリテーション・看護各職種の特徴 【教科書ページ・参考文献】 関連資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 チームケア入門Ⅱ資料集にある地域特性他の課題を実施する 【予習復習に必要な想定時間】 10時間程度
	第２回	担当事例に関する調べ学習　自職種の特徴を踏まえ何ができるかをまとめる 【key words】 リハビリ・福祉職・看護職の役割、多職種連携 【授業概要】 ・自己紹介 ・調べ学習の情報交換により、内容を深める、担当事例に関する調べ学習の情報交換をし、自職種の特徴を踏ま 　え何ができるかをまとめる。 ・5～8回までの計画を立て、次回までしてくることの確認をする。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・5～8回までの計画を立て、次回までしてくることの確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度

	第３回	担当事例に関して自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる 【key words】 課題解決・アセスメント・計画立案・地域特性 【授業概要】 担当事例に関する調べ学習（地域特性含む）をもとに各学部ごと、アセスメント、課題解決の計画を立案する 看護学部グループ間の情報交換をし、内容を深める。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループごとのアセスメント、計画立案について確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
	第４回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにする。 【key words】 課題（問題点）を明確化・計画立案、ジェノグラム・自職種の役割 【授業概要】 事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを明らかにするための合同討議・報告準備。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループごとのアセスメント、計画立案について確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
	第５回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにする。 【key words】 課題（問題点）を明確化・計画立案、自職種の役割 【授業概要】 事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを明らかにする合同討議・報告準備 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループごとのアセスメント、計画立案について確認をする 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
	第６回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部による報告会 【key words】 福祉・リハビリ・看護各職種の役割、アセスメントの視点 【授業概要】 明確化した事例の各学部の課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告、共有する。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループごとのアセスメント、計画立案について確認をする 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
	第７回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部での報告会 【key words】 福祉・リハビリ・看護各職種の役割、アセスメントの視点 【授業概要】 明確化した事例の各学部の課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告、共有する。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループごとのアセスメント、計画立案について共有する 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
	第８回	事例に関する自職種・多職種の役割、チームケアにおける多職種連携のあり方について考える チームケア教育の一連について振り返り、 【key words】 学習過程を評価・振り返り・自己の課題 【授業概要】 事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア入門Ⅱ資料集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 チームケア教育終了後の自己評価、リフレクションペーパー、授業評価 【予習復習に必要な想定時間】 2－4時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：教科書を読んでくる。指示された事例を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。	

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱とする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
オフィスアワー	授業時間終了後18時まで。
評価方法	①グループワークの参加度20％・演習課題３０％（提出期限を遵守する）。②チームケア学部関連携教育評価表 ③総合評価は、グループワークの参加度・演習課題を合わせて60％以上を超えていることが前提
教科書	鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.
参考書	1. 川島みどり：チーム医療と看護、看護の科学社,2014 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 3. 嶋崎謙二：看護白書、平成26年版、日本看護協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 在宅看護論が看護基礎教育に設立されて以来、多職種連携・チーム医療・退院支援に関連する研修会への参加および、保健医療福祉職による退院支援研修会の開催をしてきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　経済学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業ではマクロ経済学の基礎的な力を養成することを目標とする。 【到達目標】 学生がマクロ経済学の基礎を理解し、毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを到達目標とする。
授業の概要	マクロ経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	GDP 【key words】 ＧＤＰ、三面等価の原則 【授業概要】 GDPのデータの作成方法、データの読み方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民経済計算」（内閣府） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	経済成長 【key words】 ソロー、労働、資本、技術進歩 【授業概要】 新古典派の経済成長理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済成長率の統計を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	格差

	【key words】 ジニ係数 【授業概要】 ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「格差と成長」（OECD） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第５回　幸福の経済学 【key words】 幸福、相対所得仮説 【授業概要】 相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感に関係する統計を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第６回　ストック経済学 【key words】 株価 【授業概要】 株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本の株価を新聞で確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第７回　金融 【key words】 貨幣ストック、金利、貨幣需要 【授業概要】 貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 金融に関係する統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第８回　財政政策・金融政策 【key words】 乗数、金融政策 【授業概要】 乗数の計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 財政政策・金融政策の種類を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞やニュース等で経済情勢について問題意識を持ち、授業で学んだ内容と関連づけていく姿勢が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、 さまざまな文献やHP 等を参照して復習すると、理解がより深まる。
オフィスアワー	授業終了後30 分。
評価方法	試験（ 60%）、授業中の課題（ 40%）を総合して評価する。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　住環境福祉論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
村山　明彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】高齢者・障害者が地域で生活する基盤となる住環境はどうあるべきかを理解する。また住環境整備の方法を学ぶことで、実際に問題解決を提案出来る能力を養うことを目的とする。 【到達目標】①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。 ②他職種との連携の意義を理解し、その必要性を説明することができる。 ③生活行為別に住環境整備の提案を行うことができる。
授業の概要	地域で生活する高齢者や障害者に対し、その生活を維持・向上させるという視点を持って関わることは重要である。 住みやすい住環境とは何か、どのように生活に介入するべきか考えることを重視する。 また住環境福祉コーディネーター検定試験２級公式テキストの内容に準拠した授業を展開することで、資格取得にも役立てる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題 第２回 ユニバーサル社会の実現の意義　小テスト① 第３回 日本の住環境の問題点　小テスト② 第４回 障害のとらえ方　小テスト③ 第５回 高齢者の健康と自立　小テスト④ 第６回 バリアフリーとユニバーサルデザイン　小テスト⑤ 第７回 福祉住環境整備とケアマネジメント　小テスト⑥ 第８回 生活行為別にみた安全・安心・快適な住まい　小テスト⑦
受講生に関わる情報および受講のルール	①第２回から第８回の授業で、福祉住環境コーディネーター試験問題に準拠した小テストを実施する。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（ＰＣ・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。また予習や課題の実施を前提に授業を進める。

オフィスアワー	授業終了後３０分は対応可能である。
評価方法	小テスト７０％、レポート３０％
教科書	東京商工会議所編・出版：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト　改訂4版
参考書	授業中に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育と学習の原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育の基本的概念、理念、歴史、思想を理解し、教育の課題に取り組み成果を報告する。 【到達目標】 ①教育の理念、歴史、思想を理解する。 ②教育の課題に取り組み、学習成果あるいは解決案をまとめる。 ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。.
授業の概要	教育とは何か、なぜ学ぶのか、教育および学校はどのように変遷してきたか、学習意欲はどうしたら高まるか？等々、日常生活の中で見過ごしている教育の諸問題を検討し解決方法を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 【key words】 教育的評価、学習支援、ガイダンス、発達に適した教育 【授業概要】 この授業の進め方、単位取得の条件について紹介し、続いて、教育において、人間観、学習支援、ガイダンスの重要性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１章　教育と学習の本質 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業後に、感想、質問等を書く 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	教育と学習の本質 【key words】 教育的評価、ピグマリオン効果、学習支援、プログラム学習、ガイダンス、内観療法、発達に適した教育、前操作（論理） 【授業概要】 教育において子どもの発達段階とその特徴を知ること、適切な援助・ガイダンスが重要であることを学ぶ。続いて、参考書と課題の紹介がある。 【教科書ページ・参考文献】 第１章　第１節（教育と学習の本質）および第２節（参考図書と課題） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ８つの選択課題の中から自分が取り組もうとする課題について検討する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第３回	教育評価の意義ー教育において評価は本当に必要か。 【key words】 仮説実験授業、TOTE理論、教育評価食べ物説 【授業概要】 教育について評価の持つ意味を検討し、教育評価の定義、検討すべき内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第２章　教育と学習の評価　第１節　教育評価の意義 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育評価の体験を振り返り、また授業内容と照合して、教育評価の意義について自分の考えをまとめてみる。

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第４回　教育評価の方法ー望ましい教育評価の方法はどのようなものか。
【key words】
相対評価、絶対評価、到達度評価、通信簿、シュタイナー学校における通信簿、ポートフォリオ評価
【授業概要】
教育評価についての現状、および望ましい改善の方法について検討する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　教育と学習の評価　第２節　意欲を高める教育評価の方法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育評価の体験を振り返り、また授業内容と照合して、教育評価の方法について自分の考えをまとめてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第５回　学習と教育
【key words】
インプリンティング、順化と鋭敏化、ローレンツ、ガーニェ、信号学習、概念学習、問題解決学習
【授業概要】
人間が学ぶ意味を心理学視点から検討し、学習には様々な種類があるいことを知る。さらに教えることを意識することで楽しく学ぶ様々な方法があることを紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　効果的な学習と教育
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の体験を学習という視点から振り返り、「自叙伝」としてまとめてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　自作教材作成法
【key words】
プログラム学習、授業書、自作教材、学習書、教師用プログラム
【授業概要】
プログラム学習や仮説実験授業の授業書の特徴を参考にして、楽しんで自作教材をつくる方法を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第４章　学習意欲を支援する自作教材作成法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストや授業での紹介例を参考にして、自作教材を作成してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第７回　意欲を高める授業
【key words】
成功への期待、キミ子方式、スモールステップ、失敗体験、仮説実験授業授業
【授業概要】
意欲が高まる原理を、成功体験、失敗体験、心理学実験等の事例をもとにして検討し、意欲を高める授業方法として、成功への期待を高める方法、失敗体験を生かす方法をプログラム学習、仮説実験授業等から学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第５章　意欲を高める授業
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習意欲が高まった授業、意欲が低下した授業の体験を振り返り、その理由を考察する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　発達段階に応じた教育
【key words】
乳幼児期、学童期、シュタイナー教育、早期教育、模倣、リズム、心魂の教育
【授業概要】
発達課題に即応した教育方法をシュタイナー教育から学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第６章　発達段階に応じた授業授業
【課題・予習・復習・授業準備指示】
乳幼児期、小学生段階の思い出などをもとに、教育方法のあり方を検討し、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第９回　学校の歴史
【key words】
綜芸種智院、足利学校、私塾、藩校、寺子屋、教育令、学校令、教育勅語、国民学校令、コメニウス、ロック、ルソー、カント、コンドルセ、ペスタロッチ、フレーベル
【授業概要】
古代、中世、近世、近代における日本と海外の学校教育の歩みを概観し、近代学校教育制度成立の要因、特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
第７章　学校の歴史
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本あるいは海外の学校の歴史を概観できる図や表にまとめてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１０回　多様化する学校・教育施設
【key words】
夜間中学校、フリースクール、院内学級、職業訓練校職業訓練校

【授業概要】

	職業訓練校、院内学級、夜間中学、たようかする語学学校、学習塾、予備校、カルチャーセンター、スポーツセンター等、多様化する教育施設について、どのような見方、活用法が考えられるか検討してみる。 【教科書ページ・参考文献】 多様化する学校・教育施設の中からどれかを取り上げ、詳しく調べ、まとめてみる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第８章　多様化する学校・教育施設 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１１回　カリキュラムの歴史的変遷 【key words】 教育課程、学習指導要領、教育計画、教科カリキュラム、経験カリキュラム、学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム 【授業概要】 カリキュラムの意味と歴史的変遷を知り、現在行われているユニークなカリキュラムの実践例を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第９章　カリキュラム 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の体験や、授業での紹介例を参考にして「意欲の高まるカリキュラム」について考察し、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１２回　教育に影響を及ぼした人々 【key words】 キューリー夫人、二宮尊徳、吉田松陰、福沢諭吉、ペスタロッチ、モンテソリ、サリバン、シュタイナー 【授業概要】 テキスト中に紹介されている人物伝などから教育の力、目的、方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１０章　教育に影響を及ぼした人々 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１３回　意欲を高めるガイダンス 【key words】 ガイダンス、カウンセリング、来談者中心カウンセリング、現実療法、解決指向療法 【授業概要】 進学、就職、対人関係の問題等をめぐって、効果的なガイダンスやカウンセリングの原理や方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１１章　ガイダンス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ユニークなカウンセリングから、日常生活に役立てることのできる原理を学びまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１４回　課題と発表 【key words】 発表内容中のキーワード 【授業概要】 読書感想、自叙伝、人物伝、自作教材の発表から課題研究の工夫や発表方法などを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１２章　課題と発表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題発表から学んだことを記録する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１５回　総括 【key words】 【授業概要】 自叙伝、人物伝、自作教材,読書感想等の発表から課題研究の工夫や発表方法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１３章　総括 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（概要感想質問用紙（A4版））
授業外時間にかかわる情報	課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％

教科書	島田昌幸著「教育学習原論」研文社,2020年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校・高等学校教員として７年間、CAI教材開発及び教育実践２年間の体験を活かして、授業の中で学生の自作教材開発・発表の指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 重要な教育心理学的な概念の学習を通して、課題解決に役立つ方法を学ぶ。 【到達目標】 ①発達、評価、学習、意欲、教材等の基本的概念を習得する。 ②教育心理学の課題について自分の解決案をまとめる。 ③課題解決への実践と成果を小論文等にまとめ、発表する。
授業の概要	教育評価、学習意欲、発達課題、教材作成、学習類型等々の重要なテーマについて教育心理学的な観方、解決方法を学習する。さらに学習した内容を使って課題解決に取り組み成果を発表または報告する。、

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	授業案内および「教育心理学の特徴と課題」　課題１　読書感想 【key words】 発達、評価、ガイダンス、学習、教材 【授業概要】 教育心理学の特徴、興味深い研究課題等を紹介する 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：序章　授業案内　第１章　教育心理学への案内 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が取り組む課題を選択、検討する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	青年期の特徴と発達課題　課題２　自叙伝 【key words】 形式的操作段階、仮説演繹的思考、命題間操作、　発達課題、アイデンティティ、 【授業概要】 青年期はどんな時期か。青年期の特徴と発達課題を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第２章　青年期の特徴と発達課題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の体験を含めて青年期の特徴と課題をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第３回	障害者の心理、発達障害から何を学ぶことができるか。　課題３　小論文（障害者の心理と教育） 【key words】 障害者、発達障害、治療教育、情緒障害、多動、自閉、共同体運動 【授業概要】 シュタイナー治療教育を例にして、発達障害の意味と教育のありかたを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第３章　障害者の心理と教育 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト第３章と授業内容をもとにして発達障害について自分の考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第４回	効果的学習の方法　教える活動の活用

	【key words】 学習、教育、学習の定義、学習の分類、信号学習、概念学習、自己講義法、自作教材、ガイダンス 【授業概要】 人間の学習の特徴は何か。ひとはなぜ学ぶのか。動物の学習、人間の学習、教育の視点からみた学習等を検討する. 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第４章　効果的学習の方法　第１節　学習とその指導 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習の意義、教えることによって学ぶ方法を自分の体験を加えてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第５回　学習意欲を支援する自作教材作成法　課題４　自作教材の作成 【key words】 自作教材、授業用のプログラム、学習書、教師用プログラム 【授業概要】 学習意欲を高める自作教材の作成法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第４章　効果的学習の方法　第２節　自作教材作成法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習意欲を支援する自作教材の事例などを参考にして、自作教材を作成してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０－１２０分 第６回　学習の三類型（１）運動技能学習と（２）言語情報学習） 【key words】 運動技能、部分技能、逆順法、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、構造化、媒介結合、エビングハウス 【授業概要】 効果的な運動技能と知識学習の方法を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第４章　効果的学習の方法（その１）（運動技能学習）（その２）（言語情報学習） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト、授業、自分の体験等をもとにして、効果的な運動技能や知識学習の方法をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第７回　学習の三類型（３）（問題解決学習）　課題５　小論文（効果的学習法について） 【key words】 問題解決の過程、気づき、自由連想、発想法、記録法、自己評価 【授業概要】 効果的な問題解決の方法を、問題解決の過程をもとにして検討する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト　第４章　効果的学習の方法（その３）（問題解決学習） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の体験を振り返って、問題解決に成功した理由を検討し、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第８回　魅力的な課題研究発表の特徴は何か。　（課題研究発表と総括） 【key words】 発表の意義、発表の要点、振り返り 【授業概要】 自他の課題研究発表から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト：第６章　課題発表と総括 【課題・予習・復習・授業準備指示】 魅力的な発表、今回の一連の授業から学んだことをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（概要感想質問用紙（A4版）） 課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
授業外時間にかかわる情報	
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％
教科書	島田昌幸著「教育心理学」研文社,2020年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校・高等学校教員として７年間、CAI教材開発及び教育実践２年間の体験を活かして、授業の中で学生の自作教材開発・発表の指導を行う。 アクティブラーニング要素

	■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	選択
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育方法の事例の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、独自の自作教材を開発する。 【到達目標】 ①教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発等の基本的概念を習得する。 ②自作教材の作成を行うことができる。 ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。
授業の概要	教育方法の事例（カウンセリング、ユニークな授業、情報化）の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、授業に役立てる自作教材開発の方法を学習し、独自の自作教材を開発する。。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	授業案内　教育方法の意義と内容（１）（カウンセリング、プログラム学習） 【key words】 来談者中心カウンセリング、共感的理解、学生中心の授業、プログラム学習、５つの原理 【授業概要】 教育方法を個人的体験をもとにして振り返り、ユニークな教育方法（学生中心の授業、プログラム学習）について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 序章　授業案内　第１章教育方法の意義と内容（１）教育方法学とは（３）カウンセリング、（４）プログラム学習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題１】 教育方法について自分の個人的体験を「自叙伝」としてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分
	第２回	教育方法の意義と内容（２）（仮説実験授業から学ぶ） 【key words】 仮説実験授業、授業書 【授業概要】 ユニークな教育方法（仮説実験授)業から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１章教育方法の意義と内容（３）仮説実験授業 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の体験で楽しかった授業の特徴をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分
	第３回	教育方法の意義と内容（３）（情報化、CAI、参考書と課題） 【key words】 テレビゲーム、ＣＡＩ，形成的評価、授業用のプログラム 【授業概要】 現代社会の潮流である「情報化」は、教育方法にどんな影響を及ぼしているか。その利点と問題点を検討する。また、この授業でに研究課題を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 第１章教育方法の意義と内容　第６節　教育方法の潮流（情報化、ＣＡＩ），第７節　参考書と

課題
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容をまとめると同時に、自分が取り組む課題を検討して決める。
【予習復習に必要な想定時間】
３０－６０分

第４回　教材開発の意義と方法（１）（教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材）
【key words】
自作教材、授業用のプログラム、学習書、一斉授業プログラム、教師用プログラム

【授業概要】
自作教材作成の意義と事例を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　教材開発の意義と方法（１）（教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が課題として取り組む自作教材の内容と作成方法を検討する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０－６０分

第５回　教材開発の意義と方法（２）（自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法）
【key words】
教材開発システム、開発目標、開発方法、形式的な特徴、評価
【授業概要】
自作教材の作成法、活用法、評価と改善の方法について検討する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　教材開発の意義と方法（２）（自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分で実際に自作テキスト教材を作成してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０－１２０分

第６回　情報機器の活用の方法（１）（自作プレゼンテーション教材）
【key words】
プレゼンテーション教材、パワーポイント、画像、アニメーション、効果音
【授業概要】
自作プレゼンテーション教材を作成する際に利用するパワーポイントの特徴と、活用の事例を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（１）（自作プレゼンテーション教材）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パワーポイントを使って、自作教材の一部を作成してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０－１２０分

第７回　情報機器の活用の方法（２）（自作CAI教材等）
【key words】
自作CAI教材、分岐のあるコース、ハイパーリンク
【授業概要】
事例を参考にしてパワーポイントを使って自作CAI教材を作る方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（２）（自作ＣＡＩ教材等）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習書案をもとにして自作CAI教材の一部分を作成してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０－１２０分

第８回　情報機器の活用の方法（３）（作品例紹介と作成演習）
【key words】
自作CAI教材、教材評価の視点
【授業概要】
作品例から学び、自分の自作CAI教材を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（３）（作品例紹介と作成演習）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
作品例から学び、学習書案をもとにして自作CAI教材を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０－１２０分

第９回　授業の構成法（１）（授業のシステム化）；ユニークナな教育はどんな魔法のシステムを持っているか。
【key words】
システム、システム化、目的、要素（役割）、流れ、評価、完全習得学習システム、マイクロティーチング
【授業概要】
ユニークな教育方法を授業システムという視点から検討する。また、長所と同時に問題点も考察する。
【教科書ページ・参考文献】
第４章　授業の構成法（１）（授業のシステム化と芸術的構成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自作テキスト教材（授業用のプログラム）の開発方法をシステム化という視点からまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
３０－６０分

第１０回　授業の構成法（２）（授業の芸術的構成）；ユニークな教育の考え方、特徴を探る。
【key words】
シュタイナー教育、発達期に応じた教育、授業の芸術的構成

【授業概要】

	授業の芸術的構成という視点から、シュタイナー教育のユニークな特徴を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 第４章　授業の構成法（２）（授業の芸術的構成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 芸術的構成という視点で自作教材を魅力的にする方法および発表の仕方を検討する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分 第１１回　学習意欲を支援するガイダンス（1）（意欲の構造、魅力的目標） 【key words】 意欲の構造、動機、目標、達成期待、満足感期待、成長動機、欠乏動機、内観療法、鈴木メソッド 【授業概要】 学習意欲はどのようにして高めることができるか。レストランでの食事を注文する行動を分析し、意欲の構造を明らかにする。続いて、学習活動への動機を高める方法、魅力的な目標設定の方法を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章　学習意欲を支援するガイダンス（１）（意欲の構造、魅力的目標） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習意欲が高まる条件を、自分の体験を振り返って考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分 第１２回　学習意欲を支援するガイダンス（２）（達成期待、満足感期待） 【key words】 達成期待、満足感期待、 【授業概要】 学習意欲を高めるにはどのように計画したらよいか。学習意欲を高める方法を、達成期待と満足感期待を高める視点から検討する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章　学習意欲を支援するガイダンス（２）（達成期待、満足感期待） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習意欲を高める方法を、意欲の構造をもとにしてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分 第１３回　課題研究成果の発表（１） 【key words】 発表の意義、発表の要点、振り返り、発表内容中のキーワード 【授業概要】 魅力的な課題研究発表の特徴は何か。自他の課題研究発表から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　課題研究成果の発表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題発表から学んだことを記録する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分 第１４回　課題研究成果の発表（２） 【key words】 発表の意義、発表の要点、振り返り、発表内容中のキーワード 【授業概要】 魅力的な課題研究発表の特徴は何か。自他の課題研究発表から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　課題研究成果の発表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題発表から学んだことを記録する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分 第１５回　総括 【key words】 教育方法、授業のシステム化、芸術的構成、評価と改善の方法、意欲 【授業概要】 今回の一連の授業から学んだことは何か。一連の授業を振り返り、要点を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 第７章　総括 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の一連の授業を振り返り、要点および印象に残ったこと等を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０－６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（概要感想質問用紙（A4版）））
授業外時間にかかわる情報	課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％
教科書	島田昌幸著「教育方法論」研文社,2020年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校・高等学校教員として７年間、CAI教材開発及び教育実践２年間の体験を活かして、授業の中で学生の自作教材開発・発表の指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 教育状況の変化に伴い教育の改革が推進される中、教師には変化への対応が迫られ、さらに児童生徒同志、児童生徒と教師の人間関係の構築能力が求められる。授業づくり、生徒指導を中心とした教師の仕事、教えるということ、そして教師としてのあるべき姿、教職の意義、教師の制度的役割を理解しながら自らの教師像をつくっていくことができる。 [到達目標] ①教育職員としての在るべき姿を理解し、自らの教師像をつくることができる。 ②教育職員関連法規を理解し、遵守しようとする態度を養うことができる。 ③教師に必要な資質を理解し、自らその涵養に努める態度を養うことができる。 ④より良い教師を目指して、職域の人間関係づくりや積極的実践研究必要性が考えられ、実行しようとする意識が涵養できる。
授業の概要	・　求められる教師像について研究し理解し、知力とともに実践力を養う

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業計画・内容、授業形態、授業方法、評価について） 【key words】 授業について（授業の受け方等） 【授業概要】 ・初回の授業に授業の受け方について学生と相互に授業を創り出すことについて確認する。その他、授業計画・内容、授業形態、授業方法、評価について説明確認する。 ・2人1組で教育の現状をとらえ、どのようでなければならないのか考察し発表する（発表と討論と評価） 【教科書ページ・参考文献】 教師作成の資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育に関して（教育情報） ・教職の意義（教職とは何か）、専門家としての教師（社会から期待されている仕事・他の職業との違い） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	専門家としての教師、教職という仕事の性格、情動的実践としての教職について考察する。 【key words】 教職・情動的実践 【授業概要】 ・専門家としての教師について考察する。 ・教師の仕事の性格、情動的実践としての教職について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（教師に対する揺るぎない信頼を確立する　－教師の質の向上－　文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】

上毛新聞「ニッポンの人づくり1～7」

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　教師として子どもの心に寄り添う、子どもの言葉を受け取るという教育実践について考察する。

【key words】
子どもに寄り添う、子どもの心を受け取る

【授業概要】
・子どもの心に寄り添うとは、子どもの言葉を受け取るために子どもに接する際の心構え
・教育事情・課題等レポート発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
自作資料配布、上毛新聞「ニッポンの人づくり」―哲学する、世界が変わる―（対話を通じ思考を深める・発言よりも傾聴を重視・多様な意見を踏まえ討論・選択科目になる「倫理」等）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を熟読する。難解な語句を調べる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　「子どもを育む」「守りの器を作る」について実践的に考察する。

【key words】
陥りやすい罠・守りの器

【授業概要】
・教師がカウンセラーになる難しさ。罠に陥らない為には。教師のメンタルヘルスの問題について実践をとらえて考察する。
・教育事情・課題等レポート発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
教師作成配布資料　上毛新聞「オピニオン２１－実践を重ね個に向き合う－」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業「教育実習から新任教師へ」（資料）を読む。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　「教育実習から新任教師へ」について実践例を通して考察する。

【key words】
教育実習・新任教師

【授業概要】
・教育実習の経験はどのようなものか「衝撃」と「感動」について考察する。実習を修了して新任教師の実践を通した体験について具体的に考察する。
・「教師に５つの資質が必要」について考える。
・教育事情・課題レポート発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
教師作成配布資料、教師には５つの資質が必要（堀裕嗣）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業の配布資料を熟読し、難解な語句は調べておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　・学習指導―子どもとのふれあいを求めて―　・教師力をアップする（よりよい自分であるために・よりよい授業をするために）について実践例をもとに考察する。

【key words】
学習指導、教師力をアップする。

【授業概要】
・教壇に立つ心構え、教師力アップ（よりよい自分であるために・よりよい授業をするために）を考える。
・教育事情・課題レポート発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
教師作成資料、学習指導・教師力アップ・教育者としてのあり方

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料を読む。
教職員の不祥事、労働基本権と職員団体、学校の規則と子どもの権利他

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　「同僚とともに学校を創る」「時代の中の教師」について考察する。

【key words】
同僚と創る学校、時代を生きた教師

【授業概要】

・同僚と学校の仕事を分担したり、授業のことについて意見を交わしたり、児童・生徒のことについて心配しながら同僚と一緒に仕事をする。
・時代の中の教師、現代の教師はどのような時代性を背負って生きているのか。
・教育事情・課題レポートの発表と評価

【教科書ページ・参考文献】
教師作成配布資料
同僚とともに学校を創る・時代の中の教師

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布の資料を熟読する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　第7回講義から本時の講義によって、学校における同僚性、教師文化を形成するものについて考察する。

【key words】
同僚生、教師文化、人間関係
【授業概要】
・教育活動の過程を共有して協働で何かを創り出していく営みが共同性の絆を強くすることについて考察する。不可欠なのが職場の人間関係であり、どのようにつくり出すのか。
・教育事情・課題レポート発表と評価

【教科書ページ・参考文献】
前回授業で配布した資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料（「授業をつくる」）を読解しておく

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　「授業をつくる」について実践から考察する。

【key words】
3年B組金八先生

【授業概要】
・授業実践を読み解き、授業をどのように作るかを考察する。
・授業の構成、授業を構成してるもの
・教育事情・課題レポート発表と評価

【教科書ページ・参考文献】
先時配布資料「授業をつくる」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時使用の資料の読解を進めておく

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　「授業をつくる」から「授業をデザイン」することについて考察する。

【key words】
授業のデザイン
【授業概要】
・第9回講義から本時。授業はテーマを巡って展開されるコミュニケーションを通して、参加者間で認識が共有される過程であると考えられる。授業の過程における教師の仕事を考える。
・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価

【教科書ページ・参考文献】
前回講義で配布した資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料「授業のデザイン」を読解する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　「授業のデザイン」をテーマを設定する・コミュニケーションを組織するから考察する。

【key words】
テーマを設定、コミュニケーションを組織

【授業概要】
・第10回講義から本時。「授業のデザイン」について考察する。「願い」を明確化する、子どもの事実から考える、子どもや学校を取り巻く環境を踏まえる、ことからコミュニケーションを組織することについて考察する。
・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価

【教科書ページ・参考文献】
前回講義配布資料を使う

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料「授業のデザイン」を読解する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　「授業のデザイン」を認識を共有することから考察する。

【key words】
授業のデザイン
【授業概要】
・授業のデザインを「認識を共有する」ことから考える。子どもの論理につきあう、課題解決

	を方向付ける、子どもの発話を学級で共有する、そして授業デザインを支える教師の知識と思考について考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う 【教科書ページ・参考文献】 前回講義で配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料「教師の役割と仕事」を読解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　「授業デザイン」を支える教師の知識と思考についてを考察する。 【key words】 知識と思考 【授業概要】 ・ここまでは授業をデザインするという教師の仕事について見てきた。この教師の仕事はどのような知識に支えられているのか。そして教師はその知識をどのように身につけて成長していくのか考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 前回講義で配布した資料、本時配布「授業のデザイン」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布「教師の役割と仕事」を読解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　教育の役割と仕事について考察する。 【key words】 法的役割、役割意識、生涯学習社会 【授業概要】 ・教師の法的役割と役割意識、教師の仕事の特徴と内容、教師の仕事の実際、生涯学習社会における教師への期待について考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 前回講義で配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料「教育実習の意識と心得」を読解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　・教育実習の意義と心得について考察する　・ここまでの授業内容について総括する。 【key words】 教育実習、総括 【授業概要】 ・「教育実習の意義と心得」について、実習の意義と方法、実習の実際、学習指導案の作成を中心に考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う。 ・授業アンケートを行う。 【教科書ページ・参考文献】 前回の講義で配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料 ・「新しい時代の教職入門」秋田喜代美・佐藤学著より 「未来に備える教師はどのようであればよいのか」 ・教育者の名言　斎藤喜博（群馬県の生まれ。「島小教育」の著者） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　積極的に自己表現ができること ・　授業中の迷惑行為（遅刻・居眠り、私語、メール作成等）は厳禁する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　教職に関する教育現場での社会的問題について検証し、自らの考えを論ずることで、教師としての在り方を考察する。
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　提出物１０％、発表（内容、方法、態度）２０％、定期試験７０％によって評価
教科書	・　新しい時代の教職入門 改訂版（有斐閣アルマ）　秋田 喜代美、 佐藤 学
参考書	・　授業において紹介する
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として38年間教育に携わった。その経験をもとに教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育課程論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 教育課程の制度と内容が理解でき、児童・生徒の発達課題に応える教育課程のあり方について考察する。また、「確かな学力」とは何かについて研究し、教育課程の編成について考えを深める。 [到達目標] ①教育に関する法令を把握することができる。 ②教育という営みの必然性が理解できる。 ③教育課程が設置される理由が理解できる。 ④カリキュラムと教育課程の関係を理解し、積極的な編成のための思考を養うことができる。 ⑤学習指導要領を理解し、教育課程における教育方法の諸課題を考察することができる。
授業の概要	・　教育課程編成の意義と教育の目的及び目標について学習し研究し実践に役立てる

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業計画・授業方法と授業内容、評価方法等説明） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 授業の計画・授業の方法と授業内容・評価方法などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・次回授業の配布資料に目を通し、難解な単語（専門用語等）について事前に調べておく ・教育について興味関心を持ち、教育の現状を考えて分析して検証したことについて発表を行う。（2人1組） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	教育課程編成の意義・教育課程の概念と意味について考察する 【key words】 教育課程編成の意義・教育目的及び目標 【授業概要】 教育課程の性質、なぜ教育課程の編成が必要なのか、教育の目的、目標が具体的に生かされる教育課程の編成 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回講義の配布資料を熟読し、教育に関する専門的な単語や法令等を事前に調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	教育と言う営みの必然性、教育課程が設置された理由、カリキュラムと教育課程について考察する。

【key words】
教育とは、なぜ教育課程が必要なのか、学習指導要領、カリキュラムと教育課程

【授業概要】
教育とは（教育の必然性）、教育課程の方式、カリキュラムと教育課程の関係、学習指導要領の性格

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次回講義資料を熟読し、難解な単語や法的規定について調べておく。
・本時発表の内容を復習し、全体討論を整理して自己の考えをまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　教育課程の概念と意味（公的カリキュラムと潜在的カリキュラム）、学習指導要領の特徴と変遷について考察する

【key words】
公的カリキュラムと潜在的カリキュラム、学習指導要領の特徴と変遷

【授業概要】
・教育課程の性質について教育活動における公的・潜在的カリキュラムによって理解を深める。
・学習指導要領の歴史的変遷をとらえて教育課程の変化を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次回講義資料を熟読して難解なところを調べて理解しておく。
・本時の発表について再度全体の討論を整理し、自論を総括する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　教育課程編成の教育目的および目標、改正教育基本法における教育の目的と目標、改正学校教育法と同施行規則における教育課程の目的と目標

【key words】
教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則と教育課程
【授業概要】
教育基本法、学校教育法、同施行規則と学習指導要領の関係、学習指導要領と教育方法について法令を解釈して教育課程について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回講義資料を熟読して難解な部分について調べて理解する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　カリキュラムの構造と類型・教科カリキュラムと経験カリキュラム他について学びを深める

【key words】
カリキュラムの構造と類型、教科・相関・融合・統合・広域・コア・経験カリキュラム

【授業概要】
「カリキュラム」の構造と類型を知る、「カリキュラム」を教科・相関・融合・統合・広域・コア・経験カリキュラムによってとらえる。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布の次回講義資料を熟読し、難解な部分をまとめ調べておく。さらには次回授業で質問事項をまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　今なぜ「教育課程」なのかについて考察する

【key words】
教育課程、学力問題
【授業概要】
教育課程という問い、学力問題と教育課程（学力水準・学力格差・学力構造・学習意欲）をとらえながら教育課程の性格について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回講義資料を熟読して難解部分を調べ、質問事項をまとめておく。次回授業で質問できるようにする。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　教育課程の歴史的展開と教育方法について考察する。

【key words】
教育課程の歴史、教育方法

	【授業概要】 ・教育目的と教育方法（方法と目的の関係・教育方法の基礎）、教育方法の歴史（教育方法の歴史を近代以前と近代以降に分けて概観する）を見ながら、教育課程の考察をする。 ・授業アンケートの実施（授業を振り返り総括する） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時で授業終了。この講義全体を通して確認しておくべきことをまとめる。この授業を受講しての感想の発表（全員）、授業アンケートの実施 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　教師としてのあるべき姿をイメージし、日常生活の中での実践をとおして意識を養うことに努める。 ・　授業中の迷惑行為（遅刻、居眠り、私語、メール作成等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　教育に関わる社会状況や学校現場での取り組み情報を収集し、教育問題・課題の解決のための学校のあるべき姿を具体的にイメージして考察すること。
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　レポート提出１０％、筆記試験７０％、発表（内容、方法、態度）２０％
教科書	・　新しい時代の教育課程 第3版（有斐閣アルマ）　田中 耕治、水原 克敏、三石 初雄、西岡 加名恵
参考書	・　授業において紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として38年間教育に携わった。その経験をもとに、教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生徒指導論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 　将来養護教諭として学校で生徒を指導する側に立つ事を想定して、生徒指導の基本理念を身につけて児童生徒理解が出来るようにし、かつ生徒指導が実践できる資質能力をつける。 ［到達目標］ ①生徒指導の意義と原理について理解できる。 ②生徒指導と教科、道徳、特別活動、総合等との関係、地域や関係機関との連携等について理解する。 ③いじめ、不登校、非行問題等児童・生徒の問題と今日的な保護者あり方などについての課題と対応策について理解したり、養護教諭としての関わり方について理解する。 ④Ｃ＆Ｓアンケートや発達障害スクリーニングテスト、構造的グループエンカウンターやロールレタリング等の実技を伴う生徒指導技術の知識を得る。
授業の概要	（１）授業形態は講義とグループ学習で行う。講義は基本理念を、グループ学習は学生が学ぶ意味を持つことが出来るようにするため演習的な課題解決学習とする。 （２）生徒指導の教育課程との関係や地域連携など具体的事例を多く取り入れ実践的資質の向上を図る学習とする。 （３）現在学校で行われているアンケートやテストなど具体的技術を実践し、活用方法を身に付ける学習とする。 （４）生徒指導は人間教育であることを理解し、学生自身の自己指導能力を高める学習とする。 （５）第８回は全員参加方式のシンポジウム形式による意見交換、情報交換、質疑により教育実習前の準備学習とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	生徒指導の意義と原理、Ｃ＆Ｓ質問紙調査の意義と実践 【key words】 生徒指導の意義と原理 【授業概要】 生徒指導論オリエンテーション、（指導計画とレポートについて）、生徒指導提要第１章「生徒指導の意義と原理」第１節「生徒指導の意義と課題」第２節「教育課程における生徒指導の位置づけ」、アイスブレーキング、グループ作り、 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要第１章「生徒指導の意義と原理」第１節「生徒指導の意義と課題」第２節「教育課程における生徒指導の位置づけ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	生徒指導の意義と原理、Ｃ＆Ｓ質問紙調査の意義と実践 【key words】 学級の雰囲気と自己肯定感（C&Ｓ）アンケート 【授業概要】 生徒指導提要第１章「生徒指導の意義と原理」第３節「生徒指導の前提」第４節「集団指導.個別指導」第５節「学校運営と生徒指導」、 「学級の雰囲気と自己肯定感（C&Ｓ）アンケート実践１、質問紙調査、C&Sの意義と活用方法、第3回授業課題提示（生徒指導提要第２章から）〞

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第１章「生徒指導の意義と原理」第３節「生徒指導の前提」第４節「集団指導. 個別指導」第５節「学校運営と生徒指導」、
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　生徒指導の歴史、教育課程と生徒指導

【key words】
教育課程と生徒指導
【授業概要】
生徒指導の歴史（郷中教育・子ども・若者白書から学ぶ）、生徒指導提要第２章「教育課程と生徒指導」第１節「教科における生徒指導」第２節「道徳教育における生徒指導」について課題発表と講義、

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第２章「教育課程と生徒指導」第１節「教科における生徒指導」第２節「道徳教育における生徒指導」
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　Ｃ＆Ｓの集計と結果の考察、教育課程と生徒指導Ⅱ

【key words】
教育課程と生徒指導
【授業概要】
″Ｃ＆Ｓアンケートの実践２（集計）, 生徒指導提要第２章「教育課程と生徒指導」第３節「総合的な時間における生徒指導」、第４節「特別活動における生徒指導」課題発表と講義
第5回授業課題提示（生徒指導提要第３章から）″

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第２章４節後半　第３章１節　「児童生徒の心理と生徒指導
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　生徒指導のための児童生徒理解、スクリーニングテストの方法

【key words】
児童生徒理解の基本
【授業概要】
″生徒指導提要第３章「児童生徒の心理と児童生徒理解」第１節「児童生徒理解の基本」、第２節「児童期の心理と発達」、第３節「青年期の心理と発達」、課題発表と講義
発達障害を理解するスクリーニングテストの方法、″

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第３章２節　「生徒指導のための児童生徒理解
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　生徒指導のための児童生徒理解、ロールレタリングの手法、

【key words】
児童生徒理解の資料
【授業概要】
″生徒指導提要第３章「児童生徒の心理と児童生徒理解」、第４節「児童生徒理解の資料とその収集」、課題発表と講義
ロールレタリングの手法、ロールレタリング１、
第７・８回授業の課題提示（生徒指導提要第４章から）″

【教科書ページ・参考文献】
①生徒指導提要第３章「青年期の心理と発達
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　生徒指導のための学校の指導体制について課題発表と講義、

【key words】
学校における生徒指導体制
【授業概要】
生徒指導提要第４章「学校における生徒指導体制」第１節生徒指導体制の基本的な考え方」第２節「組織と生徒指導主事」第３節「年間指導計画」について課題発表と講義、

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第３章４節「生徒指導の為の資料収集」第４章１，２節「生徒指導のための学校の指導体制」
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　生徒指導のための学校の指導体制について課題発表と講義、ロールレタリングⅡ

【key words】
学校における生徒指導体制２

【授業概要】
生徒指導提要第４章「学校における生徒指導体制」第４節「生徒指導のための教育研修」第５節「資料の保管活用」第６節「全校指導体制の確率」第７節「生徒指導の評価と改善」、課題発表と講義、ロールレタリングⅡ

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第４章３，４，５，６，７節「生徒指導のための指導体制
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　生徒指導のための教育相談、教育相談事例研究
【key words】
教育相談
【授業概要】
生徒指導提要第５章「教育相談」第１節「教育相談の意義」、第２節「教育相談体制の構築」、第３節「教育相談の進め方」課題発表と講義（実践事例２件）、

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第５章１，２，３節「教育相談」
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　教育相談の連携、構造的グループエンカウンターの手法
【key words】
教育相談２
【授業概要】
″生徒指導提要第５章「教育相談」、第４節「スクールカウンセラー、専門機関との連携」、構造的グループエンカウンター、課題発表と講義、ロールレタリング３、
第１１回授業の課題提示（生徒指導提要第６章Ｉから）″

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第５章「教育相談」３，４節
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　生徒指導の進め方Ｉ―①、自己指導能力
【key words】
生徒指導の進め方Ｉ
【授業概要】
生徒指導提要第６章生徒指導の進め方Ｉ「児童生徒全体への指導」第１節「組織的対応と連携」第２節「教職員の役割」、第３節「守秘義務と説明責任」課題発表と講義、自己指導能力（基本的生活習慣、特に食生活）レポート、

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第６章Ｉ　１，２，３，４，節「生徒指導の進め方
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　生徒指導の進め方Ｉ―②、スクリーニングテストの手法
【key words】
発達障害スクリーニングテスト実践
【授業概要】
″生徒指導提要第６章第４節「学級担任の指導」発達障害スクリーニングテスト実践と各種検査について、
Ｃ＆Ｓ実習２回目質問紙調査、　　第１３回授業の課題提示（生徒指導提要第６章Ⅱ）″

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第６章Ｉ　４，５，６，７，節「生徒指導の進め方Ｉ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　生徒指導の進め方Ｉ-③　基本的な生活習慣
【key words】
基本的な生活習慣
【授業概要】
″生徒指導提要第６章、第５節「基本的な生活習慣」、第６節「校内規律に関する指導の基本」６章Ⅱ第６節「いじめ問題」課題発表と講義

【教科書ページ・参考文献】
生徒指導提要第６章Ⅱ１～４節　生徒指導の進め方Ⅱ個別の課題
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　生徒指導の進め方Ｉ-④、児童生徒の安全、いじめ問題
【key words】

	生徒会の主体的活動 【授業概要】 ″生徒指導提要第６章Ⅰ、第７節「児童生徒の安全に関わる問題」第６章Ⅱ、第６節「いじめ問題」課題発表と講義 特にいじめ問題（東中ガッチュウレンジャー）への生徒会の主体的活動,第２回C&S調査の結果と考察、佐野有美酸の詩と歌″ 【教科書ページ・参考文献】 ①生徒指導提要第６章Ⅱ５～１３節、個別の課題をかかえる児童生徒の指導 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　養護教諭としての心構え、シンポジウム形式で討論又は協議 【key words】 シンポジウム（全員が３課題のうちの一件についてシンポジストとして発言 【授業概要】 ″養護教諭として教育実習をするに当たって意欲的な取り組みができるよう、不安や課題を出し合うことにより、前向きな意欲付けを目的とした意見交換を行う。 授業評価、感想、試験の予備情報等″ シンポジウム（全員が３課題のうちの一件についてシンポジストとして発言）課題１、児童生徒の命、いじめの根絶　課題２、教育実習への不安と期待　課題３、若者の未来づくり　C&S第２回の集計結果 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生にかかわる情報］ ・授業の中でグループでの課題発表を行います。第2回より１4回の間で必ず１回は実施します。 ［受講のルール］ ・発表、手紙、実習などを多く取り入れた授業です。積極的に授業参加して下さい。 ・生徒指導をする教師には人間的資質の高さが必要です。講義を通じて人間力向上を目指して下さい。 ・相互に（講師と受講者）尊敬しあえる人間関係を築き、学べる事に感謝して、社会に出る心構えを作りましょう ・テキスト「生徒指導提要」は一括購入し第1回授業で手交
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	いじめ、自死事件、不登校、ニート、ＳＮＳ等情報関連、特別支援教育などの新聞記事を積極的にスクラップしておくこと。
オフィスアワー	質問等はコメントカードで受け付ける他、授業終了後に講師室にて受付ます。
評価方法	①試験（論述）５０％　②レポート２０％　③グループ発表３０％
教科書	「生徒指導提要」　著作・出版　文部科学省　３００円（送料10円含む）
参考書	子供・若者白書（内閣府）　入手方法等は１回目講義にて指示します
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職実践演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
采女　智津江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕学校教育について教職の意義および教員の役割と職務内容について理解し、学習指導案を立案し模擬授業を実践する。 〔到達目標〕教職に関する科目と、養護に関する科目の学校保健Ⅰ・学校保健Ⅱ・養護概説で学んだ内容の統合を図り、使命感や責任感に裏付けられた確実な実践的指導力および対応力を有する養護教諭としての資質能力を身に付けることができる。
授業の概要	学校教育における諸活動を通じて、養護教諭の確実な実践的指導力および対応力が身に付くように、講義や演習、ロールプレイやプレゼンテーションなどを組み合わせて、実際の学校教育の場を想定した教育課題を取り扱う。また、専門的な事項や現場における諸活動についての理解を深めることができるように構成する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回 科目オリエンテーション　養護教諭と教職実践 第２回 教職の意義および教員の役割と職務内容 第３回 教育の本質と教育に関する考え方 第４回 発達段階に応じた学習や指導の過程 第５回 子どもの権利条約と養護教諭学校教育の制度と教育課程の編成 第６回 学校教育の制度と教育課程の編成 第７回 教育方法と技術 第８回 特別活動・総合的な学習の時間などにおける養護教諭の関わり 第９回 生徒指導・キャリア教育・教育相談と養護教諭 第１０回 教職実践から捉えた養護教諭の役割 第１１回 教職実践から捉えた養護教諭の役割 第１２回 習熟度別少人数指導・特別支援教育 第１３回 PTA・学校評議員・学校保健会委員・地域活動諸団体などとの連携

	第１４回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（演習） 第１５回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（発表）
受講生に関わる情報および受講のルール	1・2年次および3年次前期で学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 〇授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・新聞記事やインターネット、本などから学校教育に関する教育課題を取り上げ、その課題に関する情報収集を行い、グループ討議で発表する。
オフィスアワー	授業終了後の時間
評価方法	評価方法　筆記試験５０％　課題レポート４０％　出欠状況10％
教科書	教職実践演習テキスト：樺澤　俊、2015 文部科学省：小学校学習指導要領解説　総則編、体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008 文部科学省：中学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008 文部科学省：高学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、2009
参考書	思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習：日本学校保健会、2009 小学校保健学習の指導と評価：日本学校保健会、2004 実践力を育てる中学校保健学習のプラン：日本学校保健会、2005
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育総合実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	2単位(90)	選択
担当教員			
丸井　淑美　山下博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「養護実習」をより効果的に行うための事前指導と事後指導を行う。養護教諭としての実践能力を高めるために、養護教諭の仕事を体験し、養護教諭の役割・機能を体験を通してまとめる。 【到達目標】 (1)学童・生徒の健康問題を知ることができる。 (2)養護教諭および保健室の役割、機能を理解し説明することができる。 (3)事前指導をとおして、養護実習における目的や方法、心構えを理解することができる。 (4)事後指導において、学生同士が学びを発表し、実習での学びを共有することができる。
授業の概要	養護実習を有意義なものにするために各教科で学習した内容を再度事前指導で要点を押さえ学習し、事後指導では養護実習の体験を振り返り養護教諭の役割及び保健室の機能についてまとめる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 科目オリエンテーション、授業計画、実習の意義と目的 【授業概要】 オリエンテーション。授業内容と計画を説明する。 教育総合実習実習の目標と目的について説明し、教育者としての自覚を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第2回	実習内容Ⅰ 【key words】 実習の概要、実習校事前打ち合わせ 【授業概要】 教育総合実習を履修するにあたっての留意点と実習の概要について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第3回	実習内容Ⅱ 【key words】 実習校の概要、健康課題 【授業概要】 実習校および実習地域についての理解を深めるとともに、児童生徒の健康課題を探る。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第4回　実習内容Ⅲ
【key words】
学校保健活動、養護教諭の職務、学校保健計画、学校環境衛生、定期健康診断、救急処置
【授業概要】
学校保健活動のすすめ方、学校保健計画の作成、学校環境衛生について解説する。
養護教諭の職務について理解し、定期健康診断、救急処置、児童生徒への対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第5回　実習内容Ⅳ
【key words】
学習指導案、模擬授業
【授業概要】
学習指導案細案の作成と模擬授業の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第6回　実習内容Ⅴ
【key words】
学習指導案、模擬授業
【授業概要】
作成した学習指導案に基づいて模擬授業の準備を実施し、自己および他者による相互評価を行う(1回目)。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第7回　実習内容Ⅵ
【key words】
学習指導案、模擬授業
【授業概要】
作成した学習指導案に基づいて模擬授業の準備を実施し、自己および他者による相互評価を行う(2回目)。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第8回　実習直前指導
【key words】
実習日誌、学校職員としての心構え
【授業概要】
実習日誌の記入方法、礼儀、実習における態度、言葉遣い、学校職員としての心構え、諸注意等について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第9回　実習評価Ⅰ
【key words】
実習に対する自己評価、実習結果報告
【授業概要】
実習に対する自己評価、実習後の感想、実習日誌を活用した結果報告をまとめさせる。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、教育総合実習要項
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で配布される資料を熟読し復習する。
授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

	第10回　実習評価Ⅱ 【key words】 事例検討、発表 【授業概要】 実習で学んだ事例をまとめ、テーマごとのグループに分かれてディスカッションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度 第11回　今後の学習の課題Ⅰ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（1回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度 第12回　今後の学習の課題Ⅱ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（2回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度 第13回　今後の学習の課題Ⅲ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（3回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度 第14回　今後の学習の課題Ⅳ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（4回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度 第15回　まとめ 【key words】 目指す養護教諭像、まとめと評価 【授業概要】 目指す養護教諭像、求められる養護教諭像について考える。 教育総合実習のまとめと評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で配布される資料を熟読し復習する。 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)実習要件 3年次までに養護教諭１種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。 (2)基本姿勢 実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。 (3)実習校の教職員に対して 実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの

	動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。 (4)教師としての自覚と責任 実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。 (5)「学ぶもの」としての自覚 実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。 (6)実習のピア支援 一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。（リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 実習先自治体の教育方針や実習校の概要等を事前に理解して実習に臨むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	(1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①実習内容、実習目的・目標に対する理解状況 ②実習に向けた態度 ③実習記録・レポート提出についての理解度 (2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 レポート・記録60%、発表・討論20%、提出物20% 総合評価はレポート・記録、発表・討議、提出物を総合して60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017 采女智津江　編：新養護概説(第10版)、少年写真新聞社 教育総合実習要項
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県、埼玉県で養護教諭として実務経験のある教員が科目を担当する。その経験を活かし、学校教職員としての資質や自覚、実習生としての態度、礼儀等について指導するとともに、実習が滞りなく進められるよう支援する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育総合実習Ⅱ（養護実習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	2単位(90)	選択
担当教員			
丸井　淑美　山下博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学教育で習得した一般教養・教職教養および養護に関する専門的知識・技術を学校教育の場で実際に適用あるいは応用するとともに、実習の経験に基づいて理論的裏付けを確認する。また、学校教育に影響を及ぼす社会的事象や生活環境の変化等を理解して、現代的課題に応える教育者としての自覚を高める。 【到達目標】 (1)児童生徒の発育や発達段階について学習した内容を、学校教育の場で確認することができる。 (2)児童生徒の教育に必要な、養護教諭の専門的技術や能力を身に付けることができる。 (3)教室での学習活動の状況と、保健室に来室する児童生徒の実態を比較して、児童生徒の発達段階における特徴を理解することができる。 (4)学校の組織や運営を理解した上で、保健室経営に参画するすることができる。また、学校保健の視点を通して、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を体験する。 (5)養護教諭と学級担任や他の教職員との連携や協働のあり方を理解することができる。 (6)学校における救急体制を確認し、校内・校外での連携のあり方を養護教諭の体験した救急体制に関わる事例等の資料や講話を通して理解することができる。
授業の概要	養護実習をとおして学校保健、養護教諭の職務について具体的に学ぶことが主たる目的ではあるが、学校における教職員の役割や学級内外での児童生徒の様子もよく観察し、学びを深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　各学校での実習 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)実習要件 3年次までに養護教諭１種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。 (2)基本姿勢 実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。 (3)実習校の教職員に対して 実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。 (4)教師としての自覚と責任 実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。

	(5)「学ぶもの」としての自覚 実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。 (6)実習のピア支援 一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。（リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用
授業外時間にかかわる情報	実習先自治体の教育方針や実習校の概要等を事前に理解して実習に臨むこと。 実習日誌や振り返りレポート等は所定の期限までに提出すること。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	(1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①出席状況 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況 ③実習態度 ④実習記録・レポート (2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 ③上記評価票により、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階で総合的に評価する。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017 采女智津江　編：新養護概説(第10版)、少年写真新聞社 教育総合実習要項
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県、埼玉県で養護教諭として実務経験のある教員が科目を担当する。その経験を活かし、学校教職員としての資質や自覚、実習生としての態度、礼儀等について指導するとともに、実習が滞りなく進められるよう支援する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育社会学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　将来養護教諭として学校で児童生徒を指導するに当たって、必要な資質を身につけることを目的とする。その必要な資質として教育社会学の側面から学校、家庭、地域社会、関係機関などの教育機能や課題を理解し、社会、文化、経済など社会の諸機能との相互の関係をつかむ。そして未来社会を作る教育のあり方を創造する養護教諭の資質能力をつける。 ［到達目標］ ①教育社会学を学ぶ意義がわかる。 ②学校と家庭・地域との連携による教育機能の連携を考え、その効果を理解する。 ③喫緊の学校課題、学校安全への対応や食育、防災教育等の現状と今後の方策を考える。 ④社会が持つ様々な教育機能を明らかにし、コミュニティースクールとの連携を考える。 ⑤青少年を取り巻く教育問題をとらえ、その対応策について自己の考え方を探求する。
授業の概要	＊授業形態は講義で現状分析し、グループ討議で今後のあり方を考える、という形式を取りながら、各自が積極的な授業参加を図る。１１回以降はテキストをグループや個人で分析し授業者の立場で課題発表する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	教育社会学を学ぶ意義 【key words】 授業方法、授業計画 【授業概要】 オリエンテーション（授業方法、授業計画、）教育社会学を学ぶ意義、各自の成育に関わった社会環境を洗い出し本授業の意義を確かめる。（説明、講義、課題探求） 【教科書ページ・参考文献】 作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	教育の機能 【key words】 学校の機能、家庭の教育機能、地域社会の教育機能 【授業概要】 教育がいかにあるか（学校の機能、家庭の教育機能、地域社会の教育機能を確かめ、3機能の連携を考える）講義 教育がいかにあるべきか（今日の授業から教育のどんな側面が見えるか）グループ討議、グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	特色ある教育活動 【key words】 学校の機能、特色ある教育活動 【授業概要】 教育がいかにあるか（学校の機能、特色ある教育活動、スクールオブザイヤー最優秀・優秀校の

実践を知る。）講義、
教育はいかにあるべきか（教育活動に必要なものは何か）グループ討議・発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会教育の意義
【key words】
社会教育が担う活動
【授業概要】
教育がいかにあるか（社会教育が担う活動を知る、少年の船、おいっきり冒険隊のＶＴＲ、プログラム。社会教育団体の活動）講義
教育がいかにあるべきか（コミュニティースクールとの連携を考える）グループ討議・発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　生涯学習時代、民間の教育機能
【key words】
生涯学習時代の意味するもの
【授業概要】
教育がいかにあるか（生涯学習時代の意味するもの、地域社会の教育機能、草刈り十字軍、山村留学、通学合宿、農業学校、自然塾等）講義
教育がいかにあるべきか　（体験活動は何をもたらすか、）グループ討議、発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会が求める教育機能
【key words】
学校安全への対応
【授業概要】
教育がいかにあるか（喫緊の学校課題である学校安全への対応、さらに食育、防災、消費者、キャリア、伝統文化、情報、シティズンシップ、人権教育等の現状・課題）講義。
教育がいかにあるべきか（学校と社会はどう連携できるか）グループ討議・発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　人類が求めるめる教育機能
【key words】
人類が求めるめる教育機能
【授業概要】
教育がいかにあるか（人類が求めるめる教育機能、ユニセフ、ユネスコ、ＥＳＤ、ネルソン・マンデラ、マララ・ユフザイ）講義
教育がいかにあるべきか（学校は社会の要請にどう応えるか）グループ討議・発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　学校以外の教育機能
【key words】
社会教育施設等の教育的機能
【授業概要】
教育がいかにあるか（行政の子育て支援や青少年育成、図書館、博物館、美術館、青少年施設等の教育的機能）講義
教育がいかにあるべきか（これから必要な子どもや青少年のための施設等）グループ討議・発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　特別支援教育
【key words】
特別支援教育
【授業概要】
教育がいかにあるか（特別支援教育を知る、学校、施策、民間の活動）　１つの教育技術「エコグラム」に挑戦、
教育がいかにあるべきか（特別支援教育にどう関われるか）グループ討議、発表
【教科書ページ・参考文献】
作成資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　青少年の現状１
【key words】
青少年の現状

	【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書特集と２部第１章の統計資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、 教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　青少年の現状２ 【key words】 青少年の現状 【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第２章２，３，４節の統計資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、 教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　青少年の現状３ 【key words】 青少年の現状 【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第３章１節の統計資料等から青少年の現状をつかむ）グループ発表、 教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　青少年の現状４ 【key words】 青少年の現状 【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第３章２節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、 教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　青少年の現状５ 【key words】 青少年の現状 【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部第４章１，２節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　青少年の現状６ 【key words】 青少年の現状 【授業概要】 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部第４章３，４，５，６，節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、 教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表 【教科書ページ・参考文献】 子供・若者白書、作成資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	＊各自授業中に行うアイスブレーキングを１つ考えておき、急な指名に答えられるようにしておくこと。＊教育に関する様々なニュースを日々確認しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	＊各自授業中に行うアイスブレーキングを１つ考えておき、急な指名に答えられるようにしておくこと。＊教育に関する様々なニュースを日々確認しておくこと。
オフィスアワー	コメントカードにて受付ます。授業後講師室にて質問受け付けます。
評価方法	①試験（論述）５０％　②レポート（授業プレゼン資料）３０％　③授業の討議資料２０％
教科書	「子供・若者白書」内閣府を使用します。事前購入は不要、授業中に詳細連絡します。

参考書	小学校指導要領、中学校指導要領　　水谷修著「約束」「ありがとう」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　医療英会話　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	選択
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護現場で患者やスタッフと意志疎通をはかることができるようになる。 【到達目標】 ①看護現場で使用頻度の高い単語・語いを聞きとれ、発音することができる。 ②会話に必要な基本的な文法を理解し、応用できる。 ③覚えた表現を応用して様々な場面での会話に対応できるようになる。
授業の概要	病院内の様々な場面での会話例を聞き取り、正しく発音し、意味を理解する。 相手の言うことを即座に正確に聞きとる練習をする。 臨床場面で必要な専門用語やよく使う表現を学び、情報を適切に相手に伝えることができるようにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	Asking Basic Question　：　基本的な質問をする 【key words】 Nice to meet you.　What do you do?　How are your classes? 【授業概要】 自己紹介の仕方を学ぶ。 Be動詞、一般動詞の使い方を確認しながら、相手に基本的な質問をする仕方を学ぶ。疑問詞を使った疑問文の応答を学ぶ。 文法：ｂｅ動詞、一般動詞 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ６～Ｐ１１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書　p.8 Grammar Exercise 2（自分について答える） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第２回	A Patient's First Visit.　患者の情報を聞き出す 【key words】 What's your nationality? What's your date of birth? How old are you? What's your problem today? 【授業概要】 初診の患者が訪れたときに使う表現をいくつかの事例で学ぶ。　患者の情報を聞き出す応答の仕方を疑問詞の復習をしながら学ぶ。 文法：疑問詞と受け答え 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ１２～Ｐ１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書　p.16 - p.17 Practice 6（表を埋める質問の仕方を考える） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第３回	Where's Internal Medicine?　病院内を案内する 【key words】 Go straight up the hall.　Take the elevator to the 4th fioor. Turn right.　Go to orthopedics. 【授業概要】 病院内で患者に正確な道案内ができるように案内のための表現、位置の表し方を学ぶ。　診療科名を発音練習し、覚えて会話の中で使えるようにする。

文法：命令形
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ１８～Ｐ２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.22 - p.23 のKey Expressionsを復習し、p.25 Practice 4 をやる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第４回　自己紹介 / 基本的な質問の仕方 / 病院内の案内
【key words】
Are you ～ ？ Do you ～ ？ 5W1Hの疑問詞
【授業概要】
Unit 1 ～ Unit 3 で扱った内容の中で重要な表現の練習をする。　病院内の案内の仕方を ROLE PLAY で身につける。　診療科名を確認する。
文法：動詞の使い方、疑問詞の復習
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ６～Ｐ２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示した表現、単語を確実に覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第５回　Admission to the Hospital.　入院患者に病院の説明をする
【key words】
Would you ～ ？　Can I ～ ？　Shall I ～ ？　Yes, please.　No, thank you.
【授業概要】
入院患者に入院時の注意事項、設備の利用時間、使用方法等を説明する表現を学ぶ。　「時」につく前置詞の使い方を学ぶ。 病室内、設備等の単語を発音し覚える。
文法：前置詞
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ３０～Ｐ３６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.33 Practice 2 をやる。(動詞と前置詞の組み合わせを考える)
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第６回　Giving Information.　病院の規則を説明する
【key words】
If you need (want, feel, have) . Since you can't ～ . Before (After) your ～ .
【授業概要】
病院の規則を説明する表現を学ぶ。　If, When, Before, After などの接続詞を使って「節」を作る練習をする。　可算名詞と不可算名詞、量を表わす表現を学ぶ。
文法：可算名詞・不可算名詞、量を表す表現
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ３７～Ｐ４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.43 Practice 2 (不可算名詞の数え方)
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第７回　Symptoms　患者から症状を聞き出す
【key words】
I have a cold.　I feel tired.　My arm hurts.　What's your problem today?
【授業概要】
患者にどんな症状があり、どれくらいの期間続いているのか、また症状の起こる頻度、回数などを尋ねる表現を学ぶ。　have, feel, hurt を使って症状を述べる練習をする。
文法：ｈａｖｅの使い方
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ４６～Ｐ５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.53 Practice 5 (症状の言い方)
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第８回　症状の述べ方 / 症状の聞き方 / 病気、痛みに関する単語
【key words】
sickness, cold, aches and pains, stomach and internal problems
【授業概要】
先週に引き続き患者から症状を聞き出す表現を学ぶ。　病気、痛み、トラブルに関する単語を学ぶ。
文法：頻出基本動詞、前置詞、名詞
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ４６～Ｐ５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.55 Crossword　:　Symptoms
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第９回　Injuries and Emergencies　緊急外来での会話
【key words】
What happened to ～ ？　Can you hear me?　How did you hurt ～ ？
【授業概要】
緊急外来での事例をいくつか想定して対応に必要な表現を学ぶ。　状況の説明に必要な「過去形」を学ぶ。 体の部位を表わす単語を発音し使えるようにする。
文法：過去形
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ５８～Ｐ６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書　p.64 Practice 6（事故が起きてから入院までの話の完成）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１０回　How are you　feeling?　現在の症状を聞き出す
【key words】
How are you feeling?　Are you OK?　Are you still ～ ing?
【授業概要】
朝の病棟ラウンドのときによく使う表現を学ぶ。　現在進行形を使って現在の状況を説明する練習をする。　内臓器官を表わす単語を発音し使えるようにする。
文法：進行形
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ６６～Ｐ７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.75 Practice 9（医師と看護師がしていることを、現在進行形を使って文を作る）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１１回　A Patient Medical History　患者の病歴を尋ねる
【key words】
Have you ever had ～ ?　Have you ever suffered from ～ ?
How long have you had ～ ?
【授業概要】
患者の病歴を尋ねる時に必要な表現を学ぶ。　現在完了形、過去完了形の使い方を確認し「時制」を理解できるようにする。　主要な病気を表わす単語を発音し使えるようにする。
文法：時を表す表現
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ７６～Ｐ８４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.85 Crossword　:　Parts of the Body
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１２回　Medicine　処方された薬について説明する
【key words】
What is the medicine for?　What are the side effects?　How often do you ～?
【授業概要】
薬の用法の説明に必要な表現と「頻度」の聞き方と答え方を学ぶ。　説明をする時によく使う助動詞を学ぶ。　「薬袋」に必要事項が書けるように薬の種類を表す単語を発音し使えるようにする。
文法：頻度の副詞
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ８８～Ｐ９５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１３回　I'm Going to Give You an IV.　様々な処置の説明をする
【key words】
Would you please ～ ?　I'm going to ～ .　Your operation is scheduled ～ .
【授業概要】
採血やリハビリなどの説明、手術の手続き、手術前後の注意事項を説明するために使う表現を学ぶ。未来形を使って予定を述べる練習をする。
文法：未来形

【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ９７～Ｐ１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.100 Practice 1（will,　be going to の練習）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１４回　Congratulations!　妊娠、出産前後の注意事項を知らせる
【key words】
What's the expected date of delivery?　You'll be having a normal birth.
Which one is my baby?
【授業概要】
妊娠、出産に関する診療、入院、分娩時によく使う表現を学ぶ。　現在進行形を使って状況を説明する練習をする。　代名詞の使い方を学ぶ。
文法：代名詞
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ１０４～Ｐ１１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.100 - p.111 Practice 4　（現在進行形を使って看護師の予定を書く）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第１５回　患者と看護師の会話
【key words】
意思の疎通
【授業概要】
Unit1 ～ Unit12 で学んだ重要表現を Appendix1 ～12 を使って練習する。　医療系単語を種類別に整理し確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ１１６～Ｐ１２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント(医療系単語)を覚える。

	【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	音声重視の授業です。会話練習、発音練習は大きな声を出して積極的に取り組むこと。 会話の基礎になる文法の復習は各自しっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当ページの予習（会話の部分のCDを聞く）をして授業に臨むこと。 授業終了後は復習しておくこと。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	期末筆記試験（客観、論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	Speaking of Nursing　　南雲堂
参考書	講義の中で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　韓国語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(30)	選択
担当教員			
朴　恵蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、ハングルについて 【key words】 　ハングル・語順、・仕組み・特徴 【授業概要】 ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ14～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハングルの仕組理解して次の授業に備える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	ハングルの母音、出会いの時の挨拶 【key words】 母音・組み合わせ・挨拶 【授業概要】 ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ20～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母音10個の読み書きを復習して覚えること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶 【key words】 子音・平音・激音・有声音化 【授業概要】 ハングルの基本子音14個の形と音を説明して読み書きを練習して覚える。母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にはコツがあることを教える。別れる時の会話を

		口に出して繰り返して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ26～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子音14個の読み書きを復習して覚える。出会いと別れる時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第４回	ハングルの子音(平音、激音、濃音の相違点）、感謝謝罪の時の会話 【key words】 濃音・ 感謝、・謝罪 【授業概要】 ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音）を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝謝罪の時の会話を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ38～47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 平音、激音、濃音の違いを理解して書けるように練習すること。教科書ｐ48～49課題を提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	ハングルの二重母音、有声音化、食事の時の会話 【key words】 複合母音・組み合わせ 【授業概要】 基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音）を書けて読めるように練習させる。 食事の時の会話を何度も口に出して練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ50～55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	ハングルのパッチム、出かける時の会話 【key words】 パッチム・有声音パッチム・連音化 【授業概要】 パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を練習して発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい）を何度も口に出して練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ58～61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パッチムのある単語の読み書きを練習して覚える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話 【key words】 二重パッチム・無声音パッチム 【授業概要】 パッチムには郵政音と無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ62～65 【課題・予習・復習・授業準備指示】 無声音パッチムの読み書きを復習して覚える 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	ハングルの発音の法則 【key words】 有声音化・弱化・連音化・鼻音化、・激音化、・濃音化 【授業概要】 ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化）があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ66～69　付録ｐ204～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ67ｐ69連絡ドリルをやって提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記 【key words】 人名・地名・住所 【授業概要】 日本語の人名、地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ25 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	日本の都道府県名をハングルで書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１０回　パソコンでのハングルの入力の仕方 【key words】 ハングルのキーボード 【授業概要】 パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１１回　～は～ですの文型、自己紹介 【key words】 人称代名詞・職業 【授業概要】 人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ75～77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人称代名詞を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　～は～ですかの文型 【key words】 国名・何人(日本人・韓国人・中国人・イギリス人・アメリカ人) 【授業概要】 国名を韓国語で覚えてあなたはどこの国の人ですかの文型を国の名前を変えながら連絡する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ78～79 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ80の課題をやって提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞 【key words】 指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語 【授業概要】 指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又身の回りの単語を入れ替えながら練習してペアで読む練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ83～85 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指示代名詞を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 第１４回　助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム 【key words】 教室の中のもの・野菜・果物・動物 【授業概要】 教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる 【教科書ページ・参考文献】 ｐ86～87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ88の課題をやって提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　読み書きのまとめ 【key words】 まとめ・基礎会話 【授業概要】 ハングル文字が書けて発音の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに備えての副作用のプリントを書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。

	文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　レクリエーション活動援助法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	△
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	△

授業計画	第１回	科目　オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション概論　レクリエーションという言葉の主旨　支援の目的と方法 【key words】 生活者　支援者　人を支える 【授業概要】 生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

1時間

第３回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法　（ ホスピタリティ・アイスブレーキング）

【key words】
同時発声・同時動作　合図出し
【授業概要】
アイスブレーキングを、単に「素材を楽しませる」ものではなく、一体感、安心感を提供するための方法とし展開するための基本的な技術が同時発声・同時動作であることを理解する。また同時発声・同時動作に含まれる合図出し中心に技法を体験的に学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P250～255
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P254～255の演習を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　レクリエーション支援理論　日常生活におけるレクリエーションのとらえ方

【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活

【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　レクリエーション支援理論　生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化

【key words】

生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化の違いについて復習しておくこと。またボランティア活動をとおして日常のレクリエーションとは何かを理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　レクリエーション支援のプログラム　々のアセスメントに基づいたの実際　(A-PIEプロセス)

【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストに出ている事例を確認し、自らがこのプロセスに基づいて計画が立てられるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　レクリエーション支援のプログラム　治療的意味合いを含めたレクリエーション　（セラピューティックレクリエーションサービス）

【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション

【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
過去、現在、未来と結びつけて対象者の主体性を引き出すレクリエーションサービスとはどのようなものか考えておく
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション計画発表およびまとめ（ ふりかえり・評価 ）

【key words】
レクリエーションプログラム総合計画
【授業概要】
福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行

	う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。　また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	授業の前後30分は対応可能
評価方法	ﾚﾎﾟｰﾄ試験　70%　　グループワーク及び発表　　30%　　（詳細な評価基準は授業シラバス参照）
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
奥泉　宏康　金子　由夏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標 ①運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②脳神経系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	運動器系・脳神経系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	運動器の構造と機能、疾患の病態と症状 【key words】 骨、骨格、筋肉の構造と機能、骨折の特徴、骨折の治癒過程、骨折の合併症、骨粗鬆症 【授業概要】 ガイダンス、運動器疾患に関連する検査、症状・治療を関連付けて説明する 特に高齢者に見られる骨折、合併症を伴う治療に注意を要する骨折 【教科書ページ・参考文献】 P.39-60、P.285 -308 【課題・予習・復習・授業準備指示】 骨折、特に高齢者にみられる４大骨折。神経麻痺や出血性ショックを起こす骨折。開放骨折の特徴。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	運動器疾患の病態と検査・治療 【key words】 ADL、ROM、MMT検査、ミエログラフィ、関節内視鏡検査、画像検査、 【授業概要】 運動器疾患に伴う機能や病態に関する検査を概説する。 整形外科の痛み、ADL、機能障害、変形、検査など 【教科書ページ・参考文献】 P.8　P.38　P.309 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ミエログラフィー検査の注意点、ROM、MMT検査の要点、ADLの概念 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	運動器疾患の病態と治療：脊椎・脊髄疾患、肩関節、肘関節疾患 【key words】 腰椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、側弯症、肩関節周囲炎、肘内障、ミエログラフィー 【授業概要】 運動器疾患の病態と関連する症状、行われる検査と治療を概説する 【教科書ページ・参考文献】 P.61-110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者によくみられる脊椎疾患 側弯症検診 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	脳神経の構造と機能

【key words】
神経伝達、ニューロン、シナプス、大脳、間脳、脳幹、脊髄、脳血管
【授業概要】
大脳、脳幹、中枢神経、脊髄神経、末梢神経　ニューロン、血管系の構造について概説する
【教科書ページ・参考文献】
P.6-50　系統看護学講座専門分野Ⅱ脳神経成人看護学⑦脳・神経、医学書院
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回ミニテスト
【予習復習に必要な想定時間】
事前にテキストのP.6 -50に目を通して臨む

第５回　神経系の機能とその障害による症状
【key words】
脳神経、脊髄神経、自律神経、運動感覚
【授業概要】
中枢神経、末梢神経の神経伝達と運動感覚、自律神経系の構造、機能と障害時の症状について説明する
【教科書ページ・参考文献】
P.18-79　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳神経　医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回　ミニテスト

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　運動器疾患の病態と検査・治療：手・股関節、膝関節疾患
【key words】
人工股関節手術、人工膝関節手術
【授業概要】
手の一般的疾患　、腱鞘炎、デュプュイトラン拘縮。膝、変形性関節症、オスグットシェラッター
股・臼蓋形成不全、変形性股関節症
【教科書ページ・参考文献】
P.112-160　ナースのための優しくわかる整形外科　ナツメ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人工関節手術後のケアの注意店
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　脳神経障害とその症状：
【key words】
意識障害（JCS,GCS),高次機能障害(失行・失認、失語症）、運動機能障害
【授業概要】
脳神経系が障害された時の病態と症状を関連付けて説明する
【教科書ページ・参考文献】
P.52-86,P.88-120,　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学成人看護学⑦脳・神経
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回　　ミニテスト
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　脳神経の疾患の理解と、治療：脳血管障害の内科的治療、
【key words】
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、（内科的治療）、
【授業概要】
脳神経の機能と障害された時の症状を疾患と関連付けて説明する
【教科書ページ・参考文献】
P.122-161　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳・神経
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回　ミニテスト
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　脳神経系の疾患の理解と治療：頭部外傷、脳血管疾患の外科的治療、脳脊髄液の異常
【key words】
頭部外傷、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血（外科的治療）、頭蓋内圧亢進症上、
水頭症、V-Pシャント
【授業概要】
疾患の病態に関連する症状と治療を関連付けて説明する
【教科書ページ・参考文献】
P.122-161　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳・神経
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回　ミニテスト
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　運動器疾患の病態と検査治療：足関節疾患、感染症、関節リウマチ
【key words】
糖尿病の足病変、関節リウマチ、
【授業概要】
疾患の病態と症状の関連付けながら検査・治療を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P.162-178,P.200-206,P.226-244　ナースのためのやさしくわかる整形外科　ナツメ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関節リウマチの診断・治療
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　脳神経系疾患の理解と治療：脊髄疾患、脊髄神経障害
【key words】
パーキンソン病、ALS、ニューロパチーびょう
【授業概要】
疾患の病態と症状を関連付けながら検査・治療を説明する
【教科書ページ・参考文献】

	P.161-168　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳・神経 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回　ミニテスト 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　脳神経系疾患の理解と治療：脊髄変性症、髄膜炎など 【key words】 パーキンソン病、ホーエンヤールの分類、ALS、ミオパチー、多発性硬化症、 【授業概要】 疾患の病態と症状を関連付けながら治療、経過、予後を説明する 【教科書ページ・参考文献】 P.168-211　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳・神経 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回　ミニテスト 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　運動器疾患の病態の理解と治療：小児の整形外科的疾患 【key words】 筋性斜頸、先天性股関節脱臼、手根管症候群、複合性局所疼痛症候群 【授業概要】 疾患の病態と症状を関連付けて検査・治療の説明をする 【教科書ページ・参考文献】 P.258-268,P.180-206　ナースのためのやさくわかる整形外科、ナツメ社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　脳神経系疾患の理解と治療：認知症、てんかん 【key words】 アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、 脳血管障害型認知症、中核症状、周辺症状、 【授業概要】 疾患の病態と症状を関連付けた治療と経過予後について説明する 【教科書ページ・参考文献】 P.218-235　系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑦脳・神経 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　運動器疾患の病態と治療：腫瘍 【key words】 骨軟部腫瘍、骨肉腫、骨転移、くる病、退行性・代謝性疾患、骨粗鬆症、 ロコモティブシンドローム 【授業概要】 疾患の病態と症状を関連付けて検査・治療を説明する 【教科書ページ・参考文献】 P.246-255,P.208-224　ナースのためのやさしくわかる整形外科、ナツメ社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（脳神経50点、運動器50点）
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学⑦脳・神経、成人看護学⑩運動器　医学書院、ナースのためのやさしくわかる整形外科　ナツメ社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
金井希斗　松本吉郎　高玉　篤　松山敏之　笹澤武史　　井田翔太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し看護につなげることができる。 【到達目標】 ①感覚器系（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②精神神経系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③歯科領域の疾患と人間の反応について概説できる。
授業の概要	感覚器領域（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）ならびに精神神経系と歯科領域の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画		
	第１回	眼疾患と治療、生活に及ぼす影響 【key words】 眼の構造　遠視、近視、老視、白内障 【授業概要】 眼の構造と視機能の障害、疾患が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、視覚機能、疾患の回復過程から看護を考える。 【教科書ページ・参考文献】 1-107ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 眼の構造を予習する。 授業後は看護につなげられるよう教科書122-201を読む 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２回	眼疾患と治療、生活に及ぼす影響 【key words】 緑内障、感染性疾患他 【授業概要】 視機能の障害、疾患が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、視覚機能、疾患の回復過程から看護を考える。 過去の国家試験問題の概説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 112-119ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業後は看護につなげられるよう教科書186-203ｐを読む 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第３回	耳疾患と治療、生活に及ぼす影響 【key words】 耳鼻構造と機能　伝音　感音　難聴 【授業概要】 耳疾患、機能の障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、聴覚機能、疾患の回復過程から看護を

考える。
【教科書ページ・参考文献】
1-50ｐ　106-134ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
耳の構造を予習する。
授業後は看護につなげられるよう教科書178-213ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第４回　鼻疾患と治療、生活に及ぼす影響
【key words】
鼻疾患　アレルギー性鼻炎　副鼻腔炎
【授業概要】
鼻疾患、機能の障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、臭覚機能、疾患の回復過程から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
50-53ｐ　134-146ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
鼻の構造を予習する。
授業後は看護につなげられるよう教科書214-220ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第５回　口腔・咽頭疾患と治療、生活に及ぼす影響
【key words】
口腔　咽頭　唾液腺　主な疾患　嚥下障害
【授業概要】
口腔咽頭疾患、機能の障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、味覚機能、嚥下機能の低下、疾患の回復過程から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
148-174ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
口腔、咽頭の構造を予習する。
授業後は看護につなげられるよう教科書220-226ｐ　230-269ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第６回　皮膚疾患と治療、生活に及ぼす影響
【key words】
皮膚の構造　病態生理　皮膚炎、湿疹、感染性疾患
【授業概要】
皮膚疾患、皮膚の障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、感覚機能・嚥下機能の低下、疾患の回復過程から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
1-156ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
皮膚の構造を予習する。
授業後は看護につなげられるよう教科書160-223ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第７回　皮膚疾患と治療、生活に及ぼす影響
【key words】
皮膚悪性腫瘍、褥瘡
【授業概要】
皮膚疾患、皮膚の機能障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、感覚機能・嚥下機能の低下、疾患の回復過程から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
80-156ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は看護につなげられるよう教科書228-266ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　歯・口腔疾患と治療、生活に及ぼす影響
【key words】
齲蝕、歯周病、歯肉炎、保存治療、補綴治療
【授業概要】
歯・口腔疾患、機能の障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライドと教科書を活用して講義にて学習する。また、摂食（咀嚼・嚥下）機能、疾患の回復過程から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
17-159ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
歯・口腔の構造機能を予習する。
授業後は看護につなげられるよう教科書162-274ｐを読む
【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第９回　精神疾患と治療１：精神疾患の基礎知識
【key words】
脳と心　脳の機能障害　主な精神疾患　精神医学
【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知

識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。また、精神医学について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
120-137ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
脳の機能と構造を予習する。
授業後は配布資料と教科書を再度読む
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１０回　精神疾患と治療2：疾患、治療が生活に及ぼす影響
【key words】
知的障害、パーソナリティ障害、自閉スペクトラム
【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。

【教科書ページ・参考文献】
157-169ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は教科書、配布資料を再度読む。
疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１１回　精神疾患の理解と治療3：疾患、治療が生活に及ぼす影響
【key words】
不安障害(神経症）適応障害　心身症・身体表現性障害
【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
146-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は配布資料と教科書を読む
疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１２回　精神疾患の理解と治療4：疾患、治療が生活に及ぼす影響
【key words】
統合失調症
【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
138-142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は配布資料と教科書を読む
疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１３回　疾患の理解と治療5：疾患、治療が生活に及ぼす影響
【key words】
躁うつ病

【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
143-146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は配布資料と教科書を読む
疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１４回　精神疾患の理解と治療6：疾患、治療が生活に及ぼす影響
【key words】
依存症　器質性精神障害　てんかん
【授業概要】
精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
129-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は配布資料と教科書を読む
疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１５回　精神疾患の理解と治療7：疾患、治療が生活に及ぼす影響

	【key words】 アルコール依存症、薬物依存と中毒 【授業概要】 精神疾患の特徴　精神障害が身体、心理、社会、生活に及ぼす影響を理解するための必要な知識・技能をスライド、資料と教科書を活用して講義にて学習する。精神疾患・治療が生活に及ぼす影響から看護を考える。 【教科書ページ・参考文献】 274-282 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業後は配布資料と教科書を読む 疾患の看護について教科書で確認し疾患とつなげながら読む。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後30分
評価方法	筆記試験100%（眼15点、耳鼻15点、皮膚15点、歯5点、精神50点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　眼、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　耳鼻、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　皮膚 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　歯・口腔：医学書院 精神看護学Ⅰ「精神保健学」、精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」：ヌーベルヒロカワ
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 各科目担当講師は、医師として臨床経験を積んでいる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
林　博　多田　真和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【授業目標】 ①女性生殖器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③高齢者特有の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	1.　生殖器系疾患の病態生理と治療について学ぶ。 2.　小児期にある子どもおよび高齢者に特有な疾患を取り上げ、各疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について教授する。これらの疾患の治療に伴う看護を考える基礎知識とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	ガイダンス、生殖器系疾患の理解と治療1 【key words】 女性生殖器、乳房、子宮筋腫、子宮がん 【授業概要】 上記の女性生殖器疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P22-36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読し、予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第２回	生殖器系疾患の理解と治療2 【key words】 妊娠の成立、性周期ホルモン、卵巣のう腫、卵巣がん 【授業概要】 上記の女性生殖器疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P28-36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読し、予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第３回	生殖器系疾患の理解と治療3 【key words】 月経異常、月経随伴症状、更年期障害、乳がん 【授業概要】 上記の女性生殖器疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P164-171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読し、予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度

	第４回	生殖器系疾患の理解と治療4 【key words】 不妊症、不育症、性感染症 【授業概要】 上記の女性生殖器疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P171-196 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読し、予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第５回	小児の代表的疾患①：先天性代謝異常、代謝・内分泌疾患 【key words】 ダウン症候群、新生児マススクリーニング対象疾患、１型・２型糖尿病 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第１章～第４章　P6-102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第６回	小児の代表的疾患②：免疫・アレルギー疾患、感染症、呼吸器疾患 【key words】 アレルギー、気管支喘息、急性乳幼児下痢症、麻疹、風疹、突発性発疹、水稲、帯状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、急性灰白髄炎、日本脳炎、インフルエンザ、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章～第７章　P104-186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第７回	小児の代表的疾患③：循環器疾患 【key words】 先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、ファロー四徴症） 後天性心疾患（川崎病、リウマチ性弁膜症） 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第８章　P188-221 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第８回	小児の代表的疾患④：消化器疾患 【key words】 口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞、腸重積、ヒルシュスプリング病、鎖肛、急性虫垂炎、ヘルニア、胆道閉鎖症 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第９章　P225-276 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第９回	小児の代表的疾患⑤：血液疾患、悪性新生物 【key words】 血友病、血管性紫斑病、突発性血小板減少性紫斑病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、急性リンパ性白血病、脳腫瘍 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第10章～第11章　P278-330 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第１０回	小児の代表的疾患⑥：腎・泌尿器疾患、神経疾患、運動器・骨格器疾患 【key words】 ネフローゼ症候群、髄膜炎、てんかん、水頭症、熱性けいれん、脳性まひ、進行性筋ジフトロフィー、二分脊髄症 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第12章～第14章　P332-430 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第１１回　小児の代表的疾患⑦：皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患 【key words】 色素性母斑、熱傷、アトロピン点眼、結膜炎、斜視、中耳炎、口蓋扁桃肥大 【授業概要】 上記の小児の代表疾患の病態生理・検査・診断・治療について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 第15章～第17章　P432-480 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各章の末頁にあるゼミナール復習と課題について予習復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第１２回　老年特有の疾患の理解と治療1 【key words】 老化、老年看護、超高齢社会 【授業概要】 老年特有の疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P1-45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義内容の復習及び興味を抱いた部分について自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第１３回　老年特有の疾患の理解と治療2： 【key words】 老年症候群 【授業概要】 老年特有の疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P47-92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義内容の復習及び興味を抱いた部分について自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第１４回　老年特有の疾患の理解と治療3 【key words】 高齢者総合機能評価、肺炎、脳血管障害 【授業概要】 老年特有の疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P93-202 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義内容の復習及び興味を抱いた部分について自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第１５回　老年特有の疾患の理解と治療4： 【key words】 認知症 【授業概要】 老年特有の疾患の病態生理・検査・診断・治療について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 P202-318 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義内容の復習及び興味を抱いた部分について自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（生殖器25点、小児50点、老年25点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論：医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 医師免許を有し、医療機関等で臨床医として診療している。 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			
62.公衆衛生学.xlsx			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】人々の基本的生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。 【到達目標】日本の今の現状、特に人口動態、失業率、所得、余暇、婚姻、家族機能などを公衆衛生学という学問から学んでいってほしいと思います。公衆衛生の概念と疫学的手法、特にコホート研究、患者対照研究、無作為化比較対照試験の基礎を学び、研究マインドを持つ看護師としての活躍してほしいと思います。また地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、日本の高度経済成長期に起こった公害、現在の地球環境問題などを学び、地球人として何ができるかを考えるきっかけをつかんでください。
授業の概要	公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれることがわかる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ 第２回 家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ 第３回 公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ 第４回 疫学的方法による健康の理解について学ぶ 第５回 人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ 第６回 母子保健統計について学ぶ 第７回 地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ 第８回 ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の全資料は、初回の講義で配布するので、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること 。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	配布した講義資料を活用して加筆し、定期試験のときに持ち込み可とします。定期試験結果（80%）や講義中の質疑応答など（20%）で総合的に評価する。
教科書	テコム編集委員会編集　みるみるナーシング　健康支援と社会保障制度　最新版　テコム
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疫学・保健統計の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
藤田　晴康			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】看護を実践するにあたって、Evedence-based medicine(EBM)の概念を理解することは不可欠です。目の前にいる一人の対象者（患者）・家族、地域住民に対して、より良い医療・ケアを提供しようとするとき、Evidence-Based Medicine(EBM)のアプローチが役立ちます。 EBMとは、疫学的なアプローチにより判明した根拠に基づいて医療を行うことを指します。 EBMの実践に当たり、漠然とした臨床的な疑問について、本質をとらえて文献を探し、該当する文献を批判的に読むための基礎力が必要です。本講義では、EBMの初歩として疫学的な発想(クリティカルシンキング)、研究デザイン、実際の解析方法について、基礎的知識を身につけます。 【到達目標】 1)EBMの概念を理解し、疫学的アプローチの必要性を理解できる 2)疫学研究が示す内容を理解することができる 3)グループワークを通して、EBMを基盤としたプレゼーテーション及びディスカッションができる
授業の概要	疫学の歴史と概念、疫学の研究方法、疾病頻度の各種指標、保健統計調査の種類内容、スクリーニングの意味と注意点、主な疾患の疫学、疫学で使用される統計学の基礎を学習します。グループ演習・問題演習の中で知識の確実な定着をはかりる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 授業オリエンテーション　疫学の歴史と概念 第２回 疫学研究の概念　標本抽出、バイアスと交絡因子、因果関係、第１～２回の範囲の問題演習 第３回 疫学におけるさまざまな研究デザイン（記述研究、横断研究、介入研究） 第４回 疫学におけるさまざまな研究デザイン（症例研究、コホート研究） 第５回 第３～４階の範囲の問題演習 第６回 疫学頻度の指標 第７回 保健統計調査 第８回 スクリーニング 第９回 第６～８回の範囲の問題演習 第１０回 主な疾患の疫学①（感染症） 第１１回

	主な疾患の疫学②（がん、生活習慣病、精神疾患）、第１０～１１回の範囲の問題演習 第１２回 統計の基礎①（データの扱い、データの散布、分布） 第１３回 統計の基礎②（推定、検定、Ｘ２検定、ｔ検定） 第１４回 第１２～１３回の範囲の問題演習 第１５回 問題演習
受講生に関わる情報および受講のルール	■講義中に、適宜、一人で考える時間や、学生同士で話し合う時間をとります。 ■新しく覚える言葉や公式が非常に多い分野です。積極的に出席・参加することで、最低限の言葉を覚えて、使いこなせるようになるまで慣れておくことが必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	他教科書に比べてですが、テキストは薄く、最重要事項が厳選されています。完全にマスターすれば、看護師国家試験および保健師国家試験の基礎における疫学・保健統計領域の問題が正解できるようになります。 試験勉強の際にご自身でノートを作成し、国家試験の前に見直せるように整理しておかれることをお勧めします。
オフィスアワー	授業終了直後に質問すること。
評価方法	筆記試験60%　課題レポート25%　各回での考察10% これらに時間外学習の取り組みを加算する
教科書	看護学生のための疫学・保健統計　改定２版　浅野　嘉延　著　南山堂
参考書	国民衛生の動向: 厚生の指標　厚生労働統計協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疫学・保健統計の実際　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
種村　菜奈枝			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業目的〕 　疫学研究の情報を収集し、結果を吟味し、実際の保健活動に応用することができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①看護師国家試験や保健師国家試験の過去問を確実に解答できるようになる。 ②研究データを収集し、批判的吟味を加えることができる。 ③科学的根拠に基づいた保健活動を具体的に計画できる。
授業の概要	保健活動を行う上で、科学的根拠に基づいて計画を立案することが必須である。この授業では、基礎編の復習から開始し、将来科学的根拠に基づいて行動できる保健師・看護師・養護教諭となることができるように、その考え方と手法を具体的に学ぶ。高校過程での統計学の未履修者に対しても配慮しながら、授業を進める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	授業のガイダンス、成績評価の方法、疫学的な見方とは何か 【key words】 疫学、疾病、曝露、因果関係 【授業概要】 疫学の基本概念を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p5-33] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 [予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第２回	文献の集め方、読み方 【key words】 文献検索、医学中央雑誌、一次情報、二次情報 【授業概要】 必要な文献を収集することができるための知識と技能を習得するために必要な事項を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p155-162] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 [予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第３回	疫学研究における倫理 【key words】 研究倫理 【授業概要】 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p34-35] 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第４回	第１回から第３回に関する復習および演習 【key words】 疫学、疾病、曝露、因果関係、文献検索、医学中央雑誌、一次情報、二次情報、研究倫理、疾病頻度の指標 【授業概要】 第1回から第3回で学んだ事項に関連した国家試験過去問題の演習を通して理解を深める。次の授業への準備として、疾病頻度の指標を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p5-33,34-35,40-53,155-162] ＊国家試験過去問題プリント（初回の授業日に配布する） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ［復習］演習プリントの解き直しをすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第５回	保健活動に必要な疫学の実践（１）：遡り調査による原因の推定 【key words】 オッズ、オッズ比、記述疫学、疫学調査、症例対照研究 【授業概要】 遡り調査による原因の推定方法の演習及びその解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p79-85] ＊演習プリント（当日配布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ［復習］演習プリントの解き直しをすること。 ※電卓持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第６回	保健活動に必要な疫学の実践（２）：生活習慣病予防対策の評価 【key words】 相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合 【授業概要】 禁煙教育効果の評価に関する演習及びその解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p54-62] ＊演習プリント（当日配布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ［復習］演習プリントの解き直しをすること。 ※電卓持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第７回	第４回から第６回に関する復習および演習 【key words】 オッズ、オッズ比、記述疫学、疫学調査、症例対照研究、相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合、絶対リスク減少率、治療必要数 【授業概要】 第4回から第6回で学んだ事項に関連した国家試験過去問題の演習を通して理解を深める。次の授業への準備として、絶対リスク減少率や治療必要数を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p54-62,79-85] ＊国家試験過去問題プリント（初回の授業日に配布する） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ［復習］演習プリントの解き直しをすること。 ※電卓持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第８回	保健活動に必要な疫学の実践（３）：感染症予防対策の評価 【key words】 絶対リスク減少率、治療必要数 【授業概要】 インフルエンザ予防ワクチン効果の評価に関する演習及びその解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 [p57-58] ＊演習プリント（当日配布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ［予習］事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ［復習］演習プリントの解き直しをすること。 ※電卓持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
	第９回	保健活動に必要な疫学の実践（４）：スクリーニング検査結果の評価と保健指導

【key words】
感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度、有病率、陽性尤度比
【授業概要】
潜在性結核感染症における保健指導に関する演習及びその解説を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017
[p123-135]
＊演習プリント（当日配布）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
[予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。
[復習] 演習プリントの解き直しをすること。
※電卓持参
【予習復習に必要な想定時間】
予習及び復習含めて60分程度

第１０回　第７回から第９回に関する復習および演習
【key words】
絶対リスク減少率、治療必要数、感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度、有病率、陽性尤度比
【授業概要】
第7回から第9回で学んだ事項に関連した国家試験過去問題の演習を通して理解を深める。次の授業への準備として、有病率、累積罹患割合、罹患率について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017
[p42-47]
＊国家試験過去問題プリント（初回の授業日に配布する）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
[予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。
[復習] 演習プリントの解き直しをすること。
※電卓持参
【予習復習に必要な想定時間】
予習及び復習含めて60分程度

第１１回　保健活動に必要な疫学の実践（５）：疫学統計、疾患登録の意義
【key words】
罹患率、有病率、人年法、疾患登録、基幹統計
【授業概要】
国家試験の過去問を通じて、保健統計学で用いる疾病統計の基本である罹患率、有病率や人年法を用いた罹患率の算出法を演習及び概説する。疾患登録の意義及び主な基幹統計の種類とその特徴を概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017
[p40-50]
＊演習プリント（当日配布）
＊配布プリント（疾患登録、基幹統計）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
[予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。
[復習] 演習プリントの解き直しをすること。
※電卓持参
【予習復習に必要な想定時間】
予習及び復習含めて60分程度

第１２回　統計ソフト紹介、データのまとめ方
【key words】
記述統計
【授業概要】
記述統計と推測統計の違いを概説する。1変数の記述統計（図表化や数値要約）について概説する。データの種類に合わせた図表の選択方法、図表の作成方法、図表の活用方法を概説する。フリー統計ソフト（EZR）の基本操作を概説の上、基本操作演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
2. フリー統計ソフトEZR（Easy R）で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014
[p20-41,42-44]
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊重要＊
自治医科大学附属病院ホームページよりEZR無料ソフトをパソコンにダウンロードした上でパソコンを持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習及び復習含めて60分程度

第１３回　Rを用いた統計演習１：記述統計
【key words】
記述統計、クロス表、散布図、相関係数、
【授業概要】
2変数の記述統計（図表化や数値要約）について概説する。フリー統計ソフトEZRを用いて、名義変数や連続変数のデータ要約、クロス表作成や2つの連続変数の相関を評価する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
2. フリー統計ソフトEZR（Easy R）で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014
[p56-77,132-137]
【課題・予習・復習・授業準備指示】
[予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。
[復習] 指定した教科書ページの問題を解析ソフトを用いて解き直しをすること。
※パソコン持参
【予習復習に必要な想定時間】
予習及び復習含めて60分程度

第１４回　Rを用いた統計演習２：２群の比較（カイ二乗検定）
【key words】
推定、検定、母数、標本、母集団、仮説、パラメーター、点推定、区間推定、95%信頼区間、標準

	化、カイ二乗検定、P値、帰無仮説 【授業概要】 推定と検定の違いを説明した上で、それぞれ点推定と区間推定方法や仮説検定方法を概説する。独立した2群間の比率を比較するために、カイ二乗検定方法を概説の上、フリー統計ソフトEZRを用いた演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 2. フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014 [p84-87] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 [予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 ※パソコン持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度 第１５回　Rを用いた統計演習３：２群の比較（ｔ検定及びMann-Whitney U検定）、多変量解析 【key words】 平均に関する検定、正規性、t検定、Welch検定、順序変数、Mann-Whitney U検定、Kolmogorov-Smirnov検定、Shapiro-Wilk検定、等分散、F検定、多変量解析 【授業概要】 独立した2群間の連続変数を比較するために、t検定、Welch検定、Mann-Whitney U検定のそれぞれの特徴と検定方法の選択の仕方を概説の上、フリー統計ソフトEZRを用いた演習を行う。多変量解析として回帰分析（単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析）を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 2. フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014 [p92-99,144-159] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 [予習] 事前に指定した教科書ページを熟読しておくこと。 [復習] 指定した教科書ページの問題を解析ソフトを用いて解き直しをすること。 ※パソコン持参 【予習復習に必要な想定時間】 予習及び復習含めて60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・集中講義で行うため、1日欠席すると内容についてこれなくなる可能性がある。 ・実際に計算を行うため、ノートパソコン、電卓が必要な授業もある。 〔テストにおける注意〕 ・電卓持ち込み可。ただし携帯電話やウェアラブル端末等の各種通信機器に付随する電卓の使用は認めない。 ・その他、教科書やプリント等の持ち込みは不可。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内で取り扱った課題演習の復習を宿題とする予定。
オフィスアワー	講義終了後30分
評価方法	テスト100%、総合評価は60%を超えていることが前提となる。
教科書	1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 2. フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014
参考書	[購入不要] 1. 基礎から学ぶ楽しい疫学　第３版　医学書院　2012 2. 保健統計・疫学 第５版　南山堂 2014 3. 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計　第２版　南山堂　2013
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 主にアカデミア（京都大学、千葉大学）のAcademic Research Organization (ARO) で医薬品開発等の開発経験を約10年間有している。また、慶應義塾大学にて、医薬品開発方法論等を研究している。この実務経験をもとに疫学全般について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施

	□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護関連法規　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
樋口　キエ子　源内　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】看護師の身分・業務に関する法令を理解すると共に保健・医療・福祉に関する法規との関連が把握できるための基礎知識が理解できる。 【目標】 １．看護師の法的身分．看護師の業務に関する法令の基礎について理解できる ３．看護領域の法令と保健・医療・福祉に関する法規の関連が理解できる ３．看護師の業務、法的責任の自覚を持ち、医療事故の防止についての理解を深めることができる
授業の概要	看護師として活動するにあたって必要な法規について、保健・医療・福祉などの関連領域を含めて理解を深める。日々行われる看護活動と看護関連法規は密接な関連があることを一連の学習を通して自覚、医療事故の防止についての理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　・看護と法の関連　・　第1章法の概念 【key words】 法の概念、看護と関連法規、法律 【授業概要】 科目オリエンテーションにより、本科目の概要を知り、自身の向かう姿勢について確認する。 看護と保健医療福祉関連法規について理解をする 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P1-3,2－18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 法に関連する概念、衛生法について熟読し、まとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 2－3時間程度 第２回　・第２章　看護法 【key words】 保健師助産師看護師法の概要と構造　・目的・定義・免許 【授業概要】 保健師助産師看護師法の構造 ・目的・定義　・構造と付属法令・免許　について学び看護実践との関連を深める。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P20－50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健師助産師看護師法の構造の指定個所を配布されたワークシートに整理して臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 2－3時間程度 第３回　・　第２章　看護法 【key words】 保健師助産師看護師法の構造 【授業概要】 保健師助産師看護師法の概要と構造、研修・義務・試験・医療過誤 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P20－50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料とワークシートを再度確認する。 【予習復習に必要な想定時間】

		2時間程度
	第４回	・3章　医事法 【key words】 医療法・主な医療関係法・保健医療資格法・医療を支える法 【授業概要】 医療法、主な医療関係法、保健医療資格法、医療を支える法について学び看護実践との関連を深める。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P52－117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療法、主な医療関係法、保健医療資格法、医療を支える法について教科書を読みまとめてくる。関連する話題を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間程度
	第５回	・４章　保健衛生法 【key words】 共通保健法、分野別保健係法、食品に関する法医療法 【授業概要】 共通保健法、分野別保健係法、食品に関する法について学び、看護実践との関連や食品選択時に活用できる。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P120－159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 共通保健法、分野別保健係法、食品に関する法について教科書を読みまとめてくる。関連する話題を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間程度
	第６回	・５章　薬務法　　・7章　社会保険法　　・8章　福祉法 【key words】 薬務法・麻薬・毒物・社会保険法、福祉法 【授業概要】 薬事一般に関する法律、麻薬・毒物、主な社会保険法、福祉法などについて学びを深める。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院　P162－232 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に関する教科書を読みまとめてくる。関連する話題を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間程度
	第７回	・9章　労働法と社会基盤整理 【key words】 労働法、社会基盤整理 【授業概要】 労働法、社会基盤整理に関する法について学び、看護職を取り巻く労働環境、社会基盤の整備について看護絵を深める。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ234～252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 労働法、社会基盤整理について教科書を読みまとめる。これまで体験した看護実習と看護関連法規の関連について振り返りをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間程度
	第８回	看護学実習と看護に関する法規との関連 【key words】 看護活動・看護に関する法規 【授業概要】 此れまで体験した看護学実習と関連する法律との関連を整理、考察し報告する。 他のグループの発表を通して看護学実習と看護に関する法規との関連の学びを深める。 【教科書ページ・参考文献】 看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他グループの報告内容と看護関連法規との関連について確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間程度

受講生に関わる情報および受講のルール	・予習復習は必ず行う、テーマに関しては主体的に学び参加する。 ・グループワークに於いてはメンバー間の尊重、各々役割を発揮する。 ・遅刻、早退については担当教員に申し出る。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業時間内及び終了後の質問時間の活用、コメントカードの利用
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する
オフィスアワー	在室時を利用する
評価方法	1．筆記試験（80%）　2．グループワークへの参加度（20%）
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野「健康支援と社会保障制度」　④看護関係法令　医学書院　2019年版
参考書	・田村やよい著：私たちの拠りどころ、保健師助産師看護師法第2版、日本看護協会出版会、2015 ・今西晴彦著：「健康支援と社会保障」医療関係法規、メデイカ出版、2016
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 日々行われる看護活動と看護関連法規は密接な関連があることは、特に専門領域（在宅看護学）で直結する、此れまでの看護基礎教育に携わる中で研修、看護活動の場で実践を積んできた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会保障制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　私たちは自らの責任によって自立した生活を営んでいるが、社会保障制度は、そうした自立した生活が危機を迎えた時のセーフティネットの機能を持っている。それにより、すべての国民が安全・安心に生活できるような制度として形作られている。そうした社会保障制度について理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の理念・機能を理解する。 ２．社会保障の具体的しくみ、位置づけについて理解する。 ３．社会保障と国民生活の関係、社会保障の課題について理解する。
授業の概要	本講座では、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度とその理念、その他の社会保障に関する制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを学修する。また、医療保健職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことがらについても学修していく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	社会保障制度と社会福祉 【key words】 社会保障の概念、社会保障給付費、社会保障・税一体改革 【授業概要】 社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について理解する。さらに、現代の社会保障を取り巻く環境の変化と、それに対する社会保障政策の近年の動向と社会保障の現状について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.11，p.44～p.48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当頁を読む。 復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分、復習90分
	第２回	医療保障(1) 【key words】 被用者保険、地域保険、健康保険、国民健康保険、療養の給付 【授業概要】 わが国の医療保険制度の沿革・特徴について理解し、また医療保険の種類を正しく理解する。また、医療保険制度の給付内容について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.54～p.71 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当頁を読む。 復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分、復習90分
	第３回	医療保障(2)

【key words】
医療費用負担、後期高齢者医療制度、医療費適正化、特定健診・保健指導
【授業概要】
医療保険制度における費用負担の仕組みについて理解する。高齢者医療制度について学習し、特に後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.72～p.79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分、復習90分

第４回　医療保障(3)、介護保障(1)
【key words】
公費負担医療、国民医療費、介護保険制度の沿革、介護保険制度の基本理念、要介護・要支援
【授業概要】
公費負担医療及び国民医療費の現状について、理解する。次に、介護保険制度の経緯と意義を知り、また介護保険制度の全体的な枠組みを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.80～p.98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分、復習90分

第５回　介護保障(2)
【key words】
施設サービス、居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス
【授業概要】
介護保険制度の具体的運用について理解する。特に介護保険の給付がなされる手続き・具体的な手順について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.98～p.107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分、復習90分

第６回　介護保障(3)
【key words】
地域支援事業、地域包括支援センター、介護保険財政の負担割合、成年後見制度、介護保険法改正
【授業概要】
市町村が主体的に実施する介護保険に係る地域支援事業について理解する。また、介護保険の財政のしくみについて理解する。さらに、介護保険の現状と今後の展望を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.107～p.118
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分、復習90分

第７回　所得保障(1)
【key words】
国民年金、厚生年金、老齢基礎年金、老齢厚生年金、年金制度改正
【授業概要】
所得保障制度の概要について理解する。具体的な所得保障制度の中心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.120～p.137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分、復習90分

第８回　所得保障(2)、全体のまとめ
【key words】
児童手当、児童扶養手当、雇用保険、労働者災害補償保険
【授業概要】
各種社会手当、労働保険制度(雇用保険及び労働者災害補償保険)のしくみ･内容について概要を理解する。さらに、これまで学修してきた内容について、重要事項を中心に復習する。
【教科書ページ・参考文献】
p.137～p.144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当頁を読む。
復習：チェックテストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】

	予習90分、復習90分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業終了時にチェックテストを実施する。また、配付資料が多いので、各自でファイルするなどして、資料の管理をする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チェックテスト・質問カード
授業外時間にかかわる情報	予習として、教科書の予告された該当部分のを読む。復習として、授業内で実施したチェックテストについて、配布された解答・解説を確認し、間違ったところを解説でチェックし、教科書・ハンドアウトで復習する。
オフィスアワー	授業終了後15分
評価方法	期末試験（80%），チェックテスト・受講の状況（20%）
教科書	系統看護学講座・専門基礎分野『健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』第20版　医学書院
参考書	随時提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
新木　恵一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 我が国の福祉制度を理解し、クライエントの支援を関係者（機関）と共に実施する力を身につける 【到達目標】 人は生まれてから、亡くなるまで様々な歩みをする。そうした中で、例えば貧困に陥ることもあるだろうし、障害に悩む時など様々な障壁を体験する。そうした中で自力で解決できることもあれば、それが困難な場合も発生する。そうしたした時看護の専門職としての必要な知識を活かして関係者とともに支援をすることが出来ればクライエントにとって何よりも心強いものがある。そうした支援の知識を本教科により修得することを目標とする。
授業の概要	我が国における福祉制度について、その成り立ちと共に大きく変貌している制度（福祉六法）を中心にその周辺領域までをも含んだ知識を高めるために可能な限り具体的な霊地とうを含めての事業を展開する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 社会福祉の法制度と社会福祉の歴史 第２回 現代社会の変化と社会福祉の動向 第３回 公的扶助と貧困対策 第４回 高齢者福祉の状況と施策 第５回 障害者福祉の状況と施策 第６回 児童福祉の状況と施策 第７回 社会福祉の実践（援助技術を中心に） 第８回 社会福祉の実践（援助の課題と地域連携について）
受講生に関わる情報および受講のルール	必ず事前に授業の範囲を読んでくること。新聞等から福祉情報を習得しておくこと。積極的に授業に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	身近なところ（地域）でどのような福祉課題があるか考察しておくこと
オフィスアワー	別途指定する

評価方法	筆記試験８０％　授業参画状況等２０％
教科書	系統看護学講座『社会保障・社会福祉（健康支援と社会保障制度③）』第１８版　医学書院　2017
参考書	『２０１７年度版　医療福祉総合ガイドブック』NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会　2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　医療と倫理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
多田　真和　林　博　菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	古くは古代ギリシャのヒポクラテスにまで辿ることのできる医の倫理は、日本においては医道として認識されており、１年次で履修した「哲学」において、その基盤はできていると確信する。本講義では、近年の医学における急速な進歩に伴う新たな医療行為に伴って生じる、倫理的問題について学習し、将来の諸君の取るべき立場について、考えを固めることを目的とする。自分が、自分の両親や子供が授業で提示されるような状況になった場合に、迷うことなく決断し、行動することができることを、到達目標とする。
授業の概要	まず、医療の歴史を顧みて、その中で生まれてきた倫理的問題を理解する。その後各分野の専門家による近年の医療や情報科学の進歩に伴う、新たな医療倫理上の問題点を提示し、学生諸君に考えてもらう。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 【key words】 医療の歴史と倫理　Ⅰ　：　医学とは何か？医療とは？医道とは？人間の生命を考える、 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 医療の歴史と倫理　Ⅱ　：　医学の発達とその過程で生じた諸問題 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 生殖医療における倫理　：　新たに生命をつくり出すことが可能となった生殖医療上の問題について学習する 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回 【key words】 医療情報の取り扱いⅠ　：　インフォームドコンセント、守秘義務、情報開示　などを理解する

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回 【key words】 脳死、臓器移植の現状と倫理　：　外科学、免疫学の進歩によって可能となった臓器移植により生じる倫理的問題を学習する 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回 【key words】 医療情報の取り扱いⅡ　：　臨床研究上生ずる倫理の問題点を理解し、それらを審査する倫理委員会への理解を深める 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回 【key words】 遺伝子医療の現状と倫理　：　分子生物学の進歩により可能となった遺伝子医療の現状の一断面から、倫理的問題を考える 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　安楽死（がん末期）の現状と倫理　：　死を迎えるにあたっての考え方の多様化を、安楽死問題を中心に学習する 【key words】 ターミナルケア、安楽死、尊厳死、ホスピス、カレン・クインラン裁判、リビング・ウィル、がん末期 【授業概要】 尊厳死、安楽死の問題を世界的に認識させるきっかけとなったカレン・クインラン裁判を取り上げ解説します。また、積極的安楽死、間接的安楽死および消極的安楽死の相違について学んだ上で、今後のリビングウィル、ターミナルケア、さらにホスピスの在り方について考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 p.275 - p.286 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
受講生に関わる情報および受講のルール	私語厳禁。注意をしても私語をやめない者は、退出させる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	報道（新聞、テレビ、ネット）などで話題になる、医療の進歩に伴う諸問題は、現在の諸君にとっては、経験したことがなく、身近な問題でない場合がほとんどであろう。しかし、自分が授業中に提示されるような立場に立った場合に、どのような決断をし行動がとれるかが定まっていなければ、将来現場出ても、患者さんを救うことはできない。答えは１つでなく、正解がない場合もあるが、常に自分が同じ対場に立った場合に、どのような行動をとるかを、授業中、授業後の復習において、考えをまとめること。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	全講義完了ののちに行う筆記試験により判定する
教科書	医学概論：日野原重明　著、　医学書院　　学生のための医療概論：千代豪昭/黒田研二　編、医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護と医療過誤　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	必修
担当教員			
源内　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 医療安全に対する知識を理論と根拠を踏まえ理解し、　医療事故防止についての意識を高めることができる。 【到達目標】 ①医療安全の基本的な知識を説明できる。 ②看護業務の範囲と責任について説明できる。 ③ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 ④事故報告の意味と必要性について説明できる。
授業の概要	①医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割について学習する。 ②医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目のオリエンテーション　　医療安全と看護の理念　事故防止の考え方 【key words】 医療安全　事故防止　システム　ヒューマンエラー 【授業概要】 科目のオリエンテーション　　医療安全と看護の理念　事故防止の考え方について学ぶ 授業で学ぶ意義は何か？患者さんと業務上の危険をきちんと認識・判断できるようになること！ まず，患者さんの病態や背景を理解することが最も重要。次いで、医療安全に対して、きちんと理解して医療行為やケアを行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②序章、第1章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指示された教科書範囲をよく読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 【key words】 事故分析　リスクマネジメント　ヒヤリハット 【授業概要】 医療事故はなぜ起こるのか、どんな時に起こるのか、考える。看護の現場は、診療の補助業務と療養上の世話がある。してはならない事をした事故と、するべきことをしなかった事故がある。 また現場では不可抗力の事故もおこりうることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②序章、第1章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	診療の補助の事故防止（Ｉ）患者に投与する業務の事故防止 【key words】 看護業務　診療の補助　してはならないこと 【授業概要】 医療事故を防止するための組織的にどのような取り組みがなされているかを考える。 診療の補助業務ではしてはならない事をした事故と、するべきことをしなかった事故がある。

		看護の視点、患者の視点で事故について考えられること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②第2章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 【key words】 看護業務　診療の補助　してはならないこと 【授業概要】 してはならないことをする、するべきことをするためにどうすればよいか考える。 チューブ類の管理、ドレーン管理について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②第3章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	看護における医療事故と安全対策　療養上の世話の事故防止 【key words】 看護業務　療養上の世話　転倒・転落事故と摂食中の窒息・誤嚥事故、異食事故 【授業概要】 ・療養上の世話における2群の事故の発生要因のとらえ方と、事故防止の考え方の違いを理解する ・患者の背景によってどのような事故の危険性があるかを知る ・発生の多い転倒・転落事故と摂食中の窒息・誤嚥事故、異食事故、及び入浴中の事故の防止について具体的に学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②第4章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	医療安全とコミュニケーション　学生間で、前回までの講義の振り返りを行い、学生間の共有を図る。 【key words】 医療安全　チーム医療　コミュニケーション 【授業概要】 事故防止を未然に防止するために、医療職間・医療職と患者間との適切なコミュニケーションの仕方を理解する。 医療安全対策のステップアップを目指して、良好なチームワークを意識しながら、病院職員が一丸となり医療安全文化の醸成を目指すことが必要であることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践②第6章、第5章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	医療事故後の対応　医療コンフリクト・マネージメントについて　組織的な安全管理体制への取り組み 【key words】 コンフリクト・マネジメント　組織的　医療安全対策の展望 【授業概要】 コンフリクトマネジメントとは 組織運営においてネガティブに評価されがちなこうした状況を、組織の活性化や成長の機会と捉え、積極的に受け入れて問題解決を図ろうとする考え方について学ぶ。また、コンフリクトはどうして起こるのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	危険予知（KYT)による医療安全（トレーニング）発表 【key words】 危険予知（KYT) 【授業概要】 どんな危険が潜んでいるでしょうか、KYT（危険予知訓練）を行う。 事例をもとに皆で話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：医学書院　系統看護学講座「医療安全」看護の統合と実践② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・欠席や遅刻をする場合は必ず担当者に連絡をすること。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	シャトルカード方式	

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	・看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨むと理解しやすい。分からない部分は授業の中で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後から18：00まで
評価方法	筆記試験80%、レポートの提出20%、その他グループワークや授業への取り組み、出席状況等加味する 総合評価は筆記試験、レポート等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1　川村治子編集：系統看護学講座　看護の統合と実践②「医療安全」医学書院 2　河村治子編集：医療安全ワークブック　医学書院
参考書	１．杉山良子編著：ナースのための危険予知トレーニングテキスト，MCメディカ出版，2013. ２．長野展久著：看護自己の舞台裏　22事例から徹底的に学ぼう，医学書院，2016. ３．石井トク著：医療事故 看護の法と倫理の視点から，MCメディカ出版，2013.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院での看護師実務経験38年の教員が担当する。成人看護領域では約30年、うち領域管理15年の経験値がある。看護管理業務8年（医療安全管理委員会にも従事） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　チーム医療論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口　キエ子　塚越　八重子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 　チームケア・チーム医療に関する基礎的知識・技術・態度について学び　対象者へのチームケア・医療のあり方について修得する。 【到達目標】 　①チームケア・チーム医療の目的・意義・方法・各職種の役割について理解できる。る。 　②対象に必要なチームケア・チーム医療のアセスメントが理解できる 　③地域包括ケアシステム、退院支援における円滑なチーム医療提供の方法が理解できる 　④事例展開を通じてチームケア・チーム医療のあり方を学ぶと共に、チームケア・チーム医療への関心がもてる。
授業の概要	看護を取り巻くチームケア・医療の現状を把握し、多様なニーズを抱える人々に対応できるために必要な知識技術態度を理解する。チームケア・医療の実践ができるために多様な状況・状態にある対象の事例展開を通して実践力、チーム医療に必要な態度を養う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目のオリエンテーション　・チームケア・チーム医療のの概念 【key words】 チームケア・チーム医療の目的・意義、チーム医療の歴史、背景 【授業概要】 本科目のオリエンテーションを通じて自身の科目に向かう姿勢を確認する。 チームケア・チーム医療の目的・意義、チーム医療の歴史、背景について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア論　ぱる出版　Ｐ3－43、資料配布]新聞記事、雑誌等からチームケア・チーム医療に関する話題を収集してくる。授業計画を確認する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞、雑誌等からチームケア・チーム医療に関する話題を収集してくる。授業計画を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間程度
	第２回	チームケアの可能性、チーム医療と当事者参画 【key words】 チームケアの可能性、チーム医療と当事者参画 【授業概要】 チームケアの可能性、チーム医療と当事者参画について事例を取り入れながら具体的に学習を深める。 【教科書ページ・参考文献】 チームケア論　ぱる出版、資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定された課題を読み考えをまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間程度
	第３回	健康段階に応じたチームケア・チーム医療 【key words】 健康段階、ケアチームの特徴、ケアの目標、生活の質

【授業概要】
健康段階に応じて編成されるケアチームの特徴（関連する職種含む）、ケアの目標、生活の質について学びを深める。

【教科書ページ・参考文献】
チームケア論　ぱる出版、資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定された課題を読み考えをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第４回　健康段階に応じて編成されるケアチームの特徴
【key words】

健康段階、ケアチームの特徴、ケアの目標、生活の質
【授業概要】
事例展開を通して、健康段階の種類とその特徴、特徴に応じて編成・関連するケアチームの特徴とその役割について、他の学生の報告を聞いて学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】
チームケア論　ぱる出版　Ｐ87－111、資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回授業の課題・事例展開について調べ学習をする。

本日の振り返りをする、次回授業の課題・事例展開について調べ学習をする。

【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第５回　退院支援（在宅療養移行支援）におけるチームケア・チーム医療　、医療と福祉の接点
【key words】
退院支援におけるチームケア・チーム医療、在宅療養移行支援
【授業概要】
退院支援（在宅療養移行支援）におけるチームケア・チーム医療・多職種連携の在り方ににについて学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】
チームケア論　ぱる出版、資料配布

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の振り返り、次回の課題を読み整理をして臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第６回　多様な状態にある対象のチームケア・医療の実際（アセスメント計画立案）
【key words】
多様な状態にある対象、アセスメント、計画立案
【授業概要】
多様な状態（脳血管疾患後遺症の事例・ターミナル期）にある対象へのチーム医療の在り方、多職種連携、

在宅療養移行支援時のチームケアについて事例展開を通して学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例展開の個人ワークを深める
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第７回　多様な状態にある対象のチームケア・医療の実際（アセスメント計画立案の発表・まとめ）
【key words】
多様な状態にある対象のチーム医療のアセスメント計画立案
【授業概要】
多様な状態（脳血管疾患後遺症の事例・ターミナル期）にある対象へのチーム医療の在り方、多職種連携、

在宅療養移行支援時のチームケアについて事例展開・発表により学びを深める。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の事例展開と報告内容の振り返りをする。次回のテーマについて話題を収集して臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間程度

第８回　多様な状態にある対象のチームケア・医療と今後の展望
【key words】
精神障害、療養児、認知症、家族、倫理
【授業概要】
精神に障害を持つ、小児、認知症を抱えるなどの多様な状態にある対象のチーム医療・チームケアの在り方を通して看護職としての役割を自覚をする、また今後の課題について深める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
此れまでの学習の振り返りを通して学びの確認をする。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・欠席や遅刻をする場合は必ず担当者に連絡をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・チームケア・チーム医療、地域包括ケアシステム、退院支援などに関するトピックス、看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨む。グループワークにおける自身の役割が、チームケア・医療における態度につながることを認識してワークに取り組む。
オフィスアワー	授業終了日18時頃迄
評価方法	課題レポート80%、授業の取り組み姿勢20%
教科書	鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，最新版.
参考書	１．日本看護協会編：平成26年度版看護白書　地域包括ケアシステムと看護　２014. 2. 樋口キエ子・式恵美子著退院支援から在宅ケアへ，筒井書房，2010. 3. 川島みどり著：チーム医療と看護，看護の科学社，2014. 4. 嶋崎謙二：看護白書、平成26年版、日本看護協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護基礎教育に在宅看護論が新設されて以来、病院内外保健医療福祉関連施設での実践の体験、関連研修会の参加、最近は、地域保健医療福祉関係者との退院支援研修会を開催し多職種連携、チーム医療、チームケアについて学習を深めている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　リハビリテーションの基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
小島　俊文　山口　智晴　牛込　裕樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 リハビリテーションの理念について理解するとともに、理学療法および作業療法を中心としたリハビリテーション専門職についても理解することで、看護との関係について考え、多職種連携の必要性についても理解することを目的とする。 【到達目標】 ①リハビリテーションとは何か、その定義を理解して説明ができる。 ②理学療法について興味を持ち、職業内容について理解して説明ができる。 ③作業療法について興味を持ち、職業内容について理解して説明ができる。
授業の概要	本講義では、医療医療分野におけるリハビリテーションについて理学療法および作業療法の分野から説明を行う。リハビリテーションは常にチーム医療として実施されるため、看護との関わりや、リハビリテーション専門職としての役割をわかりやすく説明する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 リハビリテーションの定義と目的・障害の捉え方（ICF） 第２回 理学療法とは　～理学療法の定義と治療手段について学ぶ～ 第３回 作業療法とは　～作業療法の定義と専門領域について学ぶ～ 第４回 作業療法の手段　～作業療法の具体的な関わりについて学ぶ～ 第５回 理学療法の実際①（本町キャンパスにて） 第６回 理学療法の実際②（本町キャンパスにて） 第７回 作業療法の実際①（本町キャンパスにて） 第８回 作業療法の実際②（本町キャンパスにて）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁です。 学生者としての態度、自ら考え学ぶための学習方法とその習慣について、大学生としての基本的な姿勢についてしっかり築きあげていって下さい。受講にあたり、以下の授業時間外学習を進めて下さい。 なお、4～8回目はリハビリテーション学部で開講されます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	受講にあたって事前に、日本理学療法士協会のホームページ（http://www.japanpt.or.jp/）と、日本作業療法士協会のホームページ（http://www.jaot.or.jp/）を閲覧し、理学療法士と作業療法士の仕事内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	授業内小テスト50%･提出課題（理学療法と作業療法について事前と事後に調べたことを提出）：50%
教科書	指定なし
参考書	栢森良二(著)：学生のためのリハビリテーション医学概論-第2版-，医歯薬出版，2015. 鈴木憲雄（著）：人間作業モデルで読み解く作業療法，シービーアール，2017. 山口晴保・山口智晴（編）：認知症の本人・家族の困りごとを解決する医療・介護連携の秘訣．協同医書出版社．2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保健医療福祉政策論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久保　裕樹　佐藤　大介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 我が国における保健医療福祉政策の骨子としくみについて理解し、諸施策が国民の生活をどのように支えているのかを学ぶ。 我が国の国民動態から保健医療福祉政策がどのような歴史的変遷を辿ったのかを踏まえながら、我が国が現在抱えている社会保障に関わる諸問題について熟考し、論議を展開できる。 【到達目標】 　保健医療福祉に関わる主要な諸政策について、概要を理解できる。 　国民生活において、社会保障はどのような機能を果たしているかを理解できる。 　人口統計をはじめとする国民動態統計から、今後の日本の社会保障がどのような社会的ニーズを満たすべきかを推論できる。 　現状の社会保障のしくみとなりたちを踏まえた上で、今後の社会保障のあり方について自分なりの考えを持ち、伝えることができる。 　グループ討議とプレゼンテーションを通して、学びを他者に伝え共有し、チームとして目標達成するスキルを身につける。
授業の概要	人々の生活と福祉を護る諸制度の仕組みを、歴史的な流れ及び世論の動向で概説し、看護活動の実践に向けて、適用するための方法を教授する。また、保健医療福祉制度の課題と制度の変化の現状についても論究する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	総論① 保健医療福祉政策とは何か/なぜ看護職は政策を学ぶ必要があるのか（久保)20200410 【key words】 保健医療福祉政策 【授業概要】 保健医療福祉政策の概要を学びます。 看護職にとって、政策の必要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	各論① 保健医療福祉と住民・医療従事者との関連性/地域包括ケアの観点から（久保)20200410 【key words】 地域包括ケア 【授業概要】 国の重要な社会保障政策の考え方である地域包括ケアについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	総論② 社会保障の理念・役割・意義（久保）20200410 【key words】 社会保障 【授業概要】 社会保障とは何かについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　グループワーク・課題設計（久保）20200410

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　総論③：保健医療福祉制度の関係性（各医療機関・福祉機関の役割、各職種の役割と連携）（佐藤）20200415

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　総論④：国・都道府県・市区町村の保健医療福祉制度（佐藤）20200415

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　各論② 社会保険制度の成り立ちとしくみ 医療保険制度と介護保険制度（久保)20200417

【key words】

社会保険　医療保険　介護保険

【授業概要】

社会保険のうち、看護職に関係の深い医療保険と介護保険について学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　各論③ 診療報酬とは（久保）20200417

【key words】

診療報酬

【授業概要】

診療報酬について、看護職の立場から学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　各論④ 地域医療構想とは（久保）20200417

【key words】

地域医療構想

【授業概要】

地域医療構想について、看護職の立場から学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　総論⑤ 保健医療福祉制度の変遷・改革（法改正・省庁通知・ガイドライン）（佐藤）20200422

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　各論⑤ 我が国の保険医療福祉政策の課題（人口動向・高齢化・地方格差など）（佐藤)20200422

【key words】

【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　総論⑥ 保険医療福祉行政の仕組みと法体系（佐藤)20200429 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　各論⑥ 保険医療福祉政策の現状（佐藤）20200429 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　プレゼンテーション・課題解決発表①（久保)20200429 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　プレゼンテーション・課題解決発表②（久保)20200429 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	人々の病気、健康問題は医療・保健・福祉分野にとどまらず国及び地方、世界の政治、経済、社会情勢などと密接に関連しているので、常に新聞、テレビ等のニュース、記事を収集し自らの問題の所在、方策を考える習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	「受講生に関わる情報および受講のルール」を参照。
オフィスアワー	E-mailでの質問等は随時対応する
評価方法	出席状況、課題グループワークの参加、課題グループワークプレゼンテーション、課題レポートにより評価する。 グループワーク課題「看護職としてテーマに対して何ができるか？」 テーマ①地域包括ケア②医療介護連携③保健師と医療機関連携④医療福祉制度の課題
教科書	なし
参考書	「看護職者のための政策過程入門―制度を変えると看護が変わる」日本看護協会出版会 「【経営感覚】と【看護の心】を両立させる！ 組織づくりとマネジメントの鉄則: 経営に貢献できる」　メディカ出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本学の同講義は5回目の担当教員である。アクティブラーニングの要素を取り込んだ授業構成となっている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護方法論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林　洋子　上田　葉子　中嶋朋子　内田佳代　　菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 ヘンダーソン看護論の理論枠組みを使用した思考のプロセスをとおして、看護実践方法を理解する。 【到達目標】 １．事例について必要となる解剖生理、病態生理、治療、看護の要点についてまとめることができる。 ２．基本的欲求１４項目に合わせて、常在条件・病理的状態からアセスメント （情報収集、分類・整理、解釈・分析、統合）し記述する。 ３．事例の看護問題を明確にして記述することができる。 ４．事例に応じた計画を具体的に立案し記述することができる。 ５．実施・評価について説明できる。
授業の概要	・個人ワークとグループワークにより能動的に学習する科目である。 ・提示した事例について、既習の知識を活用し、患者に必要な看護について考え、指定用紙に記述していく。　・個人ワークで学習した結果を発表し、様々な考え方、まとめ方を知る。 ・グループワークにより、より良い看護実践について考える学習とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	・科目オリエンテーション　看護過程の復習　事前学習課題の確認　（講義） 【key words】 ・看護過程　看護過程の構成要素　事前学習課題 【授業概要】 ・科目オリエンテーション ・看護過程とは何か、看護過程の構成要素について復習する。 ・事例を説明しながら、病態生理、検査、入院経過、受け持ち時の状態、既往歴について説明する。 ・プロフィールシートの書き方を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP2～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・事前学習課題：疾患の病態生理と一般的な検査と治療、大腿骨の構造と働きなどを調べてくる。 ・発達段階、発達課題について調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ・1時間
	第２回	・事例展開　プロフィールシート作成　（講義） 【key words】 ・事例　プロフィールシート　事前学習課題 【授業概要】 ・事例内容を読み取りプロフィールシートを作成する。

・プロフィールシートを作成し、教員に提出する。
・基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状態について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP2～P69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状態を1から14まで記入してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・50分

第３回　・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント（講義・演習）
【key words】
・ヘンダーソン　14の基本的欲求　常在条件　病理的状態

【授業概要】
・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　情報の分類
・ヘンダーソンの14の基本的欲求
・基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状態

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP40～P44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類をしてくる。（1から6まで記入してくる）
【予習復習に必要な想定時間】
・１時間

第４回　・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント（演習・発表）
【key words】
・ヘンダーソン　14の基本的欲求　常在条件　病理的状態

【授業概要】
・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類
・ヘンダーソンの14の基本的欲求
・基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状態

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP40～P44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類をしてくる。（7から14まで記入してくる）
【予習復習に必要な想定時間】
・１時間

第５回　・基本的欲求の充足に関する分析・解釈　（講義・演習）
【key words】
分析・解釈の視点　充足　未充足

【授業概要】
・情報の分析・解釈を行う。
・分析・解釈の視点の方法を学ぶ。
・充足・未充足を検討する。
・未充足の原因、誘因を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP44～P91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する分析・解釈で不足している部分を追加してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第６回　・基本的欲求の充足に関する分析・解釈　（演習）
【key words】
・分析　解釈　分析・解釈の視点　充足　未充足
・基本的欲求の充足に関する分析・解釈で不足している部分を追加してくる。

【授業概要】
・情報の分析・解釈を行う。
・分析・解釈の視点の方法を学ぶ。
・充足・未充足を検討する。
・未充足の原因、誘因を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP44～P91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する分析・解釈で不足している部分を追加してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第７回　・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　全体像（関連図）作成　（演習）
【key words】
・アセスメント結果　全体像（関連図）　整理

【授業概要】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理（全体像）を行う。

【教科書ページ・参考文献】

・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果、全体像（関連図）を作成してくる。

【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第８回　・基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　全体像（関連図）仕上げ　（演習・発表）
【key words】
・アセスメント結果　全体像（関連図）　整理　看護問題の明確化

【授業概要】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理を行う。
・アセスメント結果から看護問題を明確にする。
・看護問題の明確化から、優先順位を考える。
【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果、全体像の不足している部分を追加してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第９回　・看護問題の明確化　全体像の発表　（講義・演習）
【key words】
・全体像（関連図）　看護問題の明確化　発表　（講義・演習）

【授業概要】
・看護問題の明確化、優先順位を記入する。
・全体像(関連図）を発表する。

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理で、不足している部分を追加してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１０回　・看護問題の明確化　優先順位の決定（演習）
【key words】
・全体像（関連図）看護問題の明確化　優先順位

【授業概要】
・看護問題の明確化、優先順位を記入する。

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理で、不足している部分を追加してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１１回　・看護計画の立案　短期目標設定　具体策（講義・演習）
【key words】

・看護計画　看護問題　短期目標　援助計画

【授業概要】
・立案した看護計画が実施できるように具体的な内容にする。

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する情報と看護計画立案に不足している部分を追加してくる。
・具体的な援助を実施する場合には、技術面のテキストを参考に手順を考えてくる。

【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１２回　・看護計画の立案（演習）
【key words】
・看護計画　看護問題　短期目標　援助計画

【授業概要】
・立案した看護計画が実施できるように具体的な内容にする。

【教科書ページ・参考文献】
・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・基本的欲求の充足に関する情報と看護計画立案に不足している部分を追加してくる。

【予習復習に必要な想定時間】
・30分

	第１３回　・看護計画の実施　評価　修正（講義・演習） 【key words】 ・看護計画　実施　評価 【授業概要】 ・看護計画の実施・評価・修正 ・同じテーマで看護計画を立案した学生同士で、実施、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・基本的欲求の充足に関する情報、看護計画立案の不足している部分を追加してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第１４回　・看護計画の実施　評価　修正（演習） 【key words】 ・看護計画　実施　評価 【授業概要】 ・看護計画の実施・評価 ・同じテーマで看護計画を立案した学生同士で、実施、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・基本的欲求の充足に関する情報、看護計画立案の不足している部分を追加してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第１５回　・看護過程の事例展開　まとめ　発表　振り返り　（演習） 【key words】 ・看護計画　実施　評価　まとめ　グループ発表 【授業概要】 ・看護計画立案、実施、評価の一連の流れをまとめてグループ発表する。 ・看護計画立案、実施、評価の一連の流れを個人でまとめて、ファイル提出する。 ・最後に記録の提出方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　テキストP31～P145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・個々に発表後の振り返りを行い、不足している部分の加筆・修正し、提出期限までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１．看護方法論Ⅰの講義内容で学んだことを復習して臨むこと。（授業資料ファイル持参） ２．受け持ち事例の病態生理、検査、治療、看護の要点は指定の用紙にまとめること。 ３．課題レポートの提出は、時間厳守すること。
オフィスアワー	・12：00～12：40
評価方法	・個人課題レポート80％（内容70％、記録提出状況10％） ・グループワーク・全体発表参加状況20％（内容15％、記録提出５％） 評価は個人課題レポートとグループワーク・全体発表を合わせて60%を超えていること
教科書	・茂野香おる他：専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院2016 ・ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」，日本看護協会出版会
参考書	・授業中に適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・さまざまな外来や診療科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義・演習を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林　洋子　上田　葉子　中嶋　朋子　内田　佳代　　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎的な知識、技術、態度を習得することができる。 〔到達目標〕 ①フィジカルアセスメントの意義を説明できる。 ②演習を通して客観的情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーションについて、その方法、ポイントを述べ.ることができる。 ③正常所見及び主な異常所見を説明できる。 ④神経系、呼吸器系、循環器系、筋・骨格系、腹部（消化器）の基礎的なフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ⑤身体診察を受ける対象の気持ちを配慮した対応ができる。
授業の概要	バイタルサイン、頭部・顔面・頸部・耳鼻咽頭、視覚、神経系、呼吸器系、循環器系、腹部（消化器）、筋・骨格系等に関する内容を教授する。講義後は学生同士でペアになり演習にて体験する。演習は、正常所見について確認する。また、身体診察を受ける対象の気持ちを考慮する必要性について考える機会とする。第14回、15回は、事例に基づきフィジカルアセスメントを実施・評価する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	・看護におけるフィジカルアセスメントとは、　科目オリエンテーション　バイタルサイン測定とは、 【key words】 ・フィジカルアセスメント　バイタルサイン　意識状態 【授業概要】 ・看護におけるフィジカルアセスメントとその意義、フィジカルアセスメントの基本技術を説明する。 ・看護におけるフィジカルアセスメントとは何か､その意義､方法について説明する。 ・看護師がバイタルサインの測定・評価を行う意義、重要性について説明する。 ・意識状態の正しい観察方法、評価について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ⅰ　P60～P87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第２回	・バイタルサインの測定 【key words】 ・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態 【授業概要】 ・バイタルサイン測定のアセスメントー講義 ・体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ⅰ　P88～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分

	第３回	・バイタルサインの測定 【key words】 ・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態 【授業概要】 ・バイタルサイン測定のアセスメントー【演習】（１） ・バイタルサインの測定を看護師役・患者役にて実施する。 ・バイタルサインの測定結果をアセスメントし、記録する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ｉ　P88～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第４回	・バイタルサインの測定 【key words】 ・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態 【授業概要】 ・バイタルサイン測定のアセスメントー【演習】（２） ・バイタルサインの測定を看護師役・患者役にて実施する。 ・バイタルサインの測定結果をアセスメントし、報告する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ｉ　P88～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第５回	・バイタルサインの測定 【key words】 ・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態 【授業概要】 ・バイタルサイン測定のアセスメントー【演習】（３） ・バイタルサインの測定を看護師役・患者役にて実施する。 ・バイタルサインの測定結果をアセスメントし、記録する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ｉ　PP88～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第６回	・バイタルサインの測定 【key words】 ・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態 【授業概要】 ・バイタルサイン測定のアセスメントー【演習】（４） ・バイタルサインの測定を看護師役・患者役にて実施する。 ・バイタルサインの測定結果をアセスメントし、記録する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ｉ　P88～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第７回	・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：呼吸器系ー講義 【key words】 ・呼吸器　自覚症状　他覚症状　呼吸音 【授業概要】 ・呼吸器系の基本的な構造と機能を復習する。 ・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、異常所見について説明する。 ・肺の正常な位置、気管の正常な位置、ばち状指、胸部レントゲン像、動脈血酸素飽和度、問診、触診、打診につい て説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ｉ　P124～P135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
	第８回	・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：呼吸器系ー演習 【key words】 ・呼吸　数　リズム　腹式　胸式 【授業概要】 ・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：呼吸器系ー【演習】 ・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、異常所見について説明する。 ・肺の正常な位置、気管の正常な位置、ばち状指、胸部レントゲン像、動脈血酸素飽和度、問診、触診、打診、聴診 について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
・医学書院Ⅰ　P124～P135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること
・課題を期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第９回　・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系－講義
【key words】
・心臓　心音　　Ⅰ音　Ⅱ音　チアノーゼ
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系－講義
・循環器系の基本的な構造と機能を復習する。
・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見について演習を通して説明する。
・末梢循環のアセスメント(脈拍・血圧・上肢下肢の色、爪の形状、皮膚温、浮腫、動脈の触診）、視診、触診（スリルの有無、心尖拍動、聴診（心音）について実施する。実施結果を観察記録に残し、アセスメントする。
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院Ⅰ　P138～P146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること
・課題を期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１０回　・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系－【演習】
【key words】
・心臓　心音　　Ⅰ音　Ⅱ音　チアノーゼ　胸痛
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系－【演習】
・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見について演習を通して説明する。
・末梢循環のアセスメント(脈拍・血圧・上肢下肢の色、爪の形状、皮膚温、浮腫、動脈の触診）、視診、触診
（スリルの有無、心尖拍動、聴診（心音）について実施する。実施結果を観察記録に残し、アセスメントする。
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院Ⅰ　P138～P146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること
・課題を期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１１回　・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）－講義
【key words】
・腹部　触診　腹痛　腸蠕動音
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）－講義
・腹部の基本的な構造と機能を復習する。
・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、主な異常所見について説明する。
・腹部の視診（外形や輪郭）、聴診（腸蠕動音）、打診（腹部全体の打診）、触診（浅い、深い）、腹水のアセスメントについて演習するため、講義後ＤＶＤ学習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院Ⅰ　P152～P161
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること
・課題を期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１２回　・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）－【演習】
【key words】
・腹部　触診　腹痛　腸蠕動音
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）－【演習】
・腹部の基本的な構造と機能を復習し、腹部の視診（外形や輪郭）、聴診（腸蠕動音）、打診（腹部全体の打診）
　触診（浅い、深い）、腹水のアセスメントについて実施する。
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院Ⅰ　P152～P161
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること
・課題を期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第１３回　・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：筋・骨格系・脳神経系・感覚器系－講義
【key words】
・筋・骨格系　脳神経系　感覚器系
【授業概要】
フィジカルアセスメントの実際（系統別）：筋・骨格系、脳神経系、感覚器－講義・【演習】
・筋・骨格器系の基本的な構造と機能を復習する。
・フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、主な異常所見について説明する。
・筋・骨格の状態、関節、関節周囲の状態、関節可動域、筋力（徒手筋力テスト）、パレー徴候などを説明する。
・神経系・感覚器系のフィジカルアセスメントを説明する。

	【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ⅰ　P162～P194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第１４回　・総合演習（１）事例1に基づき実施 【key words】 ・総合演習　事例　バイタルサインの測定 【授業概要】 ・総合演習（１）事例１に基づき実施 ・バイタルサインの測定と呼吸音の観察、腹部の観察など基礎的なフィジカルイグザミネーションを実施する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ⅰ　P122～P194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第１５回　・総合演習（２）事例1に基づき実施 【key words】 ・総合演習　事例　バイタルサインの測定 【授業概要】 ・総合演習（１）事例1に基づき実施 ・バイタルサインの測定と呼吸音の観察、腹部の観察など基礎的なフィジカルイグザミネーションを実施する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院Ⅰ　P122～P194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・課題を期日までに提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・演習は白衣、ナースシューズを着用。頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・技術（フィジカルイグザミネーション）は繰り返して練習し、積極的に習得すること。 ［受講のルール］ ・他の受講生に迷惑になる行為（私語、携帯電話等の使用）は厳禁。 ・遅刻・早退については、担当教員の理由を申し出ること。欠席した場合は、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での 　参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心がける。 ・授業のなかでミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
オフィスアワー	・各回、授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	・筆記試験(80%）、総合演習課題(10%)、課題レポート（10%)とする。　総合評価は60%を超えていること 　が前提となる。
教科書	・有田清子：基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2018. ・山内豊明：看護がみえる③　フィジカルアセスメント､2019
参考書	・横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント､メヂカルフレンド社　2018. ・山内豊明：フィジカルアセスメント　ワークブック、医学書院,2016. ・山内豊明：フィジカルアセスメント　ガイドブック,医学書院,2017. ント,メジカルフレンド社,2016.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　看護職として臨地実習指導者として学生に指導を行ってきている。 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護学実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(90)	必修
担当教員			
小林洋子　上田葉子　中嶋朋子　　内田佳代　　橋本明日香　菅沼　澄江　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】患者の健康上のニーズを把握し、看護過程展開を通して、基礎的な看護実践能力を養う。 【目標】 １．受け持ち患者と援助的関係を築くことができる。 ２．V. ヘンダーソンの看護論を用いて、対象の健康上のニーズを把握できる。 ３．患者に合わせた日常生活援助を科学的根拠に基づいて立案できる。 ４．安全・安楽を考慮し、患者の反応をとらえて実施できる。 ５．実施した看護援助や患者の反応を具体的に記述できる。 ６．実施した結果をもとに看護計画を評価できる。 ７．実施した援助内容及び結果を正確に報告できる。 ８．看護者として倫理的な態度を習得できる。
授業の概要	・原則として受け持ち患者を1人担当して行う。受け持ち患者への援助は、担当看護師または担当教員と一緒に行い、実施 した内容については、担当看護師に報告する。毎日カンファレンスを計画的に実施し、患者理解や患者に応じた援助の実 施に繋がるよう意見交換を行う。 １．実習時期　前半グループ：令和2年11月30日（月）～令和2年12月11日（金） 後半グループ：令和2年12月14日（月）～令和2年12月25日（金） ２．実習単位及び時間数　２単位　90時間

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	・看護者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。 ・時間厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・対象管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・実習共通要綱、実習要項を熟読すること。 《履修要件] 基礎看護学実習Ⅰの単位修得 看護学概論Ⅰ・Ⅱの単位修得 看護方法論Ⅰ・Ⅱの単位修得 基礎看護援助技術Ⅰ～Ⅴの単位修得
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・実習要項に準じる
授業外時間にかかわる情報	１．受持ち患者に関わる解剖生理、病態・検査・治療、看護について自己学習を行い、受持ち患者の理解を深める。 ２．実習記録は観察結果と自己の考えを整理し、他者にわかるように記載し、期日に提出する。 ３．実習中に不明なことや疑問点が生じた場合は、確認し、解決して実習を進める。
オフィスアワー	・詳細は実習要項による
評価方法	・基礎看護学実習Ⅱ実習要項に記載してある評価表に基づき、目標達成度、実習態度、提出された実習記録等によって 評価する。評価は60%を超えていること。

教科書	・看護学概論　　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱテキスト　　看護の基本となるもの　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
参考書	・実習習要項に準じる
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・看護職として臨地実習指導者として、学生に指導を行ってきている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
八木智子　酒井美子　片岡信子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神症状によって影響される健康や生活をアセスメントし、健全な精神活動・生活行動に向けて、対象への自律の看護支援とその思考過程を理解する。また、自己理解・他者理解を通して、患者と看護師関係におけるコミュニケ―ションスキルを学び、自己活用の能力を高める。 【到達目標】 1）精神看護に活用する援助理論を説明することができる。 2）精神症状、治療が日常生活に及ぼす影響をセルフケア理論から記述することができる。 3）精神障がい者の健康面を引き出す援助を考案できる。 4）セルフケアモデルに基づき対象の全体像を把握し看護計画を立案できる。 5）グループ演習を通して、多角的視点から対象を捉えることができる。
授業の概要	本講義では、講義と演習を組み合わせて、精神看護における援助理論を学び実践を通して体得する。また、精神疾患の代表的な統合失調症の事例に対する看護プロセスを理論をもとに記述し、グループ演習を通して、多角的な視点でアセスメント、看護計画の立案を行い、対象の全体像を捉えることができるよう学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション・治療と看護（1）リラクセーション(呼吸法・漸進的筋弛緩法) 【key words】 リラクセーション、心理的支援、呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスを説明する。心理的支援であるリラクセーションの意味と種類を知り、リラクセーションが及ぼす心理的効果を体得する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94-97 参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第2回	ケアの人間関係：観察と記録・再構成(プロセスレコード) 【key words】 精神科看護、看護記録、観察、再構成 【授業概要】 精神科における観察の視点と方法、記録の実際を学ぶ。また、既習のケアの人間関係論を想起し、自己の観察、自己洞察の意義とその方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P19-22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第3回	ケアの人間関係：観察と記録・再構成(プロセスレコード) 【key words】 精神科看護、看護記録、観察、再構成

【授業概要】
精神科における観察の視点とその方法、記録の実際を体験する。また、お互いが対話したことを再構成し、コミュニケーションにおける自己の傾向を知り、自己洞察の実際を体得する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P19-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第4回　治療と看護（２）心理教育・認知行動療法・ＳＳＴ
【key words】
心理教育、認知行動療法、SST
【授業概要】
精神障がい者のリカバリーについて理解する。また、その支援の一つである認知行動療法のSSTの理論と方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P110-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第5回　治療と看護（２）心理教育・認知行動療法・ＳＳＴ
【key words】
心理教育、認知行動療法、SST
【授業概要】
SSTの理論と方法を、実際に体験する。SSTを実際に精神障がい者、家族、学校で幅広く行っている外部講師による講義、指導を受け、実際に体験をする。コミュニケーションを通した社会的技能訓練により、ストレス対処、レジリエンス、エンパワメントを引き出す。その効果を実際に体得する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P110-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第6回　治療と看護（３）援助的コミュニケーション(ヘルスカウンセリングの実際)
【key words】
援助的コミュニケーション、ヘルスカウンセリング
【授業概要】
看護においてカウンセリングを学ぶ意味を理解し、カウンセリング技法とコミュニケーション技法を活用した援助的コミュニケーションについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P10-16
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第7回　治療と看護（３）援助的コミュニケーション(ヘルスカウンセリングの実際)
【key words】
援助的コミュニケーション、ヘルスカウンセリング
【授業概要】
援助的コミュニケーションの実際を体験し、その効果を体得する。その過程で、精神看護師の基本的姿勢を知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P10-16
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第8回　ストレングスモデル・リカバリー・レジリエンス
【key words】
精神障がい者、ストレングスモデル、リカバリー、レジリエンス
【授業概要】
精神障がい者のリカバリーへの支援方法の視点であるストレングスモデルと対象を理解する為の方法論を学び、その人らしさを大切にする自律性の回復への援助とその方法を知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P54～58
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P72～76

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第9回　精神看護に用いる看護モデル：セルフケアモデル(オレム・アンダーウッド)
【key words】
精神科看護、看護過程、セルフケア理論とモデル
【授業概要】
オレムアンダーウッドによるセルフケアモデルから人間行動、および、生活行動を捉える視点か

		ら、自律性の回復に向けた精神科看護援助の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P23-33 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第10回	精神科看護プロセス（対象の捉え方） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス、看護アセスメント 【授業概要】 精神科看護における看護の視点をセルフケア理論から学び、アセスメントの視点を理解する。 統合失調症の急性期または慢性期の事例を、セルフケアモデルに基づいて情報を整理しアセスメントを記録する。関連する既習学習を想起、確認し対象を身体的・精神的・社会的側面から捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定の事例情報を記録用紙に記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第11回	精神科看護プロセス（情報とアセスメント） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス、看護アセスメント 【授業概要】 精神科看護における看護の視点をセルフケア理論から学び、アセスメントの視点を理解する。 統合失調症の急性期または慢性期の事例を、セルフケアモデルに基づいて情報を整理しアセスメントを記録する。関連する既習学習を想起、確認し対象を身体的・精神的・社会的側面から捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定の事例情報を記録用紙に記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第12回	精神科看護プロセス（多角的視点とアセスメント） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、アセスメントを深め、多角的に対象を捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の情報・アセスメントの追加修正をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第13回	精神科看護プロセス（多角的視点と全体像） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、アセスメントを深め、多角的に対象を捉えるとともに、全体像を把握する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例のアセスメント、全体像を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第14回	精神科看護プロセス（多角的視点と計画） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、事例対象の全体像の把握からケアプランを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33～53

	田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の全体像、ケアプランの立案をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第15回　精神科看護の統合的な視点（発表：全体像と計画） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例の看護プロセスとケアプランを発表し、質疑応答による意見交換を通して、さらに、多角的に対象を捉え、精神科看護の視点を深める。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例のアセスメント、全体像、ケアプランの追加修正を行い、指定の時間・場所に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	精神医療・精神看護に関連する科目、精神看護学概論や精神看護援助論Ⅰで得た知識を繋げて学習する。 予習・復習を行い、知識を整理し、自己の新たな課題を見出すことができるよう能動的に学習する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話）は厳禁である。 グループディスカッションを積極的に行い対象のアセスメントを深められるようにお互い助け合う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	定期試験、課題レポートの総合評価で60％以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 田中美恵子編集：精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015.
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・精神科看護師、及び、SSTの実務経験者によるSSTに関する講義、実践指導を受けて、学生が実際にSSTを体験しその効果を体得する。 ・精神科看護師の実務経験者、及び、看護大学教員の実務者の授業により看護過程演習を実施する。精神障がい者の看護ケアプランをグループ演習、ディスカッションを通して立案し発表する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 援助的コミュニケーション、プロセスレコードでは、学生がお互いに対話して自己洞察する。 SSTでは、実際のセッションを、指導講師のもとで体験する。看護過程演習では、統合失調症の事例を展開する。グループ演習、カンファレンスを通してひとりの対象をセルフケア理論をもとに捉え、看護の思考過程を体得し看護計画を立案し発表する。 お互いの相互作用を通して認め合い、精神看護の学びを統合していく。

講義科目名称：　精神看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	3単位(90)	必修
担当教員			
酒井　美子　八木　智子　片岡　信子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	精神看護学概論・援助論Ⅰ・Ⅱ、さらにこれまでの基礎学習の知識、技術を統合し、精神障がいにより日常生活に支障をきたしている人とその家族との関係性を築きながら、個別性に応じた看護の展開を実践する。また、精神障がい者が、その人らしく地域で生活するための地域精神保健活動の現状から、精神看護の役割と課題を明確にする。 【到達目標】 1)対象の発達課題と対象を取り巻く環境から対象を理解することができる。 2)対象の健康と生活について身体・心理・社会的側面からアセスメントすることができる。 3)対象の目標達成に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価することができる。 4)保健医療福祉行政における地域包括の視点から看護の役割・機能について説明できる。 5)対象ー看護師関係における治療的関わりから看護の役割意義を説明できる。
授業の概要	【実習時間・場所】 １）実習期間：令和2年5月11日～令和2年11月27日中の2週間(1クール) ２）実習時間：8：30～16：00 ３）実習場所：精神科病院・地域活動支援センター・就労継続支援B型 【実習方法】 １）学生グループは１つの看護チームとし、病院実習は学生は一人の対象者を受け持ち看護過程の展開を行う。 ２）１週目：対象との関係形成を築きながら対象の全体像を理解し、日常生活の自律に向けた援助をアセスメントする。 ２週目：対人関係における自己の特徴を理解し援助的コミュニケーションを図る。立案した看護計画を実施・評価・修正する。 詳細は、実習事前オリエンテーションで説明する。配布する実習要項を参照する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	1日目	精神科病院、病棟オリエンテーション、対象との出会い 【key words】 精神病院、治療的環境、コミュニケーション、関係性 【授業概要】 臨床指導者より、精神科病院、病棟オリエンテーションを受け、他科との違いから精神病院の構造と特徴を知り、治療的環境の意味を考える。また、違和感から倫理性を高めることにつなげる。 コミュニケーションを交わした後、グループ間で受け持ち対象を選定し、お互いが知り合う。 カンファレンスは、困ったこと気づきや感じたことを共有し、感情コントロールの場とする。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加、プロセスレコードの記述 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	2日目	各自の行動計画に沿った実習展開、 【key words】 自己理解、他者理解、セルフケア、疾患と治療、コミュニケーション、関係性 【授業概要】 対象との関係性を築きながら対象の行動の意味を考えていく。また、対象の疾患と症状、治療、健康面、強み、を知り、疾患、治療が生活に及ぼす影響、対象の生活のしづらさをセルフケアの

		視点から把握する。 カンファレンスは、困ったことに加え、プロセスレコードの検討から自己洞察して自己の傾向を知り、対象とのかかわりにつなげる。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加、プロセスレコードの記述 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	3日目	各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 ＊コミュニケーション、疾患と症状、ストレングス、セルフケア、対象理解（病院実習） ＊地域精神保健活動、就労・社会資源と支援、ストレングス、医療福祉行政の連携（施設実習） 【授業概要】 対象と行動を観察しながら行動のみと関わりの意味を考えていく。対象の疾患と症状、健康面、強みを知る。 症状、治療が生活に及ぼす影響、対象の生活のしづらさをセルフケア行動から把握する カンファレンスは、困ったことに加え、プロセスレコードの検討から自己洞察して自己の傾向を知り、対象とのかかわりに繋げる。（病院実習） 地域支援活動、または、地域就労継続支援B型の施設に参加し生活支援と就労支援の実際を知る。体験を通して、地域で生活する精神障がい者の生活状況と生活のしづらさや強みを知る。さらに現在の保健・医療・福祉・社会・行政などの連携の実際から支援の必要性と課題を考える。（施設実習） 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	4日目	各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 自己理解、他者理解、セルフケア、疾患と治療、コミュニケーション、関係性、看護の方向性 【授業概要】 対象との関係性を築きながら対象の行動の意味を考えていく。また、対象の疾患と症状、治療、健康面、強み、を知り、疾患、治療が生活に及ぼす影響、対象の生活のしづらさをセルフケアの視点から把握する。受け持ち対象の希望と目標を主とした看護の方向性について臨床指導者に相談確認する。 カンファレンスは、困ったこと相談したいことを主にディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	5日目	SSTの実際と各自の行動計画に沿う学内実習 【key words】 SST、実習記録整理、対象の全体像 【授業概要】 SSTを実際に行い効果を体感する。 臨地での学びを既習学習とつなげ、対象の現象をセルフケアモデルの視点からアセスメントして対象者の理解を深める。実習記録を進め対象の全体像を把握する。情報を統合して看護目標を考え立案する。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	6日目	各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 関係性、看護プロセスの実践 【授業概要】 1週目の関わりを基に患者-看護師関係の関係性を築きながら、対象と一緒に対象の目標を考え、対象の反応から対象にとってのよりよい看護を考える。また、自分の関わり、感情の変化を振り返り精神科看護の役割・課題を考える。 カンファレンスは、困ったこと相談したいことを主にケースの検討する。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	7日目	各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 関係性、看護プロセスの実践 【授業概要】 患者-看護師関係の関係性を築きながら、対象と一緒に対象の目標に向けて看護プロセスを実践し、対象の反応から対象にとってのよりよい看護を考える。また、自分の関わり、感情の変化を振り返り精神科看護の役割・課題を考える。 カンファレンスは、困ったこと相談したいことを主にケースの検討する。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間 ８日目　各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 ＊関係性、看護プロセスの実践（病院実習） ＊地域精神保健活動、就労・社会資源と支援、ストレングス、医療福祉行政の連携（施設実習） 【授業概要】 患者-看護師関係の関係性を築きながら、対象と一緒に対象の目標に向けて看護プロセスを実践し、対象の反応から対象にとってのよりよい看護を考える。また、自分の関わり、感情の変化を振り返り精神科看護の役割・課題を考える。（病院実習） 地域支援活動、または、地域就労継続支援B型の施設に参加し生活支援と就労支援の実際を知る。体験を通して、地域で生活する精神障がい者の生活状況と生活のしづらさや強みを知る。さらに現在の保健・医療・福祉・社会・行政などの連携の実際から支援の必要性と課題を考える。（施設実習） 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間 ９日目　各自の行動計画に沿った実習展開 【key words】 関係性、看護プロセスの実践、学びの共有 【授業概要】 患者-看護師関係の関係性の終結。対象と一緒に対象の目標に向けての達成、セルフケア行動を肯定的に振り返えり強みを認め伝える。さらに対象の反応から対象にとってのよりよい看護を考える。また、自分の関わり、感情の変化を振り返り精神科看護の役割・課題を考える。 最終カンファレンスでは、実習を通しての学びや感想を共有する。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間 最終日　合同カンファレンスと各自の行動計画に沿う学内実習 【key words】 合同カンファレンス、学びの共有、実習まとめ 【授業概要】 合同カンファレンスを行い、2週間の実習を振り返り学びを共有する。 担当指導教員との面接では、受け持ち対象の看護支援の継続を意識してサマリーを口頭で伝える。 精神科看護の実践から深められた看護観を伝え、実習記録を整理し提出する。 【教科書ページ・参考文献】 既習の精神科看護実習に関連する教科書、参考図書、文献、授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習記録、実習事前学習の追加 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	事前に実習場所の交通・所要時間等を確認しておく。 健康自己管理を行い、感染症予防行動を厳守する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	担当教員がその都度個別に関わり確認する。
授業外時間にかかわる情報	実習後はその日の疑問や理解不足な点を調べて次の実習に備える。
オフィスアワー	毎週金曜日　16：00 - 18：00
評価方法	１）実習時間の5分の4以上の出席が評価の前提である。 ２）実習担当教員が評価を行い、科目責任者が単位の認定を行う。 ３）実習評価表に基づき、個人面接などの結果を総合的に判断して行う。 ４）単位認定基準については、看護学臨地実習共通要綱「実習の評価について」を参照。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 授業資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師であり、精神科看護師としての臨床の実務経験を有し、看護教育に携わる教員が実習を担当する。 臨地では、精神科看護師、精神保健福祉士の実務経験者が臨床指導者でありる。連携をもとに指導内容を共有し、学生の精神科看護実習における看護実践活動の指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 臨地実習であり、実際に入院している方を受け持ち看護の実践を展開する。

講義科目名称：　母性看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
堀越　摂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 母性看護の目的や対象の理解を行い、社会のニーズに即した看護の役割機能について考察することができる。　[到達目標] １．母性看護の対象について理解することができる。 ２．母性を取り巻く環境や社会制度について理解することができる。 ３．ウィメンズヘルスの立場からリプロダクティブヘルス/ライツについての認識を高める。 ４．母性看護の現状と今後の展望を考えることができる。
授業の概要	「母性とは、現に子どもを産み育てているもののほか、将来子どもを産み育てるべき存在及び過去にその役目を果たしたもの」というWHOの定義の視点から、各ライフステージにおける母性について理解する。また、各期にある母性を取りまく制度・環境についても理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画		
	第１回	母性看護学概論および母性看護学領域の授業についてのガイダンス、母性看護の基盤となる概念 【key words】 母性、母性看護の目的、概念、ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウエルネス、セルフケア 【授業概要】 ・科目の位置づけとシラバスの説明。 ・母性とは何かを幅広く考え、母性看護学における母性の捉え方について理解を深める。 ・母性看護の実践を支える概念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p14～p25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書pp4-25を予習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	リプロダクティブヘルスに関する概念①　リプロダクティブヘルス/ライツ 【key words】 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、思春期の健康問題、性の多様性 【授業概要】 ・リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、母性看護を含む今後のヘルスケアの課題を学ぶ。 ・思春期の健康問題に関する世界の動きを理解する。 ・セクシュアリティ、性の多様性、性の健康の概念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp28-33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リプロダクティブヘルス/ライツについて予習を行って臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第３回	リプロダクティブヘルスに関する概念②　ヒトの発生、性分化、性意識 【key words】 性染色体、性分化、性意識、性同一性障害 【授業概要】 ・ヒトの発生、性分化、性分化疾患について理解する。 ・性意識の発達、性同一性障害を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp34-41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書pp34-41を予習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　リプロダクティブヘルスに関する動向
【key words】
母子保健統計、家族形成
【授業概要】
・人口動態統計の母子保健統計に関する出生・死産・周産期死亡・新生児死亡・妊産婦死亡について社会の変化を関連させて理解する。
・家族形成に関する統計を社会の変化に関連させて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp44-52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
母子保健統計に関する用語を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　リプロダクティブヘルスに関する法律や施策と支援①　子どもと女性の保護、子育て支援
【key words】
母子保健法、労働基準法、母子保健施策、少子化対策、健やか親子21、子育て世代包括支援センター
【授業概要】
・子どもと女性の保護に関する児童福祉法、母子保健法、母体保護法について理解する。
・働く女性に関連する労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法について理解する。
・安心して子育てができるための諸制度を理解し、必要な看護を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp72-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
乳幼児虐待のハイリスク要因について予習を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　リプロダクティブヘルスに関する法律や施策と支援②　暴力・虐待防止、周産期医療システム
【key words】
DV、性暴力、児童虐待、周産期医療システム
【授業概要】
・ドメスティック・バイオレンス（DV)被害や性暴力が女性の健康に及ぼす影響を理解する。
・医療におけるDVや性暴力被害女性のケアや支援を理解する。
・児童虐待のリスクアセスメントと支援について理解する。
・周産期医療システムに関する施策や医療体制を理解する。
・次回のグループワークの説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp84-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回のグループワークに向けて提示された課題について、これまでの授業の内容も踏まえて個人シートに記入しておくこと。また、第1～第6回までの復習を行い、次回の小テストに備えること。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第７回　周産期に関連した社会的な課題①　個人シートを基にしたグループワーク
【key words】
周産期、課題、個人シート、グループワーク
【授業概要】
・小テストを実施し、第1～第6回までの知識の定着を図る。
・個人シートを基に意見交換を行い、各グループに提示された周産期に関連した課題について多角的な視点で検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp1-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークで出された意見を各自で振り返り、次回に行うグループとしての意見の集約に向けて準備する。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　周産期に関連した社会的な課題②　グループワーク・発表準備
【key words】
周産期、課題、グループワーク
【授業概要】
・グループの意見を集約し、発表の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp1-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに発表資料を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第９回　周産期に関連した社会的な課題③　発表とまとめ
【key words】
周産期、課題、グループ発表
【授業概要】
・課題テーマごとにグループ発表を行う。
・各グループの発表を視聴することで、周産期における社会的な課題の現状と必要な看護・支援を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp1-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を完成させ、発表の準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　女性のライフサイクルに伴う変化

【key words】
生殖器、ホルモン、二次性徴、性周期、妊娠のメカニズム
【授業概要】
・生殖器の解剖・機能を理解する。
・女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する。
・女性の二次性徴について理解する。
・女性の性周期について理解する。
・妊娠のメカニズムを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp98-113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人体構造機能学の生殖器系を復習しておくこと。
性周期とホルモンは国家試験に頻出しているので、予習・復習を行い知識の定着を図ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　生殖における健康問題と看護

【key words】
月経異常、性感染症
【授業概要】
・月経異常の症状を学び、セルフケアの必要性を理解する。
・性感染症とその影響について学び、必要な看護を理解する。
・避妊法とそれぞれの特徴について理解する。
・B型肝炎に関する正しい知識を得、感染拡大防止の必要性について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp120-144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書pp120-144について予習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１２回　加齢とホルモン

【key words】
ライフサイクル、更年期、老年期、健康問題
【授業概要】
更年期にある女性の心理的、社会的、身体的特性を理解する。
更年期女性の健康問題を学び、必要な看護を理解する。
老年期にある女性の特性を理解する。
老年期女性の健康問題を学ぶ、必要な看護を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp168-182
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書pp168-182を予習して臨むこと。
更年期障害の女性に処方されるHRT(ホルモン補充療法) の薬理作用について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１３回　不妊カップルへの支援

【key words】
不妊症、カップル、不妊治療、自己決定
【授業概要】
・妊孕制に関わる不妊という健康問題の特徴について理解する。
・不妊カップルの心理・社会的反応を理解する。
・不妊治療を受けているカップルの自己決定を支える看護について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp150-166、pp54-70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
母性看護領域にある倫理的問題について事前に学習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１４回　リプロダクティブヘルスに関する倫理

【key words】
倫理原則、倫理的課題、人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助医療、グループディスカッション
【授業概要】
・看護における倫理原則について理解する。
・看護者の倫理綱領理解し、母性看護における行動指針を確認する。
・看護を行うにあたっての倫理的概念を理解する。
・人工妊娠中絶・出生前診断・生殖補助医療の現況と倫理的課題について理解する。
・事例を通して母性看護における倫理的課題についてグループディスカッションを行い、倫理的課題への取り組み方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp54-70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
母性看護領域にある倫理的問題について事前に学習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１５回　周産期の死を体験した家族の理解と看護

	【key words】 喪失、悲嘆、喪の仕事、グリーフケア 【授業概要】 周産期の死を体験した女性や家族の心理プロセスを理解し、周産期の死を体験した女性や家族のケアについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 母性看護学各論　pp497-502 【課題・予習・復習・授業準備指示】 危機理論について学習しておく。 定期試験に向けてこれまでの学習を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講のルール] 授業計画を確認し、事前に教科書は読んでから授業に臨むこと。母性看護に関する社会の事象や政策などに関心を持ち、常に情報収集を行い、自分としての考えや意見を持って授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	母性看護は女性の一生についての心身の変化、またそれに関わるパートナーと新生児の健康、さらには母子保健に関わる政策、法律など幅が広く学習量が多く、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。法律や政策などは細部まで授業の中で行うのは困難であるため予習が必要です。まとめての学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。
オフィスアワー	木曜日17:30～18:00
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト10%、課題レポート30%で総合評価する。　レポートの内容については、オリエンテーション時に提示する。　総合評価は筆記試験・課題レポート・小テストを合わせて60%を超えることが大前提である。
教科書	ナーシング・グラフィカ母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版 森恵美他：系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学各論　　医学書院
参考書	国民衛生の動向　厚生統計協会　2018/2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院や産婦人科医院に勤務。妊婦健診や分娩介助、出産後の母子のケアおよび保健センターにおける新生児訪問などで周産期にある女性の看護に関わった経験をもとに母性看護について講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　母性看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
堀越　摂子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期にある女性及び新生児の身体的、心理的変化について理解する。また、それらを取り巻く家族への看護を理解する。 [到達目標] ①妊娠期、分娩期、産褥期にある女性に起こる生理的な身体の変化や心理的特徴についての基本的知識を得る。 ②新生児の身体特徴や生理についての基本的知識を得る。 ③母子関係や愛着の形成について理解できる。 ④妊婦、産婦、褥婦及び新生児と家族に必要な看護が理解できる。
授業の概要	周産期にある女性の身体に起こる生理的変化や心理的変化、新生児の特徴や母子関係について理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、妊娠期の身体的特性 【key words】 妊娠、胎児、生殖器、ホルモン 【授業概要】 妊娠期にある女性に起こる生理的な身体の変化について基本的な知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp58-77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学の女性生殖器を復習して臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	妊娠期の心理・社会的特性 【key words】 ストレス、アンビバレンス、親役割 【授業概要】 ・妊娠期にある女性に起こる心理的特徴と社会的特徴について基本的な知識を得る。 ・妊娠期の社会的特性を知る。 ・妊婦と家族及び会について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp78-86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回の内容を復習して臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第３回	妊婦と胎児のアセスメント 【key words】 妊婦健康診査、ヘルスアセスメント 【授業概要】 ・妊娠の診断方法について学ぶ。 ・妊娠期に行う検査とその目的が理解できる。 ・妊娠期の正常な経過について学ぶ。

		・胎児の発育と健康状態の診断方法を知り、妊婦と胎児の診断とアセスメントについて理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp87-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp87-125をよく読んで予習して臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第４回	妊婦と家族の看護 【key words】 日常生活動作、マイナートラブル、母親学級、バースプラン 【授業概要】 ・日常生活における健康管理・保健指導の必要性を根拠を含めて理解できる。 ・親になるための準備教育について学び、必要性と内容について考えることができる。 ・家族役割について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp126-176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp126-176をよく読んで予習して臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第５回	分娩の要素、分娩の経過 【key words】 分娩の三要素、分娩各期 【授業概要】 ・分娩の3要素、胎児と子宮および骨盤との関係、分娩の機序について理解できる。 ・正常分娩の生理と経過について（胎児の健康状態含む）理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp177-205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp176-205をよく読んで予習して臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第６回	産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護 【key words】 産痛緩和法、リラクゼーション、呼吸法 【授業概要】 ・分娩各期の産婦・胎児・家族のアセスメントを学ぶ。 ・安全、安楽な分娩、出産体験が肯定的になるための看護について学ぶ。 ・分娩経過に伴う看護、産痛緩和および産婦とその家族への看護について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp205-251 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp205-251をよく読んで予習して臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第７回	分娩の進行に伴う産婦・胎児のリスク 【key words】 破水、帝王切開、胎児機能不全、出血、分娩誘発 【授業概要】 ・分娩各期の母体と胎児へのリスクについて学ぶ。 ・和痛・無痛分娩のメリット、デメリットについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①ｐｐ401-455 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回～第7回までの授業内容を復習し、次回に行う小テストに向けて備えること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第８回	妊娠期、分娩期のまとめ 【key words】 妊娠、分娩 【授業概要】 ・妊娠期～分娩期までの継続的な経過のアセスメントと看護の必要性が理解できる。 ・母児の相互作用について考えることができる。 ・妊娠期～分娩期そして産褥期へとつながっていくことが理解できる。 ・小テストを実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp58-251、pp401-455 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テストの結果を振り返り、妊娠・分娩に関する知識の定着を図る。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第９回	産褥期における身体的、心理社会的変化 【key words】 退行性変化、進行性変化、心理社会的変化、愛着形成、家族の心理的変化 【授業概要】 ・産褥期における退行性変化・進行性変化の過程と全身の変化を理解できる。 ・産褥期における母親への適応過程やマタニティブルーズの特徴を理解し、母子の愛着が形成される過程を学ぶ。 ・児出生後の父親や兄弟の心理的変化を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp308-320

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp308-320をよく読んで予習して臨む
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　褥婦のアセスメント
【key words】
産褥経過の診断、退行性変化・進行性変化の観察項目、心身の健康状態のアセスメント、セルフケア
【授業概要】
・退行性変化や進行性変化などの産褥経過の診断について学ぶ。
・看護に必要な褥婦の健康状態のアセスメントの視点について学ぶ。
・褥婦に生じる心身の変化や日常生活活動の内容を理解し、褥婦のセルフケアの状態を把握することの必要性を学ぶ。
・児出生後の家族の変化に応じた看護について少人数のグループでディスカッションする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp320-331、教科書②pp8-17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp320-331をよく読んで予習して臨む
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１１回　褥婦と家族の看護
【key words】
セルフケア、身体の回復、母乳育児、児との関係、家族関係
【授業概要】
・褥婦の身体機能の回復および進行性変化を促す看護について学ぶ。
・児との関係確立への看護について学ぶ。
・育児に関わる看護について学ぶ。
・家族メンバーが増えることによる家族関係再構築への看護について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp331-351、教科書②pp18-32、100-126
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp331-351をよく読んで予習して臨む
次回小テストを行うので、第9回から第11回までの資料を復習して臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　施設退院後の看護、産褥期のまとめ
【key words】
育児不安、育児支援、ソーシャルサポート
【授業概要】
・母親の育児不安が産後1か月以内が多いことを踏まえ、施設退院後の育児支援の重要性について理解する。
・ソーシャルサポートの内容と必要性について学ぶ
・産褥期の小テストを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp351-355　、教科書②pp130-143
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小テストの結果を振り返り、産褥期に関する知識の定着を図る
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１３回　新生児の生理
【key words】
新生児、子宮外適応現象、生理的変化
【授業概要】
・新生児の定義について理解する。
・胎児から新生児への生理的変化、新生児の身体的な特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp254-270
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp254-270をよく読んで予習して臨む
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１４回　新生児のアセスメント
【key words】
ハイリスク児、評価、出生直後、健康状態のアセスメント
【授業概要】
・新生児の診断、発育の評価について学ぶ。
・新生児の健康状態のアセスメントに必要な情報、収集技術、アセスメントの視点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp270-293
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp270-293をよく読んで予習して臨む
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１５回　新生児の看護
【key words】
出生直後の看護、出生から退院までの看護
【授業概要】
・アセスメントに基き、新生児のニーズを把握して看護を行う必要性を理解する。
・出生直後の看護、および出生後から退院時までの看護について学ぶ。
・新生児と母親・家族関係に留意した看護の必要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp294-306、教科書②pp34-53、pp56-69

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 新生児のフィジカルアセスメントについて復習して臨む。 定期試験に向けて、これまでの授業内容の復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講のルール] 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の生理的変化とアセスメント、各期の看護ケアなど学ぶ範囲が広いため、授業計画を参考に教科書を読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	母性看護援助論は妊娠期、分娩期、産褥期、新生児と生理的に変化していく過程の身体的特徴、また新生児の身体的特徴、母子関係などと幅が広く学習量が多い為、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。まとめての学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。
オフィスアワー	講義終了から当日の18時まで。または木曜日の17：0～18：00。
評価方法	筆記試験（定期試験）80%、小テスト20%で総合的に評価を行う。合わせて60%を超えることが前提となる。 小テスト欠席の場合、その分の点数はつかない。ただし、病気などでやむなく欠席となった場合（学生ハンドブックにある追試験受験資格に該当する）には、レポート提出によって小テストの代わりとする。
教科書	①森恵美他著：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　医学書院　最新版 ②平澤美恵子監修：写真でわかる母性看護技術　インターメディカ　最新版
参考書	①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本　母性看護学１　メディカ出版 ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術　母性看護学２　メディカ出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院や産婦人科医院に勤務。妊婦健診や分娩介助、出産後の母子のケアおよび母乳育児相談、さらに保健センターにおける新生児家庭訪問、未熟児訪問などで周産期にある女性の看護に関わった経験をもとに母性看護について講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　母性看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
堀越　摂子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期における母子および家族の心身の変化、健康ニーズ、適応過程に応じた看護過程の展開方法を理解できる。 母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。 [到達目標] ①母性看護における看護過程の特徴について理解できる。 ②妊産褥婦および胎児・新生児の経過を根拠に基づきアセスメントできる。 ③ウエルネスの視点から看護診断・看護目標が挙げられ、個別性のある看護計画の立案ができる。 ④褥婦および家族の特性をふまえた保健指導を立案できる。 ⑤妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助技術について理解し、実施できる。
授業の概要	母性看護援助論Ⅰを踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション/母性看護における看護過程 【key words】 看護過程、ウエルネス 【授業概要】 ・科目の位置づけとシラバスの説明。 ・看護過程の基本的な考え方と母性看護における看護過程・ウエルネス看護診断の考え方についての説明。 【教科書ページ・参考文献】 参考書③pp2-28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母性看護における看護過程について復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	妊娠期の情報収集とアセスメント 【key words】 妊婦健康診査、事例、アセスメント 【授業概要】 ・妊娠期の事例を用いて、情報を基に妊娠経過についてアセスメントを行う。 ・妊婦健康診査における観察項目や情報収集の内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①pp58-176、358-400 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに妊婦健診の外来記録のアセスメントを完成させること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	分娩期の情報収集とアセスメント 【key words】 産婦、事例、アセスメント 【授業概要】 産婦の事例の情報を分娩記録に記入し、分娩の経過をアセスメントする。

【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp178-250、401-456
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業までに分娩経過記録のアセスメントを完成させること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　産褥期の観察項目とアセスメント
【key words】
褥婦、アセスメント、ウエルネス

【授業概要】
事例を用いて、褥婦をケアするために必要な観察項目を理解し、産褥1日目の褥婦の状態についてアセスメントを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp308-355、484-510
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業までに、事例（褥婦）の日々の記録のアセスメントを完成させること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　新生児期の観察項目とアセスメント
【key words】
褥婦（新生児）、アセスメント、ウエルネス

【授業概要】
事例を用いて新生児をケアするための観察項目を理解し、生後3日目の新生児のアセスメントを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp308-355、484-510
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業までに、事例（新生児）の日々の記録のアセスメントを完成させること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　産褥期・新生児期の看護過程：ウエルネスの視点に基づいたアセスメント
【key words】
褥婦、新生児、看護過程、ウエルネス

【授業概要】
ウエルネスの母性看護過程を基に事例のアセスメントを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp308-355、484-510
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業までに事例の看護過程の記録を進めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　産褥期・新生児期の看護過程：看護診断、看護計画、診断の統合
【key words】
褥婦、新生児、看護過程、ウエルネス

【授業概要】
ウエルネスの母性看護過程を基に事例のアセスメントを行い、看護診断を挙げ、看護計画の立案を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp308-355、484-510
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例の看護過程の記録を完成させ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第８回　母性看護に必要な看護技術：看護技術の実施目的と意義
【key words】
妊婦健康診査、新生児、褥婦、観察、看護技術

【授業概要】
妊婦健診時の観察項目、新生児期・産褥期の看護技術の実施目的と意義、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①pp98-113　②pp18-70、83-117、124-143
【課題・予習・復習・授業準備指示】
妊婦、新生児、褥婦の観察項目と基準値について復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　母性看護に必要な看護技術：看護技術の方法
【key words】
褥婦、新生児、観察方法、看護技術

【授業概要】
・褥婦及び新生児の健康状態の観察項目と方法、新生児の清潔ケアの方法について学ぶ。
・DVDを視聴し、母性看護に必要な看護技術の方法について理解する。
・妊婦健診に関わる技術、沐浴についてのレポートを作成する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書②pp8-70、83-117、124-143
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の演習時に看護技術のレポートを提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第１０回　母性看護に必要な看護技術：妊娠期・産褥期 【key words】 妊婦健康診査、褥婦、看護技術 【授業概要】 妊婦健康診査における計測と観察、産褥期の子宮復古や乳房の観察について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書②pp8-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：ユニフォームを着用し、髪を束ね、爪を切っておくこと。　第9回、第10回の講義内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　母性看護に必要な看護技術：新生児期 【key words】 妊婦健康診査、新生児、褥婦、看護技術 【授業概要】 新生児のバイタルサイン測定と全身の観察、沐浴について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書②pp8-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：ユニフォームを着用し、髪を束ね、爪を切っておく。 演習の復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　母性看護における保健指導：産褥期の特徴を踏まえた保健指導 【key words】 産褥期、保健指導、グループワーク、パンフレット 【授業概要】 ・母性看護における保健指導の意義・目的・方法について理解する。 ・グループに分かれて保健指導のテーマについて検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書②pp20-29、56-70、87-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までにグループ毎にパンフレット作成のための参考文献や資料を準備しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　母性看護における保健指導：保健指導パンフレットの作成（グループワーク） 【key words】 産褥期、保健指導、グループワーク、パンフレット 【授業概要】 各テーマに応じた保健指導のパンフレット作成のためにグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書②pp20-29、56-70、87-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに保健指導のパンフレットを作成し、発表できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　母性看護における保健指導：グループ発表 【key words】 保健指導、発表 【授業概要】 グループ毎にパンフレットをＯＨＰで写し、保健指導を発表（実演）する。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間内に発表でき、分かりやすい指導が行えるように練習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　母性看護における保健指導：グループ発表とまとめ 【key words】 保健指導、発表 【授業概要】 グループ毎にパンフレットをＯＨＰで写し、保健指導を発表（実演）する。教員からの講評を行う。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間内に発表でき、分かりやすい指導が行えるように練習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	技術演習の時はユニホームの着用、髪を束ねる、爪を切るなどの準備を行う。準備が出来ていないものは受講できない。また、Ａ，Ｂクラスを分け演習を行うため、計画表を見て忘れ物をしないように注意する。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、その他（周産期各期のアセスメントや看護の過程の展開は、課題毎に内容を確認し、質問等にも応じていく）
授業外時間にかかわる情報	援助論Ⅱは、実習に出る為に大切な授業となる。講義形式の授業ではないので、自ら進んで学習に取り組む事が必要になる為、疑問点は教員に質問し、学習を進める。レポート提出が多くあるため、空き時間を上手に活用し、期限を守って提出を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後から当日の18：00。または木曜日の17：30～18：00。
評価方法	妊娠期・分娩期のアセスメント、産褥期の看護過程のレポート　40%、褥婦への保健指導パンフレットの作成と発表　10%、演習への取り組み　10%、　筆記試験40%　　総合評価はレポート、パンフレットの作成と発表、筆記試験を合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	①森恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学２　医学書院　最新版 ②平澤美恵子・村上睦子他：写真でわかる母性看護学技術　インターメディカ
参考書	①大田操：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程 ②立岡弓子他：写真とＣＤでわかる　周産期ケア・マニュアル　改訂版　医学芸術社　医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院や産婦人科医院に勤務。妊婦健診や分娩介助、出産後の母子のケアおよび母乳育児相談、さらに保健センターにおける新生児家庭訪問、未熟児訪問などで周産期にある女性の看護に関わった経験をもとに母性看護について講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　母性疾病論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
堀越　摂子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期における異常について理解することができる。 [到達目標] ①妊娠期の経過の異常について理解することができる。 ②妊娠に合併する疾患について理解することができる。 ③異常出血など症状に特徴のある疾患について理解するすることができる。 ④帝王切開術とその適応について理解することができる。 ⑤ハイリスク新生児について理解するすることができる。 ⑥不妊の原因と治療について理解することができる。
授業の概要	妊娠、出産、産褥、新生児の各期に起因する異常な状態、主な疾患について学び、看護を理解する基本とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	妊娠期の異常について 【key words】 流産、早産、切迫流産・早産、妊娠高血圧症、前期破水、感染症 【授業概要】 ・妊娠期に大きな影響を及ぼす疾患・病態の理解 ・妊娠経過の異常 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P369-392、　393-400　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科２版　メディックメディカ平成２１年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	妊娠と合併症について 【key words】 妊婦貧血、心疾患合併症、腎疾患合併症、妊娠糖尿病 【授業概要】 ・妊娠と合併症が相互に与える影響 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P358-369、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	異常出血を伴う疾患について 【key words】 常位胎盤早期剥離、前置胎盤、弛緩出血、播種性血管内凝固、産科ショック 【授業概要】

	・出血という産科特有の症状を持つ疾患の理解 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P401－427、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第４回	帝王切開術について 【key words】 異常分娩、産科ショック、分弱陣痛、遷延分娩、分娩停止 【授業概要】 ・帝王切開の適応とリスク、術後の経過 【教科書ページ・参考文献】 教科書P427-455、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第５回	産褥期の異常について 【key words】 産褥、産後うつ、産褥熱、子宮復古、マタニティブルーズ、乳腺炎 【授業概要】 ・産褥期に発症しやすい異常とその病態の理解 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書　484－508　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第６回	ハイリスク新生児について 【key words】 ・低出生体重児、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、新生児心配肺蘇生 【授業概要】 ・ハイリスク新生児の病態生理学的特徴 ・ハイリスク新生児に対する治療の目的、方法 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P456－482、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第７回	不妊とその原因について、不妊検査について 【key words】 不妊治療、子宮卵管造影、ヒューナーテスト、高度生殖医療、基礎体温、精液検査 【授業概要】 ・不妊の原因やその病態、検査方法 ・現在の不妊治療の動向 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P27－33、　　配布資料、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高度生殖医療は倫理と合わせ、国家試験に出題される傾向があります。予習、復習を行い知識の定着をはかる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第８回	不妊治療について 【key words】 高度生殖医療、ＡＩＨ,配偶者間人工授精、AID非配偶者間人工授精 【授業概要】 ・不妊の原因と治療方法 【教科書ページ・参考文献】 教科書P33－41、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高度生殖医療は倫理と合わせ、国家試験に出題される傾向があります。予習、復習を行い知識の定着をはかる。 定期試験に向けてこれまでの復習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 不妊、帝王切開などは社会のニーズに伴い、国家試験の出題も必ず予想されてる。疾患として学ぶ事はもとより、倫理や法律なども合わせての学習が必要となる。 〔受講のルール〕

	授業計画を確認し、事前に教科書又は配布プリントを読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	周産期に起きる異常な症状や、原因を理解することで、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の観察や予防が理解しやすくなるので、知識の定着を図るように復習を行うこと。また、法律、倫理的な考えなど合わせて学習をしてください。
オフィスアワー	火、木12:00～12:40
評価方法	筆記試験により評価する。授業回数1, 5回は25%、2,3,4,6回は50%、7,8回で25%の割合で出題し,合算し60%以上を超えていることが前提となる。
教科書	①系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　　医学書院 ②末岡浩他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学９　女性生殖器　医学書院
参考書	①医療情報科学研究所編集：病気が見えるvol.10産科　メッディックメディア ②正津晃監修：新図説臨床看護　母性看護（含婦人科）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　母性看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
堀越　摂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［実習の目的］ 妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から妊娠および出産に関わる健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的実践力と看護職としての態度・姿勢を養う。 ［到達目標］ 1）妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的な経過と特徴を踏まえ、母子および家族を総合的に理解できる。 2）妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象に対して、ウェルネスの観点から看護を展開できる。 ①妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象をウェルネスの観点からアセスメントし、看護上の課題を明確にできる。 ②看護上の課題を解決するための看護計画を立案できる。 ③看護計画を実施し、評価できる。 3）対象を支える家族への支援の必要性を理解できる。 4）周産期にある母子をとりまく環境や社会資源の活用方法を知り、母子の継続看護の必要性について考えることができる。 5）母性看護の対象を通して、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任課題について理解できる。 6）母性看護学実習を通して、自己の親性観（母性・父性観）を深めることができる。 7）母性看護の役割や看護の本質を考察し、自己の課題を明確にできる。
授業の概要	母性看護学実習を医療機関等において2週間実施する。既修の知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者および実習担当教員のもとで実施する。周産期にある母子の心身の特徴を理解し、対象に必要な看護援助を実践する。その際は受け持ち母子の身体的・心理的・社会的状況についての情報収集とアセスメント、ウエルネスの看護診断、看護計画の立案といった看護過程の展開を行う。さらに、実習を通して母性看護の役割や本質を考察し、自己の課題を明らかにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 母性看護学実習を医療機関等において2週間実施する。既修の知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者および実習担当教員のもとで実施する。周産期にある母子の心身の特徴を理解し、対象に必要な看護援助を実践する。その際は受け持ち母子の身体的・心理的・社会的状況についての情報収集とアセスメント、ウエルネスの看護診断、看護計画の立案といった看護過程の展開を行う。さらに、実習を通して母性看護の役割や本質を考察し、自己の課題を明らかにする。
受講生に関わる情報および受講のルール	1．実習要項を参照し実習に臨む。 2．欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。 3．既修学習内容を復習して実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習中および学内実習日に実習指導教員が質問に応じ、学習状況などを確認する。
授業外時間にかかわる情報	自己の健康管理を行い、感染症予防行動を厳守する。 事前に実習場所の交通・所要時間を確認しておく。
オフィスアワー	実習終了後30分および学内日の8：50～17：30
評価方法	1．実習時間の5分の4以上の出席が評価の前提である。

	2．実習目標の到達度として保健指導課題の実施、受け持ちの看護展開記録、事前学習および提出を求められたレポートの期日内提出などにより評価を行う。 3．実習要項参照。
教科書	①森恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学２　医学書院　最新版
参考書	①大田操：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程　医歯薬出版 ②立岡弓子他：写真とＣＤでわかる　周産期ケア・マニュアル　改訂版　医学芸術社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院の産婦人科病棟、産科病院等で勤務し、さらに新生児訪問や母乳外来等で産後の母子の支援に携わった経験を元に学生の実習指導を行っていく。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小児看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　小児看護学概論は、小児看護学の学習基盤（導入）として、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識や考え方を学び、小児観を育むことを目的とする。 〔到達目標〕 ①小児看護における対象理解に必要な基礎的知識を得る。 ②子どもと家族と社会の繋がりを理解し、子どもの成長発達や健康をサポートする看護の役割について理解できる。
授業の概要	現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児の健康と小児各期の成長発達の特徴及び小児とその家族に対する支援・看護の役割機能について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、小児看護の特徴と理念、子ども観の変遷、小児看護の歴史 【key words】 小児看護、看護の対象、小児看護の目標と役割、子ども観、小児看護の歴史、家族支援 【授業概要】 シラバスに基づき、授業の進め方とその内容、評価の方法について説明をする。 当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 小児看護の特徴と理念及び子ども観の変遷について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①医学書院　第１章　ｐ4-6　ｐ16-18 ②MCメディカ出版　ｐ12-21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小児に関連する人体構造機能学を復習し、小児の成長発達と関連させて自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第２回	小児保健統計と関係法規 【key words】 出生率、乳児死亡率、保健統計、関係法規 【授業概要】 小児保健統計と関係法規について学ぶ。 小児保健統計から小児保健に関する動向を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①医学書院　第１章P8～15　②MCメディカ出版　ｐ33-41 参考文献：国民衛生の動向 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小児の保健統計について自己学習し、わが国の小児保健の現状をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第３回	子どもの権利と倫理 【key words】 子どもの権利、倫理、虐待 【授業概要】 ・子どもの権利と倫理、子どもの権利に関する条約や虐待防止法等について学ぶ。

・子どもの権利と倫理について、看護専門職者としての視点から考える。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　第１章P18～24
②MCメディカ出版　P22～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
わが国における子ども虐待の状況を調べ、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第４回　子どもの安全と事故防止
【key words】
安全、事故防止、チャイルドビジョン（幼児視界体験）
【授業概要】
小児各期に起こりやすい事故について、成長発達の視点で考え、子どもの安全（事故防止）について学ぶ。
チャイルドビジョン（幼児視界体験）を活用し、子どもの視点で安全について体験学習する。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P83,114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小児の医療事故について、インターネットや新聞等で調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　子どもと家族を取り巻く社会と健康管理
【key words】
児童福祉、母子保健、小児慢性特定疾患治療研究事業、予防接種、学校保健、特別支援教育
【授業概要】
子どもと家族を取り巻く社会について学ぶ。
児童福祉、母子保健、予防接種、学校保健、特別支援教育等に関する法規と医療費支援及び看護支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P175～198
②MCメディカ出版　　P33～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　成長発達に役立つ基礎的理論
【key words】
小児期、成長発達

【授業概要】
小児期における成長発達に関する代表的な理論（ピアジェ理論、エリクソン理論、ハビィーガースト理論、ボウルビィー愛着形成理論）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
②MCメディカ出版　P57～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　小児各期の成長発達に役立つ基礎的知識
【key words】
小児期、成長発達評価、パーセンタイル値、カウプ指数、ローレル指数、肥満度、デンバー発達判定法
【授業概要】
小児看護学における発達論及び成長・発達評価の方法について学ぶ。
小児期の発達区分や成長発達の一般原則、成長発達に影響する因子、成長・発達評価指標及び評価時の留意点を学ぶ。
子どもが育つ過程の個人差を理解し、総合的にとらえる視点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P30～50
②MCメディカ出版　P166～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　乳児期の成長発達
【key words】
乳児期、成長発達
【授業概要】
乳児期における成長発達の特徴（形態的、身体生理、知的・運動機能、情緒・社会的機能）とそのプロセスについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P68～98
②MCメディカ出版　P76～99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト②ARコンテンツｐ84「乳児の発達」及びｐ85「姿勢反射」、ｐ86「新生児・乳児の発達～生後1.5カ月」の動画を視聴する。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　幼児期の成長発達
【key words】
幼児期　成長発達

【授業概要】
幼児期における成長発達の特徴（形態的、身体生理、感覚機能、運動伊機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能）とそのプロセスについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P100～116
②MCメディカ出版　P99～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト②ｐ106「幼児期の子どもの世界」の動画を視聴する。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　学童期の成長発達
【key words】
学童期、成長発達
【授業概要】
学童期における成長発達の特徴（形態的、身体生理、感覚・運動機能、知的・情緒機能・社会的機能）とそのプロセスについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P116～129
②MCメディカ出版　P134～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　思春期の成長発達
【key words】
思春期、成長発達
【授業概要】
思春期における成長発達の特徴（形態的、身体生理、知的・情緒的・社会的機能）とそのプロセスについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
①医学書院　P150～165
②MCメディカ出版　P134～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　乳幼児の健康問題と社会的背景
【key words】
乳幼児、健康問題、虐待、乳幼児突然死症候群、不適応行動
【授業概要】
乳幼児の健康問題と社会的背景について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
②MCメディカ出版　P88-89,106～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　学童・思春期の健康問題と社会的背景
【key words】
健康問題（心の問題、肥満、やせ、飲酒、喫煙、性に関する健康問題）、薬物乱用、健康教育
【授業概要】
学童・思春期の健康問題と社会的背景について学ぶ。
学童・思春期の健康問題を解決するための健康教育について考える。
【教科書ページ・参考文献】
②MCメディカ出版　P144-146,155-165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１４回　保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携(小児在宅看護含む)
【key words】
保健医療チーム、小児在宅看護、他種職との連携、小児専門看護師
【授業概要】
わが国における保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携について学ぶ。
小児在宅看護の現状と支援、小児看護の役割について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
②MCメディカ出版　P16-17,276～286
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト②ARコンテンツｐ17「小児看護専門看護師とは」の動画を視聴する。
興味のある部分について自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１５回　トピックス：最新の小児医療と看護
【key words】
小児医療、国際看護、世界の子どもたち
【授業概要】
最新の小児医療と看護に関するテーマを取り上げ、国際的視野で小児看護について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
世界の子どもに関する情報を収集し、子どもに対する自分の考え（小児観）をまとめる。

	【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・小児看護学概論（必修）は、小児看護学学習のための基盤となる科目であり、看護師国家試験出題基準に含まれる。 ・配布資料及びグループ・自己学習を含むに関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。 ・シラバスを確認し、予習復習（テキストARコンテンツ動画視聴含む）をして授業に臨むようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・周辺で見かける子どもたちや親子の様子を観察し、その行動の特徴やコミュニケーションの状況などを分析してみてください。
オフィスアワー	授業終了後～２時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	課題レポート30%、定期試験70%により、総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他著　系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔１〕　小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院 ②中野綾美他著　ナーシング・グラフィカ　小児の発達と看護　MCメディカ出版
参考書	松尾宣武・濱中喜代編集　小児看護学概論・小児保健　　メヂカルフレンド社 国民衛生の動向
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立小児医療センターに勤務し、看護師として小児看護の臨床経験がある。 博士（看護学）の学位を保有し、看護学部教授として小児看護学領域の教育・研究を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
真田　英子　木戸　美佐子　西山　智春			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小児各期の成長発達並びに自立に向けた日常生活支援、子どもの安全、フィジカルアセスメント等、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識を学び、アセスメントに基づく小児看護の実践ができる能力を養うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①健康な乳幼児・学童・思春期の日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解できる。 ②小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解できる。 ③小児のフィジカルアセスメントの基礎的知識を理解し、観察技法を身につける。 ④小児各期の不慮の事故と安全教育について理解できる。
授業の概要	健康な小児の成長発達を促すための援助方法、さらに、正常な成長発達を阻害する要因とその予防についての保健指導を学ぶ。また、フィジカルアセスメント・一次救命処置等のモデルを使用した演習を取り入れて教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　小児期にある子どもの健康な生活への支援：育児の概念、コミュニケーション 【key words】 アタッチメント、自我発達、認知発達 【授業概要】 科目オリエンテーション　小児期にある子どもの健康な生活への支援：育児の概念、コミュニケーション 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p91-93,103-108,119-122,135-138、メディカ出版②p14-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第２回	小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：環境 【key words】 子どもの最善の利益、内部環境・外部環境、感染予防、事故防止 【授業概要】 小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：環境 【教科書ページ・参考文献】 メディカ出版②p30-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第３回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：食事と栄養

【key words】
母乳栄養、人工栄養、自律授乳、離乳食、経管栄養

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：食事と栄養

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p89-119,145-146、メディカ出版②p58-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第４回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【３】：排泄

【key words】
トイレット・トレーニング、清潔間欠導尿、ストーマケア

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【３】：排泄

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p92-123、メディカ出版②94-107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第５回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【４】：清潔と衣生活

【key words】
沐浴、口腔ケア、自立過程

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【４】：清潔と衣生活

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p92-127、②p110-130

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第６回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：睡眠と休息

【key words】
レム睡眠・ノンレム睡眠、単層性・多層性、乳幼児突然死症候群、乳幼児揺さぶられ症候群

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：睡眠と休息

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p91-124、②p40-44、248-252

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第７回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：遊びと活動①

【key words】
発達、社会性、破壊行動、プレパレーション

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：遊びと活動

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p91-140、②p248-252

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第８回　小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：遊びと活動②
【key words】
発達、社会性、破壊行動、プレパレーション
【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：遊びと活動②

【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p91-140、②p248-252

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第９回　小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処
【key words】
PBLS、アルゴリズム
【授業概要】
小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処

【教科書ページ・参考文献】
医学書院②p516-532
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１０回　子どものフィジカルアセスメント：身体的アセスメント
【key words】
問診、視診、触診、打診、聴診
【授業概要】
子どものフィジカルアセスメント：身体的アセスメント

【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p299-339
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１１回　子どものアセスメントに必要な技術：コミュニケーション　、バイタルサイン、身体計測
【key words】
コミュニケーション、観察
【授業概要】
子どものアセスメントに必要な技術：コミュニケーション　、バイタルサイン、身体計測

【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p282-299
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１２回　子どもの示す主な症状とその看護【１】　痛み、発熱、脱水、けいれん、出血
【key words】
痛み、発熱、脱水、けいれん、出血
【授業概要】
子どもの示す主な症状とその看護【１】　痛み、発熱、脱水、けいれん、出血
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p341-401
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１３回　子どもの示す主な症状とその看護【２】　呼吸困難、嘔吐、下痢、浮腫
【key words】
呼吸困難、嘔吐、下痢、浮腫
【授業概要】
子どもの示す主な症状とその看護【２】　呼吸困難、嘔吐、下痢、浮腫

	【教科書ページ・参考文献】 メディカ出版①p92-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分 第１４回　子どものアセスメント　・バイタルサイン測定、身体計測 【key words】 フィジカルアセスメント、バイタルサイン、身体計測 【授業概要】 〔演習〕子どものアセスメント　・バイタルサイン測定、身体計測 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p282-299 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分 第１５回　子どもの心肺蘇生法（AEDを用いた心肺蘇生法も含む） 【key words】 心肺蘇生法 【授業概要】 〔演習〕子どもの心肺蘇生法（AEDを用いた心肺蘇生法も含む） 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p516-532 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・配布資料及びグループ・自己学習を含むに関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・ 　実習に活用できるようにする。 ・実習室で演習する際は、ユニホームを必ず着用すること。事前学習をし授業に臨んむようにしてください。 ・演習を欠席した場合、再演習を申し出ること。未演習のまま単位を修得することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・人体構造機能学、小児看護学概論の学習と関連させて復習・予習し履修すること。
オフィスアワー	授業終了後～１時間　　火曜日12：00～12：45
評価方法	・課題レポート10%、コメントカード10%、授業に取り組む態度10%、定期試験70%により総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院. ②.中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学②ー小児看護技術、メディカ出版
参考書	・「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 大学病院小児病棟副師長実務経験を活かし、小児看護職者としての知識、技術、態度、職業倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施

	□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
真田　英子　木戸　美佐子　西山　智春			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶ。 〔到達目標〕 ①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療及び健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解できる。 ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解できる。 ③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で基本となる小児看護技術を身につける。
授業の概要	健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。 本科目では、 視聴覚教材、看護教育用シミュレータを活用することによってイメージ化を図り、健康障害を抱える子どもと家族に特徴的な看護問題と看護援助方法について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション/病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護、医療を受ける子どもの権利 【key words】 ペイシェント＆ファミリーセンタードケア 【授業概要】 科目オリエンテーション/病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護、医療を受ける子どもの権利 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p202-215 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第２回	健康障害を抱える子どもと家族の看護：入院・外来 【key words】 トリアージ、プレパレーション、子どもの権利 【授業概要】 健康障害を抱える子どもと家族の看護：入院・外来　　入院中の看護時の遊びと学習 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p218-234 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分

	第３回	在宅療養中の子どもと家族の看護　災害時の子どと家族の看護 【key words】 医療的ケア児、ソーシャル・キャピタル、子どもの権利 【授業概要】 在宅療養中の子どもと家族の看護　災害時の子どと家族の看護 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p234-248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第４回	急性期にある子どもと家族の看護：川崎病他 【key words】 冠動脈瘤、苦痛の緩和 【授業概要】 急性期にある子どもと家族の看護：川崎病他 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p253-254、②202-205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第５回	長期療養を必要とする子どもと家族への看護：ネフローゼ症候群他 【key words】 低蛋白血症、蛋白尿、浮腫、脂質異常、安静 【授業概要】 長期療養を必要とする子どもと家族への看護：ネフローゼ症候群他 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p250-253、②340-344 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第６回	慢性期にある子どもと家族への看護：糖尿病他 【key words】 多飲・多尿・体重減少、薬物療法、運動療法、食事療法 【授業概要】 慢性期にある子どもと家族への看護：糖尿病他 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p250-253、②69-84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第７回	予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護：小児がん 【key words】 トータルケア 【授業概要】 予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護：小児がん 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p270-280、②298-312、326-329 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第８回	ハイリスク新生児と家族への看護：低出生体重児 【key words】 呼吸窮迫症候群、肺サーファクタント、カンガルーケア 【授業概要】 ハイリスク新生児と家族への看護：低出生体重児 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p18-56 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】

		60-120分
	第９回	障害を抱える子どもと家族への看護：重症心身障害児 【key words】 非言語的コミュニケーション、ポジショニング、子どもの権利 【授業概要】 障害を抱える子どもと家族への看護：重症心身障害児 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p387-389、393-404 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１０回	心身に障害を抱える子どもと家族への看護：神経症性障害 【key words】 自己肯定感、居場所作り 【授業概要】 心身に障害を抱える子どもと家族への看護：神経症性障害 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p482-514 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１１回	手術を受ける子どもと家族への看護 【key words】 プレパレーション、意思決定 【授業概要】 手術を受ける子どもと家族への看護 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p253-270 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１２回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]：採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺 【key words】 プレパレーション、プライバシー、後腸骨稜、クモ膜下腔、頭蓋内圧症状 【授業概要】 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]：採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p438-453 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１３回	【key words】 予薬における6R、吸引圧、酸素濃度 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]：与薬、輸液療法、酸素療法 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p416-438、460-468 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１４回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【key words】 予薬における6R、プレパレーション 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p412-428 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分 第１５回　治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[4]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【key words】 予薬における6R、プレパレーション 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[4]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p428-438 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・上記「履修要件」に記載した科目において学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。 ・演習時には白衣を着用し、身だしなみを整え授業に臨むこと。 〔受講のルール〕 ・小児看護学概論、小児看護援助論Ｉで学習したことを復習・関連させながら学習をすすめる。 ・授業中に提示された課題は必ず提出すること。また、提出期限は厳守すること。 ・実習室で演習を行う際は、ユニホームを必ず着用すること。 ・演習を欠席した場合、再演習を申しでること。未演習のまま単位を修得することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むとともに、わからない部分を授業にて解決 するよう努めること。 ・授業の進行過程において、各自ポートフォリオを作成すること。 ・授業中に提示された課題には必ず取り組むこと。
オフィスアワー	授業終了後～1時間　　火曜日12：00～12：45
評価方法	筆記試験70%、技術演習および課題レポート20%、コメントカード10%により総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院.　②奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院　③中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版.　④中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学②－小児看護技術，メディカ出版.
参考書	随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 大学病院小児病棟副師長実務経験を活かし、小児看護職者としての知識、技術、態度、職業倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
木戸　美佐子　真田　英子　西山　智春			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法を学ぶ。 〔到達目標〕 ①健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の意義、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の基本的考え方を　理解できる。 ②健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントできる。 ③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決及び回避に向けた個別的な看護計画を立案できる。
授業の概要	健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのためには、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開することが必要不可欠である。本科目では、様々な発達段階にある、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を試行することを通じ、子どもの特徴をふまえたヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際（基本的欲求、基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的状態、アセスメント、関連図の作成、看護問題と目標設定、具体策の立案、実施・評価）を教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、看護過程① 【key words】 ヘンダーソン、看護過程 【授業概要】 科目オリエンテーション/講義スケジュール、予習・復習、授業評価などについて説明 事例紹介（DVD視聴）、情報の整理、アセスメント 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.２～P.６　P.３７～P.４５　P.５８～P.６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として不足している情報の整理をし、次回アセスメントが出来るようにテキストを精読する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	看護過程② 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、アセスメント、関連図 【授業概要】 事例の情報を整理し、個々でアセスメンの記入をする 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.５８～P.７４　P.３７～P.４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回に向けて情報の整理をしアセスメントを見直し追加・修正する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分

	第３回　看護過程③ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、 、関連図 【授業概要】 事例の情報を整理し、個々でアセスメント・関連図の記入をする 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.５８～P.９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 GWに向けて情報の整理をしアセスメント・関連図を見直し追加・修正する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第４回　看護過程④ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、ＧＷ 、関連図 【授業概要】 ＧＷで個々の意見を述べながら、関連図を仕上げる 発表内容、発表者を決定する 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　　P.５８～P.９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループの発表を聞いて自分の関連図と比較し修正・加筆する。次回、発表に向けて関連図を仕上げる 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第５回　看護過程⑤ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、ＧＷ 、関連図 【授業概要】 ＧＷで行った関連図の発表 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　　P.５８～P.９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他のグループの発表を聞いて自分の関連図と比較し修正・加筆する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第６回　看護過程⑥ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、看護問題の明確化、看護計画 【授業概要】 個人ワークによる看護問題の明確化、看護計画の立案 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.９５～P.１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＧＷに向けて個々の看護問題、看護計画を見直し追加・修正する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第７回　看護過程⑦ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、GW、看護計画 【授業概要】 ＧＷで個々の意見を述べながら、看護計画を仕上げる 発表内容、発表者を決定する 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.９５～P.１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループメンバーの発表を聞いて自分の看護計画と比較し修正・加筆する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第８回　看護過程⑧ 【key words】 ヘンダーソン、看護過程、GW、看護計画 【授業概要】 ＧＷで行った看護計画の発表、講評 【教科書ページ・参考文献】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　P.９５～P.１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他のグループの発表を聞いて自分の看護計画と比較し修正・加筆する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・小児看護学の既習科目において学習した知識・技術を活用して、モデル事例の看護過程の展開を行う。 〔受講のルール〕 ・小児看護学実習につながる重要な科目であるため、積極的に授業に臨むこと。 ・ポートフォリオを持参し、活用しながら課題に取り組むこと。 ・授業中に提示された看護過程の課題の提出期限は厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。 ・授業中に提示された看護過程の課題には必ず取り組むこと。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後～1時間　　金曜日12：00～12：45
評価方法	課題レポート（モデル事例の看護過程展開の提出）80%、グループワーク参加度および発表20%により総合的に評価する。
教科書	秋葉公子著：看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 第4版，ヌーベルヒロカワ出版，2018
参考書	・山口桂子他編：エビデンスに基づく小児看護ケア関連図、中央法規，2017 ・茎津智子編：発達段階を考えたアセスメントに基づく看護過程，医歯薬出版，2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師の免許を有し、小児医療・小児看護の臨床経験のある教員が指導にあたる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小児看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
西山　智春　　真田　英子　木戸　美佐子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	様々な健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、健康の回復および維持・増進を目指した個別性を考慮した看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。 到達目標は小児看護学実習要項参照
授業の概要	小児看護学実習要項を参照

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	１．実習オリエンテーションは必ず受講すること。 ２．事前学習課題をしっかり学習し、実習に臨むこと。 ３．看護学生としての身だしなみ、言動、行動等、マナーに心がけること。 ＊小児看護学実習要項を参照
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	１．質問等は朝の打ち合わせ（行動計画発表）及び各学生指導時、カンファレンス終了後の時間を活用する。 ２．事前学習課題は、実習初日及び適宜、学習状況（理解）を確認する。
授業外時間にかかわる情報	１．１日のまとめと明日の行動計画立案（学習内容）及び看護過程を学習して実習に臨む。
オフィスアワー	実習担当教員が対応する。
評価方法	小児看護学実習の一般目標及び目標を評価基準として、各施設実習（病棟実習、幼稚園実習、障がい児看護実習）、学内実習、カンファレンスにおける参加態度、記録物および

	小児看護学実習の一般目標および行動目標を評価基準として、各施設（病棟実習、幼稚園実習、障がい児看護実習）、学内演習、カンファレンスにおける参加態度、記録物およびレポートの記載内容により、単位認定教員が評価、判定する。
教科書	医学書院：小児看護学概論・小児臨床看護総論、小児臨床看護各論 ナーシンググラフィカ：小児看護技術
参考書	各自、参考書を持参する。 適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小児看護の臨床経験のある小児看護学領域の教員が担当する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	□ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 成人看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田智美、佐藤充子、佐竹明美ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人の慢性期にある対象を理解し、健康特性に合わせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①疾病を持ち、かつ生活者である成人にとっての疾病コントロールに必要なセルフケアの概要と必要性について説明できる。 ②セルフコントロールのための生活習慣の再獲得に必要な知識や技術の提供を行う方法を説明できる。 ③慢性的な経過をたどる成人について看護診断に基づく思考プロセスを修得する。
授業の概要	成人期のあらゆる健康レベルのなかで慢性期にある対象の看護を学ぶ。 呼吸機能、内分泌・代謝機能、腎機能、、免疫系に慢性的な障害を抱えた患者の看護について、アセスメントから看護実践の方法までを学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　慢性期にある対象の理解 【key words】 成人期　慢性期　対象 【授業概要】 科目オリエンテーション ・今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について説明をする。 ・当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 慢性疾患の特徴・慢性期にある患者の特徴について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、授業概要（2020年度版）、授業シラバス 系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学[1] 第7、10章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 成人看護概論で学習した慢性期にある対象への看護、慢性疾患、自己効力感などのワードを復習して授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第２回	A　呼吸機能に障害のある対象への看護　１．慢性呼吸器疾患(COPD) の患者の理解（病態生理・症状・検査・治療） 【key words】 ＣＯＰＤ　病態生理　症状　検査　治療 【授業概要】 慢性的な経過として特徴的な疾患である呼吸器に障害のある患者について取り上げ、呼吸器に生じる障害と疾患及び症状、検査・治療について学習する。また、患者の身体的・心理的・社会的特徴と日常生活に及ぼす影響等について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学[2] 第5章C、6章A～D、E-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 第2、3回合わせて60分
	第３回	A　呼吸機能に障害のある対象への看護　２．慢性呼吸器疾患(COPD) の患者の看護 【key words】

		ＣＯＰＤ　看護　セルフケア 【授業概要】 第2回慢性呼吸器疾患（ＣＯＰＤ）の患者の理解での授業内容を踏まえ、慢性呼吸器疾患（ＣＯＰＤ）の患者に必要なセルフケアや日常生活援助の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学[2] 第5章C、6章A～D、E-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 第2、3回合わせて60分
	第４回	B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　肝炎の患者の看護 【key words】 肝炎　看護　セルフケア 【授業概要】 肝機能の基礎知識 肝炎の病態生理、症状、検査、治療について 安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学[5] 第2章E、4章B-②、C-④、⑤章D-①、6章E-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第５回	B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　肝硬変の患者の看護 【key words】 肝硬変　看護　セルフケア 【授業概要】 肝機能の基礎知識肝硬変の病態生理、症状、検査、治療について 安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学[5]　第4章B-②⑦⑪、C-②、⑤章D-②、6章E-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第６回	B　内分泌・代謝機能に障害のある対象の看護　　甲状腺機能障害のある患者への看護 【key words】 内分泌疾患 視床下部－下垂体疾患 甲状腺疾患　副甲状腺疾患　副腎疾患 看護 【授業概要】 内分泌器官とホルモンの機能についての基礎知識 内分泌疾患（視床下部－下垂体疾患：ACTH産生腫瘍（クッシング病）・尿崩症／甲状腺疾患：慢性甲状腺炎・バセドウ病・甲状腺機能低下症・甲状腺腫瘍／副甲状腺疾患：原発性副甲状腺機能亢進症／副腎疾患：原発性アルドステロン症・原発性副腎皮質機能低下症・褐色細胞腫）の病態の特徴・症状及び検査・治療・看護のポイントについて学習する。 甲状腺疾患：バセドウ病の患者の看護を中心に安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　　成人看護学[6] 第2章、4章A、5章A、6章AB 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第７回	B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　１．糖尿病の患者の看護 【key words】 糖尿病　看護　セルフケア 【授業概要】 生活習慣病の影響を受けやすい糖尿病を取り上げ、生活の中での病因及び治療、対策を取り上げる。 食事・運動・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第８回	B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　２．糖尿病の患者の看護　　食事療法・血糖測定演習前学習 【key words】 糖尿病　食事療法　血糖測定　セルフケア 【授業概要】 食事療法、血糖測定を取り上げ、食事・運動・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。 糖尿病患者の生活上の工夫や、治療継続に関わる生活の再構築への援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　　第4章B、5章B-①、6章C-① 写真でわかる臨床看護技術①アドバンスchapter12 【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
第8、9、10回合わせて180分

第９回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　３．糖尿病の患者の看護　　食事療法（演習）
【key words】
糖尿病　食事療法　演習
【授業概要】
自己の食事と活動の記録をモニタリングし、食品交換表を活用し、食事記録を記載する。
フードモデルを用いて、糖尿病患者の食事療法に即した献立を作成する。
演習で作成した献立とモニタリングした記録から、自己管理を継続していく糖尿病患者の気持ちと看護についてグループで討議する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト・演習計画を読んで授業に臨む。
事前学習を行った上で演習に臨む。
演習後、事後レポートに取り組む。

【予習復習に必要な想定時間】
第8、9、10回合わせて180分

第１０回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　４．糖尿病の患者の看護　　血糖測定（演習）
【key words】
糖尿病　血糖測定　演習
【授業概要】
自己血糖測定の方法について学習し、実際に血糖値を測定する。
インスリン自己注射指導の方法について学習する。
測定した血糖値について、アセスメントし、自己血糖測定を行う糖尿病の患者の気持ちについてグループで討議する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①
写真でわかる臨床看護技術①アドバンスchapter12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト・演習計画を読んで授業に臨む。
事前学習を行った上で演習に臨む。
演習後、事後レポートに取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
第8、9、10回合わせて180分

第１１回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームの患者の看護
【key words】
脂質異常症　肥満症　メタボリックジンドローム
【授業概要】
栄養・代謝機能に障害がある脂質異常症等について、生活上の工夫や、治療継続に関わる生活改善等について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第5章B-②③④、6章C-②③⑤
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
授業中に提示された課題について、テキストを読んでまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　C　腎機能に障害がある対象への看護　　慢性腎炎、腎不全患者の看護
【key words】
慢性腎炎　　腎不全　看護
【授業概要】
慢性腎炎、腎不全の病態生理、症状、検査、治療について
治療の推進、生活の改善、セルフケアの援助について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学[8]　第1～4章D、5章A～D
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
第12、13回合わせて60分

第１３回　C　腎機能に障害がある対象への看護　　透析を受ける患者の看護
【key words】
慢性腎炎　　腎不全　　透析　　看護
【授業概要】
慢性腎炎、腎不全の病態生理、症状、検査、治療について
透析のメカニズム、透析が必要な基準について
透析時の看護について
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学[8]　第4章E、5章A～D、6章Ⅳ-C
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
第12、13回合わせて60分

第１４回　D　免疫系に障害のある対象の看護　　全身性エリテマトーデス患者の看護
【key words】
全身性エリトマトーデス　看護　セルフケア

	【授業概要】 全身性エリトマトーデスの病態生理、症状、検査、治療について 日常生活・薬物療法の管理とセルフケアの援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　アレルギー膠原病感染症　成人看護学[11]　膠原病第1章～4章、5章B、6章E-② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 第１５回　　D　免疫系に障害のある対象の看護　　関節リウマチの患者の看護 【key words】 関節リウマチ　看護　セルフケア 【授業概要】 関節リウマチの病態生理、症状、検査、治療について 日常生活・薬物療法の管理とセルフケアの援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　アレルギー膠原病感染症　成人看護学[11]　膠原病第1章～4章、5章A、6章E-① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。 〔受講のルール〕 ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時に課題を提示することがある。課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、演習などの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式またはICT利用
授業外時間にかかわる情報	・授業概要に示されている予習・復習を行い授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。 ・教科書及び授業に必要な資料等は事前に確認し、授業時に持参すること。
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、ｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の授業であるため、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ 総合評価は筆記試験、技術演習、課題レポート等を合わせて６０％を超えていることが前提となる。 ＊課題レポートの未提出及び提出期限の遅れは減点の対象とする。その他、技術演習、課題レポートの評価基準の詳細は、課題提示時に別途説明する。
教科書	1)小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［１］成人看護学総論　医学書院（第1回～第15回で適宜） 2)浅野浩一郎他：系統看護学講座成人看護学[2]呼吸器　医学書院（第2，3回） 3)金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院（第4，5回） 4)黒江ゆり子他：系統看護学講座成人看護学[6]内分泌・代謝　医学書院（第6～11回） 5)大東貴志他：系:統看護学講座成人看護学[8]腎・泌尿器　医学書院（第12，13回） 6)竹村信彦他：系統看護学講座成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症　医学書院（第14，15回） 7)糖尿病食事療法のための食品交換表第７版　日本糖尿病学会（第7～10回）
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 大学病院又は総合病院で、看護師として慢性疾患患者の看護に従事した経験を有する教員が授業を担当する。また、第7～10回は、慢性疾患看護専門看護師かつ糖尿病看護認定看護師による講義・演習、第12、13回については、透析看護認定看護師による講義を展開する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）

	■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
源内　和子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　成人の急性期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①　手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身に付ける。 ②　生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。 ③　クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。 ④　検査に必要な成人援助技術について習得する。
授業の概要	成人看護に必要な援助技術の理論と実際を学習する。 基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を学習する。 手術を受ける患者と家族への看護方法、救急時のケアなどについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　Ａ．周手術期看護　　1．周術期看護の概要　　周術期の基礎知識と生体の変化 【key words】 周術期、身体侵襲　　身体の準備　　検査看護（呼吸循環機能検査、肝機能検査、放射線検査、内視鏡等） 【授業概要】 外科看護の特徴と対象、周術期看護についての基礎知識と生体の変化について、手術侵襲と生体の反応を理解する。 手術に向けた身体準備と検査における看護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院：臨床外科看護総論　医学書院：系統看護学講座　消化器 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第２回	Ａ．周手術期看護　２．　手術中患者の看護　　手術過程に応じた看護　手術室看護　麻酔について 【key words】 　術中看護　麻酔　体位　環境 【授業概要】 手術中の患者の安全管理を理解するとともに、手術室の看護について、特に手術過程に応じた看護を学習する。 手術中の看護の展開を理解する。 直接看護師と間接看護師の仕事の役割を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 臨床外科看護総論　医学書院：系統看護学講座　消化器 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第３回	Ａ．周手術期看護　３．　手術後の回復を促進するための看護　　術後合併症　　術後のドレーン管理 【key words】

術後の回復　　術後合併症　　術後観察

【授業概要】
外科的侵襲からの回復期の生体反応を学ぶ。
手術後の観察、アセスメントを学習する。術後の早期離床について　術後のドレーン管理及び合併症予防について学習する。
手術後の看護の方法を学習する。

【教科書ページ・参考文献】
医学書院：臨床外科看護総論　医学書院：系統看護学講座　消化器

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　Ａ．周手術期看護　４．　手術後の回復を促進するための看護　　術後の継続看護
【key words】
Ａ．周術期看護　　３.手術後の回復を促進するための看護　　術後の継続看護　　術後の回復過程
【授業概要】
手術後の観察、アセスメントについて。術後合併症について。
入院期間短縮による手術を受ける患者の一連の流れを含む継続看護について学習する。一連の流れを確認しながら周術期の患者治癒過程をイメージする。
【教科書ページ・参考文献】
医学書院：臨床外科看護総論　医学書院：系統看護学講座　消化器

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第５回　Ｂ．手術を受ける対象の看護　　手術に関する最近の動向（腹腔鏡下手術についての概要）
【key words】
低侵襲手術　消化器疾患　　分割食　　退院指導
【授業概要】
手術を受ける患者の具体的なケアを学習する。　（手術患者の短期間入院による影響　食事指導　退院指）腹腔鏡手術を受ける患者の看護について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
医学書院：系統看護学講座　消化器　医学書院：臨床外科看護総論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第６回　Ｂ．手術を受ける対象の看護　１　胃がんの患者の理解（病態生理・症状・検査・治療）
【key words】
消化器疾患のがん　胃がんの病態生理
胃がん、消化器疾患、ダンピング症状　胃チューブ 留置カテーテルの管理

【授業概要】
胃がんの病態生理・症状・検査・治療について、手術を受ける患者の精神面の援助について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
医学書院：系統看護学講座　消化器　医学書院：臨床外科看護総論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　Ｂ．手術を受ける対象の看護　１　胃がんの患者の理解（病態生理・症状・検査・治療）
【key words】
胃がん　消化器疾患　分割食　　ダンピング症状　　退院指導
【授業概要】
胃がんの手術を受ける患者の具体的なケアを学習する。（分割食　食事指導　退院指導）
【教科書ページ・参考文献】
医学書院：系統看護学講座　消化器　医学書院：臨床外科看護総論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第８回　Ｂ．手術を受ける対象の看護　　周手術期に必要な看護技術　　（術衣体験　　深部静脈血栓の予防）　　演習
【key words】
術衣体験　　深部静脈血栓の予防
【授業概要】
深部静脈血栓を予防するケアの目的・適応・予防法を理解する。弾性ストッキングを基本手順に沿って装着・着脱することが出来る。
ドレーンや留置カテーテルを挿入し、術後を想定したモデル人形の観察を通し、術後に必要な観察の視点と看護について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
資料を参照　写真でわかる臨床看護技術①②
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読み、事前課題を学習して演習に臨む
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

	第９回	Ｂ．手術を受ける対象の看護　　周手術期に必要な看護技術　　（術後観察）　　演習 【key words】 術後看護　　術衣体験　　深部静脈血栓の予防 【授業概要】 深部静脈血栓を予防するケアの目的・適応・予防法を理解する。弾性ストッキングを基本手順に沿って装着・着脱することが出来る。 ドレーンや留置カテーテルを挿入し、術後を想定したモデル人形の観察を通し、術後に必要な観察の視点と看護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を参照　写真でわかる臨床看護技術①② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読み、事前課題を学習して演習に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１０回	Ｂ．手術を受ける対象の看護　　１．大腸がん患者の理解（病態生理・症状・検査・治療・看護・ストマケア） 【key words】 大腸がん　ドレナージ　排便調整　ストーマケア 【授業概要】 大腸がんの病態生理・症状・検査・治療について、手術を受ける患者の具体的なケアを学習する。 手術を受ける患者の精神面の援助について学習する。 ストーマ造設患者の看護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院：系統看護学講座　消化器　医学書院：臨床外科看護総論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１１回	Ｂ．手術を受ける対象の看護　　１．乳がんの患者の理解 【key words】 乳がん　患者　　看護　　ドレーン管理　　機能訓練 【授業概要】 乳がんの病態生理・症状・検査・治療　手術を受ける患者の看護 乳がん手術を受ける患者の具体的なケアを学習する。（ドレーン管理　　機能訓練） 放射線治療、抗がん剤治療を受ける乳がん患者の看護を学ぶ。乳がん患者の精神面の援助を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院：系統看護学講座　消化器　女性生殖器　医学書院：臨床外科看護総論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１２回	Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　救急看護の概念と対象への看護 【key words】 救急看護　救命救急処置　クリティカルケア 【授業概要】 救急患者の身体的・心理的特徴を理解する。 救急看護の役割を学習する。 救急患者発生時の看護を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院：系統看護学講座　臨床外科看護総論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１３回	Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　集中治療室における看護・急変時の対応 【key words】 集中治療室　　クリティカルケア　家族ケア 【授業概要】 集中治療を受ける患者の看護を学習する。 危機状態にある患者・家族へのケアを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院：系統看護学講座　救急看護学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１４回	Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い（講義・演習） 【key words】 シリンジポンプ　　輸液ポンプ 【授業概要】 クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。 事例を想定し、学生同士で看護場面の演習を行う。 患者に必要な基本的援助技術を達成する能力を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 資料を参照　写真でわかる臨床看護技術①② 医学書院：臨床外科看護総論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読み、事前課題を学習して演習に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分

	第１５回　　Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　点滴をしている患者の寝衣交換（演習） 【key words】 シリンジポンプ　　輸液ポンプ　　点滴静脈注射　　寝衣交換 【授業概要】 クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を参照　写真でわかる臨床看護技術①② 医学書院：臨床外科看護総論 医学書院：臨床外科看護総論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読み、事前課題を学習して演習に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むことと 〔受講のルール〕 ・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・演習前は、必ず事前課題を済ませてから臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ 総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1)　臨床外科看護総論、医学書院 2)　系統看護学講座成人看護学［５］　消化器　医学書院 3)　系統看護学講座成人看護学［９］　女性生殖器消化器　医学書院 4) 系統看護学講座成人看護学[2]　呼吸器　医学書院 5)　写真でわかる臨床看護技術１・２　インターメディカ
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院での急性期看護の実績を持つ教員の講義。特に周術期の経験を15年。又、災害看護や救急現場の経験を持つ教員が本授業に携わる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田智美、中山洋子ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人期の対象における看護の実践方法を、エビデンスに基づき導き出す方法を修得する。 〔到達目標〕 ①看護に必要な情報を系統的に収集できる。 ②収集した情報を分析・解釈して、看護上の問題または共同問題を明確にできる。 ③適切な看護診断を選択し、優先順位を考え設定できる。 ④目標を正しく設定できる。 ⑤看護計画を立案できる。 ⑥看護過程における評価の方法について学ぶ。
授業の概要	成人看護学における看護過程を教授する。既習の看護理論や中範囲理論を基盤として看護モデルを活用し、成人看護学の特徴を踏まえた看護過程を学び、演習を通して理解を深める。更に成人看護学実習に反映させ習得していく基礎知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　看護過程の概要と看護診断について(講義) 【key words】 看護過程　看護診断　アセスメントガイド　情報の整理 【授業概要】 看護過程の概要・看護診断とは何か 看護診断を用いる必要性の理解 看護診断における領域・類の構成／アセスメントガイドについて 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護過程の展開準備　事例の疾患の概要と看護について（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	看護診断における領域・類の構成／アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈　（講義） 【key words】 情報の整理　分析・解釈　アセスメントガイド 【授業概要】 アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈（講義） 事例展開Ⅰ：事例紹介（内科的治療を受ける対象） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 疾患の概要と看護、フェイスシート、パターン1、2、4の情報の整理（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】

		第1，2回合わせて90分
	第３回	看護過程の展開Ⅰ：事例を元にアセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈の実際（講義・演習） 【key words】 情報の整理・分析・解釈 【授業概要】 アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈の実際（講義・演習） 事例Ⅰのアセスメント（演習） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、パターン1～11までのアセスメント（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 210分
	第４回	看護過程の展開Ⅰ：情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式） 【key words】 情報の整理・分析・解釈 【授業概要】 情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、パターン1～11までのアセスメント（事前学習）を行った上で授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	看護過程の展開Ⅰ：情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式）／関連図の書き方　（講義） 【key words】 情報の整理・分析・解釈　関連図 【授業概要】 情報の整理・分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式） 関連図の書き方(講義) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 関連図（事前学習）を記載した上で次回授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 第4，5回合わせて90分
	第６回	看護過程の展開Ⅰ：関連図の作成（演習：ゼミ形式） 【key words】 情報の整理・分析・解釈　関連図 【授業概要】 関連図の作成（演習：ゼミ形式） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 関連図（事前学習）を記載した上で次回授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	看護過程の展開Ⅰ：関連図の作成（演習：ゼミ形式）／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（講義） 【key words】 関連図　看護診断　優先順位　診断リスト 【授業概要】 関連図の作成（演習：ゼミ形式） 看護診断、診断リストの記載・優先順位の決定（講義） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護診断の優先順位の考え方について復習し、関連図上に診断ラベルと優先順位を記載する。 診断リストを記載した上で次回の授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 第6，7回合わせて90分
	第８回	看護過程の展開Ⅰ：看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（演習：ゼミ形式） 【key words】 看護診断　優先順位　診断リスト 【授業概要】 看護診断の優先順位の根拠と決定、診断リストの記載（演習：ゼミ形式） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 診断リストを修正した上で、目標、看護計画（事前学習）を記載して次回の授業に臨む。

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　看護過程の展開Ⅰ：看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（演習：ゼミ形式）／目標・看護計画の立案（講義）

【key words】
看護診断　優先順位　診断リスト　目標・看護計画
【授業概要】
看護診断の優先順位の根拠と決定、診断リストの記載（演習：ゼミ形式）
目標、看護計画の立案（講義）

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目標、看護計画を（事前学習）を記載して授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
第8，9回合わせて90分

第１０回　看護過程の展開Ⅰ：目標・看護計画の立案（演習：ゼミ形式）

【key words】
目標・看護計画
【授業概要】
目標、看護計画の立案（演習：ゼミ形式）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目標、看護計画の追加・修正を行う。
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　看護過程の展開Ⅰ：目標・看護計画の立案（演習：ゼミ形式）／実施・評価（経過記録：SOAP記録の作成・サマリー記録の書き方）（講義・演習）

【key words】
実施・評価　SOAP
【授業概要】
実施・評価(講義)
SOAP記録の作成（講義・演習）

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
看護過程の展開Ⅰについての記録をファイルに綴じて提出出来るよう準備する。
【予習復習に必要な想定時間】
第10，11回合わせて90分

第１２回　看護過程の展開Ⅱ：事例紹介（手術療法を行う事例）／看護診断の優先順位の変更について（講義）

【key words】
情報の整理　分析・解釈　アセスメントガイド　診断リスト
【授業概要】
手術療法を受ける事例について（講義）
情報の整理・分析・解釈（ポイントの確認）
看護診断の優先順位の変更について（講義）

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、看護過程の展開Ⅱの事例について、指定されたパターンのアセスメント（事前学習）を行った上で次回の授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　看護過程の展開Ⅱ：グループワーク①：情報の分析・解釈および関連図の作成／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）

【key words】
情報の整理　分析・解釈　関連図　診断リスト
【授業概要】
関連図・診断リストの作成（演習：グループワーク）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで、・関連図、看護診断リストを作成し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　看護過程の展開Ⅱ：グループワーク②：情報の分析・解釈および関連図の作成／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）

【key words】
情報の整理　分析・解釈　関連図　診断リスト
【授業概要】
関連図・診断リストの作成（演習：グループワーク）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
記載の参考文献等を参照のこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで、・関連図、看護診断リストを作成し、期日までに提出する。

	【予習復習に必要な想定時間】 第13，14回合わせて60分 第１５回　看護過程の展開Ⅱ：第13・14回のグループワークにおけるプレゼンテーション：関連図・看護診断について／看護過程まとめ 【key words】 関連図　優先順位　看護診断　プレゼンテーション 【授業概要】 関連図、診断リストを用いたプレゼンテーション 看護過程全体の展開のまとめ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 記載の参考文献等を参照のこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々にプレゼンテーションの振り返り、プレゼンテーション後の関連図、診断リストを修正し、看護計画を立案し、提出期限までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となる科目である。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・この科目は、学生自らが講義で学習した既習の知識を活用し、実際に看護過程を展開することによって、授業の目的・到達目標を達成することを目標としている。そのため、既習学習の復習を十分に行い授業に臨むことが必要である。 ・ゼミ形式演習及びグループワークについては、新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。 〔受講のルール〕 ・この科目では、講義で学習した内容を踏まえ、次回授業までの課題を提示する。提示された課題には必ず取り組み、次回授業に臨むこと。 ・課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、ゼミ形式演習やグループワークなどの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・課題に取り組む上で、自らでは解決が困難な疑問点が生じた場合には、科目責任者及び成人看護学領域担当者に確認する。（各教員のオフィスアワーは研究室前に提示） ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で授業に臨むこと。また、事前に学習した課題内容の理解を深めるため積極的に授業に参加すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業概要及び授業資料は事前に確認し、授業に臨むこと。また、授業を理解する上で必要と考えられる参考書は自ら持参すること。 ・授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。 ・課題に取り組む上で、自らでは解決が困難な疑問点が生じた場合には、科目責任者及び成人看護学領域担当者に確認し、自ら解決するよう努めること。（各教員のオフィスアワーについては研究室前に提示）
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）60％、課題レポート・演習への取り組み40％ 総合評価は筆記試験、課題レポート評価、演習への取り組みを合わせて60％を超えていることが前提となる。 ＊課題レポートの未提出及び提出期限の遅れは減点の対象とする。その他、課題レポート・演習への取り組みに関する詳細な評価基準は、授業時に別途説明する。
教科書	1)成人看護援助論Ⅲの授業時に配布する授業資料（この授業資料は、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱにおいても使用する。必ず毎回ファイリングして授業時には持参すること） 2)リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第10版　医学書院 3)小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［１］成人看護学総論　医学書院 4)金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
参考書	基礎から学ぶ看護過程と看護診断、ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著江本愛子監訳　医学書院 これなら使える看護診断　江川隆子編集　医学書院　　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE　HIROKAWA 他講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院での実務経験がある教員が授業を担当する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
佐藤　充子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　成人期の回復期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①回復期にある対象のセルフケア獲得のための援助方法を学習する。 ②対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。 ③生活行動の障害を持ちながら生活している患者の看護を実践できる能力を身に付ける。 ④生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。
授業の概要	成人期にある対象の回復期および生活行動の障害に焦点を当て、ＱＯＬ、ＡＤＬの自立、リハビリテーション、セルフケアに焦点を当て、呼吸機能、循環機能、生活行動に障害のある対象への看護を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　回復期における対象の理解　A生活行動に障害のある対象の看護　１．脳血管障害のある患者の理解（病態生理・症状・検査・治療） 【key words】 意識障害　高次脳機能障害　運動機能障害 【授業概要】 科目オリエンテーション ・今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について説明をする。 ・当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 ・回復期の特徴等について学習する 脳の基礎知識を踏まえて、脳血管障害のある患者の回復期を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦第6章、第2章・第3章・第4章・第5章A① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第２回	A　生活行動に障害のある対象の看護　２．脳血管障害のある患者の看護（外傷性硬膜下血腫を含む） 【key words】 外傷性硬膜下血腫 【授業概要】 脳の基礎知識を踏まえて、外傷性硬膜下血腫をうけた患者の回復期を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦第6章、第2章・第3章・第4章・第5章A③ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第３回	A　生活行動に障害のある対象の看護　3．脳血管障害のある患者の看護（脳腫瘍） 【key words】 脳腫瘍　看護 【授業概要】

		脳の基礎知識を踏まえて、脳腫瘍の患者の回復期を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦第6章、第2章・第3章・第4章・第5章A② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第４回	A　生活行動に障害のある対象の看護　　神経・筋疾患患者の看護 【key words】 筋ジストロフィー　重症筋無力症　ギランバレー症候群 【授業概要】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、ギランバレー症候群の基礎知識を踏まえて看護を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第５回	A 生活行動に障害のある対象の看護　１．運動機能に障害のある患者の理解（膝損傷・症状・検査・診断・治療） 【key words】 靭帯損傷　十字靭帯損傷　半月板損傷 【授業概要】 運動機能に障害（膝損傷）のある患者の症状・検査・診断・治療・看護を学習する 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学⑩第6章、第2章・第3章・第4章・第5章Eも含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第６回	A　生活行動に障害のある対象の看護２．運動機能に障害のある患者の看護：大腿骨頸部骨折の患者の看護（骨折の分類・症状・検査・診断・治療） 【key words】 骨折　運動機能障害 【授業概要】 運動機能に障害のある患者の看護：大腿骨頸部骨折の患者の看護（骨折の分類・症状・検査・診断・治療） を踏まえて、回復期にある看護、リハビリテーションを学習できる。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学⑩第6章、第2章・第3章・第4章・第5章も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第７回	A　生活行動に障害のある対象の看護　３．運動機能に障害のある患者の看護：脊椎疾患の患者の看護 【key words】 脊髄損傷　　腰椎椎間板ヘルニア 【授業概要】 脊髄損傷、腰椎椎間板ヘルニアの病態生理、症状、検査、治療、看護を学習する。 脊椎疾患の患者の看護及び回復期リハビリテーションを学習する 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学⑩第6章、第2章・第3章・第4章・第5章H 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第８回	B　循環機能に障害のある対象の看護 高血圧症の患者の看護 【key words】 成人期　回復期　対象 血圧　高血圧　薬物療法　生活習慣 【授業概要】 高血圧症の概要（定義・分類・発症要因・治療）看護 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、授業概要（2020年版）、授業シラバス、系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学総論系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③循環器　第6章、第2章・第3章・第4章・第5章C①～④も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 成人看護概論で学習した回復期における対象への看護を復習して授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第９回	B　循環機能に障害のある対象の看護 高血圧症の患者の看護（日常塩分摂取と減塩が必要な患者の食事指導の演習） 【key words】 高血圧症　減塩　塩分測定　看護 【授業概要】

		第8回高血圧症患者の理解での授業内容を踏まえたうえで、日常生活における自身の塩分摂取している食物の塩分測定し、そこから高血圧症患者の看護を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章・第3章・第4章・第5章C①～④も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１０回	B　循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護　（病態生理・症状・検査・治療） 【key words】 心筋梗塞　検査　治療　看護 【授業概要】 心臓の解剖生理（基礎知識） 心筋梗塞の病態生理、症状、検査、治療、看護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章AB・第3章A～H・第4章A～C・第5章も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１１回	B　循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護 【key words】 心筋梗塞　看護 【授業概要】 第10回の授業を踏まえて、心筋梗塞患者の治療後から回復期にある患者の看護を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章AB・第3章A～H・第4章A～C・第5章も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１２回	B　循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護（心臓血管撮影の実際とECGの変化） 【key words】 心筋梗塞　心臓血管造影　心電図（正常波形・心筋梗塞の特徴的波形） 【授業概要】 第10,11回の授業を踏まえて、心筋梗塞患者の看護を学習する。 回復期にある心筋梗塞患者の心臓リハビリを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章A～H・第3章AB⑤C1～H・第4章A～C・第5章も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１３回	B　循環機能に障害のある対象の看護　　心不全の患者の看護 【key words】 心不全　呼吸困難　浮腫 【授業概要】 心不全の基礎知識を踏まえて、心不全患者の看護を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章・第3章・第4章・第5章B①～③も含む。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１４回	B　循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞患者の看護過程・関連図（演習） 【key words】 心筋梗塞　関連図　看護上の問題 【授業概要】 第8～13回の授業を踏まえて、心筋梗塞の患者の全体像を理解し、各自で関連図を作成しグループワークをする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章A～H・第3章AB⑤C1～H・第4章A～C・第5章も含む 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第１５回	B　循環機能に障害のある対象の看護 心電図検査を受ける患者（心筋梗塞）（演習） 【key words】 心筋梗塞　12誘導心電図検査　看護 【授業概要】 第8～13回の基礎知識を踏まえて、実際に12誘導心電図を受ける患者の看護を学習する。

	【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　第6章、第2章A～H・第3章AB⑤C1～H・第4章A～C・第5章も含む 目で見る看護技術 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。写真でわかる臨床看護技術②アドバンス12誘導心電図P97～ 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと 〔受講のルール〕 ・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 　・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードで適宜確認する。
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ 総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	・浅野浩一郎他：系統看護学講座；成人看護学[2]呼吸器　医学書院 ・阿部光樹他：系統看護学講座；成人看護学[3]循環器　医学書院 ・竹村信彦他：系統看護学講座；成人看護学[7]脳・神経　医学書院 ・織田弘美他：系統看護学講座成人看護学[10]運動器　医学書院
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　大学病院又は総合病院で、看護師として慢性疾患患者の回復期の患者の看護に従事した経験を有する教員が授業を担当する。 アクティブラーニング要素 　■PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　■プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田智美　佐藤充子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人期にあり、緩和ケアを受ける対象を理解し、必要な看護実践能力を身につける。 がんで治療を受ける対象を理解し、治療に伴う看護に必要な看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①緩和ケアを受ける対象に必要な援助方法を学習する。 ②緩和ケアを受ける対象に必要な看護を実践できる能力を身につける。 ③緩和ケアを受ける対象とその家族を取り巻く環境の在り方を考える能力を身につける。 ④がん治療（化学療法・放射線療法）に伴う看護について学習し、看護を実践できる能力を身につける。
授業の概要	成人期で緩和ケアを受ける対象の看護を展開するために必要な理論や方法論を学習する。 肺がん、白血病、前立腺がん、子宮がん等の疾患を踏まえ、がん治療（化学療法・放射線療法）に伴う看護について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアの概念と対象理解 【key words】 緩和ケア　全人的苦痛 【授業概要】 緩和ケアの定義・理念・歴史について 緩和ケアを受ける対象の理解 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第1，5章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。また新聞などの緩和ケアや死に関する情報に目を向けておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第２回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアの実際 【key words】 緩和ケア 【授業概要】 緩和ケアにおける看護師の役割について 緩和ケアの実際（事例を通して学ぶ） 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第2，4，5，6章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。また新聞などの緩和ケアや死に関する情報に目を向けておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第３回	A緩和ケアを受ける対象への看護　　身体的苦痛とその援助 【key words】 痛み　全人的苦痛　身体的苦痛　疼痛アセスメント　痛みのコントロール 【授業概要】 全人的苦痛とは 身体的苦痛とは

		疼痛アセスメントの方法・留意点 痛みのコントロールに対する看護援助 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第7章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第４回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　心理・社会的苦痛・スピリチュアルペインとその援助 【key words】 痛み　全人的苦痛　心理・社会的苦痛　スピリチュアルペイン 【授業概要】 対象が抱える心理社会的苦痛とは 死にゆく人の心理過程 心理社会的苦痛への援助 スピリチュアルペインとは スピリチュアルケア（事例を通して考える） 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第9，10章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第５回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　対象と家族を支援するチームアプローチ 【key words】 家族看護　チームアプローチ　遺族ケア　エンゼルケア 【授業概要】 家族の定義と家族看護のあり方 家族看護の方法：看護師の役割とチームアプローチ 遺族ケア エンゼルケア 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第2，11章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第６回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について 【key words】 緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート 【授業概要】 倫理的課題とは何か（講義） ディベート演習オリエンテーション 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1～5回までの授業資料、テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第７回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について 【key words】 緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート 【授業概要】 緩和ケアにおける倫理的課題について事例を通して学習する。（GW） 緩和ケアにおける倫理的課題についてディベートを行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ディベート演習オリエンテーション時に配布した演習資料を熟読し、事前学習を行った上で授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について 【key words】 緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート 【授業概要】 終末期における倫理的課題について事例を通して学習する。（GW） 終末期における倫理的課題についてディベートを行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ディベート演習オリエンテーション時に配布した演習資料を熟読し、事前学習を行った上で授業に参加する。 演習終了後、事後レポート課題に取り組み、緩和ケアにおける倫理的課題についての理解を深める。 【予習復習に必要な想定時間】 第7，8回合わせて180分

第９回　Ｂがん治療に伴う看護　　化学療法を受ける対象への看護
【key words】
化学療法　副作用　看護
【授業概要】
化学療法について
化学療法を受ける対象の理解
化学療法時の看護

【教科書ページ・参考文献】
講義資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に講義資料に目を通してから講義に臨む。
疾病治療論（化学療法）について復習した上で講義に臨む。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１０回　Ｂがん治療に伴う看護　　肺がんの患者の看護
【key words】
肺悪性腫瘍　化学療法　放射線療法　看護
【授業概要】
肺悪性腫瘍の病態生理・症状・診断・検査
治療（化学療法　放射線療法）
肺がん患者の看護（化学療法・放射線療法を受ける患者の看護）

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第5章肺腫瘍，第6章肺がん患者の看護
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疾患に関する既習講義を復習しておく。
テキストを読んで講義に臨む。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１１回　Ｂ.がん治療に伴う看護　　前立腺がんの患者の看護
【key words】
前立腺がん、放射線療法、看護
【授業概要】
前立腺がんの病態生理・症状・検査・治療
放射線療法時の看護

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学⑧　第5章前立腺がん，第6章Ⅴ-D放射線療法を受ける対象への看護
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　Ｂ.がん治療に伴う看護　　子宮がんの患者の看護
【key words】
子宮頸がん、子宮体がん、化学療法、放射線療法、看護
【授業概要】
子宮がん（頸部がん、体がん）の病態生理・症状・検査・治療
化学療法・放射線療法を受ける患者の看護

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨　第5章③子宮の疾患，第6章E③子宮疾患患者の看護，G化学療法を受ける対象への看護，H放射線療法を受ける対象への看護
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１３回　Ｃ.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　１．白血病の患者の看護：化学療法を受ける患者への看護
【key words】
白血病　診断・検査　化学療法　感染リスク
【授業概要】
急性白血病の病態生理・検査・治療（化学療法）
輸血について

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第1～4章C造血器腫瘍，第5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疾患に関する既習講義を復習しておく。
テキストを読んで講義に臨む。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１４回　Ｃ.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　２．白血病の患者の看護：造血幹細胞移植を受ける患者への看護
【key words】
白血病　診断・検査　化学療法　感染リスク　無菌室　造血幹細胞移植
【授業概要】
造血器幹細胞移植を受ける患者の看護

	【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④ 第1～4章C造血器腫瘍，第5章D-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 疾患に関する既習講義を復習しておく。 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 第１５回　　Ｃ.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　　HIVの患者の看護 【key words】 HIV　AIDS　日和見感染 【授業概要】 HIV感染症とAIDS HIV合併症と治療 HIV患者の理解(偏見・差別、感染予防行動) 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪　感染症：第5章R HIV感染症と日和見感染症，第6章D疾患を持つ患者の看護 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むことと 〔受講のルール〕 ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時に課題を提示することがある。課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、演習などの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式またはICT利用
授業外時間にかかわる情報	・授業概要に示されている予習・復習を行い授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。 ・教科書及び授業に必要な資料等は事前に確認し、授業時に持参すること。
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、ｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の授業であるため、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、演習、課題レポート等20%で評価する。 総合評価は筆記試験、演習、課題レポート等合わせて60%を超えていることが前提となる。 ＊課題レポートの未提出及び提出期限の遅れは減点の対象とする。その他、演習、課題レポートの評価基準の詳細は、課題提示時に別途説明する。
教科書	1)系統看護学講座　緩和ケア、医学書院（第1回～8回） 2)系統看護学講座成人看護学［２］　呼吸器　医学書院（第10回） 3)系統看護学講座成人看護学［８］　腎・泌尿器　医学書院（第11回） 4)系統看護学講座成人看護学［９］　女性生殖器　医学書院（第12回） 5)系統看護学講座成人看護学［４］　血液・造血器　医学書院（第13、14回） 6)系統看護学講座成人看護学［１１］　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院（第15回）
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 大学病院又は総合病院で、看護師としてがん患者の看護に従事した経験を有する教員が授業を担当する。また、第2回は、緩和ケア認定看護師、第3回は疼痛看護認定看護師、第5回は、がん看護専門看護師、第9回はがん薬物療法認定看護師資格を有する看護師による講義を展開する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護学実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
川田　智美他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	１．実習目的 　回復期・慢性期にある対象の、自己効力を意識したセルフマネジメントに働きかけ、機能回復及びセルフケア再獲得のための援 助を展開できる。また、緩和ケアを受ける対象及び家族が抱える苦痛を緩和し、QOLを高めるための看護について学ぶ。 ２．実習目標 １）回復期・慢性期にある対象の特徴を踏まえ、健康障害が日常生活に及ぼす影響について理解できる。 ２）対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性が導き出せる。 ３）生涯にわたりセルフケアを必要とする対象及び家族に対し、セルフケア確立に向けての介入ができる。 ４）緩和ケアを受ける対象の全人的苦痛を理解し、対象及び家族に対して心身の安楽に向けた介入が出来る。 ５）継続看護の必要性を理解し、他職種との連携における看護師の役割について理解できる。
授業の概要	成人看護学実習要項を参照のこと

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　成人看護学実習Ⅰ 　　成人看護学実習要項を参照のこと
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 実習履修資格者 ・人体構造機能学Ⅰ-Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ-Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ-Ⅴ及び基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者 2. 実習時期及び実習日数・時間 1）時　期：2020　年　5月～11月 2）日　数：2週間 3）時　間：90時間（2単位）　指定された病院（別途指示）で１グループ５～６名で実習を行う。 3.実習上の注意 1）実習要項　オリエンテーション用紙参照　（別途配布） 2）個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。 3）既習学習内容を復習し、看護技術を十分練習した上で実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。また、実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間は、各自で確保する必要がある。
オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
評価方法	１．4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。 ２．実習評価表に基づいて評価する(実習要項参照）。
教科書	成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅲ、Ⅴの授業で使用した教科書及び授業資料等
参考書	上記、教科書及び実習期間中に実習担当教員より提示された参考書等
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員が実習指導を担当する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　成人看護学実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	4単位(180)	必修
担当教員			
源内　和子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 健康の危機状況にある対象の特徴を理解し、全身状態の改善と合併症予防に努め、苦痛の緩和・早期回復に向けての看護ができる。 【実習目標】 １）急性期にある対象及び家族の特徴が理解できる。 ２）身体侵襲を伴う治療を必要とする対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性を導き出せる。 ３）周手術期にある対象の看護ができる。 （１）手術を受ける対象の身体的・精神的準備について理解し、術前の看護が実践できる。 （２）手術中の安全管理と看護の役割が述べられる。 （３）手術後の回復過程を過ごす対象に必要な看護が実践できる。 （４）生活の再構築に取り組む対象及び家族への看護が述べられる。 （５）手術を受けた対象への継続看護の必要性が述べられる。 ４）生命の危機状態にある対象（救急外来・救急病棟・集中治療室など）において、必要な医療や看護の特徴が理解できる。
授業の概要	成人看護学実習要綱を参照のこと

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　成人看護学実習Ⅱ　成人看護学実習要項を参照のこと 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 実習履修資格者 ・人体構造機能学Ⅰ-Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ-Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ-Ⅴ及び基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者 2. 実習時期及び実習日数・時間 1）時　期：2019 年　5月～11月 2）日　数：4週間 3）時　間：180時間（4単位）　指定された病院（別途指示）で１グループ５～６名で実習を行う。 うち、学内実習　90時間 3.実習上の注意 1）実習要綱　オリエンテーション用紙参照　（別途配布） 2）個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。 3）既習学習内容を復習し、看護技術を十分練習した上で実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。

授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。また、実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間は、各自で確保する必要がある。
オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
評価方法	1.4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。 2.実習評価表に基づいて評価する（実習要綱参照）。
教科書	成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業で使用した教科書及び授業資料等
参考書	上記の教科書以外に受け持ち患者の関連疾患看護の参考書や教員から指示された参考書等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員が実習指導を担当する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
中島　葉子　平出　恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[目的] 高齢者の生活に影響を与える加齢変化について理解し、高齢者を支援するための基本的知識を修得する。 [到達目標] ①高齢者疑似体験を通して加齢変化を理解できる。 ②加齢現象に伴って生じる高齢者の脆弱性を理解する。 ②器官系統別の加齢変化のありようを踏まえたアセスメント方法について理解することができる。 ④加齢変化が高齢者の生活に及ぼす影響について理解することができる。
授業の概要	人体構造機能学Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論総論等で学んだ知識を基に、高齢者の身体的特徴や器官系統別における構造と機能の変化について理解を深め学習を進めていく。具体的には、老年期の加齢現象から日常生活に影響を与えている根拠となる身体症状に関するアセスメント方法について理解するための基礎知識である。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　/　高齢者のヘルスアセスメント 【key words】 ヘルスアセスメント、CGA、ICF,HDS－R, 【授業概要】 ①高齢者の身体的健康のアセスメント②生活の自立状態のアセスメント③心理・社会的健康のアセスメント④環境のアセスメント⑤生活史のアセスメント⑥高齢者の生活機能のアセスメントツールを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P86～94. 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「既往歴聴取の目的、身体所見観察時の留意点・評価のポイントについて」1週間後レポート提出 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	高齢者体験準備、物品確認、グループワーク 【key words】 加齢変化　高齢者体験 【授業概要】 ①グループ編成（3～4人）し、高齢者役（シミュレーター装着）、援助者（高齢者役の援助）、観察者（高齢者役、援助者役を観察する）とし、全員が全ての役を体験することができるように順番を決める。②シミュレーターの点検、使用方法の確認。③コース・体験内容・時間配分、安全面への配慮についての計画書提出。 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P4. 配布資料.DVD 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の復習、計画書の内容確認。 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	高齢者擬似体験実践（グループワーク） 【key words】

加齢変化　高齢者体験　グループワーク
【授業概要】
①全員が高齢者、援助者、観察者を体験する。②シミュレーターを用いて円背や関節可動域の制限、視覚、聴覚の特徴を体験し高齢者の身体機能低下の理解を深める。③高齢者の日常生活上での不自由さや危険を理解し、高齢者の視点に立った援助を考える。④それぞれの学びを各グループでまとめ発表に備える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの学びを各グループでまとめ発表に備える。
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　高齢者擬似体験発表・評価（グループワーク）
【key words】
グループワーク　プレゼンテーション　ディスカッション
【授業概要】
①発表、意見交換を行い、他者が経験した情報の共有、様々な感じ方、視点を学ぶ。②高齢者の日常生活上での不自由さや危険を理解し、高齢者の視点に立った援助を考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発表会での他者の意見・発表後もう一度グループごとに振り返り、まとめたものを1週間後に提出。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　高齢者のアセスメントの特徴/　皮膚とその付属器の加齢変化
【key words】
ターンオーバー、スキンテア、ドライスキン、静水圧　浮力
【授業概要】
①皮膚の構造と役割②加齢による、皮膚とその付属器の変化の特徴③観察のポイント④アセスメントの視点⑤高齢者に及ぼす影響,入浴の温熱作用・静水圧作用・浮力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P94～96,172～180.248～253.配布資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　加齢による変化とアセスメント/感覚機能　視覚、聴覚、味覚、嗅覚、平衡覚
【key words】
近見視力、緑内障、加齢黄斑変性、加齢性白内障、
【授業概要】
①加齢に伴う構造と機能の変化②高齢者に多い疾患③検査、観察項目、アセスメントの方法を学ぶ④日常生活への影響について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P97～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　加齢による変化とアセスメント/ 循環器・呼吸器
【key words】
食後低血圧　起立性低血圧　脈圧　白衣高血圧　高血圧治療ガイドライン2019 脈拍欠損　服薬コンプライアンス/残気量　　NPPV　包括的呼吸リハビリテーションプログラム　1秒率　気道クリアランス
【授業概要】
①加齢に伴う循環器系の構造と機能の変化②高齢者の血管、血圧の特徴③高血圧治療ガイドライン改定2019④高齢者の脈拍の特徴⑤循環器系の観察項目・留意点・アセスメントについて学ぶ/⑥加齢に伴う呼吸器系の構造と機能の変化⑦呼吸機能のフィジカルアセスメント
【教科書ページ・参考文献】
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P102～103.104～107.
配布資料、

【課題・予習・復習・授業準備指示】
使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　加齢による変化とアセスメント/ 消化器系/高齢者における食生活
【key words】
胃食道逆流症、栄養スクリーニング、PEM.
【授業概要】
①加齢に伴う消化器系の構造と機能の変化②アセスメントの方法/③加齢に伴う摂食機能の変化④高齢者に多い摂食嚥下障害⑤食生活のアセスメント
【教科書ページ・参考文献】
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P107～109.146～155.配布資料、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　加齢による変化とアセスメント/ 内分泌/泌尿生殖器
【key words】
LOW症候群　サーカディアンリズム　レム睡眠　ノンレム睡眠　多相性睡眠/
排尿障害、尿失禁

【授業概要】
①分泌系の構造と機能の変化②ホルモン分泌の変化と臨床症状③生体リズムに関わるホルモン④下部尿路の加齢変化の症状と特徴⑤加齢に伴う睡眠・覚醒の変化⑥高齢者にとっての睡眠⑦睡眠障害の影響⑧睡眠の評価

	【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P109～110.110～111.161～172.185～197.配布資料、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回　加齢による変化とアセスメント/ 運動器 【key words】 MMT　ROM　サルコペニア　ロコモティブシンドローム　フレイル　起立性低血圧　ロンベルグ徴候　ADL　廃用症候群 【授業概要】 ①加齢に伴って生じる運動器変化について理解する②運動器のアセスメント方法③加齢変化が高齢者の生活に与える影響④基本的・集団的ADLの評価指標⑤転倒リスクのアセスメント⑥転倒予防・再発防止 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 P111～118、122～146配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回　加齢による変化とアセスメント/ コミュニケーション能力のアセスメント 【key words】 感音性難聴、加齢性難聴、失語症、構音障害、 【授業概要】 ①コミュニケーションの基本②高齢者のコミュニケーション上の特徴③コミュニケーション能力のアセスメント④高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P198～213配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回　高齢者に多い身体症状/発熱・脱水　ミニテスト①（第1～11回講義内容から出題） 【key words】 セットポイント、細胞外液・内液、うつ熱、水分出納 【授業概要】 ①高齢者の発熱の原因・メカニズム・アセスメント②発熱と随伴症状に対する支援③加齢による身体構成の変化・脱水になりやすさ④アセスメント（臨床的特徴、検査データ） 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P 226～227.238～241. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回　高齢者に多い身体症状/掻痒・痛み・嘔吐 【key words】 老人性皮膚掻痒症　ドライスキン　疥癬トンネル　水尾徴候　三段階除痛ラダー 【授業概要】 ①高齢者に多いかゆみの特徴②かゆみがある高齢者の看護③疥癬に罹患した高齢者の看護④高齢者が経験する痛みの特徴⑤疼痛の評価⑥痛みに対する援助⑦高齢者に多い嘔吐の原因とリスク⑧嘔吐時の対応とリスクの予防 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P172～184.229～234 .234～238.241～243.配布資料、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回　高齢者に多い身体症状/ 便秘・下痢・浮腫 【key words】 器質性便秘、機能性便秘、嵌入便、圧痕、水分出納 【授業概要】 ①排便障害の特徴②観察のポイント③アセスメントとケア④浮腫の種類⑤浮腫の分類・アセスメント 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P168～172.244～248.配布資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回　高齢者に多い身体症状/ 倦怠感・褥瘡 【key words】 活動と休息のバランス、褥瘡、スキンテア、ブレーデンスケール、DESIGN-R 【授業概要】 ①倦怠感が起こる原因と看護の要点②褥瘡発生リスクアセスメント③褥瘡リスクの評価ツール④褥瘡の評価・治療⑤スキンテアについて学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学P246～248.248～254. 配布資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・知識の整理と確認目的で小テスト(加齢変化に関する出題）を実施しますので、必ず受験してください。

	・課題レポートについては、授業時に提示します。 [受講のルール] ・授業計画内容を必ず確認し、欠席・遅刻のないように臨んでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に示されるキーワードは、教科書や授業時に配布された資料を活用し復習をしましょう。
オフィスアワー	月曜日　8：20～8：40 　　12：00～12：30
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。 総合評価は筆記試験・小テスト・課題レポートの合計点60%を超えることが大前提である。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
剱持　貴史　中島　葉子　平出　恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助方法について理解する。 [授業の到達目標] ①生理的加齢現象が高齢者の生命や生活に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護の基本的知識を修得することができる。 ②健康障害を併せもつ高齢者の疾患・症状をアセスメントし、具体的な看護について理解できる。 ③高齢者のQOLを高めるべく健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について理解できる。
授業の概要	高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助について理解する。具体的には、これまで学んだ日常生活を支える基本的活動および食事・排泄・清潔ケア等に基づいて、老年期の生理的加齢現象や疾患をもつ高齢者の生命や生活に及ぼす影響を踏まえながら、日常生活を整える看護について学びを深める。 さらに、健康障害を併せもつ高齢者の疾患・症状の特徴を理解し、高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション／高齢者ケアの基本／高齢者に特徴的な疾患と看護 【key words】 骨粗鬆症　感染症・感染管理　パーキンソン病　骨折　ディスチャージプランニング 【授業概要】 高齢者の退院支援についてグループワークを通して理解を深める。高齢者の感染管理と加齢・認知機能に応じた環境整備の方法について講義・演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ267～278 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで協力し、ワークシートを作り上げる。ミニテスト 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 1時間
	第２回	認知機能に障害がある高齢者のケア　音楽療法①　講義 【key words】 音楽療法 【授業概要】 音楽療法の効果について、講義を行い、講師による音楽療法を体感する。 また、音楽療法が自分にとってどのような効果を与えたか考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 音楽療法の効果と実習においてどのように活用できるか各自で考察し、レポートにまとめ提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	認知機能に障害がある高齢者のケア　音楽療法②　演習 【key words】

		音楽療法 【授業概要】 講師が持参した楽器を学生も一緒になって、演奏し、音楽療法を体感する。 音楽療法の効果を感じ、自分の活用できる音楽療法について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 音楽療法の効果と実習においてどのように活用できるか各自で考察し、レポートにまとめ提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第４回	高齢者の栄養を支えるケア 【key words】 脱水予防　経管栄養　サルコペニア 【授業概要】 高齢者は脱水を起こしやすい。 なぜ高齢者が脱水を起こしやすいのか、その理由を解説する。 また、高齢者が脱水になる前にどう援助すればいいのかを事例を基に考えていく。 高齢者は栄養状態も悪化しやすく、改善させるのが困難である。 そうした場合にどのような援助ができるのか事例を基に考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ238～243 【課題・予習・復習・授業準備指示】 栄養状態のアセスメントについて復習しておくこと。 ミニテストを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第５回	高齢者の『食べたい』を支えるケア　講義・演習 【key words】 食事介助　摂食嚥下障害 【授業概要】 嚥下のメカニズムを基に、食事介助の方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 嚥下の機能とはたらきについて、人体構造機能学の知識を基に学習しておくこと。 高齢者看護援助論Ⅰの摂食嚥下機能のアセスメントについて復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第６回	高齢者の『尊厳』を守る排泄ケア 【key words】 失禁ケア　便秘 【授業概要】 「下の世話になりたくない」という高齢者は多い。 失禁が起こると高齢者の尊厳は損なわれる。 また、失禁は高齢者の生活にも影響を及ぼす。 失禁をなくす援助について事例を基に考えていく。 高齢者では便秘に悩んでいる人も多い。 便秘を改善する方法について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ161～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者看護援助論Ⅰで学習した排泄のアセスメントについて復習しておくこと。 排泄のアセスメントの知識を基に、事例に対する看護計画を立案し、期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
	第７回	高齢者の『安全』を守るケア 【key words】 リスクマネジメント　環境整備（転倒転落）　医療安全・災害看護　抑制 【授業概要】 高齢者は予期しない危険に巻き込まれることがある。 特に、認知症を抱える高齢者にとっては日常生活が大きなリスクとなることがある。 危険を回避することで、かえって高齢者の行動を制限してしまうこともあるため、リスクマネジメントとそのバランスについて考えを深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ122～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者の加齢に伴う変化とそのアセスメントについて学習しておくこと。 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ86～120 授業の理解度の確認として、授業終了後にミニテストを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第８回	高齢者の『活動』と『休息』を支えるケア 【key words】 ポジショニング、褥瘡、廃用症候群予防　フレイル 【授業概要】 自分で動けない高齢者にとっては、ベッド上が主な生活の場となることも少なくない。それによって褥瘡が発生することがある。 自分の踵や腰に大きな傷があることを想像してもらいたい。 きっと痛みによって、何かをする気にもならないだろう。

		褥瘡発生により高齢者のQOLは著しく低下する。 褥瘡発生には複雑な要因が絡み合い、高齢者の場合、一度褥瘡が発生すると改善、治癒させることが難しい。 そのため、褥瘡を予防することが最も重要である。 ではどのようにすれば褥瘡を予防できるのだろうか？ 高齢者の尊厳と快適性を追求したポジショニングについて考えていく。 皆さんは寝過ぎた時に、身体の節々が痛くなった経験はないだろうか？ 身体を動かさないでいると、痛みを生じるが、さらに動かさないままでいると、関節の拘縮が起こり、曲げたままの手足を伸ばすことができなくなってしまう。 いちど拘縮した手足を元に戻すのも困難である。 では、どのようにすれば拘縮を防げるのだろうか？ この授業では講義および技術演習を通して、こうした問いに対して答えられることを目指す。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p 142～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リフレクションシートを期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第９回	高齢者の『活動』を支えるケア 【key words】 アクティビティケア 【授業概要】 高齢者の方にとって、レクリエーションはどのような意味を持つのだろうか？ アクティビティケアは多くの施設で行われている、高齢者の活動を支えるケアである。臨地実習では学生主体でアクティビティケアを行うため、どういったアクティビティケアが行えるか、計画を立案していく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p 146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アクティビティケア計画書を各自で作成し、期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１０回	高齢者の『気持ちいい』を支えるケア 【key words】 足浴　手浴　ハンドマッサージ　疼痛緩和 【授業概要】 病院や施設で過ごす高齢者の方にとっての休息や安楽とは何だろうか？ 心地いいと感じてもらうことは、日々の生活に安らぎをもたらす。 この授業では足浴や手浴、ハンドマッサージに焦点を当て、アロマテラピーの効果と併せて心地よさを考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 足浴、手浴の技術については基礎看護学で学んだ技術をベースとして展開する。 事前学習として、足浴・手浴の技術について記載し、期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１１回	高齢者の『身じたく』を整え、社会性を高めるケア　講義・技術演習 【key words】 整容　髭剃り　メイクセラピー　スキンケア　口腔ケア 【授業概要】 何日か入浴しなかった経験はあるだろか？ 肌はべたつき、不快な感覚になったのではないだろうか？ 男性の高齢者にとっては髭剃りが身だしなみの習慣として根付いている方は多い。 また、女性の高齢者の方では化粧が習慣となっていることも多い。 身じたくをすることで、人は社会とつながろうと思うため、身じたく対するケアは欠かせない。 そうした身じたくを通した社会性を高めるケアについて考えていく。 また、高齢者では皮膚の乾燥や掻痒が問題となることも多い。 スキンケアを通した、高齢者のケアについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p 172～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎看護学で学習した清潔のケア技術について復習しておくこと。 事前学習として、口腔ケアの技術について記載し、期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１２回	認知症高齢者を支えるケア 【key words】 認知症　BPSD 【授業概要】 認知症の世界とはどのようなものなのだろうか？ 認知症を抱える高齢者は特別なわけではない。 認知症について正しい理解をすることで、認知症を抱える高齢者の置かれた状況が理解できるようになる。 認知症を抱えた高齢者が安心して過ごせるケアについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p 282～316 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に認知症ケアに関する資料を読み、自分であればどのようなケアを行うか記載すること。 認知症高齢者のケアについて期限までにレポートを提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】

	3時間 第１３回　高齢者へのコミュニケーションケア 【key words】 コミュニケーション　ユマニチュード　バリデーション　ライフストーリー 【授業概要】 高齢者とのコミュニケーションが難しいと感じることがあるかもしれない。 老年期はこれまでの人生を見つめ直す時期であり、それがコミュニケーションにも反映される。 それに加え、加齢による変化もコミュニケーションに影響を及ぼすことがさらにコミュニケーションを難しくする。 また、認知機能が低下している高齢者は孤独を感じることも多く、その心情を理解したコミュニケーションが不可欠である。 この授業では単なる意思疎通だけではなく、コミュニケーションによる高齢者のケアについて深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ198～213 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後、リフレクションシートを記載し、期限までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　高齢者の検査・治療　急性期の高齢者ケア 【key words】 薬物療法　検査　手術 【授業概要】 加齢は高齢者の回復状態にも影響を及ぼす。 急性期にある高齢者は成人期の患者とは違い、術後の合併症が起こりやすい。 また、薬物療法においても、加齢の影響が薬物動態に反映される。 また、ポリファーマシーは無視できない問題である。 高齢者の検査・治療に対するケアについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ318～333 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学習した加齢による変化について復習しておくこと。 ミニテスト 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　慢性期・回復期にある高齢者のケア　まとめ 【key words】 COPD　大腿骨頸部骨折 【授業概要】 高齢者では重複していくつもの疾患を抱えていることも珍しくない。 特に、慢性疾患を抱えている高齢者は多い。 事例を基に慢性期・回復期にある高齢者のケアについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　ｐ334～345 【課題・予習・復習・授業準備指示】 COPDおよび大腿骨頸部骨折に関する解剖生理、病態生理について復習しておくこと。 ミニテストを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと看護を学ぶため、高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰ、疾患の病態生理・治療と基礎看護学での生活援助の知識や演習内容の復習が必要である。 〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し、予習復習をして授業に臨むこと。　・疑問や不明点については積極的に質問する。　・他の学生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁 ①講義資料は教科書を予習・復習するためのものであるので授業前後に活用する。②課題レポートやワークシートに関しては決められた期限内に提出すること。③毎回の講義は学習テーマが異なるため欠席しないようする。④出席時間を守る、挨拶をもって授業に臨むことを忘れずに。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に示されるキーワードは教科書や配布された資料を活用し復習をしましょう。
オフィスアワー	毎週月曜日8：20～8：40 12:00～12：30
評価方法	課題レポート、ワークシートで総合評価する。グループワークの取り組みも評価の対象となる。 総合評価においては、課題レポート、ワークシート、小テストで60％を超えることが単位認定及び評価となる。
教科書	・系統看護学講座　老年看護学 ・系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論 ・講義資料を配布
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	病院において高齢者に対する看護実践経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
剱持　貴史　中島　葉子　平出　恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 慢性疾患や健康障害を併せもつ高齢者の特徴を捉え、「もてる力」を引き出すための看護援助の視点および生活機能に基づく看護過程の展開技術を修得する。 〔授業の到達目標〕 ①高齢者の看護過程展開に用いる生活行動モデルが理解できる。 ②老年期にある対象の特徴を理解し、生活機能の観点からアセスメントできる。 ③高齢者が望む生活や状態を見据えた目標志向型思考の看護展開ができる。 ④事例患者を通して、その人の「もてる力」を活かした高齢者に必要な看護援助の方法が理解できる。
授業の概要	本科目では、高齢者の「もてる力」を引き出す生活機能重視の看護を学習し、生活行動モデルによる看護過程の考え方を理解する。また、その人らしく生活を営むことができるよう、事例を通して目標志向型思考に合わせた看護の焦点を抽出し、高齢者とその家族の望む生活をめざした看護過程の展開技術を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション/高齢者の看護過程展開における特徴/高齢者看護に用いられる看護理論 【key words】 生活行動モデル、目標志向型思考、もてる力 【授業概要】 授業の受け方、授業展開、評価についてシラバスを基に説明する。 生活行動モデルの概要および目標志向型思考について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前にテキストの該当箇所について学習しておく。 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	事例展開①　情報の整理とアセスメント 【key words】 生活行動モデル、老年看護過程事例展開、アセスメント 【授業概要】 アセスメントツールについて説明する。アセスメントツールを基に事例に対するアセスメントを行う。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アセスメントツールについて復習し、教科書事例と照らし合わせて各自でアセスメントを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
	第３回	事例展開②　情報の整理とアセスメント 【key words】

【授業概要】
事例を提示し、事例を読み解く。
また、アセスメントツールを活用し、事例をアセスメントシートにまとめる。
事例展開する中で生じた疑問があれば、質問する。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
「生活機能からみた老年看護過程」
系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例展開した中で、疑問に生じたことをまとめ、質問できるようにしておく。

【予習復習に必要な想定時間】
5時間

第４回　事例展開③　病態・生活関連図/看護の焦点の明確化・優先順位の決定（グループワーク）
【key words】
病態・生活関連図、看護の焦点、優先順位の決定
【授業概要】
病態・生活関連図/看護の焦点の明確化・高齢者看護における優先順位の決定について説明し、その後グループで関連図の作成および看護の焦点を明確にしていく。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
「生活機能からみた老年看護過程」
系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自アセスメントを一通り完成させておく。アセスメントした記録用紙を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
5時間

第５回　事例展開④　病態・生活関連図および看護の焦点
【key words】
病態・生活関連図、看護の焦点、共有、ディスカッション
【授業概要】
各グループの病態・生活関連図および看護の焦点について発表し、グループ間での意見交換を行うことで、グループ間での関連図および看護の焦点に対する理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
各グループの関連図および看護の焦点についての資料を配付
系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の２日前までに、グループで作成した資料（病態・生活関連図、看護の焦点）の原本を提出。
自分のグループの資料をよく理解しておき、発表の準備を行う。

【予習復習に必要な想定時間】
5時間

第６回　看護過程演習：看護目標の設定/看護計画の立案と実施・評価/フローシート作成
【key words】
看護計画、もてる力
【授業概要】
看護目標および看護計画の立案、実施評価の方法、フローシートの作成について説明する。
各自で看護目標の設定、看護計画の立案と実施・評価、フローシート作成を行い、もてる力を活用した看護目標および看護計画の立案方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
「生活機能からみた老年看護過程」
系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420
【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまで行った学習について復習し、事例の全体像を理解し、看護の焦点を基にした看護計画について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
5時間

第７回　看護過程演習まとめ（グループワーク）
【key words】
看護計画、グループワーク、ディスカッション

【授業概要】
個人で立案した看護計画を持ち寄り、グループで看護目標および看護計画についてディスカッションを行う。グループごとに看護計画を立案する。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
「生活機能からみた老年看護過程」
系統看護学講座　老年看護学　医学書院　p408～420
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自で看護計画を完成させ、グループワークに持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第８回　看護過程演習まとめ（グループ発表）
【key words】
看護計画、対象理解、ディスカッション、共有
【授業概要】
各グループの看護計画を発表し、グループ間でディスカッションを行う。

	ディスカッションを通じて、看護目標および看護計画の立案に対する理解を深め、看護過程全体を通した対象理解に 【教科書ページ・参考文献】 看護計画についての資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の２日前までに、グループで作成した資料（看護計画用紙）を提出する。 各グループの発表も参考に、不足している箇所について、自身の記録用紙に追記し、提出できるようまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・本科目は高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱの履修要件となっている。 ・高齢者看護過程の演習では、疾患・病態・生活機能を多角的に捉えながら循環する5つの過程について段階を踏み学習していくため、欠席がないよう体調管理に万全を期すこと。 ・基礎看護学での生活援助の知識や演習の既習内容を復習しておくこと。 〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し、予習復習をして授業に臨むこと。 ・疑問や不明点については積極的に質問する。 ・他の学生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・グループワークでは、全員参加で活発な意見交換ができるように、個人の演習記録を整理して臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・高齢者看護学概論および高齢者援助論Ⅰについて復習しておく。 ・個人ワークシートおよびグループワークシートを時間外にも進める。
オフィスアワー	金曜日18時まで
評価方法	・看護過程展開の個人ワークシート42％／グループワークシート38％／グループワークおよび発表の自主性・積極性・協調性・責任性20％
教科書	系統看護学講座　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　老年看護学　病態・疾患論　医学書院
参考書	・生活機能からみた老年看護過程　第３版　医学書院,2016
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病院において高齢者に対する看護実践経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
平出　恵子　中島　葉子　剱持　貴史			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 多様化する高齢者の生活の場を理解し、他職種と協働して高齢者の健康生活を支えるために必要な看護を実践する能力を養う。 〔到達目標〕 ①多様化する高齢者の生活の場が理解できる。 ②高齢者の身体的・精神的・社会的特徴とライフステージが理解できる。 ③認知症高齢者とのコミュニケーション方法について理解できる。 ④他職種との連携を通して施設における看護師の役割・機能について理解する。 ⑤高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる。
授業の概要	老人保健施設及び老人福祉施設でそれぞれ１週間ずつ（計２週間）、各施設において実習を行う。 １．実習期間及び実習時間 期　間：前期実習　2020年5月 11日（月）～ 2020年　7月17日（金） 後期実習　2020年9月 28日（月）～ 2020年 11月27日（金） 時　間：8:30～16:00（原則） ※実習施設の時間に準じて実習していく 2. 実習単位及び時間数 高齢者看護学実習Ⅰ:2単位　90時間 3. 履修要件 以下の単位を修得している者が、高齢者看護学実習に臨むことができる。 1)人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ 2)疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ 3)看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ 4)高齢者看護学概論 5)高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	◎
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　実習要項参照 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回

	第8回 第9回 第10回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習要項（共通・高齢者看護学実習）、オリエンテーション用紙を参照し遵守すること。 ①入所者及び通所者のプライバシーを守るために個人情報の取り扱いには特に注意する。 ②遅刻・欠席の場合はグループリーダー、担当教員、大学に必ず8時30分までに連絡する。 ③事前に連絡ができない場合は大学事務局に必ず連絡する。 ④実習時間外には実習施設へ出入りしない。 ⑤学生単独での援助は絶対に行わない。 ⑥事故の危険がある場合、直ちに近くにいる職員に報告する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示する
オフィスアワー	実習要項参照
評価方法	1）実習目的の到達度を中心に以下の視点で総合的に評価する。 ①実習場面②実習へのとりくみ③実習記録、事前・事後レポート 2）担当教員の意見・指導者・スタッフの意見を参考とし、高齢者看護領域の会議において最終判定する。 3）成績評価は１００点満点とし60点以上を合格とする。 4）所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、成績評価及び単位認定を受けられない。 5）記録などの提出遅れは、成績評価に影響する。 ６)実習評価の結果、合格した者は所定の単位を習得できる。
教科書	系統的看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学　第9版　第3刷　医学書院（2019） 生活機能から見た　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　第3版　第2刷　医学書院（2017）
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論（医学書院）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護学実習Ⅱ(医療施設等)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
平出　恵子　中島　葉子　剣持　貴史			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療施設における多様で個別的な健康障害をもつ高齢者とその家族を総合的に理解し、対象のもてる力を活かしながら、健康の回復・維持・増進を図る看護を実践するための基礎的能力を養う。 〔到達目標〕 ①高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を踏まえ、対象および家族のもてる力を活かした看護過程の展開ができる。 ②保健・医療・福祉チームメンバーとの連携を通して、期待される看護師の役割が理解できる。 ③高齢者および家族が必要としている社会資源が理解できる。 ④地域に向けた、継続看護の必要性が理解できる。 ⑤高齢者の人権を尊重する態度と高齢者観を深め、今後の自己の課題を明確にできる。
授業の概要	1. 実習期間及び実習時間 期　間：前期実習　2020年5月 11日（月）～ 2020年　7月17日（金） 後期実習　2020年9月 28日（月）～ 2020年 11月27日（金） 時　間：8:300～16:00（原則） ※実習施設の時間に準じて実習していく 2. 実習単位及び時間数 高齢者看護学実習Ⅱ:2単位　90時間 3. 履修要件 以下の単位を修得している者が、高齢者看護学実習に臨むことができる。 1)人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ 2)疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ 3)看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ 4)高齢者看護学概論 5)高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　実習要項参照 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回

	第８回 第９回 第１０回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習要項（共通・高齢者看護学実習）、オリエンテーション用紙を参照し遵守すること。 ①入所者及び通所者のプライバシーを守るために個人情報の取り扱いには特に注意する。 ②遅刻・欠席の場合はグループリーダー、担当教員、大学に必ず8時30分までに連絡する。 ③事前に連絡ができない場合は大学事務局に必ず連絡する。 ④実習時間外には実習施設へ出入りしない。 ⑤学生単独での援助は絶対に行わない。 ⑥事故の危険がある場合、直ちに近くにいる職員に報告する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示する。
オフィスアワー	実習要項参照
評価方法	1）実習目的の到達度を中心に以下の視点で総合的に評価する。 ①実習場面②実習へのとりくみ③実習記録、事前・事後レポート 2）担当教員の意見・指導者・スタッフの意見を参考とし、高齢者看護領域の会議において最終判定する。 3）成績評価は１００点満点とし60点以上を合格とする。 4）所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、成績評価及び単位認定を受けられない。 5）記録などの提出遅れは、成績評価に影響する。 ６)実習評価の結果、合格した者は所定の単位を習得できる。
教科書	系統的看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学　第8版　第2刷　医学書院（2017） 生活機能から見た　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　第2版　第5刷　医学書院（2016）
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論（医学書院）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　在宅看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 疾病や障がいを持ちながら、生活する人々とその家族が生活を継続していくための支援に必要な在宅看護の基礎的能力を養う。 [到達目標] ①在宅看護の目的、対象、活動の場、位置づけが理解できる。 ②在宅看護の変遷、背景が理解できる。 ③在宅看護の特徴が理解できる。 ④療養者とその家族の特徴が理解できる。 ⑤在宅における主な社会資源、連携、チームケア、地域包括ケアシステムの基礎知識が理解できる。 ⑥在宅における倫理の特徴、展望が理解できる。
授業の概要	疾病や障がいを持ちながら、生活する人々とその家族が生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎的能力を養う。在宅ケアが推進される少子高齢化や保健・医療・福祉施策の動向と在宅療養者の健康上の課題・問題が生活に及ぼす影響を理解し、在宅療養者及び家族介護者が、安全・安楽Ⅱ生活を継続していくために必要な在宅看護における看護師の機能と役割を学ぶ。更に在宅療養を支える在宅看護に関連する制度やシステム、他職種との連携及び社会資源の活用について総合的に理解し、在宅での看護活動における倫理的課題について考える。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　在宅看護の概念 【key words】 在宅看護、訪問看護・継続看護　地域看護　公衆衛生看護 【授業概要】 ①科目オリエンテーションを通し、本科目の学習内容と方法の説明をする ②在宅看護の概念について、これまでの学習を想起しながら本科目の基盤となる基礎知識を講義する 【教科書ページ・参考文献】 メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P12-31　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回課題-教科書P12－24を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
	第2回	在宅看護の社会背景・変遷 【key words】 在宅看護を取り巻く社会背景・在宅看護の歴史的変遷・少子高齢化・医療の地域へのシフト 【授業概要】 ①在宅看護を取り巻く社会背景と在宅看護の役割② 在宅看護の歴史的変遷と現状について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P12-24　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療機関内看護との相違　　教科書P26-35、49-51を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】

1－2時間程度

第3回　在宅看護の特徴・機能

【key words】
在宅看護の特徴、在宅看護の機・在宅看護を可能にする要件
【授業概要】
① 医療機関内看護との相違、② 在宅看護の特徴、③ 訪問看護師が行う活動　④ 在宅看護を可能にする要件について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
メデイカ出版　地域療養を支えるケア教科書P26-35、49-51　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料にある授業計画を再度読んでおく、配布した新聞記事を熟読する。

課題の教科書を読み、在宅看護の対象の特徴について整理して臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第4回　在宅看護の対象の特徴

【key words】

在宅看護の対象・療養者・利用者、ICFの概念

【授業概要】
① 在宅看護を必要とする対象の発達段階・健康段階の特徴、② 対象の抱える課題・問題③ 疾患・障害・状態状況別、ICFの概念と対象の捉え方、④ 地域社会における生活者として在宅看護を必要とする対象の特徴、抱える課題・問題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

メデイカ出版　地域療養を支えるケアP38-64　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義で取りあげた箇所について使用テキストを読み,理解を深めておく。配布した新聞記事を熟読する

在宅看護の対象の特徴、家族についての自身のイメージを整理する
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第5回　在宅看護の対象としての家族

【key words】
家族とは・家族の機能・家族介護・家族アセスメント・家族援助

【授業概要】
① 家族の定義、② 家族の機能・家族の特質、③ 家族介護の現状と課題、④ 家族援助の特徴について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P52-67　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

在宅看護における家族援助について使用テキストを読み,理解を深める。次回「「地域包括ケアシステム・多職種連携・チームケア］　P70 - 109をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第6回　療養生活を支える社会資源

【key words】

地域包括ケアシステム・連携・チームケア・ケアマネジメント

【授業概要】
① 在宅生活を支える保健医療福祉資源　定義、目的、② 在宅看護における主な保健医療福祉制度とその特徴、・医療保険制度・介護保険制度・障害者福祉制度・公費負担制度などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P70 - 109　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関心のある社会資源について教科書P112 - 162を読みまとめておく（例介護保険制度）

【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第7回　地域包括ケアシステム・多職種連携、チームケア

【key words】
社会資源・医療保険・介護保険制度・障害者福祉・公費負担制度

【授業概要】
① 地域包括ケアシステムの概要・多職種連携、② 関連機関・職種とその特徴、③ チームケア、④ 看護と介護、⑤他職種連携と看護職の役割について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
メデイカ出版　地域療養を支えるケアP112 - 162　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	夏休み中の調べ学習提示：社会資源一覧配布・地元の地域特性について調べ学習をする。 次回「在宅看護における倫理」について教科書P36-39を読み整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度 第8回　在宅看護と社会資源、在宅看護における倫理、展望と課題 【key words】 在宅看護に於ける倫理的課題・在宅看護の課題 [教科書ページ・参考文献] [課題・予習・復習・授業準備] 【授業概要】 ① 障害者福祉制度・医療保険制度・公費負担制度、② 在宅看護における倫理的課題、③ 在宅看護の課題・展望について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 メデイカ出版　地域療養を支えるケアP36-39、P112‐162　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験、夏休み中の調べ学習に関する説明、此れまでの振り返りをする。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ①予習：教科書を読んでくる。指示された事前学習レポートを整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント、資料を読み返す。 [受講のルール] ①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱いとする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載する事。記載する事で表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	☑コメントカード方式　□シャトルカード方式　　□ICT利用（Webフォームやメールなど） □その他（　　）
授業外時間にかかわる情報	授業計画、紹介された文献・資料は必ず確認する。在宅医療、保健・福祉に関する新聞、広報紙に関心を持ち積極的に収集する姿勢を持つ。
オフィスアワー	授業終了後18時まで
評価方法	①筆記試験　80％(教科書、講義内容全般から出題する) ②演習課題　20％(提出期限を厳守する) ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60％以上を超えていることが前提(詳細な評価基準は授業概要参照)
教科書	台　有桂　他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019
参考書	台　有桂　　他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版　2019 樋口キエ子、式惠美子：退院支援から在宅ケアへ‐看護職種はライフサポーター、筒井書房、2010 国民衛生の動向　2018／2019　厚生統計協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟・外来勤務19年、在宅看護学が看護教育に設置された平成8年度以降、訪問看護ステーションでの同行訪問研修、在宅看護学に関する研修会、勉強会、研究、著書等を積み重ね現在にいたっている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　在宅看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(15)	必修
担当教員			
塚越八重子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕在宅療養者とその家族の特徴について学び、在宅看護の援助方法とケアマネジメントについて理解できる。 〔到達目標〕 ①在宅療養、在宅における看護活動の特徴が理解できる。 ②訪問看護制度、訪問看護事業所の特徴が理解できる。 ③在宅看護における看護過程の特徴・展開方法が理解できる。 ④在宅における日常生活援助、医療処置管理の特徴・方法が理解できる。 ⑤在宅での日常生活援助、医療処置管理を要する対象の事例展開を通して看護活動の特徴が理解できる ⑥社会資源の活用とケアマネジメントの特徴・方法が理解できる ⑦退院支援の意義と方法が理解できる
授業の概要	訪問看護活動の特徴、･療養者とその家族とのコミュニケーションの取り方・在宅における療養生活支援の知識技術および看護過程展開･社会資源の活用とケアマネージメントの実際を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　在宅療養者とその家族の特徴・訪問看護制度・訪問看護事業所 【key words】 在宅看護、継続看護、訪問看護制度、訪問看護事業所、家族看護、訪問看護指示書、訪問看護報告書、特別訪問看護指示書 【授業概要】 科目の全体像と進め方について説明する。在宅療養者とその家族の特徴、訪問看護制度と訪問看護事業所の役割機能、訪問看護活動の特徴について概論での学習内容想起とつなげて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 臺有桂他編、ナーシンググラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア、メディカ出版2019(以下教科書①という）、P.164~189 【課題・予習・復習・授業準備指示】 在宅看護学概論で学習した介護保険と医療保険他、訪問看護に関連する法、制度について整理する。 ワークシート、課題学習を持参し参照する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	訪問看護過程、初回訪問、介護保険制緯度と訪問看護 【key words】 家庭訪問、インテーク、アセスメント・看護計画・実践、評価、介護保険制度と訪問看護サービス 【授業概要】 家庭訪問、初回訪問のマナー準備、在宅看護過程について療養者と家族の主体性を尊重し、その意向を主眼に置いた看護過程の展開を説明する。そのために、エコマップ・ジェノグラムを活用して展開する方法について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①　P.38-91,臺有桂他編、ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支え技術、メディカ出版2019(以下教科書②という）　P.14-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 在宅看護学概論で学習した地域特ワークシートと課題学習ノートを持参する。 教科書①P.38-91,(技術の）P.14-55をよく読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	在宅看護と社会資源・在宅看護におけるマネジメント

【key words】
社会資源、介護保険、医療保険、後期高齢者医療制度、障がい者総合支援法、難病特別対策推進事業
法定外サービス
【授業概要】
医療依存度の高い療養者の在宅において活用できる社会資源のマネジメント方法を、地域特性を踏まえて説明し、演習で事例とつなげる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①　P.112－163

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストP.112-163をよく読んでくる。在宅看護学概論で学習した地域特性のワークシートを見直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　在宅看護と社会資源・在宅看護におけるマネジメント
【key words】
社会資源、介護保険、医療保険、後期高齢者医療制度、障がい者総合支援法、難病特別対策推進事業
法定外サービス
【授業概要】
医療依存度の高い療養者の在宅において活用できる社会資源とそのマネジメントについて地域特性を踏まえて説明する
【教科書ページ・参考文献】
教科書①　P.112-163

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストP.112-163をよく読んでくる。在宅看護学概論で学習した地域特性のワークシートを見直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　在宅における日常生活援助・医療処置管理
【key words】
在宅療養における食事・移動・清潔、在宅経腸栄養、胃瘻の種類と特徴、訪問入浴介護
【授業概要】
在宅療養を継続する療養者・家族が生活する上で予測される食事・移動・清潔に関する困難に対してアセスメントの視点と援助方法について説明する。(意向の確認、観察・アセスメントの視点、援助用具の工夫、介護と看護の区別と診療報酬の関連)
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.208 -236 、②P.56-163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①P.208-236、②P.56-163をよく読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　在宅における日常生活援助・医療処置管理
【key words】
在宅療養者の排泄ケア、人工肛門処置管理、人工膀胱処置管理、インスリン自己注射、HOTの管理指導、服薬カレンダー、特別訪問看護指示書
【授業概要】
在宅療養を継続する療養者・家族が生活する上で予測される排泄・服薬管理に関するアセスメントの視点と援助方法について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.208-236、②P.56-163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①P.208-236と②P.56-163及び、成人看護学等で学習した関連内容を復習してくる
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　在宅における日常生活援助・医療処置管理
【key words】
高カロリー輸液、CVポート管理、褥瘡処置管理指導、DESIGN分類、
【授業概要】
在宅療養を継続する療養者・家族に予測される褥瘡・ストーマケア・輸液療法などの医療処置・管理についてアセスメントの視点と援助方法について理解する。
(看護過程演習事例提示し説明)
【教科書ページ・参考文献】
教科書①208-236、②P.56-163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
看護過程演習で展開する事例の疾病に関する症状を含む病態・治療・経過と看護についてレポートに整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　在宅における日常生活援助・医療処置管理
【key words】
特定疾患治療研究事業、HOT,人工呼吸器、アンビューバッグ、酸素吸入、緊急時対応
【授業概要】
在宅療養を継続する療養者・家族が人工呼吸器などの医療処置・管理をする際のアセスメントの視点と援助方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書①P.208-236、②P.56-163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
在宅療養者の人工呼吸器管理と指導をこれから展開する事例と関連させて情報収集する
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　退院支援と在宅看護
【key words】
退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時の課題アセスメント、
退院支援部門、外来看護
【授業概要】

		退院支援の背景と目的、退院支援のプロセス、看護職の役割を説明する 【教科書ページ・参考文献】 教科書①　P.70-111 樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①及び、樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	退院支援と在宅看護 【key words】 退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時のアセスメント、退院支援部門、 外来看護 【授業概要】 1)退院支援の背景、目的、2)退院支援のプロセス、３）退院支援における看護の役割について説明する 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P.70-111 樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①及び、樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	退院支援と在宅看護 【key words】 退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時の火災、アセスメント、退院支援部門、 外来支援 【授業概要】 退院する場合に必要な援助について整理した事例について、講義と関連させて退院支援の過程について整理する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P.70-111 樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①及び、樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	在宅療養者・家族の看護過程展開　演習① 【key words】 被殻出血、SLA,エコマップ・ジェノグラム、アセスメント、療養者・家族の課題・看護上の問題、 【授業概要】 2つの事例を用いて、グループワークで看護過程の展開をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①②全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①及び、樋口キエ子他編；退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	在宅療養者・家族の看護過程展開　演習② 【key words】 被殻出血、SLA,エコマップ・ジェノグラム、アセスメント、療養者・家族の課題・看護上の問題、 【授業概要】 事例を用いて看護過程の展開をする。 グループワークで情報のアセスメントから全体像、看護課題・看護上の問題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P.208-236、②P.56-163 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで主体的に継続してワークを進める。 グループワークで検討したことを踏まえて各自が事例の全体像を指定された日時までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	在宅療養者・家族の看護過程展開　演習③ 【key words】 被殻出血、SLA,療養者・家族の課題・看護上の問題、看護目標(長期・短期）、OP,TP,EP、社会資源活用 【授業概要】 事例を展開し抽出した課題、看護上の問題から1つ以上を選び出来るだけ具体的なOP.TP.EPの看護計画立案をする。 事例展開のプロセスと看護計画を伝わりやすく発表するための資料作成をする 【教科書ページ・参考文献】 教科書①② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会資源を活用した在宅療養者の看護をこれまでの資料を参考に取り入れた計画作成 聴講者に伝わりやすい発表のための資料作成と工夫 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	在宅療養者・家族の看護過程展開　演習④ 【key words】 被殻出血、SLA,エコマップ・ジェノグラム、アセスメント、療養者・家族の課題・看護上の問題、 【授業概要】 各グループワークで展開したプロセスと看護計画を発表し、情報交換を通して更に深く多面的な

	視点で・具体的な看護を理解する。。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習：教科書を読んでくる。指示された事前学習レポートを整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱とする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	授業のあった日の放課後18時まで（ただし、実習指導等で学内に不在時以外は除く）
評価方法	①筆記試験80%、（教科書、講義内容全般から出題する）。 ②演習課題20%（提出期限を遵守する）。 ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提（詳細な評価基準は授業概要参照）
教科書	台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017 台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論②　地域療養を支える技術、メディカ出版、2017
参考書	岡崎美智子、正野逸子編：根拠がわかる在宅看護援助技術第２版．メヂカルフレンド社．2010 樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 国民衛生の動向　2015/2016　厚生統計協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 訪問看護ステーション等経営管理論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 地域の病院や診療所と提携し、地域ケアを支える訪問看護ステーション等における 看護サービスと事業の経営・管理について理解できる。 [到達目標] ①訪問看護の歴史が理解できる。 ②訪問看護の役割が理解できる。 ③訪問看護ステーションの経営が理解できる。 ④他機関との連携が理解できる。
授業の概要	地域ケアを支える訪問看護ステーション等の経営・管理を理解するために、訪問看護や訪問看護師及び訪問看護ステーションや他の関連機関について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・在宅看護論実習の振り返り 【key words】 訪問看護、訪問看護師、訪問看護ステーション 【授業概要】 在宅看護論実習を振り返り、グループワークにより他者の学びを知り、グループとして提供したい訪問看護について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 各自在宅看護論実習記録持参・配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人で行いたい訪問看護とグループで行いたい訪問看護についてレポートにまとめ提出。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
	第２回	訪問看護の歴史・市場調査・地域の特徴 【key words】 訪問看護制度、訪問看護市場動向、地域 【授業概要】 地域のニーズとグループで提供したい訪問看護が関連するのかを検討することができる。 【教科書ページ・参考文献】

「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版　最新版
・まえがき、ｐｐ１～３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題について自己学習、教科書を読み深めて臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第３回　訪問看護の役割・訪問看護ステーション立ち上げ
【key words】

訪問看護に必要な資金・人材・設備、労務管理、開設準備、申請手続き

【授業概要】

地域のニーズを反映した仮設の訪問看護ステーションをグループで設立することができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ３４～９６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回講義前日までに、各グループは発表原稿を学生数＋1部を印刷し、教務事務に預けておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第４回　訪問看護ステーションの概要・訪問看護ステーション立ち上げまでの経緯
【key words】

訪問看護ステーションの現状と未来、サービス情報の公開、個人情報の保護規定

【授業概要】

全グループが訪問看護ステーションの開設経緯を発表し、異なる開設経緯を共有することができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１～５、ｐｐ９７～１０６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ発表により気づいたことを、各自レポートにまとめ、次回講義前日までに提出
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第５回　地域における訪問看護ステーションの役割・訪問看護師の臨床推論・対象者の選定
【key words】

利用者主体、訪問看護サービス、訪問看護師の役割・対象者のニーズへの対応・訪問看護師の臨床推論
【授業概要】

訪問看護ステーションの地域での役割、訪問看護師の臨床推論について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１０７～１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題について自己学習、教科書を読み深めて臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第６回　訪問看護と事業経営　・訪問看護ステーションの年間収支予測
【key words】
事業、経営、介護報酬、診療報酬、収支予測

【授業概要】
訪問看護ステーションの年間収支を検討する中で、安定した経営について考えるとともに、ことができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１６３～１７９、ｐｐ２１０～２６８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題について自己学習、教科書を読み深めて臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第７回　訪問看護ステーションの経営管理・訪問看護ステーションの年間収支予測
【key words】
収支予測、経理、税金、評価、管理

	【授業概要】 訪問看護ステーションの年間収支を検討し、安定した経営や管理について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１７２～２６８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回講義前日までに、各グループは発表原稿を学生数＋1部を印刷し、教務課に預けておく。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度 第８回　他機関との連携・訪問看護ステーションの設立・経営・管理からの学び 【key words】 多機関・他職種との連携、訪問看護ステーションの多機能化 【授業概要】 訪問看護ステーションの経営や関連する他機関について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ２６９～３０７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本科目の学びを振り返る。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	テキストは「訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル」日本看護協会出版を使用。資料は適宜配布する。 ただし授業で配布する資料の予備は保管しませんので、各自準備し出席するこ 授業時適宜レポートの提出を求める。レポート用紙は各自準備し出席すること。 受講態度は、看護学生にふさわしい態度で臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験70%、レポート評価（誤字脱字がなく、自分の考えが述べられている）30% 総合評価は筆記試験とレポート評価の合計点が60%を超えることが前提となる。
教科書	「新版　訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル　第3版」日本看護協会出版会
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 在宅看護論が看護基礎教育に開設以来、40年余に渡り在宅看護学教育に携わり、訪問看護ステーションでの研修、在宅看護関連の学習・研究をしてきた。訪問看護ステーション経営経験のある教員と共に担当する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　地域看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
奥野　みどり　、橋本　いずみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 地域看護学を概観し、看護職としての地域、地域住民の健康の捉え方、活動のあり方を学ぶ。 【到達目標】 ①地域看護学の概念、歴史、社会的背景を理解できる。 ②地域住民に対する健康支援のあり方について理解できる。 ③公衆衛生及び地域保健活動ついて基本的な知識を習得する。
授業の概要	地域看護学、公衆衛生看護学の概念、基本的な知識、公衆衛生の歴史、法律、政策等を調べることや、現場の保健師からの講話やヘルスプロモーション活動への参加を通して公衆衛生看護活動について理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、公衆衛生看護活動とは 【key words】 地域看護　公衆衛生看護、ヘルスプロモーション　保健師 【授業概要】 授業の全体像を理解し、看護学における地域看護学及び公衆衛生看護学の位置づけを理解し、全８回をどのように学習していくのか学習計画を考える。公衆衛生看護の基盤となる理念を具体的に理解し、説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ2―21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	公衆衛生看護の対象と活動の場 【key words】 保健活動　個人と家族　地区組織　行政機関　国際化 【授業概要】 公衆衛生看護の対象となる、個人・家族、地域を、対象の特徴を把握し、実際の活動を通して理解する。 公衆衛生活動を展開する場として最も割合の多い行政機関について、組織・機関（保健所、市町村保険センター等）・主な業務について学ぶ。行政機関以外での場としての、産業分野、学校、医療施設における役割や、国際化に伴う新たな視点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ24―68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	公衆衛生看護の歴史 【key words】 訪問看護　保健所法　保健婦規則　保健婦助産婦看護婦法 【授業概要】 19世紀イギリスで始まった訪問看護～我が国戦後の公衆衛生看護婦の歴史のＤＶＤを視聴し歴史を理解する。また、我が国の公衆衛生看護は歴史的にどのように変遷し、社会環境の変化にどのような影響を受けてきたかを知る。歴史を学び「保健師とは、どのような役割を担う職業と考

えるか」グループでまとめ発表する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ218―237　DVD（公衆衛生看護の歴史）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　社会環境の変化と健康課題
【key words】
少子高齢化　疾病構造　健康の決定要因　災害　健康危機管理
【授業概要】
　地域の人々の健康とその支援を考える時、社会環境は切り離せない重要事項であることを理解し、社会の変化の概要を理解する。人口構成や経済・科学の発展、グローバル化などにより疾病構造も健康課題も大きく変化している。社会環境の変化に影響することを体系的に理解する。健康についても、社会的要因ににより決定されることを理解する。災害における公衆衛生看護活動の重要性を知る。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ70―86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60

第５回　公衆衛生看護活動の展開
【key words】
健康　医療モデルと生活モデル　ポピュレションアプローチ　保健師の活動
【授業概要】
　健康と生活との関係を理解し、公衆衛生看護活動を展開する方法である医療モデルと生活モデル及び予防の概念を理解する。公衆衛生活動の集団へのアプローチ方法であるポピュレションアプローチとハイリスクアプローチの、実際の活動における適用を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ88－106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　公衆衛生活動の計画・実践・評価
【key words】
ＰＤＣＡサイクル　地域診断　実施と評価　住民参加・協働
【授業概要】
　公衆衛生看護活動がＰＤＣＡサイクルを基本に展開されること理解する。計画が地域診断に基づき分析されたデータや日々の活動からの情報などにより策定され、計画に基づき実施、評価、改善（見直し）の一連の流れを
理解する。地域診断の演習（情報収集、アセスメント）
【教科書ページ・参考文献】
ｐ108―141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　計画の策定と施策化
【key words】
健康日本２１　保健計画　策定プロセス
【授業概要】
　保健計画が、地方自治体のほかの計画との整合性が取られているなど、どのような視点で策定されているのか経緯等も含め全体像を捉える。日本における保健計画の変遷を把握し、今後どのような計画を立てることが求められているのかを理解する。行政保健師の業務がＰＤＣＡサイクルの繰り返し行われていることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ144―161
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　公衆衛生看護管理
【key words】
地域看護管理　協働　地域ケアの質　業務管理
【授業概要】
公衆衛生看護管理がどのようなもので、どのような機能があるのか理解する。働く組織における運営管理や保健師の人材育成を含めた人事管理を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P164－20④ あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。人材区政しすてむ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業終了後は、これまでの講義内容を振り返り、重要な個所など、資料、ノートを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 欠席者の資料を持っていく場合は、教員に断わってから責任を持って欠席者に渡してください。 基本的には欠席者の資料は次回の授業までに教員のところに取りに来てください。

	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内で指示された課題を指示された日程までに提出すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）70%　　②積極的な参加10%…教員評価　　③レポート20% 注：総合評価は①～③合わせて60%を超えていることが前提となる。 注：レポートは期限内に提出がない場合、減点する。
教科書	第4版データ更新　公衆衛生看護学. jp. インターメディカル. 2017
参考書	国民衛生の動向 2017/2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　地域看護学活動論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
奥野　みどり・勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　看護師の活動対象が病気・障害のある人々から健康な人々まで広がっている現状において、多様な健康支援の方法を理解する。 【到達目標】 ①地域で暮らす人々の健康とQOLの維持向上を目指す地域看護活動のあり方がわかる。 ②ライフステージ別対象（母子、成人、高齢者）及び健康課題別対象（精神、難病、感染症）に対する保健活動の概要と支援方法がわかる。 ③多職種と協働・連携しながら地域看護活動に取り組む必要性について考察できる。
授業の概要	地域に生活する様々なライフステージの対象者の健康の保持増進、疾病予防、回復の促進について地域で展開される看護活動について、看護職として必要な基本的な知識と技術を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　①個人および家族の発達段階と保健活動、②母子保健概論 【key words】 講義の受け方、発達段階、保健活動、母子保健 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期の6段階に分けた各階層の発達と健康課題及びその時期に伴う保健活動について学ぶ。個人のライフサイクルと同じように、家族にも一定の周期的な変化の過程がある。家族の発達段階と課題について概説する。 ３）母子保健の理念と変遷について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.14-40 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域看護学概論の復習をして授業に臨む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	母子保健施策・母子保健活動の実際　母子保健活動と保健師の役割 【key words】 母子保健、乳幼児の健康、健やか親子21（第2次）、児童虐待 【授業概要】 １）主な母子保健施策と健やか親子21（第2次）や子ども・子育て支援新制度等の母子保健計画と保健師の役割について学ぶ。 ２）妊産婦、乳幼児、生涯を通じた女性の健康支援について理解を深める。 ３）児童虐待をはじめ、健康上のリスクをもつ母子への保健指導等、母子保健活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.2-13,41-54 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。

課題：児童虐待に関するレポート課題を提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　成人保健概論　成人保健施策
【key words】
成人保健、健康日本21（第2次）、健康増進
【授業概要】
１）地域における成人保健活動を支える理念・概念及び成人保健の動向について学ぶ。
２）健康日本21（第2次）、健康増進法、特定健康診査・特定保健指導等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.56-62
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　成人保健活動の実際　成人期の主な生活習慣病と保健指導
【key words】
成人保健、生活習慣病、メンタルヘルス
【授業概要】
１）成人期の対象者のセルフケア能力の向上（一次予防）を図るための取り組みについて学ぶ。
２）成人期の主な生活習慣病と保健指導について学び、日々の食生活と運動習慣の重要性について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.63-76
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　高齢者保健概論　高齢者保健施策
【key words】
高齢者保健、介護保険制度、地域包括ケアシステム
【授業概要】
１）高齢者保健活動の理念・高齢者保健医療福祉の変遷について学ぶ。
２）高齢者保健の現状、高齢者保健施策と保健師の役割について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.78-109
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　高齢者保健活動の実際　要支援・要介護高齢者および介護者の特性と保健師活動
【key words】
高齢者保健、要支援・要介護、認知症、高齢者虐待
【授業概要】
１）高齢者保健活動の理念、高齢者保健医療福祉の変遷について学ぶ。
２）介護保険制度及び後期高齢者医療制度について学ぶ。
３）高齢者の健康と生活特性を理解し、高齢者の健康と生活を支える保健活動について学ぶ。
４）要支援・要介護高齢者及び介護者の特性と保健師活動について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.78-109
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　難病保健概論　難病保健施策　地域の難病療養者の生活と地域のサポートシステム
【key words】
難病保健、難病療養者、難病支援活動、地域ケアシステム
【授業概要】
１）難病保健の理念と定義、国・都道府県・市町村での具体的な難病対策について学ぶ。
２）症状の進行に伴う困難や受容に関する困難、社会生活の変化に関する困難等、地域で生活する難病療養者に対する支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.154-181

参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　障害者（児）保健概論　障害者（児）保健施策　障害者（児）の生活特性と自立支援
【key words】
障害者（児）保健、障害者総合支援法、障害者理解
【授業概要】
１）障害者保健の理念、障害者の定義や分類について学ぶ。
２）障害者（児）保健施策の変遷及び現在の障害者（児）保健施策について学ぶ。
３）障害者（児）の生活特性について学び、地域で生活する障害者（児）に対する保健師活動について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.136-152
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　精神保健概論　地域における精神保健に関する健康課題　精神障害者の生活特性と保健師活動
【key words】
精神保健、精神疾患、社会復帰
【授業概要】
１）精神保健の基本理念、精神保健施策の変遷について学ぶ。
２）家庭、学校、職場等の場によって特有の精神保健上の問題が生じる。そのような地域集団の健康問題に対する支援について理解を深める。
３）統合失調症、パーソナリティ障害、神経症性障害等の生活特性と保健師活動について学ぶ。また、うつ病や自殺などの問題、嗜癖・依存症や発達障害、社会的引きこもりに対する支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.112-134
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　感染症保健概論　感染症にかかわる保健師の活動　主な感染症　結核対策
【key words】
感染症保健、感染症類型、結核対策
【授業概要】
１）感染症保健の理念と変遷、感染症法の対象となる疾患、患者等の人権への配慮について学ぶ。
２）主な感染症の最近の動向を学び、感染症における疫学的視点をもつことの重要性について理解を深める。
３）わが国における重要な振興・再興感染症や性感染症、結核等、主な感染症と保健師活動について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.184-211
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　健康危機管理（定義と現状）　災害保健概論　災害と保健師活動
【key words】
健康危機管理、災害保健活動
【授業概要】
１）健康危機管理の定義について理解し、健康危機管理の現状及び健康危機管理システムと保健所における健康危機管理業務について学ぶ。
２）災害の定義と分類、被災者への迅速な保健活動等、災害と保健師活動の実際について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.316-357
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書の該当ページをよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　歯科口腔保健概論　歯科口腔保健施策　主な歯科疾患の保健指導

	【key words】 歯科口腔保健、歯科疾患と保健指導 【授業概要】 １）歯科口腔保健の理念及びう歯や歯周病、摂食・嚥下障害等の歯科口腔保健の現状について学ぶ。 ２）8020運動等、生涯を通じた歯科口腔保健対策について学ぶ。 ３）母子歯科保健、学童歯科保健、成人・高齢者の歯科保健活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.214-223 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１３回　歯科口腔保健（演習） 【key words】 歯科口腔保健、歯科衛生士、歯磨き指導 【授業概要】 歯科衛生士による歯科口腔保健の講話、歯磨き指導の演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.214-223 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回　学校保健 【key words】 学校保健、養護教諭、不登校 【授業概要】 １）学校保健の理念、学校保健の歴史と現状及び学校保健のしくみについて学ぶ。 ２）保健室の機能と保健室経営等、養護教諭の職務内容について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.226-255 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回　産業保健 【key words】 産業保健、労働安全衛生管理、ワーク・ライフ・バランス 【授業概要】 １）産業保健の概念と労働者の健康を支援するための制度について学ぶ。 ２）産業保健の現状について理解する。また、産業活動に伴う健康問題と保健活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.258-296 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2018/2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・携帯電話を机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習として教科書を読んで授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。教科書、配布資料をよく読み復習すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記試験（客観・論述）90％ レポート 10％
教科書	標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　2020

参考書	国民衛生の動向 2018/2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護学原論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
奥野　みどり　橋本　いずみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生看護活動に必要な基本的知識を習得する。 【到達目標】 ①地域保健活動過程の一連の流れがわかる。 ②地域診断の意義と目的がわかる。 ③地域保健計画、事業計画と保健師の役割がわかる。
授業の概要	公衆衛生看護活動の基本となる公衆衛生看護過程、地域診断、事業計画、予算、評価（疫学的評価方法を含む）、行政保健師に必要な自治体に関する基本的知識を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　地域診断の概念　地域保健活動に用いる理論 【key words】 講義の受け方、公衆衛生看護、地域診断、地域保健活動 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）患者に対する看護過程の展開と同様に、地域保健活動においては、地域保健活動過程を実践する。保健師が地域保健活動過程を実践する意義と目的について学ぶ。 ３）プリシード・プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル等の地域保健活動に用いる理論について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.97-102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：地域診断の概念及び地域保健活動に用いる理論について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	地域保健活動の方法、地域診断の過程（情報収集と地域アセスメント）【演習①】 【key words】 地域診断、既存の資料、情報収集、地域アセスメント 【授業概要】 次年度、おくたのげんき隊としてボランティア活動を担うにあたり、既存の資料からA町の地域診断を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.103-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 課題：次年度、おくたのげんき隊として活動するにあたり、A町の地域診断を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	地域診断の過程（情報収集と地域アセスメント）【演習②】 【key words】 地域診断、既存の資料、情報収集、地域アセスメント 【授業概要】

		次年度、おくたのげんき隊としてボランティア活動を担うにあたり、既存の資料からA町の地域診断を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.103-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書及び配布資料をよく読み、地域アセスメントに活用する。 課題：A町の地域診断を実施し、提出する（締め切り厳守）。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	疫学概論　疫学の指標、疫学調査法 【key words】 疫学概論、疫学の指標、疫学調査法 【授業概要】 疫学がなぜ公衆衛生看護に必要かを考える。疫学の指標、疫学調査法について学び、疫学の問題を解いて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.97-127 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：配布資料の演習問題を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	活動・事業計画と保健師の役割 【key words】 地域保健活動計画、地域保健活動過程、保健師活動 【授業概要】 地域保健活動計画の意義と活動計画作成の過程を学び、地域保健活動過程と保健師活動について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.128-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	地域保健活動計画のモニタリング・評価 【key words】 地域保健活動計画、事業、モニタリング、評価 【授業概要】 地域保健活動計画のモニタリングと評価を実施する必要性について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.134-137 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	地方自治体における計画策定・施策化と予算のしくみ 【key words】 地方自治体、保健福祉政策、予算 【授業概要】 地方自治体における保健福祉政策と保健師の役割について学ぶ。また、保健事業の実施に要する費用計上の例を用いて、予算のしくみについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.138-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	地域におけるグループ支援、地区組織化活動 【key words】 地域保健活動計画、事業、モニタリング、評価 【授業概要】 地域で生活する上で、一人ひとりでは気づきや解決が困難な健康上の課題に対して、グループのもつ力を活用することの意義について学ぶ。また、保健師によるグループの育成支援と組織化、地区組織化活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018 p.148-165 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の該当ページをよく読む。 復習：配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・携帯電話は机上に置かないこと。 ・レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。	

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に関わる事柄について予習をして授業に臨むこと。 終了した授業に関しては必ず復習をすること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記試験（客観的）80%、レポート課題 20%
教科書	荒賀直子・後閑容子編：第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp. インターメディカル. 2018
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
奥野　みどり　勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防、発生、回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について理解するとともに、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術の選択及び支援方法について理解する。 〔到達目標〕 １．保健指導に有効な理論の概要を述べられる。 ２．「個」「家族」への援助技術である家庭訪問の目的、対象、展開方法の概要を述べられる。 ３．家庭訪問のプロセスを理解し、対象把握、優先度、接近技法・技術を使って学内において模擬的に展開することができる。 ４．健康相談の対象、方法が述べられる。 ５．健康相談、個人に対する健康教育に関する理論を使って学内において模擬的な健康相談を実施することができる。 ６．ライフステージ毎の対象者の発達課題、健康課題を理解し、保健指導に必要な基礎知識を述べられる。
授業の概要	①家庭訪問、健康相談、健康診査の目的、対象、プロセスについて学ぶ。 ②家庭訪問を模擬的に実施する。 ③保健指導を模擬的に実施する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　公衆衛生看護の機能と技術　対象の理解 【key words】 公衆衛生看護　予防施策　地域保健　保健指導　地域保健活動指針　日本国憲法　ＳＤＧｓ　まちづくり 【授業概要】 ①公衆衛生看護が直面している課題を通し求められている技術(実態把握、計画策定、評価機能)を理解する②地域保健活動を担う保健師に必要とされている能力について、看護から医学、介護、福祉などの知識と技術、地域住民の様々な生活を捉えるための多様な知識と考え方を学ぶ。③保健師が行う保健指導の目的や特徴を理解する。④健康問題への支援について、対象に即した支援方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ２―８ 参考書：国民衛生の動向 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読して臨むこと。配布資料を整理するためのＡ４ファイルを持参し、授業内容の整理し復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	保健行動理論と保健指導で活用できる理論 【key words】 保健行動　保健行動のタイプ　３段階理論　住民参加　保健行動モデル　健康行動　ヘルスリテラシー　コミュニティエンパワーメント　プリシード―プロシードモデル 【授業概要】 ①保健指導において、行動変容を促すための保健行動の基本を理解し、保健行動の概念、理論、モデルの関係及び各種理論を学ぶ。②行動変容のためには、住民主導が必要であることを理解

し、参加型を活性する方法を学ぶ。③住民参加型のモデルである、コミュニティ―アズ―パートナーモデルとプリシード―プロシードモデルを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ３４―８８
参考書：国民衛生の動向
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　対人支援活動の展開
【key words】
カウンセリング　コーチング　健康相談　健康診査　ＩＣＴ
【授業概要】
①対人支援の重要な視点として、健康の社会的決定要因を理解する。
②対象者に対し健康を全人的に捉え潜在能力・主体性を重視すること理解し、具体的な支援方法を学ぶ。。
③健康相談がどのようなものか理解し、事例を通して実際の展開方法を学ぶ。
④健康診査がどのような者か理解し、具体的方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ９０―１３２
参考書：国民衛生の動向
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
９０分
６０分

第４回　保健指導の展開
【key words】
健康問題　優先順位　行動変容
【授業概要】
①保健指導がどのような目的・対象に行われいるのか理解する。
②保健師が行う保健指導の特徴を捉える。
③保健指導の方法と対象者の選定基準など具体的実施方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ９０―１３２
参考書：公衆衛生看護学　ＪＰ　ｐ６１－７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第５回　【演習】保健指導　①
【key words】
メタボリックシンドローム　動機づけ支援　積極的支援
【授業概要】
①身近にいる健康問題を抱えた人を、同意を得て、保健指導の対象者として選定する。
②健康問題について、基本的知識を整理し、どのような保健指導が適切かを考え、指導ポイントを絞る。
③保健指導の指導案を作成する
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ９０―１３２
参考書：公衆衛生看護学　ＪＰ　ｐ６１－７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保健指導に必要な知識の習得
保健指導対象者の理解を深める
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第６回　【演習】保健指導　②
【key words】
メタボリックシンドローム　動機づけ支援　積極的支援
【授業概要】
①保健指導の指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ９０―１３２
参考書：公衆衛生看護学　ＪＰ　ｐ６１－７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保健指導案の作成
【予習復習に必要な想定時間】
９０分
９０分

第７回　【演習】保健指導　③
【key words】
保健指導　行動変容
【授業概要】
①学生が2人一組となり、保健師役と指導受ける側役で、実際の保健指導を行う。
②保健師役は、指導を行っての自己評価を行う。指導を受けた側役の学生は、保健指導を受けての、効果や全体的な流れなどの内容について評価する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４―１４２　ｐ２６４－２７３
参考書：公衆衛生看護学　ＪＰ　ｐ５７－８９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　【演習】保健指導　④
【key words】
保健指導　行動変容
【授業概要】
①グループワークで、保健指導を行う上で、重要なこと、必要なことなど話し合う。
②保健師の求められる役割、人間性などについて話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４―１４２　ｐ２６４－２７３
参考書：公衆衛生看護学　ＪＰ　ｐ５７－８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。。
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第９回　家庭訪問による支援緒展開
【key words】
家庭訪問　プライバシー　困難事例
【授業概要】
①家庭訪問の特徴を捉え、個人、家族への支援としての、家庭訪問の機能・役割を理解する。
②家庭訪問のプロセスについて、対象把握から、実施評価までの流れを理解する。
③困難事例や受け入れ拒否などのケースについて、基本的な対応について学ぶ。
④ＤＶＤ視聴
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第１０回　【演習】家庭訪問　①
【key words】
新生児訪問
【授業概要】
①保健師役、母親役になり家庭訪問を行う場面を見ながら、家庭訪の流れを理解する。
②家庭訪問の実際をイメージしながら、保健師役になって家庭訪問した時の動きができるようにする。。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。授業後は資料・ノートを整理し学んだこと自分で説明できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　【演習】家庭訪問　②
【key words】
新生児訪問
【授業概要】
①学生が2人一組となり、保健師役と指導受ける側役で、実際の保健指導を行う。
②保健師役は、指導を行っての自己評価を行う。指導を受けた側役の学生は、保健指導を受けての、効果や全体的な流れなどの内容について評価する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　【演習】家庭訪問　③
【key words】
新生児訪問
【授業概要】
①学生が2人一組となり、保健師役と指導受ける側役で、実際の保健指導を行う。
②保健師役は、指導を行っての自己評価を行う。指導を受けた側役の学生は、保健指導を受けての、効果や全体的な流れなどの内容について評価する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を熟読する。授業後は資料、ノートを整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　【演習】家庭訪問　④
【key words】

	困難事例 【授業概要】 ①学生が2人一組となり、保健師役と指導受ける側役で、実際の保健指導を行う。 ②保健師役は、指導を行っての自己評価を行う。指導を受けた側役の学生は、保健指導を受けての、効果や全体的な流れなどの内容について評価する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習資料等を確認する。授業後は資料、ノートを整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　【演習】　家庭訪問　⑤ 【key words】 【授業概要】 ①グループワークで、家庭訪問を行う上で、重要なこと、必要なことなど話し合う。 ②保健師の求められる役割、人間性などについて話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　ｐ１３４－１６３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習資料等を確認する。授業後は資料、ノートを整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分 第１５回　地域組織活動の展開 【key words】 コミュニｔジ　地域組織　　当事者　地域づくり 【授業概要】 ①地域組織活動にかかわる概念 ②当事者組織とその支援 ③住民の自立支援と地域活動の実際 ④地域組織活動の実際 【教科書ページ・参考文献】 教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術２　医学書院　Ｐ２０８－２３７ 参考書：国民衛生の動向 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習全体を振り返り、学習した内容を整理し、知識を定着させる。 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習をして臨むこと。 ②演習時の服装は、普段着又は大学指定ジャージとエプロンとする。 ③自身や家族･身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講する。 ④教科書･プリント等は毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ②私語・携帯電話・スマートフォンの使用を禁ずる。携帯電話・スマートフォンは許可がない場合は机上に置かない。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ④授業の学びを必ず記載すること（振り返り用紙）。記載することで思考を深める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	振り返り用紙及びミニレポート。
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）60%、 ②実技試験（演習課題・演習に関するレポート）40%、内訳は以下に示す。 ・家庭訪問演習課題 20% ・保健指導演習課題 10% ・ミニレポート及び演習に臨む態度 10% 注：総合評価は筆記試験、実技試験合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	教科書：標準保健師講座　公衆衛生看護技術　医学書院　2020
参考書	参考書：中谷芳美：標準保健師講座対象別公衆衛生看護活動．医学出版．2014 参考書：松本千明：健康行動理論（実践編）．医歯薬出版株式会社．2014 参考書：後藤真太郎他：MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座．古今書院．2013 参考書：中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学（１）小児の発達と看護．メディカ出版．2013
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
勅使川原　洋子　奥野　みどり			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 地域住民の健康課題のアセスメントと活動支援方法について理解する。 〔到達目標〕 ①地域に顕在化・潜在化しているヘルスニーズを捉えるために地域診断を実施できる。 ②個人・集団が自らの健康課題に対して主体的に取り組める支援方法を考察できる。
授業の概要	既存資料（国、県、市町村の資料）を使い、地域診断の演習及び発表を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について ２）エイズ予防啓発活動について ３）群馬ダルクの依存症患者に対する取り組み ４）地域診断の進め方 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.184-197 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料をよく読む。 課題：エイズ予防啓発活動の準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	【講義】エイズ予防啓発活動と保健所（担当：藤岡保健福祉事務所） 【key words】 感染症、AIDS、HIV、性感染症、世界エイズデー 【授業概要】 １）感染症とは ２）AIDS・HIVの基礎知識 ３）性感染症について ４）AIDS・HIVの現状 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.198-211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料をよく読む。 課題：エイズ予防啓発活動の準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	【演習】エイズ予防啓発活動① 【key words】 AIDS、HIV、世界エイズデー、予防啓発活動 【授業概要】 藤岡保健福祉所と連携し、エイズ予防啓発活動に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】

		標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.198-211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：活動を通して学んだことをレポートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	【演習】エイズ予防啓発活動② 【key words】 AIDS、HIV、世界エイズデー、予防啓発活動 【授業概要】 藤岡保健福祉所と連携し、エイズ予防啓発活動に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.198-211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：活動を通して学んだことをレポートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	【講義】 コミュニティアズパートナーモデル、地域診断 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、コミュニティ・アズ・パートナーモデル 【授業概要】 １）既存のデータの収集・分析、実態調査による情報収集について ２）課題の抽出と明確化、目標設定、解決方策の検討、住民への周知について ３）地域アセスメント項目と情報の分析 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：教科書及び配布資料を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	【演習】地域診断①（情報収集）（3限　担当：中川陽子） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、コミュニティ・アズ・パートナーモデル 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	【演習】地域における連携と協働②（情報収集・分析） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	【演習】地域における連携と協働③（情報収集・分析） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	【演習】地域における連携と協働④（情報収集・分析） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	【演習】地域における連携と協働⑤（情報収集） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１１回　【演習】地域における連携と協働（地域診断のまとめ） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：①既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。②発表用資料をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１２回　【講義】薬物依存自助グループ①（担当：群馬ダルク） 【key words】 依存症、群馬ダルク 【授業概要】 １）依存症患者に関する群馬ダルクの取り組み（講話） ２）群馬ダルク スタッフの体験談 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.115-124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：依存症患者に関する講話・演習から考えたことについてレポートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　【演習】薬物依存自助グループ②（担当：群馬ダルク） 【key words】 依存症、群馬ダルク 【授業概要】 １）依存症患者に関する群馬ダルクの取り組み（演習） ２）群馬ダルク スタッフの体験談 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院　p.125-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：依存症患者に関する講話・演習から考えたことについてレポートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　【演習】地域診断の発表 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する地域診断の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：他のグループの発表を聞き、自分のグループが不足していた情報や分析について修正・追加する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　【演習】地域診断の発表 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する地域診断の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社　p.4-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：他のグループの発表を聞き、自分のグループが不足していた情報や分析について修正・追加する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習をして臨むこと。 ②自身や家族･身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講する。 ③教科書･プリント等は毎回持参する。 ④遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡すること。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ②私語・携帯電話・スマートフォンの使用を禁ずる。携帯電話・スマートフォンは許可がない場合は机上に置かない。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	振り返り用紙またはミニレポート。

授業外時間にかかわる情報	授業後30分
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）40%、 ②演習課題・発表、取り組みの態度 60%、内訳は以下に示す。 ・地域診断課題（提出物）30% ・地域診断発表　30%
教科書	標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　医学書院 最新保健学講座　　公衆衛生看護学管理論　メヂカルフレンド社
参考書	中村裕美子他編：標準保健師講座2.地域看護技術.医学書院.2013
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
奥野　みどり　勅使川原　洋子　橋本　いずみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 ①実習予定先市町村の地区診断を通して実習市町村の健康課題を抽出し、その課題解決のための事業計画の立案・評価を行う具体的な方法を理解する。 ②課題解決のための健康教育を実施し、評価する。 〔到達目標〕 ①地区診断を通して地域の健康課題の解決に向けた方策を学ぶことができる。 ②実習予定地域で実施する健康教育を計画、発表、評価することができる。
授業の概要	・地区診断の実施 ・健康課題の抽出 ・課題解決に向けた事業計画の立案・評価 ・実習予定地域の地域の実状を踏まえ、健康教育を計画し媒体を作成・修正する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション(zoom) 【key words】 地区診断、事業計画の立案、健康教育 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）実習予定市町村の発表。 ３）地区診断の具体的な進め方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座５ 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 p.2-62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：昨年度実施した地区診断手法について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	地区診断についての理解を深める。(zoom) 【key words】 地区診断、健康課題、地区踏査 【授業概要】 DVDを視聴する。 【教科書ページ・参考文献】 最新保健学講座５ 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 p.2-62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地区診断の目的等を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	地区診断演習(対面授業) 【key words】 地区診断、健康課題、地区踏査

【授業概要】
実習市町村の地区診断のための資料準備
【教科書ページ・参考文献】
最新保健学講座５ 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 p.2-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：地区診断の手法について予習する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　地区診断演習(対面授業)

【key words】
地区診断、健康課題、地区踏査
【授業概要】
実習市町村の地区診断のための資料の読み込み
【教科書ページ・参考文献】
最新保健学講座５ 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 p.2-62

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（１日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　おくたのげんき隊　脳若教室②

【key words】
地区診断、健康課題、地区踏査
【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（2日目）
標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論　医学書院 p.95-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（２日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　おくたのげんき隊　脳若教室③

【key words】
地区診断、健康課題、地区踏査
【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
最新保健学講座５ 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 p.2-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（３日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　おくたのげんき隊　脳若教室④

【key words】
地域連携、ボランティア、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル
【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（4日目）
標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論　医学書院 p.128-144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（４日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　おくたのげんき隊　脳若教室⑤

【key words】
地域連携、ボランティア、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル
【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（5日目）

標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論　医学書院 p.146-155
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.２（５日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　おくたのげんき隊（脳若教室）活動の振り返り
【key words】
地域連携、ボランティア、おくたのげんき隊、脳若教室、振り返り
【授業概要】
１）脳若教室における、各自の目標達成度についてまとめる。
２）脳若ドリルの修正点について、具体的に検討する。
３）脳若教室での活動報告をまとめ、発表する（おくたのげんき隊の反省会・交流会）。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル
標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論　医学書院 p.156-164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：活動を振り返り、最終レポートをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備①】（健康教育指導案作成）
【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、指導案作成
【授業概要】
公衆衛生看護学実習Ｉの実習地域の実状を踏まえ、健康教育の指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.168-180
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：健康教育指導案を実習グループ毎に検討する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備②】（健康教育指導案作成の続き、教育媒体作成）
【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、指導案・媒体作成
【授業概要】
実習グループ毎に、健康教育の指導案及び媒体を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.181-184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：健康教育指導案及び媒体を実習グループ毎に作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備③】（教育媒体作成の続き）
【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、媒体作成

【授業概要】
発表会に向けて、実習グループ毎に健康教育の媒体を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.185-194
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.203～207をよく読む。
課題：発表会に向けて、媒体を完成させ準備する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備④】（健康教育の実施）
【key words】
健康教育、発表、評価
【授業概要】
健康教育の発表会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.195-206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.206～207をよく読む。
課題：健康教育指導案・媒体を修正する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備⑤】（健康教育の実施）
【key words】
健康教育、発表、評価
【授業概要】
健康教育の発表会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.195-206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.206～207をよく読む。
課題：健康教育指導案・媒体を修正する。

	【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備⑥】（健康教育の実施） 【key words】 健康教育、発表、評価 【授業概要】 健康教育の発表会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　医学書院 p.195-206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.206～207をよく読む。 課題：健康教育指導案・媒体を修正する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①演習時の服装は、普段着又は大学指定制服とする。 ②学習前に事前資料に必ず目を通し、事前学習、事前課題の提出を期限を把握しておくこと。 ③授業・演習へは積極的な姿勢で臨むこと。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ②授業に必要なもの以外は机上に置かない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	随時メールにて質問を受け付ける。
授業外時間にかかわる情報	地区診断・健康教育に関しては、グループにて内容を共有し、協力し合いながら時間外も有効的に活用すること。 オープンキャンパスにおいて、健康教育を発表する。
オフィスアワー	授業終了後30分及びメール。
評価方法	①地区診断時の提出レポート課題　50%、 ②健康教育　50%、内訳は以下に示す。 ・健康教育指導案 20% ・健康教育の発表 30%
教科書	公衆衛生看護学jp インターメディカル　最新　保健学講座5　公衆衛生看護管理論
参考書	標準保健師講座２ 公衆衛生看護技術 医学書院
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護管理論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　公衆衛生看護活動の円滑な推進と質の向上のための組織運営と管理、人材育成、健康危機管理について学ぶ。 【到達目標】 ①公衆衛生看護管理の目的と機能がわかる。 ②公衆衛生看護管理の対象、方法がわかる。 ③専門職としての責務と成長がわかる。 ④健康危機管理の目的、方法がわかる。
授業の概要	基礎的知識の講義と公衆衛生看護管理の具体例を通して、概念と方法を理解する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　保健事業計画と保健師の役割　公衆衛生看護管理の定義、特色 【key words】 公衆衛生　看護管理　パートナーシップ 【授業概要】 　授業の全体属を理解する。公衆衛生における看護管理とはどのようなものか説明する。 　公衆衛生看護における看護管理の機能について、保健師が働いている行政機関における管理を学習し、課題を探ることで、管理の在り方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　　ｐ67―90 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分
	第２回	保健福祉計画の策定と予算 【key words】 地方公共団体　予算の仕組み 【授業概要】 　地方公共団体の位置づけ・性格の種類とその関係 　保健計画の計画づくりと評価 【教科書ページ・参考文献】 教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　ｐ92―113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分
	第３回	公衆衛生看護管理の基本となるもの　　公衆衛生看護管理の機能と要素１ 【key words】 住民主体　公衆衛生看護管理要素　行政組織・業務　　個人情報 【授業概要】 　公衆衛生看護管理の場である地域及び保健活動としての公共サービスのシステムを理解する。 　コミュニティでの住民の健康を守る保健活動における、住民の権利保障の視点及び保健師の職業倫理について学び、保健師の在り方、姿勢について自分の考えが述べられるようになること。 公衆衛生看護管理について、保健師が働く行政組織及び業務を学び、組織の中で働く保健師の役

割を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　　P116―126
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読し授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第４回　公衆衛生看護管理の機能と要素２

【key words】
予算編成　業務管理　人材育成　地域ケア
【授業概要】
予算の仕組みを理解する。保健師のキャリアラダーを学び、専門職としての自己のありようを考える。専門職として継続教育の必要性を理解し、研究や大学院などにおける学びの場の有効性を知る。地域ケア及び地域ケアシステムの基本的知識を学び、社会的背景を踏まえた地域ケアシステムのプロセスを捉える。ここでは、ケア会議などにおける保健師の役割を理解する。保健師活動基盤に関する基礎調査から保健師業務を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　　P128―163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読し授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
９０分
６０分

第５回　健康危機管理とは、平常時の活動と備え

【key words】
災害　健康危機　災害対策基本法　予防活動
【授業概要】
公衆衛生活動における健康危機がどのようなものかを捉え、保健所等の行政機関の役割を理解する。また、災害時の保健師活動を通して、平常時からの予防活動の重要性や平常時から災害収束までの一連の流れを理解する。保健所保健師及び市町村保健師の役割の違いや連携のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　ｐ165―174
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読し授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第６回　災害時の保健活動と感染症の集団発生

【key words】
感染症・結核　保健所　疫学調査　災害時保健師活動
【授業概要】
感染症対策の第一線機関である保健所の役割や業務について理解する。感染症発生時の一連の流れ、疫学調査について理解する・。健康危機である、感染症に集団発生や大災害発生時における保健師活動について理解する。東日本大震災発生時から現在の保健師活動の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　ｐ175―199
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読し授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
９０分

第７回　地ケアシステムの組織・機関と発展

【key words】
パートナーシップ　合意形成　チームワーク
【授業概要】
地域ケアシステムとはどのようなものかを捉え、保健師の活動展開方法の１つとしての、地域活動であることを理解する。地域ケアシステムづくりを、どのようなプロセスで構築すればいいのか、保健師の役割を通して学ぶ。また、地域におけるネットワークづくり、対象である住民との関わりについて、具体的な事例を通して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　ｐ201―212
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読し授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　地域ケアシステムの構築　保健師活動のまとめ

【key words】
保健活動　気づき　連携　協働
【授業概要】
地域の健康を守るためには、活動のスタートとなる課題や問題を的確に捉えなければ、より良い改善や問題解決は望めない。ここではどのように情報を掴んでいくのか手順を学ぶ。保健師として求められる資質を理解し、保健師を目指す者としての学習や自己研鑽などについて、目標を考え述べることができる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：最新　保健学講座５　公衆衛生看護管理論　ｐ213―217
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して授業の臨むこと。授業後、これまでの資料・ノートを通して知識を整理し理解を深める。
レポートの提出
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習を習慣づけること。 教科書・配布プリントは毎回持参すること。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	参考書を図書館等で自主的に入手し、授業を深く学べるよう自己研鑽すること
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記テスト、レポート等60%　授業への取り組み状況等（予習・復習等）40%
教科書	最新保健学講座　公衆衛生看護管理論　メヂカルフレンド社　2020
参考書	第4版データ更新　公衆衛生看護学．Ｊｐ　第5版　インターメディカル．2020
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県保健師として長期に勤務した。新型インフルエンザ対策、結核・感染症対策、精神科救急業務、災害時派遣の保健師業務に従事した。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　産業保健論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
廣田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 産業の場で働く人々が、健康と労働の調和を図り、幸福な生活を送るための看護の役割及び支援の方法を理解できる。 【到達目標】 １．産業保健活動の理念と目的が説明できる。 ２．我が国の労働衛生に関する現状から健康課題が説明できる。 ３．我が国の労働衛生管理体制と対策が説明できる。 ４．産業における健康課題と看護の役割及び支援の方法が説明できる。
授業の概要	産業保健の目的を理解し、近年の労働衛生に関する現状から健康課題を明らかにする方法を学習する。労働衛生に関わる法律、施策から衛生管理体制を理解し、看護の役割と具体的な支援活動を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、産業保健・産業看護の考え方と我が国における変遷 【key words】 産業保健、労働衛生、産業看護 【授業概要】 産業保健及び看護の定義及び我が国の歴史、変遷の概要について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P447～450、作成資料及びレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第２回	産業保健活動を推進するための体制 【key words】 労働衛生行政、産業保健活動体制、労働衛生マネジメントシステム 【授業概要】 労働衛生に関する行政、法律および事業場内外資源、事業場外機関、労働衛生マネジメントシステムについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P451～456、作成資料及びレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第３回	産業保健の現状と課題① 【key words】 労働災害、健康課題、特殊健診 【授業概要】 統計資料から産業保健の現状を把握して課題を明確にするために、統計資料の分析を行う。個人でワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P450、国民衛生の動向P326 ～327 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。

	【予習復習に必要な想定時間】 40分 第４回　産業保健の現状と課題② 【key words】 労働災害、健康課題、特殊健診 【授業概要】 統計資料の分析から課題を明らかにする。発表により結果を共有する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P450、国民衛生の動向P326 ～327 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 働く人の現場がイメージできるように生活環境を観察する。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第５回　産業保健活動の基本、職業性疾病と予防対策における産業看護の役割 【key words】 総括管理、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育、職業性疾病 【授業概要】 産業保健活動の３管理５分野、職業性疾病とその予防活動について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P456～461 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第６回　作業関連疾患と予防対策、産業看護活動の実際①　過重労働対策、メンタルヘルス対策 【key words】 作業関連疾患、長時間労働者、メンタルヘルスケア 【授業概要】 作業関連疾患、長時間労働者、メンタルヘルスケア対策に関する産業看護活動の実際を学ぶ。メンタルヘルス活動については視覚教材を用いて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P458～459 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第７回　産業看護活動の実際②　VDT作業による健康影響への対策、職場巡視 【key words】 VDT作業、職場巡視 【授業概要】 VDT作業による健康障害、職場巡視に関する産業看護活動の実際を学ぶ。職場巡視については視覚教材を用いて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P461～463 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第８回　産業保健活動の実際③　多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動 【key words】 高齢労働者、障害者、両立支援、母性保護、地域・職域連携活動 【授業概要】 高齢労働者、障害者、治療と仕事の両立支援、母性保護の対策及び地域・職域連携活動に関する産業看護活動の実際を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P464～468 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	毎回の授業では、コメントカードにより内容の理解を判断するため、学んだ内容と考察を記載することを求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業で提示された授業資料及び教科書にて該当箇所を復習をする。コメントカードの考察には、以前の授業の復習で理解している内容が基盤となっていることが重要。
オフィスアワー	授業前後20分は対応可能
評価方法	定期試験（90%）、コメントカードによる各回での考察（10%）
教科書	公衆衛生看護学.JP：第4版データ更新版　インターメディカル. 国民衛生の動向2020/2021　厚生労働統計協会.
参考書	河野啓子、産業看護学2020年版、日本看護協会出版会（2019）. 荒木田美香子編、公衆衛生看護学テキスト４　公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業看護、医歯薬出版株式会社（2014）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 事業場の保健師として産業保健活動に従事した。海外勤務者健康管理、慢性疾患管理、メンタルヘルス活動、新入職員研修や各種健康診断の運営、支店の健康管理活動支援を行った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　養護概説　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割について理解する。 〔到達目標〕 　学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割を理解し、子どもの現代的課題について情報の収集ができ、　養護教諭の専門性について示すことができる。
授業の概要	学校教育の場で、養護教諭の職務が円滑に進められるように、具体的で実践的な内容を基に次のような講義を行う。 　養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割。学校における保健管理・保健教育の内　容と養護教諭の役割。 　保健室の役割と保健室経営計画。養護教諭の関連職種・関連機関との連携方法。子どもの現代的課題について情報の収　集とその対応。 　以上の学習を踏まえて、養護教諭の専門性について先行研究等を確認しながら検討を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・養護教諭の概念と職務の変遷 【key words】 養護教諭、歴史、職務 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。 第1章養護教諭 養護教諭の歴史を知る。 法律における養護教諭に関する規定を知る。 養護教諭の職務の変遷と養護教諭に求められる資質について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭の歴史、法律における養護教諭に関する規定等授業復習をする。 出身小・中・高等学校の教育目標を学校のホームページ等で調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	学校教育における養護教諭の役割１ 【key words】 学校保健、養護教諭、職務、役割 【授業概要】 第2章学校教育と学校保健 課題で調べた、出身校の教育目標などと関連させながら、学校教育と学校保健について理解する。 養護教諭の職務内容に関し学び、これからの学校保健に求められている養護教諭の役割について理解する。 養護教諭が行う啓発活動の一つ「保健だより」について理解しする。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		養護教諭の歴史、職務内容等について前回の授業の復習をプリントで行う。 課題「保健だより」作成について提示。子どもの健康的課題とその対応について、教科書及び、文部科学省のＨＰで調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分
	第３回	学校教育における養護教諭の役割２ 【key words】 養護教諭、職務、役割、 【授業概要】 第3章子どもの現代的な健康課題とその対応 第4章養護教諭の職務 学校教育法、保健体育審議会答申（昭和４７年・平成９年）中央教育審議会答申（平成２０年１月）及び学校保健安全法等から、養護教諭の主な職務、役割を考察する。 子どもの現代的な健康課題について、調べたことを発表し、その対応について考える。 養護教諭に必要なコミュニケーションスキルについて考える。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中央教育審議会答申（平成２０年１月）内容を文部科学省ホームページから調べておく。 前回の授業の復習をプリントで行う。 小・中・高等学校での保健室利用時の様子を振り返る。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	保健管理１　救急処置と健康観察 【key words】 保健管理、救急処置、健康観察 【授業概要】 第5章保健管理　救急処置・健康観察 小・中・高等学校における、保健管理、救急処置について、事例を通して学ぶ。学校における救急体制、救急処置のプロセスについて学び、養護教諭、保健室の役割について理解する。また、保健管理として、学校生活全般における健康観察の重要性について理解し、健康観察を実施する上での留意点等について学ぶ。 健康観察について理解する。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 保健管理について、学校保健の領域の中の位置付けについて理解しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	保健管理2　健康診断と疾病管理 【key words】 健康管理、健康診断、疾病管理 【授業概要】 第5章保健管理　健康診断・疾病管理 学校保健の中核となる健康診断について理解する。法的根拠、目的と役割、健康診断の実際等を学ぶ。また学校、学校歯科医等の連携について学ぶ。 学校における疾病管理の目的と疾病管理における養護教諭の役割を理解する。事例を通して、疾病管理の実際を学ぶ。（糖尿病・心疾患・腎疾患・食物アレルギー等。学校生活管理指導表の活用） 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 日本学校保健会　編：児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	保健管理3　学校環境衛生 【key words】 学校における保健管理、学校環境衛生 【授業概要】 第5章保健管理　学校環境衛生 各自作成した「保健だより」発表。 保健管理　学校環境衛生についてについて理解する。（目的、基準、活動等）学校薬剤師との連携を含め学ぶ。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校環境衛生基準について定められている基準を覚える。 前回の授業の復習をプリントで行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ９０分
	第７回	保健教育１　教科における保健教育 【key words】

教科保健（保健学習）・保健指導
【授業概要】
第6章保健教育　教科保健
各自作成した「保健だより」発表。
保健教育の領域とそれぞれの特質を理解する。
教科保健（保健学習）・保健指導の領域を理解する。
保健教育における養護教諭の役割を理解し、保健学習に参画するときの、教員との連携について学ぶ。
思春期の健康教育について学ぶ。
復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。
【教科書ページ・参考文献】
采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の授業の復習をプリントで行う。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　保健教育２　特別活動などにおける保健指導
【key words】
保健教育、特別活動、保健指導
【授業概要】
第6章保健教育　特別活動における保健の指導
各自作成した「保健だより」発表。
保健教育の領域と、それぞれの特質を理解する。教育課程に基づく教科保健をはじめとする関連教科等での学習と、特別活動等における保健指導及び保健管理に伴う保健指導があることを理解する。
保健教育、保健指導における、養護教諭の役割を理解する。 思春期の保健教育、保健指導について学ぶ。
復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。
【教科書ページ・参考文献】
采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の授業の復習をプリントで行う。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　保健室の機能と役割
【key words】
保健室の機能、役割、健康相談、保健室経営
【授業概要】
第11章保健室経営
各自作成した「保健だより」発表。
保健室の機能と役割について理解する。
保健室経営、計画について学び、保健室経営における養護教諭の役割について学ぶ。
保健室に訪れる児童生徒の事例をあげながら、保健室における対応について学ぶ。
復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。
【教科書ページ・参考文献】
采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の授業の復習をプリントで行う。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　保健室経営における具体的な計画と実践
【key words】
保健室経営
【授業概要】
第11章保健室経営
各自作成した「保健だより」発表。
保健室の機能と保健室経営について、養護教諭の職務や保健室の機能を十分考慮した上で、効果的な計画を　立てることが重要であることを学ぶ。授業担当者が小学校、中学校、高等学校で実践した事例を基に、計画の立案、実施、評価、改善のマネジメントサイクルについて学ぶ。
養護教諭をめざすものとして、自己理解を図る。
復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。
【教科書ページ・参考文献】
采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の授業の復習をプリントで行う。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　学校保健に関わる組織活動
【key words】
学校保健、組織、連携
【授業概要】
第12章保健組織活動
各自作成した「保健だより」発表。
学校における組織活動の主となる学校保健委員会の実施にあたっての手順とポイントについて概説する。ま　た、保健主事は、学校保健委員会の運営や学校保健活動にかかわる組織が円滑に活動できるよう調整にあた　る役割をもち、養護教諭の協力のもとに学校保健計画の策定の中心となることを理解する。生徒保健委員会の活動の様子等を例に挙げながら、実際の活動について学ぶ。
復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。

	【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　子どもの現代的な課題と対策 【key words】 健康課題、対応、対策 【授業概要】 第3章子どもの現代的な健康課題とその対応・第7章健康相談・第8章精神保健・第9章子どもの心のケア 各自作成した「保健だより」発表。 子どもの健康問題の推移について学ぶ。 子どもの現代的な健康課題とその対応について理解する。 養護教諭としてどのように対応支援していくのか、事例をあげながら学ぶ。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 文部科学省のホームページで「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」等 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１３回　学校における教育相談の基本的な考え方 【key words】 教育相談、信頼関係、アセスメント 【授業概要】 第10章学校における教育相談 学校における教育相談の基本的な考え方を理解する。また、学校におけるカウンセリングは、子どもとの信　頼関係の中で、子どもの内面や周囲の人々との関係性をアセスメントしながら、学校生活の中で出会う問題　を解決しようとするものであることを理解する。小学校、中学校、高等学校を通して、養護教諭との関わりの中で、支えられた内容について振り返る。 カウンセリングスキルについてグループワーク・ペアワークで学ぶ。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　学校における安全管理と危機管理 【key words】 学校、安全管理、危機管理 【授業概要】 第13章安全管理と危機管理 各自作成した「保健だより」発表。 学校における危機管理の意義と基本的な考え方について理解する。危機管理の進め方について、事前の危機管理（リスク・マネジメント）と事後の危機管理（クライシス・マネジメン　ト）の二つの側面について事例をあげながら学ぶ。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　養護教諭の専門性と研修の姿勢　　まとめ 【key words】 養護教諭、専門性、研修、自己の省察 【授業概要】 第14章調査・研究・プレゼンテーションの進め方 各自作成した「保健だより」発表。 養護教諭としての職業倫理について理解し、自己研鑽に努める姿勢について学ぶ。 復習をプリントについての質問等をうけ、講義内容の理解を促す。 【教科書ページ・参考文献】 采女智津江 編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社、2019 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の復習をプリントで行う。15回の授業資料等を見直し復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。　　また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態　　度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:00～12:40)
評価方法	筆記試験（客観・論述）７０％、課題学習・提出物３０％によって評価する。 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	采女智津江　編：新養護概説(第11版) 少年写真新聞社2019
参考書	学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第4次改定版》、第一法規、　2017 日本学校保健会　編：児童生徒の健康診断マニュアル（平成27年度改訂版）、2016
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小学校・中学校・高等学校にて養護教諭として３８年間勤務。児童生徒及び教職員の健康の保持増進に努める。また、教育相談係として児童生徒及び保護者への支援を行う。実務経験から、養護教諭の職務と役割について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　学校保健活動論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校保健の歴史に基づき、制度や組織について理解する。 【到達目標】 学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができる。 養護教諭に必要な児童生徒に関する知識や教育に関する専門的な知識と技能を身に付け、実際の学校保健の場で活用できる。
授業の概要	学校保健の歴史・制度組織について概観し、学校保健活動における中核としての保健管理と保健指導について論じる。また、学校安全と食育を加えながら、具体的な学校保健活動を通じて、関連機関や人的資源との連携について解説する。また、学校保健における今日的な課題を演習し、課題の解決に向けた取り組みについても理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション「学校保健」 【key words】 科目オリエンテーション 【授業概要】 授業の内容と日程の確認，学校保健についての現時点での理解度についての確認する。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P5～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第２回	学校保健の概説・構造及び健康の評価 【key words】 学校保健の領域と構造、健康の評価 【授業概要】 保健調査，健康診断，健康観察，健康相談について解説する。小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P167～、P397～、P435～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第３回	感染症とその対応 【key words】 感染症の予防、出席停止と臨時休業、感染症発生時の対応 【授業概要】 児童生徒に見られる感染症とその対応・予防について解説する。小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P453～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第４回　保健室の役割と学校内外の連携

【key words】
保健室の役割、保健室利用状況、保健室経営、養護教諭の役割
【授業概要】
学校における保健センターとしての保健室の役割について解説する。
学校保健システム、学校保健組織活動を支える人々・機関の役割と機能について解説する。
小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P520～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第５回　保健指導・保健学習

【key words】
学校保健と教育課程、学習指導要領、各校種にける保健教育
【授業概要】
特別活動，学級活動，学校行事等における保健指導と小学校，中学校，高等学校の保健学習について説明する。小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P550～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第６回　現代的な健康課題と保健教育

【key words】
性に関する指導、エイズ教育、未成年者における喫煙・飲酒・薬物乱用の現状と課題

【授業概要】
喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育，性に関する指導等について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P774～、P857～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第７回　学校安全

【key words】
学校安全、学校安全計画、学校における危機管理、安全教育
【授業概要】
学校安全、安全管理と安全教育，学校の危機管理について説明する。
学校保健講話に関するグループワーク。
【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P983～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第８回　まとめと振り返り

【key words】
学校保健講話発表、学校保健の評価
【授業概要】
学校保健講話発表、学校保健の評価とまとめを行う。
【教科書ページ・参考文献】
学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P972～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) ・学校保健活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。その中から一つテーマを選び、その内容を要約し意見および感想をまとめる。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト20%、発表20% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック、文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、学校保健活動における保健管理と保健指導について、具体的な事例を用いて関連機関や人的資源との連携について解説する。また、学校保健における今日的な課題について、収集したデータ，体験等を基に，グループ・ディスカッション等を行うことで，個人の学びを深める。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　学校保健活動論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校保健計画・学校安全計画・保健室経営計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面を理解する。 【到達目標】 健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などのに関する知識や実技を身に付け、学校保健の場で活用することができる。
授業の概要	学校保健活動論Ⅰで学んだ概論に基づいて、学校保健計画・学校安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるように、項目ごとに具体例を上げながら解説する。また、具体的な項目ごとの、健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技が身に付くように演習を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション「学校保健活動論Ⅱ」 【key words】 学校教育、学校保健計画・学校安全計画、保健室経営計画 【授業概要】 【授業概要】 科目オリエンテーション 学校教育と学校保健の概要、学校保健計画・学校安全計画、保健室経営計画の立案について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P63～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第２回	学習指導要領と指導案 【key words】 学習指導要領、学習指導案 【授業概要】 学習指導要領及び指導案作成の留意事項について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P550～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第３回	定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患に対する取り組み

【key words】
定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患、アドレナリン自己注射
【授業概要】
定期健康診断、学校環境衛生検査の目的と実際について解説する。
学校のアレルギー疾患に対する取り組みについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P167～、P80～、P480～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第４回　定期健康診断、学校環境衛生検査

【key words】
定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患、アドレナリン自己注射
【授業概要】
定期健康診断諸検査の会場設営と検査、記録、事後措置の演習を行う。
学校環境衛生検査の意義について学び、実習を行う。（水質検査・照度検査・各種検査等）
エピペントレーナーを用いてアドレナリン自己注射(エピペン)の実習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P167～、P80～、P480～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第５回　小学校保健教育の実践①

【key words】
小学校学習指導要領、学習指導案細案と略案、保健科指導法
【授業概要】
小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説体育編に沿って、保健学習の主題を設定し、目標・内容を考え学習指導案を立てる。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P564～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第６回　小学校保健教育の実践②

【key words】
小学校保健学習、模擬授業、評価
【授業概要】
自ら作成した小学校保健学習指導案を基に、養護教諭の特性を生かした模擬授業を実施する。模擬授業の発表後に相互評価を行い学習指導案を再検討する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P564～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第７回　中学校保健教育の実践③

【key words】
中学校学習指導要領、学習指導案細案と略案、保健科指導法
【授業概要】
中学校学習指導要領及び中学校学習指導要領解説体育編に沿って、保健学習の主題を設定し、目標・内容を考え学習指導案を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P588～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
所要時間60分程度

第８回　中学校保健教育の実践④

【key words】
中学校保健学習、模擬授業、評価
【授業概要】
自ら作成した中学校保健学習指導案を基に、養護教諭の特性を生かした模擬授業を実施する。模擬授業の発表後に相互評価を行い学習指導案を再検討する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017、P588～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で

	授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内外でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行う。(所要時間60分程度) ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	レポート試験（客観・論述）70%、保健教育発表30% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック、文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるようにするため、学校における定期健康診断、環境衛生検査、保健教育等について、項目ごとに事例を上げながら解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健所・保健センター)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	3単位(135)	選択
担当教員			
奥野　みどり・勅使川原　洋子・橋本　いずみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 地域の健康課題とその地域で展開されている公衆衛生看護の実際を知り、行政を活動の場とする保健師の活動方法及び役割を学ぶ。 [到達目標] ①公衆衛生行政（特に一般衛生行政）の組織と機能、そこでの保健師活動がわかる。 ②実習地域の健康課題と保健事業との関連について理解できる。 ③個人・家族・集団・地域社会に対する公衆衛生看護の展開方法がわかる。 ④個人・家族・集団を対象とした保健活動を実践し、評価することができる。 ⑤保健・医療・福祉・教育・産業の連携によって地域住民の健康問題解決を図る意義と方法がわかる。 ⑥保健師の倫理的実践について考察し、行動規範の向上を目指す。
授業の概要	臨地実習要項参照 ■実習時期及び実習日数・時間 実習時期：令和2年8月24日（月）～10月9日（金）3週間 2クール 実習日数・実習時間：15日間（135時間）（3単位） 実習施設：群馬県内の保健所/保健福祉事務所、市町村保健センター

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	＊＊＊＊　臨地実習要項参照 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	■実習履修資格者 （1）保健師課程履修を許可されていること。 （2）施設・病棟統合実習を除く３年次までの看護学臨地実習の単位を全て修得していること。 （3）3年次までの保健師必修科目の単位を全て修得していること。 （4）4年次前期の保健師必修科目の単位認定の資格要件を満たしていること。 以上（1）～（4）の条件をすべて満たしていること。 ■実習上の注意 ・臨地実習要項「公衆衛生看護学実習Ⅰ」にそって実習を行う。 ・社会人としての責任ある振る舞いを要求される。 ・制服もしくは指示された服装で実習すること。

	・靴はローヒールで音のしないものであること。 ・髪は他の実習と同様にまとめる。アクセサリーはつけない。 ・実習中は名札を着用する。 ・事前学習をしないで実習することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	臨地実習要項、実習オリエンテーション資料参照
オフィスアワー	臨地実習要項参照
評価方法	公衆衛生看護学実習Ⅰの目標を評価基準として、実習内容、実習中の態度、課題、記録物、出席状況等を基に総合的に評価する。 詳細は臨地実習要項を参照のこと。
教科書	公衆衛生看護活動論で使用した教科書
参考書	公衆衛生看護活動論で使用した参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理面について指導する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健実習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(45)	選択
担当教員			
山下　博子　　丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 学校保健活動および養護教諭の活動の実際を学び、地域と学校との連携のあり方を通して包括的健康支援を考える。 〔到達目標〕 1)学童・生徒の健康問題を知ることができる。 2)養護教諭および保健室の役割、機能を学ぶことができる。 3)地域保健活動と学校保健との連携を学ぶことができる。 4)就学期における子どもたちの健康問題を、乳幼児期から成人期、老年期までの一貫したライフサイクルの中で捉え、　　健康支援のあり方を考えることができる。
授業の概要	実習時期：2020年9月・10月 実習日数・実習時間：1週間（45時間）事前指導2日、事後指導1日間 実習施設：藤岡市内の公立学校 ＊実習方法の詳細は「臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅱ」に提示する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲおよび地域看護学実習Ⅳともに以下の要件をすべて満たしている者が、地域看護学実習に臨むことができる。 1)基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習およびすべての領域別看護学実習の単位修得 2)地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論および学校保健活動論Ⅰの単位修得 3)地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしている　　こと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	事前学習及び準備をしっかりして、学校での実習に取り組むこと
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項に沿って実習する。 1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①出席状況 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況 ③実習態度 ④実習記録・レポート

	2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 ③上記評価票により、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階で総合的に評価する。
教科書	臨地実習要項 配布資料
参考書	公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小学校・中学校・高等学校にて養護教諭として３８年間勤務。児童生徒及び教職員の健康の保持増進に努める。また、教育相談係として児童生徒及び保護者への支援を行う。実務経験から、養護教諭の職務と役割について、児童生徒の現代的な課題、また地域関係機関との連携について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健実習)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(45)	選択
担当教員			
奥野みどり　勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[実習の目的] 産業の場における保健活動（保健師及び看護師）の実際を学び、地域と産業の連携の在り方を通して、成人期における包括的健康支援を考える。 [実習目標] 1.産業の場における健康問題を知り、健康管理部署の役割、機能がわかる。 2.成人期の健康問題について、産業・地域保健の場での対応の違い、連携の必要性がわかる。
授業の概要	臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅲ参照 ■実習時期及び実習日数・時間 実習時期：令和2年5月18日（月）～ 6月26日（金） 実習日数：5日間 実習時間：45時間 実習施設：県内の事業所等 ※実習方法の詳細は「臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅲ」に提示する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	＊＊＊＊　　臨地実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	■実習履修資格者 （1）保健師課程履修を許可されていること。 （2）施設・病棟統合実習を除く３年次までの看護学臨地実習の単位を全て修得していること。 （3）3年次までの保健師必修科目の単位を全て修得していること。 （4）4年次前期の保健師必修科目の単位認定の資格要件を満たしていること。 以上（１）～（４）の条件をすべて満たしていること。 ■実習上の注意 ・臨地実習要項「公衆衛生看護学実習Ⅲ」にそって実習を行う。 ・社会人としての責任ある振る舞いを要求される。 ・制服もしくは指示された服装で実習すること。 ・靴はローヒールで音のしないものであること。 ・髪は他の実習と同様にまとめる。アクセサリーはつけない。 ・実習中は名札を着用する。 ・事前学習をしないで実習することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	臨地実習要項、実習オリエンテーション資料参照
オフィスアワー	臨地実習要項参照
評価方法	1）評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

	①出席状況。 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況。 ③実習態度。 ④実習記録・レポート。 ⑤事前課題、事後課題。 ①～⑤を総合的に評価する。 ※実習時間の4/5以上の出席を要する。 2) 評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了後に評価表・記録・レポートを提出する。 ③上記評価等により、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの5段階で総合的に評価する。 詳細は臨地実習要項を参照のこと。
教科書	詳細は実習オリエンテーションにおいて提示する。
参考書	詳細は実習オリエンテーションにおいて提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県保健師３８年勤務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　施設・病棟統合実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	2単位(90)	必修
担当教員			
看護学部専任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 あらゆる健康段階における対象とその家族への看護活動のあり方を学び、保健・医療・福祉チームにおける看護専門職の役割と責任を理解し、総合的な看護実践能力を高めるための知識・技術・態度を習得する。 【目標】 １．施設および病院組織における看護の機能と役割を理解する。 1) 看護部・病棟の組織と役割について説明できる。 2) 看護部・病棟の組織としての医療安全管理について説明できる。 3) 医療・看護倫理の重要性について考えられる。 4) 病棟看護管理者の役割について説明できる。 ２．チーム医療における看護職間・多職種との協働・連携について理解する。 1) 患者に関わる多職種の役割を説明できる。 2) チーム医療における多職種との連携の必要性を説明できる。 3) リーダーシップ、メンバーシップについて説明できる 4) 看護活動におけるマネジメントの必要性について説明できる。 ３．地域包括ケアシステムにおける看護活動のあり方を理解する。 1) 退院支援における地域包括ケアシステムの必要性について説明できる。 2) 社会資源の活用や在宅生活に向けての退院支援・調整における看護師の役割を説明できる。 3) 医療・看護・保健・福祉・行政の支援ネットワークの必要性を説明できる。 ４．看護専門職を目指す者として、看護活動する上での自己の課題を明確にする。 1) 事前学習を行い自己の学習目標を明確にできる。 2) 実習や自己学習に主体的に取り組むことが出来る。 3) グループメンバーの一員として協働・協力・連携を図ることができる。 4) 他者の意見を聴き、自己の意見を伝え、学びを深められる。 5) 実習の学びを通して自己の課題を記述できる。
授業の概要	施設・病棟統合実習要項に準ずる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	◎

授業計画	第１回
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の要件をすべて満たしている者が、施設・病棟統合実習に臨むことができる。 　臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、看護活動におけるメンバー・リーダーシップの単位を修得している者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。4月から事前学習に臨む事。事前学習の時間確保について、その他実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間

	は、各自で確保する必要がある。
オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。 事前学習についての時間確保は、担当教員の指示を受けることもある。
評価方法	1) 実習時間の5分の4以上の出席を単位認定の条件とする。 2) 出席状況・実習への取り組み・実習記録・レポート等の記載内容を評価対象とし、評価基準に基づいて総合的に評価する。
教科書	臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習に使用した全ての教科書、系統看護学講座看護の統合と実践①「看護管理」系統看護学講座看護の統合と実践②「医療安全」
参考書	上記の教科書以外で教員から指示された参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 大学病院または総合病院で保健師、助産師、看護師として実務経験のある教員が実習指導を担当する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
源内　和子　堀越　摂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 看護活動の場において展開される看護マネジメントの基礎と原則を習得し、将来看護活動の場で活用できるための基礎を学ぶ。 [到達目標] ①看護マネジメントの基礎と原則について理解できる。 ②看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。 ③実習体験を通して気付いた自己のメンバーシップ・リーダーシップの傾向を理解する。
授業の概要	看護の機能するあらゆる場における看護マネジメントの基本ならびに看護管理者の役割機能及び、メンバーシップ・リーダーシップの役割について、講義・グループワーク等の方法を用いて理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第1回	1.マネジメントとは・看護におけるマネジメント　2.サービスとは・医療サービス　3.看護マネジメントの考え方の変遷 【key words】 マネジメント、看護マネジメント、医療サービス 【授業概要】 ・マネジメントの基本的な考え方や看護マネジメントの考え方を学ぶ。 ・サービスの基本特性を理解して、医療サービスの特徴を把握す ・看護マネジメントの変遷を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、講義に臨む。マネジメントに関する文献等を読みまとめて臨む 復習：授業計画を再度読み授業全体のイメージをつかむ 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第2回	1.組織目標達成のマネジメント　2.チーム医療・他職種との協働　3.協働のためのマネジメント 【key words】 組織、チーム医療、協働 【授業概要】 ・組織構造と組織原則について学ぶ。 ・チーム医療の具体例を通して、他職種との協働のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第3回	1.病院・看護部組織　2.看護部門の職務と看護単位　3.看護ケア提供システムと看護基準・手順 【key words】 病院・看護部組織、職務、看護ケア提供システム 【授業概要】 ・病院・看護部組織の構造と特徴を理解する ・看護管理職の職務について学ぶ。

		・看護ケア提供システムの特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第4回	1.リーダーシップ　2.メンバーシップ　3.タイムマネジメント 【key words】 リーダーシップ、メンバーシップ、タイムマネジメント 【授業概要】 ・リーダーシップの定義を理解して、特徴的なリーダーシップ論を学ぶ。 ・メンバーシップの目的、具体的な行動を理解する。 ・タイムマネジメントの要素について学び、具体的なタイムマネジメントの方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第5回	多様なチームケアの事象を通じて、チームケアにおける看護の役割を考える（GW） 【key words】 チーム医療、看護の役割、他職種との連携、 【授業概要】 グループワーク①1.チーム医療における他職種との連携、看護の役割 2.入院からの経過を追った具体的事例を通し、医療にかかわる様々な職種の役割と連携、看護の役割についてグループワークする。 3. 多様な事象におけるチーム医療について話し合い看護の役割がどのように果たされていたか明らかにする。責任と役割は何か、グループで討議する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・グループワークでは積極的に発言できるよう意見をもって臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第6回	多様なチームケアの事象を通じて、チームケアにおける看護の役割を考える（GW） 【key words】 チーム医療、看護の役割、他職種との連携 【授業概要】 グループワーク②「多様なチームケアの事象を通じて、チームケアにおける看護の役割を考える」 チーム医療とは何か、又チーム医療における看護職の責任と役割は何か、グループで討議した結果を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループの発表者を決め発表内容の準備をする。発表会の司会者を決め活発な質疑応答ができるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第7回	これまでの実習体験を通して、多様なチームケアにおける看護の役割・自己のメンバーシップ、リーダーシップの傾向を考える、メンバーシップ、リーダーシップの理解を深めどのように 発揮するか考える（GW） 【key words】 メンバーシップ、リーダーシップ 【授業概要】 1. 実習体験を通し、自己のメンバーシップ、リーダーシップの傾向をグループワークで話し合う。 2. 講義で学んだ知識をふまえ、今後メンバーシップ・リーダーシップをとる場合どう発揮していくか考える 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・今までの実習の中でどのようにメンバーシップ、リーダーシップをとってきたか振り返りを行う。 ・第4回授業内容を復習しグループワークでに意見をもって臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 15分～30分
	第8回	これまでの実習体験を通して、多様なチームケアにおける看護の役割・自己のメンバーシップ、リーダーシップの傾向を考える、よいメンバーシップ、リーダーシップを発揮するにはどのようにしたらよいか考える（GW） 【key words】 メンバーシップ、リーダーシップ 【授業概要】 1. グループワークの結果の発表を聞き自己のメンバーシップ、リーダーシップの傾向を理解する。 2. メンバーシップ、リーダーシップの発揮の仕方について具体的な方法を見出す。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループの発表者を決め発表内容の準備をする。発表会の司会者を決め活発な質疑応答ができるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】

	15分～30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・グループワークや発表等いずれにもメンバーシップ・リーダーシップの学びを活用しながら進めていく。 ・グループワークが多い授業のため、積極的に参加されることを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・「看護管理」に関する情報（実習体験・新聞記事等）を積極的に収集する。 ・疑問な点は自分で調べ、授業で問題解決するように努力すること。
オフィスアワー	授業終了日18時まで
評価方法	筆記試験（60%）、課題レポート（40%）。授業態度、出席状況により総合的に評価する。
教科書	上泉和子他：系統看護学講座：看護の統合と実践①看護管理　医学書院、2018
参考書	①P・Fドラッカー著：マネジメントー基本と原則、ダイヤモンド社、2013 ②森田一寿編著：医療福祉マネジメントの実際、日本図書刊行会、2004 ③井部俊子編著：実践家のリーダーシップー現場が変わる、看護が変わるー、ライフサポート社、2009 ④高橋みなみ著：リーダー論、講談社、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病棟・病院看護管理の実務経験（病棟看護管理15年）病院看護管理（8年）、看護のトップマネージメントの経験は本授業に活かせる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　感染・災害看護と危機管理(国際協力を含む)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	必修
担当教員			
中山　洋子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 近年多様化する災害発生に伴い、人々の健康被害も多様化している。それらの人々に対して看護活動を行うためには、災害の特性をふまえた人々の理解も必要である。また、災害時における看護の理解を深めるとともに、災害サイクル各期において他職種と協働しながら看護活動を行うための必要な知識・技術も必要である。さらには、グローバル化が進む中で、在日外国人に対し諸外国に対応する保健・医療活動等看護実践の機会が増えている。看護の多様な場を理解するためにも、国際社会が求める看護師の役割について理解し、看護実践能力を身につける。 【到達目標】 ①災害の概念や定義について理解し、災害が健康に及ぼす影響を学習する。 ②災害発生時の看護活動の基盤となる法的制度を学習する。 ③災害各期の被災者の特性を理解し、各期の看護活動を学習する。 ④災害各期に応じた看護実践能力を身につける。 ⑤災害時の精神的ケアの方法を学習する。 ⑥災害時における自助、共助、公助について学習する。 ⑦感染の成り立ち、感染予防の観点とその具体的実践方法を身につける。 ⑧国外での救護活動に必要な基本的知識と国際協力について学習する。 ⑨国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた多文化への適応や多文化理解の基本的な考え方を学習する。 ⑩国際協力方法について多文化共生や効果的な国際協力の視点を学習する。
授業の概要	災害が人々の健康と生活に与える影響を理解し、災害発生時に看護者として行動できるように、災害各期に合わせた看護活動についての知識、技術を学ぶ。 国際看護実践に必要な基礎的知識、国や地域、文化や人種の違いを学び、国際看護の実践について考える。また、先進国と発展途上国の健康問題を比較しながら国際協力における看護活動を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	災害および災害看護に関する基礎知識 【key words】 災害看護　災害医療　災害医療体制　災害に関する法律　災害サイクル 【授業概要】 災害の定義と災害看護の歴史を学ぶ。 災害をめぐる法律、災害時の情報伝達の仕組みや、日本における災害医療体制について学ぶ。 災害サイクルにおける看護活動を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院 第1章、第2章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 災害・災害看護の歴史について学習する。災害の種類別の疾病構造を学習する。災害をめぐる法律について調べておく。日本の災害医療体制について調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第２回	災害各期に応じた看護：超急性期、急性期

【key words】
災害サイクル　超急性期　急性期　看護活動　ＣＳＣＡＴＴＴ

【授業概要】
災害サイクルの超急性期、急性期における看護師の役割を学ぶ。
ＤＭＡＴとその活動について、ＣＳＣＡＴＴＴについて学ぶ。
災害時病院での看護活動について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
第2章

【課題・予習・復習・授業準備指示】
災害サイクルにおける超急性期、急性期の看護師の役割について学習する。急性期における病院の看護師の役割について学習する。「ＣＳＣＡＴＴＴ」「ＤＭＡＴ」について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第３回　災害時に必要な技術
【key words】
一次トリアージ　二次トリアージ　トリアージタッグ　３Ｔ　机上訓練
【授業概要】
トリアージの概念、トリアージの考え方について。一次トリアージ、二次トリアージ、トリアージタッグの記載方法について実技演習を行う。災害現場における医療活動について、机上訓練を取り入れながら、グループワークを通して考える。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
第2章

【課題・予習・復習・授業準備指示】
トリアージの概念とカテゴリーについて調べておく。トリアージタッグの取り扱いと記載方法を学習する。
災害における疾病（クラッシュ症候群、外傷患者の取り扱い等）について学習しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第４回　災害各期に応じた看護：亜急性期～静穏期
【key words】
災害サイクル　亜急性期　慢性期　避難所　静穏期　健康障害　心のケア

【授業概要】
災害サイクルの亜急性期、慢性期、静穏期における看護師の役割を学ぶ。
避難所における二次的合併症、健康障害についてグループワークを通して学ぶ。
仮設住宅等における健康障害とその対応について学ぶ。
災害に関わる人々の心のケアを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
第2章

【課題・予習・復習・授業準備指示】
災害サイクルにおける亜急性期、慢性期、静穏期の看護師の役割について学習する。避難所、仮設住宅等における健康障害とその対応について調べておく。災害に関わる人々の心のケアについて調べておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　感染に関する基礎知識
【key words】
感染経路　感染予防　医療環境　サーベランス　新興感染症対策

【授業概要】
医療関連感染の理解を深め、医療関連感染対策に興味をもつきっかけとするとともに、災害現場から日常における環境管理まで学習する。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
第4章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
感染症の種類とその原因、対策について調べておくとともに、関連法規に目を通しておく。
災害現場や避難所に対する環境感染管理について、過去の災害において調べる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　国際看護学に関する基礎知識
【key words】
国際看護　国際的健康課題　国際協力　国際看護活動　保健医療

【授業概要】
世界の健康問題の現状を理解し、健康に影響を与える要因について理解する。保健医療分野にお

	ける国際機関の役割について理解する。国としての国際協力活動について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院 第4章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 世界の健康問題の現状と課題について調べておく。「国際協力」「国際人権法」「国際人道法」について調べておく。保健医療協力分野における国際機関について学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第７回　多文化理解と多文化看護論 【key words】 多文化理解　在留外国人　多文化看護論 【授業概要】 国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた多文化への適応や多文化理解の基本的な考え方が理解できる。事例を通して多文化理解を学習することができる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院 第4章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文化を考慮した看護理論について調べておく。在留外国人の定義について調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 第８回　国際看護活動の展開 【key words】 開発協力　国際看護活動　国際救援 【授業概要】 国際協力方法について多文化共生や効果的な国際協力の視点を理解できる。国際救援における理念と救援活動について理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院 第4章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 開発途上国の健康問題について調べておく。世界における災害の発生状況について調べておく。国際救援活動を行う団体について調べておく。国際救援時の看護者の役割についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は統合分野の必修科目である。したがって、すべての領域の基礎的知識と看護実践能力を身につけていること　が望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。 〔受講のルール〕 ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時に課題を提示することがある。課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、演習などの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式またはICT利用
授業外時間にかかわる情報	・授業概要に示されている予習・復習を行い授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。 ・教科書及び授業に必要な資料等は事前に確認し、授業時に持参すること。
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、ｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の授業であるため、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、演習、課題レポート等20%で評価する。 総合評価は筆記試験、演習、課題レポート等合わせて60%を超えていることが前提となる。 ＊課題レポートの未提出及び提出期限の遅れは減点の対象とする。その他、演習、課題レポートの評価基準の詳細は、課題提示時に別途説明する。
教科書	1)系統看護学講座　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 日本DMAT，国際緊急援助隊登録医療従事者による指導の下教育を行い，その概要は実災害活動を

	具体例で提供し，学生が理解しやすい講義を心掛ける。各授業テーマ内容に沿ってアクティブ・ラーニング形式で各々の学生が自身で考え，その内容をディスカッションし，それらを踏まえた考えを行動や発表といった授業展開をさせる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護学教育論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 看護基礎教育の制度と変遷を学び、看護教育に携わる上での知識技術態度を修得する。 【到達目評　】 ①看護基礎教育の制度と変遷ができる。看護の関連が理解できる。 ②看護基礎教育の目的と社会における看護学の関連が理解できる ③看護基礎教育課程の内容と考え方、方法が理解できる ④課題を通じて看護基礎教育で培った学びを考察すると共に、継続教育への関心・課題が理解できる
授業の概要	①看護基礎教育課程の概要を把握し、基礎看護教育において培う知識技術態度について理解する ②看護基礎教育の目的を理解し、社会における看護職へのニーズに対応できる看護職のあり方について考えられる

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目のオリエンテーション　看護基礎教育の概念　看護教育学とは何か 【key words】 看護基礎教育、　　教育、看護基礎教育の変遷、看護実践能力、 看護師教育のコース、継続教育・生涯学習 [key words] [教科書ページ・参考文献] [課題・予習・復習・授業準備] 【授業概要】 科目のオリエンテーション（はじめに）を通して、本科目に向かう姿勢を確認する。　②看護基礎教育の概念、看護教育学とは何かを学び本科目の概要を理解する。③看護基礎教育の意義・目的・教育の特徴（学ぶ・共育）・看護基礎教育を取り巻く背景について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P12-31、　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テーマに関して教科書を読んでまとめてくる、次のテーマに関する話題・関心のある話題を収集して臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
	第２回	看護学教育と看護の概念 【key words】 看護学教育、看護の概念　人間、社会、健康、看護、教育 【授業概要】 看護学を構成する概念の意義と各人間、社会、健康、看護、教育概念について深める。また概念を整理する過程を通じて一学習方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂、　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定された課題について此れまで学習した看護論者の文献、雑誌などから課題について調べ学習をしてくる　本日の振り返りをし、ワークシートにまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第３回　専門職としての看護

【key words】
専門職、看護実践、看護専門職

【授業概要】
専門職としての看護の特質について学び、社会における看護専門職の役割について深める。
【教科書ページ・参考文献】
看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　P13-39、　南江堂、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題について教科書を読んでまとめてくる、関心のある話題を収集してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第４回　看護教育制度の変遷

【key words】

看護制度、保健師助産師看護師法、看護教育制度、看護継続教育
【授業概要】
看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状について学び、看護教育制度の課題について関心が持てる。
【教科書ページ・参考文献】
看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　P41-91、　南江堂、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題についての振り返りをする、次回の課題について教科書を読んで整理をしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第５回　看護学教育の基盤

【key words】
アイデインティティ、クリテイカルシンキング
看護師・保健師・助産師教育

【授業概要】
看護学教育の基盤、看護基礎教育・教育課程の考え方について学び、アイデインティティ、クリテイカルシンキング、リフレクションについて深める。

【教科書ページ・参考文献】
看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　P93-127、　南江堂、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題についての振り返りをする、次回の課題について教科書を読んで整理をしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第６回　看護学教育の基盤－２

【key words】
クリテイカルシンキング、リフレクション、倫理的配慮と価値判断

【授業概要】
看護の実践に必要なクリテイカルシンキング、リフレクションの演習を通して、振り返りの意義、自己を知ることの必要性とその方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　P93-127、　南江堂、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題についての振り返りをする、次回の課題について教科書を読んで整理をしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
1－2時間程度

第７回　看護教育課程－１

【key words】
カリキュラム、カリキュラムデザイン、学習過程、授業科目及び授業内容・方法　、
【授業概要】
カリキュラム、カリキュラムデザイン、学習過程、看護学生が実習上で直面しやすい問題についての背景について学び、看護職育成の教育課程の基盤や考え方について深める。
【教科書ページ・参考文献】
1－2時間程度
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題について教科書を読んで整理をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　P141-157、　南江堂、　配布資料

第８回　看護教育課程－２

【key words】
　臨地実習、育てたい学生・育ちたい学生、

[key words]

	［教科書ページ・参考文献］ ［課題・予習・復習・授業準備］ 【授業概要】 本科目での此れまでの学習や体験したの学習をとおして、育ちたい学生像と関連する授業科目及び授業内容・方法について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　P179-199、　南江堂、　配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に向け、此れまでで印象に残っている学習内容の背景について考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 1－2時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業シラバスを確認し、内容について事前に整理し、主体的に授業に臨むこと ・グループワークが多いのでメンバーシップ・リーダーシップを発揮する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・看護学教育に関するトピックス、看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨むと理解しやすい。分からない部分は授業の中で解決するよう努力する
オフィスアワー	授業終了日18時まで
評価方法	課題レポート80%、授業の取り組み20%
教科書	グレッズ美鈴：看護教育学　南江堂
参考書	小山眞理子　看護教育の原理と歴史　医学書院 講義の中で適宜提示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護職として臨床経験10年、それ以降、看護専門学校、看護大学教員として看護基礎教育に40年余携わってきた。教育は、共育であると実感している。社会の動向、特に2022年度は、地域包括ケア時代に向けた看護職の育成を視野に入れた看護基礎教育カリキュラムの改定が行われる。地域包括ケア時代に向けた知識技術態度が発揮できる看護専門職の育成を目指す。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　クリティカルケア特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
多田　真和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生命の危機的状況にある方に対する救命救急医療の場において、将来適切な看護を行えるようになるための知識を修得することを目的とします。 〔到達目標〕 目の前で生じている生命の危機的状況に対し、学んだ内容を基に問題点を明らかにし、その病態生理をふまえた上で解決策が立てられ、クリティカルケアが実践できるようになることを目標とします。
授業の概要	クリティカルケア看護の特性、取り巻く環境を理解した上で、クリティカルな状況にある方へのアセスメントの意義、目的、方法およびその実際を学習します。その上で、クリティカルな状況にある方の主要病態の特徴とケア、過大侵襲を伴う手術患者さんの特徴とケア、クリティカルケア看護に必要な看護技術等について学びます。さらに、クリティカルケア看護を実践するにあたっての倫理、チーム医療体制およびその実践に必要なマネジメントについても学んでいきます。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、クリティカルケア看護とは 【key words】 クリティカルケア看護の特性、クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 【授業概要】 はじめにあたりオリエンテーションを行います。クリティカルケア看護師に求められる能力、クリティカルケアの場の種類と特性、さらに、クリティカルケアを必要とする患者さんの特徴と問題点、危機的状況にあるご家族の特徴につき解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p.1 － p.15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30－60分
	第２回	クリティカルな患者のアセスメント 【key words】 アセスメントの意義・目的、アセスメントの方法、系統別アセスメントの実際、小児のアセスメント、高齢者のアセスメント 【授業概要】 アセスメントの意義、目的、方法、そして呼吸器系、循環器系、脳神経系の系統別アセスメントの実際を学びます。さらに、今後重要性が増す高齢者に対するアセスメントの実際を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p.17 － p.39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第３回	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（Ｉ） 【key words】 過大侵襲、栄養障害、栄養管理、呼吸障害とケア、循環障害とケア、脳神経系障害とケア 【授業概要】

		過大侵襲を受けた方に生じている生体反応、栄養障害と栄養管理、呼吸障害とケア、循環障害とケア、脳神経系障害とケアについて解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p.41 - p.78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第４回	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（ II ） 【key words】 凝固・線溶系障害とケア、多臓器障害とケア、重症感染症とケア、創傷とケア、精神障害とケア 【授業概要】 クリティカルな状態の方に生じている凝固・線溶系障害とケア、多臓器障害とケア、重症感染症とケア、創傷とケア、さらに精神障害とケアについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 p.78 - p.113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第５回	過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 【key words】 外科的侵襲、生体反応、手術後に必要な看護 【授業概要】 外科的侵襲が生体に与える影響について解説します。その上で、手術後に必要な看護について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 p.115 - p.143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第６回	クリティカルケア看護に必要な看護技術 【key words】 心肺蘇生法、呼吸管理、体液・循環管理、栄養・代謝管理、体温管理、感染予防対策、スキンケア、口腔ケア、体位変換、疼痛ケア、廃用症候群の予防、摂食・嚥下促進、危篤状態にある患者・家族へのケア 【授業概要】 クリティカルな状態にある方に対して必要な看護技術について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 p.145 - p.203 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第７回	クリティカルケアの看護実践を支える枠組み、クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント 【key words】 クリティカルケア看護と倫理、クリティカルケア看護とチーム医療、クリティカルケア看護と看護管理、クリティカルケア看護と安全管理 【授業概要】 患者の権利と擁護、身体拘束、インフォームドコンセント、人格の尊重、リビングウィルとDNAR、尊厳死について解説します。また、クリティカルケア看護におけるチーム医療の特殊性、チーム医療におけるコミュニケーションについて学んでいきます。 【教科書ページ・参考文献】 p.205 - p.235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60－90分
	第８回	まとめ 【key words】 【授業概要】 これまでに学んできたクリティカルケア看護を、国家試験の関連部分を解くことで理解をより確かなものとします。同時に、定期試験対策、ひいては国家試験対策となるよう配意します。 【教科書ページ・参考文献】 p.1 - p.235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでに学んできた内容で、理解しにくい点、いまだ自身が修得できていない点を明確にして授業に臨んで下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 90－120分
受講生に関わる情報および受講のルール	将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配意してください。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード方式	

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	クリティカルケアは実践的な学問であり、実際にクリティカルケアを実践できるようになるには相応の経験を積むことが必要です。経験のない現状においては、充分な予習（テキストの読み込み等）を行い、自身がクリティカルな場面に直面していることをイメージし、その上で生じる多くの疑問点や理解しにくい部分を、授業中および授業後の質問等により解決していくことが重要です。
オフィスアワー	授業終了後30分ー60分程対応可能です。
評価方法	全授業終了後に行う100点満点の筆記試験で評価を行います。試験問題は選択式で、国家試験問題のクリティカルケアに関連する部分をもとに作成します。
教科書	系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　第1版　医学書院
参考書	授業の中で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 かつて大学病院にて救命救急医療を含む臨床医学および基礎医学研究に、医師として携わっていました。現在も一般病院において、主に臨床医学に携わっています。また、介護保険施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。さらに、産業医として、一般企業で働く方に対する健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わり、また健康診断、人間ドック等を通して予防医療分野にも従事しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　家族援助論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 医療従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。
授業の概要	講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　自己紹介カード 【key words】 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付　自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について） 【key words】 【keywords】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【授業概要】 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分

第３回　対人援助技術の原則
【key words】
【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　コミュニケーションスキルを磨こう　DVD 視聴
【key words】
【keywords】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク
【授業概要】
【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　情報を共有し合意するということ
【key words】
【keywords】
コンセンサス
【授業概要】
【授業概要】
グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ
演習を通して学んだことをレポートにまとめる
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
演習（ゲーム）の資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　家族について考える　DVD 視聴
【key words】
【keywords】
エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障
【授業概要】
【授業概要】
映像を見て家族について考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
家族についてあらためて考えてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　人の一生と社会福祉 家族援助事例検討
【key words】
【keywords】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護

【授業概要】
【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第８回　　援助の基本原則　まとめ 【key words】 【keywords】 バイスティックの７原則 【授業概要】 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8 回の授業なので、欠席が3 回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	２回に１回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業後20分間
評価方法	筆記試験（レポート試験）80％と授業中に出すレポート課題等の提出物20％により評価する。 レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護研究概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
西山　智春			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　看護研究の意義、目的、看護実践としての看護研究の特徴やあり方について理解し、看護研究を実施 するために必要な基礎的能力を習得する。 〔到達目標〕 ①看護研究の特徴（定義、種類、方法、一連の過程）を理解できる。 ②看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な 　研究者としての態度や行動を考察できる。 ③上記①・②の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察できる。 ④看護研究に研究的・主体的態度で臨むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための 　自らの課題を明確にできる。
授業の概要	看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上で、看護研究は必要不可欠である。本科目では、看護研究の意義や目的、看護研究における倫理、実践科学としての看護研究のあり方について論及し、看護研究を行う上で必要な知識を教授するとともに、看護学の初学者として看護研究とどのように関わっていく必要性があるのかについて考える機会とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション／研究とは何か、看護研究の必要性、実践の中から発見する研究課題 【key words】 看護研究　意義　看護学　実践科学 【授業概要】 シラバスに基づき、授業の進め方とその内容、評価の方法について説明をする。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 看護研究の定義、意義、看護実践と看護研究の関係について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎演習ⅠⅡで学んだ研究の基礎的知識を活用し、積極的に看護研究に関する文献を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第２回	研究の種類と特徴、事例研究の重要性 【key words】 研究の種類・特徴、事例研究 【授業概要】 研究の種類と特徴、事例研究の重要性その特徴について理解する。 事例研究の意義と方法について理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第３回	看護研究における倫理[1]：看護研究における倫理上の原則、研究において擁護されるべき権利

【key words】
看護研究　倫理指針　倫理の原則　アドボカシー（擁護）　倫理的配慮
【授業概要】
看護研究における研究倫理について学習し、看護専門職者・研究者としての倫理、あるべき姿を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019
②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会″
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第４回　看護研究における倫理[2]：研究対象者に対する倫理、研究倫理審査委員会
【key words】
研究倫理　研究計画書　研究倫理審査　研究説明書　同意書
【授業概要】
看護研究プロセスの各段階における研究倫理について教授する。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2019　P19～20
②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　看護研究のタイプ[1]：看護研究における量的研究
【key words】
量的研究

【授業概要】
・看護研究における量的研究について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
・看護研究における量的研究について概説する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　看護研究のタイプ[2]：看護研究における質的研究
【key words】
質的研究

【授業概要】
看護研究における質的研究について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019
②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　看護研究における文献検討：文献検討の意義、文献の読み方（クリティーク）、文献整理の方法（文献カード作成）
【key words】
文献検討　文献の読み方　クリティーク　文献の整理　文献の活用法
【授業概要】
看護研究における文献検討について理解する。
文献検討の意義と文献の読み方（クリティーク）、文献の整理の方法、文献の活用法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第８回　看護研究トピックス　総括
【key words】
看護研究　EBN（Evidence　Based　Nursing）
【授業概要】
看護研究の最新情報およびEBN（Evidence　Based　Nursing）の発展のための課題を理解する。
看護研究に対する自らの課題を明確にする。
【教科書ページ・参考文献】
①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・上記「授業計画」を参考に、教科書の該当箇所を精読し、予習復習を行う。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

	・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ～Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業中に提示された課題の提出期限は必ず厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。 ・授業中に提示された課題には真剣に取り組むこと。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後～２時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	レポート試験70%、課題学習（授業中レポート）30%により総合的に評価する。
教科書	①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　日本看護協会出版会　2018
参考書	随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 博士（看護学）学位取得者であり、科学研究費助成等、教育研究実績のある教授が担当する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護研究方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春　　丸井淑美　　酒井美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護専門職を目指す者として、看護研究方法論の基礎を学び、研究疑問を科学的に探究する能力を養う。 〔到達目標〕 ①看護研究に関する基本的な知識、研究方法、研究の倫理について理解できる。 ②研究計画書を作成し、各自の研究テーマに基づく論文作成（看護研究セミナー）に活用できる。
授業の概要	看護研究の基礎となる研究プロセスと研究方法を学ぶ。研究計画書の書き方、データ収集・分析の方法、研究の倫理的配慮、文献クリティーク、論文のまとめ方、研究発表の仕方について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　看護研究プロセスの概要　　文献検討の意義　　文献検索の方法 【key words】 オリエンテーション、研究プロセス、文献検討 【授業概要】 今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について理解する。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について理解する。 自らの興味関心のある研究テーマを設定、文献検索を行い、各自研究をすすめる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P2-63 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第２回	文献講読とクリティーク 【key words】 文献講読、クリティーク 【授業概要】 文献（研究論文）を読みながら、文献の読み方及びクリティークの方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P215-220 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第３回	研究と倫理 【key words】 看護研究、研究倫理 【授業概要】 看護研究における研究倫理について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P19-30 ③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会 【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第４回　研究課題と研究デザイン　　研究デザインの種類と特徴、概念枠組み
【key words】
看護研究、研究デザイン、概念枠組み
【授業概要】
看護研究における研究デザイン、概念枠組みについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P80-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　量的研究　　量的研究のデータ収集と分析
【key words】
看護研究、量的研究、データ収集
【授業概要】
看護研究における量的研究のデータ収集と分析について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P136-204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　量的研究　　質問紙調査票の作成
【key words】
看護研究、量的研究、質問紙調査
【授業概要】
看護研究における質問紙調査票の作成について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P153-158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
660分～120分

第７回　質的研究　　質的研究のデータ収集と分析　　事例研究と事例検討
【key words】
看護研究、質的研究、データ収集、データ分析
【授業概要】
看護研究における質的研究の特徴と質的研究のデータ収集と分析について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P222-240
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　論文のまとめ方①　研究論文の構成要素
【key words】
看護研究、論文作成、論文の構成
【授業概要】
看護研究における論文の構成及びその要素について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P212-214
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　論文のまとめ方②　論文・抄録の書き方（ガイドライン）
【key words】
看護研究、データ分析
【授業概要】
看護研究における論文・抄録の書き方（ガイドライン）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P212-214
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み、自己学習する。
ガイドラインの配布資料をよく読む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　論文発表の仕方、プレゼンテーション
【key words】
看護研究、研究発表、プレゼンテーション
【授業概要】
看護研究における研究発表及びプレゼンテーションの基本について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P210-212
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

	第１１回　研究計画書の作成①【演習】研究テーマの設定、研究動機、関連文献の講読 【key words】 看護研究、研究計画書 【授業概要】 研究計画書の作成に必要な構成要素について学ぶ。各自研究計画書の作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P120-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究に関する文献を読み、研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１２回　研究計画書の作成②【演習】研究目的・研究方法 【key words】 看護研究、論文作成、抄録作成 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P120-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究に関する文献を読み、研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１３回　研究計画書の作成③【演習】倫理的配慮 【key words】 研究倫理、倫理的配慮 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 研究に関する文献を読み、研究計画書の作成をすすめる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P23-30, 120-134 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１４回　研究計画書の作成④【演習】研究計画書のまとめ、文献引用 【key words】 看護研究、研究計画書 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 研究計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究に関する文献を読み、研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１５回　総括 【key words】 看護研究、研究計画書 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 研究計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究に関する文献を読み、研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	自己の研究課題に対し主体的に取り組み、研究計画書を作成し、4年次の論文作成（看護研究セミナー）につなげる。 興味関心のある事項及び研究疑問について文献を読む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自己の研究課題に関連する研究論文を読み、文献学習を積極的に行うこと。
オフィスアワー	授業終了後～2時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	筆記試験（客観・論述）　70%、課題学習・提出物30%により総合的に評価する
教科書	①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2019 ③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
参考書	随時紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	博士の学位保有者で、科学研究費助成による教育研究実績のある教授が担当する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護研究セミナー　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春　　他専任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　必修科目「看護研究概論」「看護研究方法論」での学習内容を活用し、自己の研究テーマに基づき看護研究の一連の過程を実施することを通じ、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。 〔到達目標〕 ①看護研究として取り組みたい研究課題を明確化し、研究テーマを決定できる。 ②自己の研究テーマ、研究目的に基づき、研究計画書の作成ができる。 ③研究計画書に基づき、データ収集・分析を実施し、基礎的知識を得る。 ④研究結果を論述し、考察することができる。⑤実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述できる。 ⑥実施した一連の看護研究の過程を研究発表の方法に則って発表できる。 ⑦看護研究の過程を通して、看護研究に必要な基礎的知識と研究的態度を身につける。
授業の概要	看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上で、看護研究は必要不可欠である。　本科目では、一年から三年次のボランティア活動、看護実習での実践活動から抽出した看護問題、各々の研究疑問を研究テーマとし、担当教員の指導を受けながら、文献検討、研究テーマの吟味・決定、研究計画書の作成、データー収集・分析、論文及び抄録作成、研究成果の発表などの看護研究の一連のプロセスを実際に経験し学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション／研究テーマの決定 【key words】 オリエンテーション、研究テーマ、EBN、量的研究、質的研究 【授業概要】 今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について理解する。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について理解する。 自らの興味関心のある研究テーマを設定、文献検索を行い、各自研究をすすめる。 担当指導教員を決定する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第２回	研究計画書の作成 【key words】 研究計画書、研究倫理、EBN、量的研究、質的研究 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 研究計画書に基づき、各自の研究をすすめる。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

		担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第３回	研究データの収集の実践 【key words】 看護研究、データ収集 【授業概要】 自己の研究テーマにおける研究データの収集に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第４回	研究データの整理 【key words】 看護研究、データ収集、データの整理 【授業概要】 自己の研究テーマにおける研究データ収集の整理に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第５回	研究データの分析 【key words】 看護研究、データ分析 【授業概要】 自己の研究テーマにおける研究データの分析に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第６回	研究データの分析結果の文章化 【key words】 研究データ、分析結果、文章化 【授業概要】 収集した研究データの結果を文章化し、論文作成に繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第７回	研究論文の作成[1]緒言、研究目的 【key words】 看護研究、論文作成 【授業概要】 論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第８回	研究論文の作成[2]研究方法 【key words】 研究論文、研究方法 【授業概要】 論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第９回	研究論文の作成[3]研究結果 【key words】 研究論文、研究結果 【授業概要】 論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む 【教科書ページ・参考文献】 看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　研究論文の作成[4]考察、結論
【key words】
研究論文、考察、結論
【授業概要】
論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　研究論文の抄録作成
【key words】
看護研究、論文作成、抄録作成
【授業概要】
作成した各自論文について、ガイドラインに沿って抄録作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　研究発表会の準備[1]：発表原稿の作成
【key words】
研究発表、発表原稿の作成
【授業概要】
研究発表するための発表原稿及びパワーポイント（研究発表用）を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　研究発表会の準備[2]：予行演習、プレゼンテーション
【key words】
看護研究、発表準備、プレゼンテーション
【授業概要】
研究発表の準備として、パワーポイントを用いた発表の予行演習を行う。
必要に応じて、修正を行う。
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１４回　研究成果の発表
【key words】
研究発表、研究成果、プレゼンテーション
【授業概要】
学内研究発表会において、研究発表を行う。
質疑応答を行い、研究に対する理解を深め、自己課題を明確にする。
（研究発表会に２年生及び３年生が参加する）
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１５回　総括　研究のまとめ
【key words】
グループワーク、看護専門職者としての態度
【授業概要】
これまでの研究のプロセスを通して学んだこと及び看護専門職者としての態度について、自身の考えをまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
看護研究概論、看護研究方法論で使用したテキスト及び授業資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
論文作成及び研究発表までの過程を振り返り、グループワーク（討議）に活かす。
看護専門職者としての基礎的研究能力について考察する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・上記「授業計画」はあくまでも目安であるため、学生は、主体的に担当教員の指導を求め、その指導に基づき課題 に取り組む。 〔受講のルール〕 ・指導教員にアポイントメントをとり、指導を必ず受けること。 ・担当教員から提示された課題には主体的に取り組み、提出期限は必ず厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、その他（アンケート）
授業外時間にかかわる情報	・担当教員から提示された課題には真剣に取り組むこと。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日16：30～17：45　・各指導担当教員と相談の上、日時を決定し指導を受ける
評価方法	研究論文及び抄録、研究成果の発表（プレゼンテーション）、研究に取り組む姿勢について、看護研究セミナー評価表に基づき、単位認定教員が評価、判定する。
教科書	①南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会，2019. ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
参考書	随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護学部専任教員（教授・准教授・講師・助教）が指導にあたる。 学位（博士または修士）の取得者または教育研究業績のある教員である。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　哲学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとうてみる学問をねらいとしている。 【到達目標】 教科書「咸有一徳」を熟読し、本学の「建学の精神」「教育理念」を理解し、それについての自分の考えを述べることができること。 ①人への思いやりの心を育む。 ②人間としての道徳や、礼儀を身につける。 ③「論語」から紐解く人の在り方とは何かを知る。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいので は虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子･荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両社は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回 科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。 第２回 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 第３回 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 第４回 大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章） 第５回 至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章） 第６回 家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序） 第７回 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章） 第８回 顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）

	第９回 国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回 孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回 よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回 老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、筆記試験･レポート･出席状況を鑑み、総合的に評価する。出欠席状況を重視し、出席常なる学生には、それ相当の評価をする。欠席・遅刻は事前に必ず連絡すること。理由なき無断の欠席、遅刻が多い者は成績評価を受ける資格を失うことがある。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は、それまでの出席も欠席とみなされ、単位が認められない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	成績評価は、筆記試験･レポート･出席状況を鑑み、総合的に評価する。筆記試験・レポートの評価に加え、授業への積極的な参加態度やコメントカードの提出等も評価に加味する。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）・咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　法学（日本国憲法を含む）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 現代社会では、人は法の保護と規制のもとで生活している。 わが国の基本法である憲法、民法、刑法を中心に医療過誤を含め、判例等を参考にして、法的な考え方を学び、問題解　決能力を身に付ける。 ［到達目標］ ①社会生活をしていく上での基本的法律を理解する。 ②法的思考、考え方を身につける。 ③医療従事者としての問題解決能力を身につける。
授業の概要	法の特質を学び、憲法の基本原理、統治機構、人権保障の具体的事例を取り上げる。また、生活に直接かかわる民法、刑法の理解を深めるとともに、医療過誤、国際法等についても触れる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　法と社会生活・道徳・目的 【key words】 法的安定性　平均的正義と配分的正義　権利義務　権利意識と順法精神 【授業概要】 個人の生活を守るために、また社会の動きを正しく理解するために法学を学ぶことを説明。社会生活を営む上での行為規範、法と道徳などを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ1～32 参考文献；「法の常識」渡辺洋三編．有斐閣　「近代法の常識」伊藤正己．有信堂 【課題・予習・復習・授業準備指示】 法の意義について理解を深めること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	法と裁判、裁判の基準、法の解釈 【key words】 裁判規範　行為規範　民事・刑事・行政事件　裁判員制度　調停　自由心証主義　挙証責任　条理　公法・私法 【授業概要】 具体的事件を担当する国の機関としての裁判所が、どのように処理するのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ33～93 参考文献：「裁判法」兼子一・竹下守夫．有斐閣　　［法社会学」川島武宜．岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 裁判の基準や法の解釈の基礎を理解すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	日本国憲法（基本原理・統治機構１） 【key words】 民主主義　社会契約説　自由主義（三権分立）　象徴　国事行為

【授業概要】
国民の人権を守るために、憲法は統治機構と人権保障の両面から規定していることを説明。民主主義、自由主義等について触れ、象徴としての天皇制について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ94～104
参考文献：「憲法」芦部信．岩波書店　「憲法判例百選Ⅱ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
民主主義、自由主義を理解すること。天皇制の意義を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　日本国憲法（統治機構２）
【key words】
代表機関　最高機関　中枢機関 憲法の番人　司法権の独立　財政民主主義　地方治自治の本旨
【授業概要】
国会、内閣、裁判所の地位と権限、財政、地方自治制度　憲法改正について学ぶ。また話題となっている選挙制度改革についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ94～104、ｐｐ106～108
参考文献：「憲法」佐藤功．学陽書房　「憲法判例百選Ⅱ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
最近話題となっている憲法改正についての問題点を考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　日本国憲法（人権保障１）
【key words】
自然権思想　個人の尊厳　比較衡量

【授業概要】
人権保障の意義と歴史を説明し、代表的な事件を取り上げて判決内容を検証
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ104～106
参考文献：「憲法判例百選Ⅰ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配付物に記載された事件内容と判旨を確認し、自分の考え方をまとめること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　日本国憲法（人権保障２）
【key words】
自由権　生存権　個人尊重　プライバシー権　知る権利

【授業概要】
人権に関する代表的な具体的事件を取り上げて判決内容を検証
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ104～106
参考文献：「：憲法判例百選Ⅰ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配付物に掲載された事件内容と判旨を確認し、自分の考え方をまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　民法（総則・物権）
【key words】
法律行為　後見　公序良俗　　時効　除斥期間　所有権　占有権　用益物権　担保物権

【授業概要】
民法は私人間における社会の構成原理と行動規範範である。総則はいわゆる一般条項で包括的な内容を有し、公共の福祉に適合、信義誠実、権利の乱用の禁止の３原則のもとに、個人の尊厳と両性の本質的平等に基づき解釈適用されることについて説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ146～147
参考文献：」星野英一著「民法講義（総論）、有斐閣　「民法判例百選Ⅰ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
民法総則・物権は、重要かつ内容が多いので教科書と条文を照らし合わせること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　民法（債権）
【key words】
　契約、事務管理、不当利得、不法行為

【授業概要】
債権は、人の責任を追及する権能で、特定の人に対して特定の給付を要求しうる法的地位を意味する。発生原因の契約、事務管理、不当利得、不法行為等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ146～156

参考文献：「民法（財産法）」星野英一．放送大学教育振興会　「民法判例百選Ⅱ」有斐閣
「民法Ⅲ」内田貴．東京大学出版会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
債権総論は内容を教科書と各条文で照らし合わせること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　民法（親族）
【key words】
血族　姻族　婚姻　離婚　養子縁組

【授業概要】
親族は人の身分関係基本となるものを規定していて，これらを説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ128～138
参考文献：「民法（家族法）」星野英一．放送大学教育振興会　「家族法判例百選」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
家族法は身近な問題を扱うので、自分自身の場合を考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　民法（相続）
【key words】
相続分　遺産分割　限定承認　遺留分

【授業概要】
遺産の承継、帰属をめぐって利害対立する法律関係の調整を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ138～139
参考文献：「民法8，9」遠藤浩ほか．有斐閣
「民法講座7親族・相続」星野英一編集．有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
相続人、相続分を具体的事例から考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　刑法（総論）
【key words】
罪刑法定主義　正犯　教唆犯　幇助犯　構成要件該当性　未必の故意

【授業概要】
刑法は犯罪と刑罰を定める法律である。その目的は人の生命等を守り社会を維持することにある。ここでは歴史、思想、犯罪成立要件等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ111～121
参考文献；「プレップ刑法」：町野朔．弘文堂　「基礎から学ぶ刑事法」井田良．有斐閣
「刑法判例百選Ⅰ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
罪刑法定主義の内容、犯罪の成立要件を整理すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　刑法（各論）
【key words】
個人法益、社会法益、国家法益

【授業概要】
刑法は保護法益を個人法益、社会法益、国家法益に分け、その罪を学ぶ。また新しい犯罪類型についても説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ112～113
参考文献：「刑法」山口厚．有斐閣　「刑法判例百選Ⅱ」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近な問題としての個人法益に対する罪を中心に復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　労働法、社会保障法
【key words】
労働基準　労働協約　雇用機会均等　公益通報　プライバシー　生活保護

【授業概要】
働く者にとって密接に関係してくる労働法、雇用関係法、労使関係法、社会保険法、公的扶助法等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ157～179
参考文献：「労働法」菅野和夫．弘文堂　「社会保障法入門」　西村健一郎．有斐閣
「労働法刑法判例百選」有斐閣

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身が将来、看護師として働いていくための法律の基礎知識を得ること。情報の保護という

	面から法の意義を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　医療と法 【key words】 過失　重過失　業務上過失致死罪　業務上過失致傷罪 【授業概要】 病院等の医療過誤について発生した具体的事件を検証。また安楽死と違法性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護師業務中に事故を起こさないようにする。起きたときの対応を身に付けること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　国際社会と法 【key words】 国際慣習法　一般国際法　国際連合憲章　国際司法裁判所 【授業概要】 国際法がどのように成立したか。どのような特色を持つか。国内法と国際法の関係、国際人道法の適用等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ180～203 参考文献：「国際条約集」奥脇直也ほか．有斐閣　国際法学会編「国際関係法辞典」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 近年、日本を含め領土問題等は国際法に基づく紛争解決が望ましいといわれる。歴史も踏まえどのように解決するか考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・板書、口述の内容はノートに整理しておくこと。 ・小論文、レポートは必ず提出すること。 ・欠席が５回を超えると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習復習は、予習を重点に行うこと。 法律問題の新聞・テレビ等に関心を持つこと。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	定期試験、レポートを総合的に評価する。　（目安）　定期試験７０％、レポート３０％
教科書	［日本の法」緒方桂子等編　日本評論社
参考書	小六法（小型版）で有斐閣「ポケット六法」」。　担当者配付の「新しい人権の判例」　、他は授業中に紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	2 単位（60）	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教養目的に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀、挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。 【到達目標】 １．礼儀・挨拶・ボランティア活動・環境美化活動を理解し、積極的に修得することができる。 ２．基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用、レポート作成など学習スキルを身につける。３．昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム　①大学生活への適応（学習面・生活面） 【key words】 建学の精神、履修要件、単位、授業概要、クラス運営 【授業概要】 ・春期オリエンテーション ・担任紹介、大学生活が快適に過ごせるようにクラス運営、環境美化活動グループについて説明する。 ・シラバス、時間割、履修計画、履修登録方法、掲示板活用方法について説明する。 ・学生各委員会の選出（クラスリーダー・サブリーダー、体育委員等） ・今後の日程・時間割説明（健康診断、親睦スポーツ大会等） ・自己紹介、書類の提出 【教科書ページ・参考文献】 学生生活HANDBOOK、履修の手引き、時間割 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学生活へ適応するために学習面・生活面について、1年間の目標と学習計画を立案し、指定された期日に課題用紙を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	進路、資格取得プログラム　①基礎演習Ⅰの目的・到達目標、資格取得について 【key words】 基礎演習Ⅰ、5つのプログラム、保健師課程、養護教諭課程 【授業概要】 ・基礎演習Ⅰについて説明 ・シラバス、時間割、履修計画、履修登録方法について説明する。 ・保健師課程、養護教諭課程の説明をする。 ・親睦スポーツ大会の準備（Tシャツデザイン、参加種目の決定等）をする。 【教科書ページ・参考文献】 学生生活HANDBOOK、履修の手引き、時間割

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定された期日までに履修登録を行う。指定された期日までに各書類を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　学習統合プログラム　①大学での授業の受け方（スタディ・スキルズとは、ノート・テイキング）
【key words】
スタディ・スキルズ、学生、タイム・マネージメント、ノート・テーキング

【授業概要】
・生徒と学生の学び方の違いを理解する。
・タイム・マネージメントの技術を身につける。
・スタディ・スキルズの全体像をつかむ。
・講義を聴いて、重要なことをノートにとる。講義ノートをもとに、興味・関心を持つ。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P1～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　地域貢献プログラム　①学年合同ボランティア活動報告会
【key words】
地域貢献、建学の精神、ボランティア活動

【授業概要】
・新入生に対して２～４年生がこれまで行ってきたボランティア活動についてプレゼンテーションを行う。

【教科書ページ・参考文献】
別冊ボランティア活動記録
【課題・予習・復習・授業準備指示】
別冊ボランティア活動記録を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　学習統合プログラム　②リーディングの基本スキル
【key words】
テキストの種類、読みの種類、マーキング、構成、話題

【授業概要】
・テキストの種類に応じた読み方を身につける。
・効率の良い読書の方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P29～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学習統合プログラム　③基礎基盤試験
【key words】
基礎知識、学習
【授業概要】
・外部試験を行い、学生の基礎知識を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
指示された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示された教室に集合する。時間厳守。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　学習統合プログラム　④より深いリーディングのために
【key words】
要約、大意、要旨、主題、意見、考え

【授業概要】
・テキストを読んで要約する技法を身につける。
・読書を通じて、自分の意見や考えをもつ。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P43～53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　心身の健康プログラム　①親睦スポーツ大会
【key words】
心身の健康プログラム、親睦スポーツ

【授業概要】

・各種目におけるスポーツを通して、各学部学生・教職員との親睦を図る。

【教科書ページ・参考文献】
指示された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備体操、運動着、シューズ、集合時間厳守
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学習統合プログラム　⑤大学図書館における情報収集
【key words】
大学図書館、文献検索、インターネット、情報収集、情報モラル

【授業概要】
・情報収集の概念と必要性を学ぶ。
・情報モラルを身につける。
・情報発信の留意点と情報扱いの注意事項
・大学における図書館の利用方法を身につける。
・インターネットでの情報収集・文献検索方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P55～100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布された資料
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　心身の健康プログラム　②大学生活への適応　（防犯講話）
【key words】
防犯、交通安全、SNS

【授業概要】
・警察署の方を講師に招き、防犯についての講義を聴く。

【教科書ページ・参考文献】
講和終了後、レポート提出。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　地域貢献プログラム　②障害者スポーツ大会
【key words】
障がい者、支援、安全

【授業概要】
・障害者とともに各競技に参加する。
・役割を行いながら、障害者が楽しく、安全に競技に参加できるように支援する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
役割を確認し、指示に従って行動する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　学習統合プログラム　⑥研究（研究の意義と目的、文献カードの作成、文献活用）
【key words】
研究の動機、研究目的、文献検索、研究方法

【授業概要】
・研究とは何か。
・研究を行う目的と研究方法の種類について説明する。
・文献検索、文献検索カードの作成を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
看護研究に関する文献・研究論文
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布された資料を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　学習統合プログラム　⑦プレゼンテーションの基本スキル
【key words】
プレゼンテーション、プレゼン、発表、説明、レジュメ、ハンドアウト

【授業概要】
・プレゼンテーションとは何かについて説明する。
・プレゼンテーションの種類と特徴を説明する。
・プレゼンテーションツールについて説明する。
・レジュメの作成について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P43～53
看護研究に関する文献・研究論文
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第１４回　地域貢献プログラム　③昌賢祭準備（昌賢祭：テーマ策定、研究班編成）
【key words】
研究計画書、文献、研究テーマ

【授業概要】
・グループで研究テーマ、研究計画書を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
グループでテーマに沿った文献を集めて資料とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１５回　建学の精神と実践教育プログラム　②前期の振り返り、後期の目標
【key words】
建学の精神、前期目標の振り返り

【授業概要】
・夏期オリエンテーション
・前期で立てた学習目標・生活目標を振り返り、後期の目標を立てる。
・長期休暇に入るため、課題説明や防犯等の注意事項を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
学生生活HANDBOOK
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に前期目標を確認し振り返れるように準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１６回　建学の精神と実践教育プログラム　③後期の学習目標・生活目標
【key words】
建学の精神、学習目標設定、学習計画、履修単位、生活目標

【授業概要】
・教育課程を理解し、学習計画の立案及び学生生活への取り組み方を明確にする。

【教科書ページ・参考文献】
学生生活HANDBOOK、シラバス
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１７回　建学の精神と実践教育プログラム　④環境美化活動の意義と実践方法について
【key words】
建学の精神、環境美化活動

【授業概要】
・環境美化活動について、実践した活動内容を学び、学生全員で協力して大学構内の環境美化を行う。

【教科書ページ・参考文献】
指示された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
全員で協力して環境美化を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１８回　心身の健康プログラム　③デートDV講和
【key words】
大学生活、デートDV

【授業概要】
・外部講師により、デートDVについて講義を聴く。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義終了後、レポート提出。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１９回　地域貢献プログラム　④昌賢祭準備（昌賢祭：各研究班調査資料分析、発表検討）
【key words】
昌賢祭、研究発表、資料確認、プレゼンテーション、レジメ

【授業概要】
・昌賢祭に向けて研究発表の進捗状況を確認する。
・他の人にわかってほしいこと、伝えたいことを整理する。
・よりよくわかってもらうために、相手に示す資料を準備する。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
各グループの研究テーマに関する資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　域貢献プログラム　⑤昌賢祭準備　（グループ研究中間発表）プレゼンテーション
【key words】
昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料

【授業概要】
・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。
・実際にプレゼンテーションをする。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
各グループの研究テーマに関する資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　地域貢献プログラム　⑥昌賢祭準備　（グループ研究発表後の追加・修正）
【key words】
昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料

【授業概要】
・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　地域貢献プログラム　⑧昌賢祭準備　（グループ研究ポスター発表に向けての準備）
【key words】
昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料

【授業概要】
・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　域貢献プログラム　⑧昌賢祭　（グループ研究ポスター発表）
【key words】
昌賢祭、建学の精神、発表

【授業概要】
・昌賢祭当日
・学習したことをもとに、各グループでまとめたものを来校者に発表する。

【教科書ページ・参考文献】
指示された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　地域貢献プログラム　⑨防災訓練
【key words】
建学の精神、地域貢献、ボランティア活動

【授業概要】
県主催の広域防災訓練にボランティア活動の一環として参加する。
スポーツ施設でのテロ災害被災者役として参加する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
役割を確認し、指示に従って行動する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　学習統合プログラム　⑧より深いリーディングのために

【key words】
要約、大意、要旨、主題、意見、考え

【授業概要】
・読んで要約する技法を活用する。
・自分の意見や考えを発表できる。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P43～53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習・復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　学習統合プログラム　⑨アカデミック・ライティングの基本スキル
【key words】
事実と意見、三部構成、引用、参考文献

【授業概要】
・レポートと感想文の違いを学ぶ。
・レポート（論文）を仕上げるまでに、どういう作業が必要なのかを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P101～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　学習統合プログラム　⑩効果的なアカデミック・ライティングのために
【key words】
文、文章、表現

【授業概要】
・わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ。
・視覚的にわかりやすい表現方法のポイントをつかむ。

【教科書ページ・参考文献】
上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P127～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習テキストを予習復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２８回　建学の精神と実践プログラム　⑤1年次の振り返り
【key words】
建学の精神、大学生活、学習

【授業概要】
・冬期オリエンテーション
・後期の目標、自己の生活について振り返る。
・冬期休業中の過ごし方、自己学習について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
冬期休業中の課題を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２９回　地域貢献プログラム　⑩ボランティア活動のまとめ
【key words】
建学の精神と実践プログラム、ボランティア活動、活動時間、活動場所

【授業概要】
・1年間のボランティア活動について振り返りを行い、冊子をまとめ提出する。

【教科書ページ・参考文献】
別冊ボランティア活動記録を熟読する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定された期日までに課題を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３０回　進路、資格取得プログラム　②個人面談（1年の振り返りと基礎調査シートのまとめ）
【key words】
進路、学習計画、看護師、保健師、養護教諭

【授業概要】
・基礎演習Ｉで実施した内容について振り返りを行う。自己の課題を明確にし、2年次に向けて準備を行う。

【教科書ページ・参考文献】
学生生活HANDBOOK
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	各自で1年間の振り返りを行う。（学習面、学生生活、単位取得、ボランティア、環境美化、委員会活動等） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 1　基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は、建学の精神と実践教育プログラムに含まれるので必ず出席すること。 〔受講のルール〕 1　授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。
オフィスアワー	各回、授業終了後30分
評価方法	演習への取り組み・内容等（60%）、提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	鈴木利定・中田勝（著）「威有一穂」中央法規・2002年「基礎演習テキスト」群馬医療福祉大学 上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ　知へのステップ第4版，くろしお出版，2018.
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 医療機関で医療従事者として経験のある者、看護師等養成所で専任教員として実務経験のある者など様々な社会経験をしている教員がクラス担任となり、学生の生活指導から学習指導まで幅広く関わっている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ボランティアと自己省察　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
看護学部専任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業目的］ ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度を学び、身につける。 幅広い視点・視野・協調性・行動力などを培うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度やボランティアの必要性を理解し、実践することができる。 ②医療福祉施設の現場におけるボランティア活動を体験することで、医療従事者を目指す者として省察することができる。 ③医療福祉施設等を含めた様々なボランティア活動を通して、自己課題を見出すことができる。
授業の概要	ボランティアの意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習する。 医療福祉施設を含むボランティア体験を通して、自己を省察する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション/ボランティア活動とは/本学・本学部におけるボランティアの位置づけ 【key words】 建学の精神　ボランティア活動　専門職 【授業概要】 建学の精神を基にボランティア活動する意義を学習する。 本学・本学部におけるボランティアの位置づけを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿　ボランティアのすすめ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	ボランティアに臨む態度・心構え/ボランティア活動実践に向けてのオリエンテーション 【key words】 ボランティア　態度　心構え 【授業概要】 ボランティアに臨む態度・心構え及びボランティア活動実践に向けてのオリエンテーションを通して学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿　ボランティアのすすめ基礎から実践まで 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第３回	ポートフォリオの目的・作成方法・活用方法/本学の学生ボランティア活動の紹介およびボランティア体験報告 【key words】 ポートフォリオ　ボランティア活動 【授業概要】 ・ポートフォリオの目的・作成方法・活用方法を学習する。 ・本学の学生ボランティア活動の紹介およびボランティア体験報告からの学びを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　　ボランティアのすすめ基礎から実践まで

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　ポートフォリオの活用：自己目標の設定と評価
【key words】
ポートフォリオ　自己目標
【授業概要】
ポートフォリオの活用として、自己目標の設定と評価を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　　ボランティアのすすめ基礎から実践まで
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　ボランティア活動をどう考えるか①：グループディスカッション
【key words】
ボランティア活動　グループディスカション
【授業概要】
第1回～第4回を踏まえて、各自のボランティア活動をどう考えるかまとめた上で、グループディスカッションを通して学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　　ボランティアのすすめ基礎から実践まで
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　ボランティア活動をどう考えるか②：グループ発表
【key words】
ボランティア活動　グループ発表
【授業概要】
ボランティア活動をどう考えるか、グループ発表を通して自他理解を深め学習する。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティアのすすめ基礎から実践まで
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第７回　ボランティア体験と臨床との関連
【key words】
ボランティア活動　臨床
【授業概要】
ボランティア体験と臨床との関連を学習する
【教科書ページ・参考文献】
ボランティアのすすめ基礎から実践まで
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　医療福祉施設等におけるボランティアの実践
【key words】
ボランティア活動　実践　医療福祉施設
【授業概要】
医療福祉施設等におけるボランティアの実践をする。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第９回　医療福祉施設等におけるボランティアの実践
【key words】
ボランティア活動　実践　医療福祉施設
【授業概要】
医療福祉施設等におけるボランティアの実践をする。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り
【key words】
ボランティア活動　実践　医療福祉施設　自己洞察
【授業概要】
医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返りをする。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

	第１１回　医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り 【key words】 ボランティア活動　実践　医療福祉施設　自己洞察 【授業概要】 医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返りをする。 【教科書ページ・参考文献】 ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１２回　ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【key words】 ボランティア活動　　医療福祉施設　自己洞察 【授業概要】 ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【教科書ページ・参考文献】 ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１３回　ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【key words】 ボランティア活動　　医療福祉施設　自己洞察 【授業概要】 ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【教科書ページ・参考文献】 ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１４回　1年間の振り返り（グループ発表） 【key words】 ボランティア活動　　自己洞察 【授業概要】 1年間の振り返り（グループ発表） 【教科書ページ・参考文献】 ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　1年間の振り返り（グループ発表）/まとめ 【key words】 ボランティア活動　　自己洞察 【授業概要】 1年間の振り返り（グループ発表）・まとめ 【教科書ページ・参考文献】 ボランティアのすすめ基礎から実践まで　　ボランティアハンドブック　ボランティア活動簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講のルール］ A4ファイルを用意 〔受講のルール〕 この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどのように成長したかまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。依頼ボランティアや医療福祉施設でのボランティア参加方法について十分理解し、先方とトラブルのないように配慮してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に提示する
オフィスアワー	授業終了後18:00まで
評価方法	ポートフォリオ40%、ボランティア参加状況40%、授業内発表20%
教科書	岡本栄一監修　守本他編集「ボランティアのすすめ　基礎から実践まで」ミネルヴァ書房 鈴木利定監修　ボランティア活動ハンドブック　学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学看護学部ボランティア委員会編集　別冊　ボランティア活動記録簿　学校法人昌賢学園
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 災害ボランティア活動等を経験し、地域社会貢献の実務経験をしている。 アクティブラーニング要素

	■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 論語　　授業コード：

英文科目名称： Analects of Confucius

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。仁とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige ”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか、を考察していく。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に出てくる術語を使用して自己の意見を説明できる。
授業の概要	・各時代の知識人がどのように『論語』を理解したか具体例を挙げ解説していく。論語という古典を用いて、「考える（思想）」とは何かを考察する。「己が思索するとはどういうことか？」を受講生に問います。 ・孔子の発言、あるいは弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間世界の那辺に興味関心を抱き、どう分析していたのか、当時の社会情勢を絡めて説明する。そのことにより、孔子の考えていたことが我々にも共通する関心事であることが窺えるでしょう。 ・講義の後半より（７回目）、『論語』をより深く理解するために、副本として中島敦「弟子」を併用して読んでいきます。（副本はこちらで用意します）中島が理解した『論語』と原『論語』を比較し、論語の持つ解釈の幅を実感してください。 ・内容理解を深めるために、講義した個所を100字から200字程度でまとめる練習をしていきます。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説 【key words】 論語　孔子　儒学 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。その前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P151、P152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で孔子を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第２回	孔子の政治思想Ｉ 【key words】 徳治主義　修己治人 【授業概要】 孔子を祖とする「儒家」の政治思想は、一言で表すと「徳治主義」になります。徳治主義とは、為政者が自己の身を正し、道徳性を高め、そのことにより周囲を感化・教導することが可能であると考える思想です。弟子たちや当時の貴族が孔子に政事（政治上の事柄）について尋ねています。孔子は政治をどのように考えていたのか。また-これは現在にも繋がりますが-政治と道徳の関係をどのように捉えていたのか考察していきましょう。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。

【教科書ページ・参考文献】
プリントを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館にある『大漢和辞典』で儒家を調べておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
10分

第３回　孔子の政治思想Ⅱ
【key words】
正名
【授業概要】
孔子の政治思想を語る上で見逃せない言葉が一つあります。それが「正名」です。正名とは名実（名前と実態）がともなっているかどうかを図る思想です。名実の均衡がとれていないと国が乱れる原因になると孔子は考えています。この名実の考えは今の我々にも受け継がれていますし、哲学的問題としても議論がなされています。このことについて考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
P86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館にある『大漢和辞典』で正名・五倫・五常を調べておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
10分

第４回　孔子の倫理思想Ⅰ
【key words】
孝　父母　身体
【授業概要】
芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
P1、P6、P7
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第５回　孔子の倫理思想Ⅱ
【key words】
仁
【授業概要】
孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・を調べておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
10分

第６回　孔子の学問観
【key words】
学　習　文献
【授業概要】
「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのでしょうか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P1、P8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
10分

第７回　「弟子」1・2を読む
【key words】
子路　論語　中島敦
【授業概要】
今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人間が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」1・2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」1・2を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　「弟子」3・4を読む

【key words】
子路　論語
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたでしょうか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」3・4を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　「弟子」5・6を読む
【key words】
子路　読書
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのでしょうか（５）孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」5・6を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　「弟子」7・8を読む
【key words】
天道　天命　読書
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでみましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」7・8を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　「弟子」9・10を読む
【key words】
放浪
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのでしょうか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」9・10を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　「弟子」11・12を読む
【key words】
隠者　道　心
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」11・12を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　「弟子」13・14を読む
【key words】
政事
【授業概要】
孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。

	【教科書ページ・参考文献】 「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　「弟子」15・16を読む 【key words】 君子 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【key words】 鰥　寡　孤　独　惻隠の心 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「惻隠の心」を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか跡を追っていきます。また孟子の思想について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 孟子の性善説について説明できるよう調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加してください。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎んでください。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べてください。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に教卓で１人１分で発表をしてもらいます。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論してもらいます。また課題について自分で調べてもらいます。要するにアクティブラーニングを促します。 ・自分は何ができるのか。自問自答してみてください。それが倫理観の形成に繋がります。 ・日頃より古典をはじめとした人文学に親しみ、読書の習慣を習得すること。人生において読書の習慣が身につくか否かの最後の4年間になります。学生時代に読書が習慣化されなかったならば、多分一生涯読書の習慣が身につくことはないでしょう。したがって、読書に関する課題や発表を課します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・論語を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学に於ける学問様式を理解するよう努めてください。 ・授業計画に示されている章は必ず一読して授業に臨んでください。また不明の部分は授業中に理解できるよう積極的な姿勢で臨んでください。
オフィスアワー	講義終了後
評価方法	期末試験70％、課題提出15％、発表内容15％
教科書	鈴木利定監修・中田勝編著『注解　書き下し　論語全文〈付・原文〉』明治書院、平成16年10月
参考書	宇野哲人『論語新釈』講談社学術文庫、1980年1月。金谷治『論語』新訂版、岩波文庫、1999年11月。他は講義中に適宜紹介する。中島敦『山月記・李陵』岩波文庫、1994年7月（この中に「弟子」が収録されています）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育

	■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間の心理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムを理解し、人間を理解する視野を広げる。 【到達目標】 ①知覚と認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、ヒトが感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職として出会う「患者の心理」に関連する事柄を学ぶことで、今後の学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。
授業の概要	広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学や、人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：「なぜヒトの目は、顔の前に二つついているのか？」進化と環境を知る働き 【key words】 進化、自然淘汰、感覚、適刺激、刺激閾、弁別閾、順応、知覚の体制化、図と地、プレグナンツの法則、錯視、奥行き知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚に基づく問題　等 【授業概要】 ・8回の授業全体の流れを解説します。シラバスやシャトルカードの扱いについて説明をし、すぐに授業に入ります。すべての生物は進化の過程を経て、環境に対応する姿かたちと生きる能力を備えていること、また、心についても、そうした観点から考えることができることについて解説します。そして、最初の学習テーマとして、感覚や知覚・認知に焦点を当てながら、ヒトが生きている環境とは、どのようなものなのかを考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-14ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「進化」や「錯覚」について、ウェブサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第２回	ヒトはいかにして環境や新たな状況に対応できるようになるのか？：学習のメカニズム 【key words】 ・レスポンデント条件付け（パブロフ）、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け（スキナー）、報酬と罰、強化、強化子、観察学習（バンデューラ）、洞察学習（ケーラー）、機械の学習 【授業概要】 生まれながらにヒトには多くのできる（本能的）行動があるが、それらはやがて意識的な行動に置き換わっていく。すなわち、ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」されたものであるが、そうした行動の変化が起きるメカニズムをヒトが備えている意味を、学習理論を学ぶことで

考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書16-20㌻、山﨑明夫（2016）『にほんごがこんなふうにみえたのよ！』（㈱ＱＯＬサービス）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生後に獲得した行動として思い浮かぶものを書き出しておくこと。また、仮に「脳出血」で倒れた後、徐々に回復できたとして、どのような行動ができなくなるかについて、調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　ヒトはなぜ目の前のことだけに生きられないのか？：記憶のメカニズムとその混乱
【key words】
記銘・保持・想起、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、サブリミナル効果、作動記憶（ワーキングメモリ）、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、忘却、健忘、デジャヴュ、認知症検査、気分一致効果　等
【授業概要】
学習や経験したことが保持をされ、ヒトは目の前の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることができる。こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか。また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのか。記憶に影響を及ぼす要因についても考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書21-26㌻、ジュリア・ショウ（2016）『脳はなぜ都合よく記憶するのか』（講談社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第一回課題提示「記憶もしくは認知症に関連する映画を視聴し、そのあらすじと視聴しての感想を心理学的視点も入れて報告しなさい」（Ａ4用紙・2枚以上）　二週間後、第5回授業終了時までに提出。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　ヒトの心はなぜ動くのか？（そして、時に動かなくなるのか？）：動機づけと感情の心理学
【key words】
マズロー、自己効力感、学習性無力感、コンフリクト、フラストレーション、ストレス、ストレス・コーピング、感情労働、バーンアウト、防衛機制（適応規制）
【授業概要】
ヒトの心は常に刺激に対して反応し、動き続ける。ここでは、まず一定の方向に人を動かす動機づけのメカニズムや種類を学び、次に人に備わる感情の役割について考えていく。特に負の感情が強く働く状態について理解し、感情に溺れない生き方について、「防衛機制」の考えもふまえながら学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書28-52㌻、ディラン・エヴァンズ（2005）『感情』（岩波書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
範囲が広いので、あらかじめ教科書の該当箇所を熟読しておくこと。また、「自分が感情的になりやすい場面」について書き出しておくこと。ワークシートを作成する予定。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　考える力をもつことは、ヒトに何をもたらすのか？思考の心理学
【key words】
創世記（アダムとイブ）、素朴理論、ブラジルのキャンディ売り、思考、知識、概念、集中的思考、拡散的思考、アルゴリズム、ヒューリスティック、確証バイアス、ディープラーニング、
【授業概要】
ヒトは本能的・感覚的・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって原因を推理したり、状況を打破したりする方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書82-92㌻、三宅芳雄・三宅なほみ（2014）『新訂　教育心理学概論』（放送大学振興会）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
簡単なものでよいので、自分自身の頭で「なぞなぞ」を一つ考えておくこと。シャトルカードに書けるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　ヒトを、個性ある「人」にするのはなんだろう？　知能とパーソナリティの個人差の心理学
【key words】
知能、知能モデル、知能検査、ＩＱ、ＥＱ、知的障害、パーソナリティ、パーソナリティ検査、代表的人格モデル、対話的自己、代表的パーソナリティ検査、パーソナリティ障害
【授業概要】
ヒトは他の動物には見られない高度な知的能力（知能）を使って、状況に対応しながら生きている。この知能を構成する要素は人によって同じではなく、個性がある。同じように、他のヒトや環境に対してある程度一貫した対処の仕方や行動のパターンを人それぞれに作りながらヒトは生きている。それは、パーソナリティとして、個性ある人としての生き方を形作っている。今回は、一人ひとりの個性を捉える視点として、知能とパーソナリティのあり方について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書68-80、54-66㌻
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第二回課題提示①「「うまく生きられない人」について、本や漫画の主人公を挙げ、典型的な場面を抜き出す。②次にその原因を心理学的に推論し、③改善すべき点についてレポート。A4・2枚以上。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　ヒトとして、心が健康であるとは？　精神的健康の心理学
【key words】
抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安症、物質関連障害、心身症、、高次病、カウンセリング
【授業概要】
ヒトは身体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとら

	われてしまうことがある。一人一人の苦悩する心に寄り添い、ヒトとしての成長と心の発達を支える臨床心理学の基本的な視点について、学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書150-164ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回提示した課題を授業終了時にシャトルカードとともに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
第８回	患者と家族の心の支援：（予定）がん哲学外来の取り組みにみる患者の心理（もしくは「ライフサイクルの心理学」を予定） 【key words】 自助グループ、対話による支援、病への態度、魂のライフサイクル 【授業概要】 ここまでで、ヒトの時間的な変化である「発達」を扱うことはできなかったが、ヒトが一人の個性ある人間として長い人生を生き、豊かな心をもって生活する心理学的基盤について学んできた。講義の締めくくりとして、ライフサイクルの途上で多くの人が出会う、心身を苦しめる病と心の問題ついて考えたい。予定では、実生活において病を得たことにより、深く医療と関わる経験をされた方などにお越しいただき、「患者と家族の心理」についてともに考えていく。※状況によっては、別メニューで講義。 【キーワード】 ・がん、がん哲学外来 【教科書・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ、ワークシートを完成させ提出する。（がんについての意識や体験のアンケート含む） 【アクティブラーニング】 ・一人一つ以上、登壇される方々に質問ができるように準備をし、時間があれば対話的な交流をできるようにしておくこと 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「がん哲学外来」で検索をして、調べておくこと。また、様々な病に関して患者が出している「手記」や「闘病記」について調べ、できれば一冊読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという人間観の基礎教養を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式（疑問・質問に限らず、聞いてみたい伝えてみたいことはなんでも書いてよいので、積極的に書いて下さい）
授業外時間にかかわる情報	・多くの用語が出てくるので、概要に基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。 ・シラバスに基づいて、授業時に使用したり紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。
オフィスアワー	金曜日　授業終了後30分　授業後か非常勤講師控室にて直接声をかけること。　14：10～14：40
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60～69点：C 70～79点：B 80～89点：A（全体の35%以下）、90点以上：S（全体の15%以下） ・期末試験80%、小レポート・感想文等提出物20%（20÷提出回（予定2回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点））
教科書	・二宮克美編著『ベーシック心理学　第2版』（医歯薬出版、2016）
参考書	・鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編『心理学（第５版　補訂版）』（東京大学出版会、2020）　他適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　論理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。 〔到達目標〕 ①基本的な記号の意味と使い方が分かる。 ②主要な論理法則の意味を理解し、日常で正確に使うことができる。 ③論理式の簡単な変形ができる。
授業の概要	最初にアリストテレス以来の三段論法中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学ぶ。 大学の論文・レポートに必要な作成方法を公用文を中心に学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画		
	第１回	オリエンテーション、思考の原理 【key words】 学問の学問　同一の原理　矛盾の原理　排中の原理 【授業概要】 論理学が正しい思考を学ぶものであること説明。論理学の基本原理を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ５～９ 参考文献：千葉茂美等著「論理学入門」学陽書房、戸田山和久著「論理学をつくる」名古屋大学出版会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基本原理を理解し身に付けること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	概念 【key words】 内包　外延　上位概念　下位概念 【授業概要】 直観と思考、内包と外延を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１０～３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 概念の基礎を理解すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	判断と命題 【key words】 全称判断　特称判断　単称判断　肯定判断　否定判断 【授業概要】 概念の分類、定義について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ３３～４５
参考文献：アリストテレス全集1「カテゴリー論・命題論」岩波書店、　藤川吉美著「判断の論理学」慶応大学出版会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的判断を学習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　直接推理①
【key words】
演繹推理　蓋然推理　真偽　妥当・非妥当

【授業概要】
既知の判断を根拠として新しい判断を導き出す推理を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ４６～５１
参考文献：千葉茂美等著「論理学入門」学陽書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前提から結論を導き出す手法を身に付ける。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　直接推理②
【key words】
矛盾対当　反対対当　大小対当　小反対対当

【授業概要】
命題の真偽表に基づいて各対当関係の特徴を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ５１～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
対当関係の真偽をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　直接推理③
【key words】
換質法　　換位法　　換質換位法　　戻換法

【授業概要】
命題の形式を変えることによって前提の命題と同一の意味を持つ新しい命題を結論として導き出すことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ５７～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
換質法、換位法、戻換法を自由に使えるようにすること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　間接推理①
【key words】
定言三段論法とその規則、派生規則、格

【授業概要】
二つ以上の命題を前提にして新しい命題を導き出す間接推理を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ６８～８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
論証の基礎となる定言三段論法を使い、文章を作成すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　間接推理②
【key words】
混合仮言三段論法　　純粋仮言三段論法

【授業概要】
仮言三段論の妥当、非妥当を調べ、何の誤謬に当たるかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ８９～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
混合三段論法、純粋三段論法を使用して、文章を作成してみること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　間接推理③
【key words】
選言三段論法　両刀法

【授業概要】
選言三段論法とその違反、両刀法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ９４～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
間接推理における三段論法の各組合せを振り返り、考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　ベン図を適用する方法①
【key words】
矛盾対当関係　大小対当関係　反対対当関係　小反対対当関係

【授業概要】
４つの判断のベン図を考え、対当推理を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐｐ１０２～１０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
伝統論理学の対当推理及び定言三段論法をベン図を用いて論ずることができるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　ベン図を適用する方法②
【key words】
大概念不当周延　　否定二前提　　媒概念不周延　　誤謬

【授業概要】
正しい三段論法をベン図で調べる方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ１０５～１１２
参考文献：鈴木美佐子著「論理的思考の技法Ⅱ」法学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】
定言三段論法の正誤を、具体例を挙げベン図で調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　帰納法
【key words】
一致法　差異法　一致差異併用法　剰余法　斉一性

【授業概要】
ベーコンとミルの帰納法を学び、自然の斉一性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ１１５～１２１
参考文献：片桐重雄著「数学的考え方とその指導」近代新書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
帰納法は、科学の飛躍的進歩に役立つことを考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　命題論理①
【key words】
真理値　論理的結合子　要素命題　複合命題

【授業概要】
命題を単位とした推理が正しいかという推理の妥当性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ１２２～１３８
参考文献：前原昭二著「記号論理学入門」日本評論社、安井邦夫著「現代論理学」現代思想社

【課題・予習・復習・授業準備指示】
何故、形式論理から記号論理に移行してきたかを考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　命題論理②
【key words】
恒真命題　恒偽命題　総合命題

【授業概要】
論理的結合子による複合命題の真理表に基づいてより複雑な複合命題の真理表を書く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ１３９～１４６
参考文献：前原昭二著「記号論理学入門」日本評論社、安井邦夫著「現代論理学」現代思想社

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各命題が、恒真、恒偽、総合命題のいずれに属するかを考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　述語論理
【key words】
文法構造　論理構造　量化記号　命題論理

【授業概要】
現代論理学の中心的な成果である量化の理論を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ１５３～１９７

	参考文献：大芝猛著「数学基礎概説」共立出版　：前原昭二著「記号論理学入門」日本評論社、安井邦夫著「現代論理学」現代思想社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記号論理学が広大な領域を扱うことになることを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・　板書、口述内容は重要なのでノートに整理すること。 ・レポートは必ず提出すること。 ・５回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習復習は、予習を重点に学習すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	レポート等で総合的に判断する。
教科書	「論理学の初歩」　大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中川浩一著　梓出版社
参考書	授業の中で紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 　「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	貧困問題・格差 【key words】 貧困線、相対的貧困、ジニ係数 【授業概要】 貧困の種類、健康格差、ジニ係数について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貧困率、不平等指数の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	福祉国家 【key words】 イギリス、アンデルセン 【授業概要】 イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 85頁～87頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	諸外国の社会保障制度について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第４回　人口からみた社会変動 【key words】 合計特殊出生率、人口オーナス 【授業概要】 人口に関係する指標について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 72頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人口統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第５回　生活の質 【key words】 幸福感、社会関係資本 【授業概要】 幸福感の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 99頁～104頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感の統計について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第６回　社会的ジレンマ 【key words】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 【授業概要】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 176頁～186頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第７回　社会集団と組織 【key words】 官僚、集団の類型 【授業概要】 集団の諸類型について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 164頁～175頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第８回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～221頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	授業終了後の１０分間。　または、コメントカードに質問を記載すれば返答する。
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	社会福祉養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」：中央法規出版株式会社
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉国試ナビ」：中法規出版株式会社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート

	□グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　芸術論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
多胡　宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、作りだす喜びを味わう。 造形的な創造活動の能力を培い豊かな情操を養うことを目的とする。 [到達目標] ①美しい物や優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高めることができる ②発想や構想の能力を高めることができる ③日常での着実な研究心と探究心を培うことができる ④日々の生活の中で何かを表す意識をもったときそれが表現の原点にあることを身につけることができる
授業の概要	人は生きている限り様々な体験をし様々な生活感情を持つ命ある人間がその生活感情に基づき何か表そうとする意識をもったときそれが表現の原点であることを身につけ芸術論を通して美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学びドライポイント、メゾチント、エッチング等の実技を学ぶ授業である。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 オリエンテーション　芸術論を考える 第２回 発想表現鑑賞について描き作ることの意味 第３回 版画の歴史について考える 第４回 版画の種類について学ぶ 第５回 版画の基本技法について 第６回 製版の準備 第７回 製版の実践・刷り 第８回 製版の実践・刷り
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・実技制作が多いので、汚れても構わぬ服装で受講すること。　・はさみ、２Bまたは４Bの鉛筆を用意すること。 ・簡易清掃は当番制で行い、机拭き、床掃き等を行う。 ［受講のルール］ ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話・スマートフォン利用）は慎むこと。

	・実技制作後、ゴミ、消しゴムのカス等の後始末をきちんと行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキスト等予習・復習をすること
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	課題作品７０％、作品の構成（バランス・プロポーション・コントラスト・アクセント・ムーブマン）等で評価します。試験（レポート）３０％総合評価します。
教科書	設定なし
参考書	授業時に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　チームケア入門Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
佐藤　充子　塚越　八重子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 他学部・学科との学生間の交流を通して他職種について理解し、多職種連携について関心が持てる。 【到達目標】 1)自己の職種について他者に伝えることができる。 2)他職種の基本的な役割について述べることができる。 3)簡単な事例（発達障害児、右型麻痺）から、ケアチームとして一連の取り組みについてまとめ、報告することができる。 4) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。 5) 一連の学習過程を通して自己評価することができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学１学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	１．科目のオリエンテーション　　２．なぜ、今連携なのか　　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割　、連携の目的・意義。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携、職種 【授業概要】 多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識態度」について学び、３学部１学科としての「チームケア学部間連携教育」の意義について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己の職種について調べ、学内におけるグループワークに参加する資料を作成し次回に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 2-4時間
	第２回	チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 自分の目指す職種の支援内容についてグループワークを行い整理する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学内のグループワークで討議する事例（発達障害児、右片麻痺）について調べ学習をして臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 2-4時間
	第３回	チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・多職種の役割について各学部のグループで、討議する。

	【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 自己の目指す職業や、事例（発達障害児、右片麻痺）から自分が目指す職種の支援内容についてグループで検討し、次回からの演習の発表にむけて準備する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の資料作りをして次回に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 2-4時間 第４回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 学部、学科間のグループワークにおいて自分が目指す職種について他者に説明し、自分の目指す職種と他職種の役割がイメージでき責務を知る。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 学部・学科間の合同グループワークにおいて、事例について自分の目指す職種の支援内容について検討し、自分が目指す職種の支援項目の必要性について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会① 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 学部・学科間の合同グループワークにおいて、事例において多職種が関わる中で、チームとして取り組むことの必要性について検討しあう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会② 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 各学部・学科間の合同グループワークにおいて事例をとおしてまとめたことを発表し、多職種連携について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループワークで学んだ事をポートフォリオでまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 2-4時間 第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 各学部・学科間の合同グループワークにおいて事例をとおしてまとめたことを発表し、多職種連携について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループワークで学んだ事をポートフォリオでまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 2-4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 【受講のルール】 ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む

オフィスアワー	火、木曜日　12時から12時40分
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，20０8. 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	2単位(30)	選択
担当教員			
*時田詠子、山下博子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション／「支援するってどんなこと？」　―介護福祉からの対人援助―を考える 「支援」ということばと、援助・応援・お手伝いなどはどのように違うと思いますか?　医療・福祉職はまず「支援」とは何かを理解する必要があります。そのため、「支援」という言葉について介護福祉の視点から考えていく授業です。知識を身につけるのはもちろんですが、体験型学習を通して探求的な学習を行います。
	第２回	学校におけるコミュニケーションの不思議 授業を活性化し、子どもに考える力をつけるための必須アイテムである発問とは何か。質問との違いは何か。具体例を通して発問と質問の違いに触れ、実際の学校現場の様子を体感することで、学校におけるコミュニケーションの不思議を学ぶ。
	第３回	社会福祉士の専門性とコミュニケーション 社会福祉士とは、どのような職業なのか概要を講義します。また、社会福祉士として連絡・調整を行なう時に必要なスキルは何かを演習を通して考え、社会福祉士を理解することを目的とします。
	第４回	人を科学する　―臨床心理学の世界― 「心」を科学的に分析するのが心理学です。人に関わる諸領域における多様な援助には、心理学的視点が重要となります。他者理解には自己理解が前提ですが、自分を知るのは、実はとても難しいことです。科学的に自分を知る方法の一つに人と人との交流パターンを分析する「エゴグラム」という心理テストがあります。授業では実際にやってみましょう。また，臨床現場（保険医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野）における心理師の専門技能と役割を学びましょう。
	第５回	生きているってどういうこと～生命徴候を知ろう～ 看護師を目指す者として、命の尊さや大切さを講義を通して学びます。また、バイタル測定から生命徴候を観察する方法を習得し、緊急時における救命処置を、本授業により身につけます。
	第６回	認知症高齢者の心をつかむコミュニケーション技法を学ぼう 認知症の特徴を理解した上で効果的なコミュニケーション技術と根拠について学習する。
	第７回	健康な小児の成長発達　～アニメキャラクターを通して小児の発達を学ぼう～ 新生児から中学までの成長発達を言語・遊び・運動をポイントにアニメキャラクターを通して学んでいく
	第８回	ピア・カウンセリング入門！ ピア・カウンセリングスキルを使った、支援の方法を学ぶ
	第９回	リハビリテーションと理学療法のこれから

	リハビリテーションの言葉の意味から始まり、リハビリテーションの根幹となる思想や活動を紹介します。リハビリテーションの多様さと、それを支える専門職、さらにチームで活動する必要性についても説明します。そしてリハビリテーションの中核となる、理学療法についても、将来の方向性も含めて紹介してい行きます。 第10回　理学療法士が担う治療と患者との関わり 理学療法士が担う治療についての知識を深め，多くの選択肢から治療をしていることを学ぶ。また，セラピストの知識や技術が患者さんに与える影響が大きいということや，マネージメント力がどのように問われているなどについて紹介する。 第11回　「作業」って何だろう？ 「作業」という言葉には、少し泥臭いようなイメージをもつ方もいるかと思います。しかし、作業療法の観点から捉える「作業」は、ひとの幅広い生活行為そのものを指します。人が健康的な生活を送るために、作業療法士はどのようなことを考え、どんな支援をしているのか、作業療法の概要についてご紹介します。 第12回　作業療法における治療支援と活躍の場 作業療法の基本的な知識を学んだ上で、具体的な作業療法における治療支援について説明します。また、作業療法の中にも様々な専門性があり、各領域における特徴を説明し、作業療法に関する理解を深めることを目的とします。 第13回　受診時、保険証はなぜ必要？ 医療機関受診時、保険証の提示で自己負担分3割で治療が受けられる仕組み（保険診療の仕組み）を学び、医療保障制度について理解を深める 第14回　子どもの虐待はどうして起こるの？ 児童虐待の現状をお話しします。その中で、予防、発見防止、支援について、現在の対応システムに沿って理解していきたいと思います。また、専門職の役割についても考えてみたいと思います。 第15回　教師の専門性と指導技術 初め、2020年度からの新しいカリキュラムや教師の仕事等基礎的知識について、具体的事例で話します。次に、その知識を受け、「魅力的な先生」とは、どんな力量を持つ人なのか、グループワーク及び全体発表を行い、共有します。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　化学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
猪熊　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 物質についての知識を得るとともに、科学的な見方や考え方を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①さまざまな物質について構成や状態、性質の違いを表現することや説明することができる。 ②化学反応の種類や表し方を説明し、量的な関係について計算することができる。 ③今後の生化学・医学・薬理学等の学習にあたって必要な、化学の基本的知識を得る。
授業の概要	私たちのまわりのあらゆる物質は原子からできている。その原子がどのような仕組みで結びついて物質が構成されているかを最初に学ぶ。次に、化学反応に伴う量的な扱い方及び基本的な化学反応の種類を学ぶ。最後に有機化合物の構造、性質を学ぶことで将来の他分野への基礎とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	はじめに　　１　物質の構成 【key words】 自然科学、化学、元素、原子、単体、化合物、周期表、有効数字、陽子、中性子、電子、原子番号、質量数、電子殻、電子配置、最外殻電子、価電子、希ガス 【授業概要】 「自然科学」及び「化学」とは何か。「元素・原子」と「単体・化合物」について。原子量測定の歴史について。「元素」の「周期表」について。化学で使う数字のルール（物理量と単位、有効数字）について。「原子」のモデル、「陽子・中性子・電子」、「原子番号」と「質量数」について。「電子」の運動、「電子殻」と「電子配置」について。「希ガス」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp１－１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業であつかえなかったプリントの練習問題を解いておくこと（以下毎回同じ）。用語とその意味をまとめておくこと（以下毎回同じ）。主な元素名と元素記号を覚えること。
	第２回	２　化学結合 【key words】 分子、イオン結合、閉殻、組成式、共有結合、電子式、共有電子対、不対電子、構造式、共有結合の結晶、金属結合、自由電子 【授業概要】 「イオン結合」について。「組成式」の書き方について。「共有結合」について。「分子式・電子式・構造式」について。「分子」の立体構造について。「金属結合」について。以上のことを説明し、それぞれの結合での物質の性質の違いをまとめる。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp１５－２２　pp２８－２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 代表的なイオン、組成式の書き方と名称、構造式の書き方と分子の形について復習しておくこと。第３章章末問題を復習すること。
	第３回	３　物質量と化学反応式 【key words】 原子量、同位体、相対質量、分子量、式量、物質量(mol）、アボガドロ定数、アボガドロの法則、（気体の）標準状態、化学変化、化学反応式、量的関係、反応物、生成物、標準状態 【授業概要】 「原子量・分子量・式量、物質量(mol）」の意味と求めかたについて。「化学反応式」が意味することについて。「化学反応式」の書き方及び「化学反応式」を用いて質量や気体の体積を求め

	ることについて。以上のことを説明し、例題を解説する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp２３－２７　pp３０－３４　p３９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第４章章末問題を復習すること。第５章章末問題①～⑤を復習すること。
	第４回　４　物質の状態 【key words】 溶液、質量パーセント濃度、モル濃度、蒸気圧、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式 【授業概要】 「溶液」の「濃度」について。「気液平衡」と「蒸気圧」について。「水溶液の性質（沸点上昇・凝固点降下・浸透圧）」について。気体について成り立っている法則について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp３５－３６　pp７５－７９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第９章章末問題⑤～⑦を復習すること。
	第５回　５　酸と塩基 【key words】 酸、塩基、価数、電離度、水のイオン積、ｐＨ（水素イオン指数）、強酸、弱酸、強塩基、弱塩基、中和滴定、塩、指示薬、緩衝液 【授業概要】 「酸」と「塩基」の定義について。「酸」と「塩基」の「価数」と強弱について。「水素イオン濃度」と「ｐＨ」の意味、及びその求め方について。「中和反応」とその量的関係について。「塩」の性質について。「緩衝液」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp４０－４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 酸・塩基の定義及び代表的な酸・塩基を覚えること。ｐＨの計算ができるようになること。第６章章末問題(④e～ｇを除く）を復習すること。
	第６回　６　酸化と還元　　７　化学反応と熱 【key words】 酸化、還元、酸化数、酸化剤、還元剤、熱化学方程式、発熱反応、吸熱反応、燃焼熱、生成熱、エネルギー図、ヘスの法則、結合エネルギー 【授業概要】 「酸化」と「還元」の定義と「酸化数」の求め方について。「酸化剤」と「還元剤」の反応と「半反応式」のつくり方について。「熱化学方程式」について。「反応熱」の種類について。「ヘスの法則（総熱量保存の法則）」とその応用について。「結合エネルギー」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp５０－５３　pp６０－６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 酸化数の求め方、酸化還元反応の仕組み、熱化学方程式の書き方、ヘスの法則を利用した計算について復習しておくこと。第７章章末問題①～③を復習すること。第８章章末問題①～③を復習すること。
	第７回　８　化学平衡　　９　有機化合物(1) 【key words】 活性化エネルギー、可逆反応、化学平衡、平衡定数、電離平衡、緩衝液、酵素、平衡移動の原理（ルシャトリエの原理）、炭化水素、官能基、異性体 【授業概要】 化学反応の速さの表し方と速さが変わる条件について。「化学平衡」の意味と「平衡移動の原理（ルシャトリエの原理）」について。有機化合物の特徴と分類について。以上のことを説明をする。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp６９－７４　pp７９－８１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 官能基や異性体についてまとめをするとともに、覚えておくこと。　第９章章末問題①～②を復習すること。
	第８回　10　有機化合物(2)　　おわりに 【key words】 脂肪族化合物、数詞、アルカン、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル 【授業概要】 「脂肪族化合物（アルカン、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）」の構造や性質・反応について説明する。最終回であるので第１回～第８回の授業についての質問を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp８２－９９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で解説したすべての用語とその意味、法則の名称とその内容をまとめておくこと。また、化学反応式を書くことや計算問題などもできるようにしておくこと。第10章章末問題①～④を復習すること。第11章章末問題①～③を復習すること。試験に備えて、授業で扱った問題や章末問題が解けるようにしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を用いて、予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・教科書を使用して、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。 ・授業中に理解が不十分なことがあった場合はいつでも質問してよい。授業時間内に質問できなかった場合は、コメントカードに書くか授業後に質問すること。わからないことをそのままにしておかないこと。

	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習では教科書を読むとともに、用語の意味を確認すること。復習では授業の内容を筋道をたどって理解できたかを確認すること。その際、授業で扱った問題を自分でもう一度解き直し、教科書の章末問題を解いておくこと。また、覚えなくてはならないことは確実に覚えておくこと。
オフィスアワー	・授業終了後３０分間　　・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験　７０％、レポート　３０％
教科書	松岡雅忠：まるわかり！基礎化学. 南山堂, 2013
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　物理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
猪熊　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 物理学を通して自然科学の基本的な見方や考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、放射線等について知り、その表し方や法則を説明できる。
授業の概要	物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、人間生活の多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、放射線等について概説する。 また、物理学は「自然界を理解しようとする人間の古くからの知的営み」である。この「知的営み」に参加する面白さと喜びを味わってもらえるように、ニュートン、キュリー、レントゲン等の業績について触れながら授業を進めていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	はじめに　　１　物理を理解するための道具とルール 【key words】 物理量、単位、有効数字、累乗、三角関数 【授業概要】 「自然科学」及び「物理学」とは何か。物理量に必要な「単位」について。測定値の「有効数字」と計算の方法について。三角関数について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 三角定規一組と電卓を用意すること。授業であつかえなかったプリントの練習問題を解いておくこと。用語とその意味をまとめておくこと（以上毎回同じ）。第１章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第２回	２　力学の基本 【key words】 速度、等速直線運動、ベクトル、加速度、等加速度直線運動、落下運動 【授業概要】 「速さ」と「速度」の違いについて。「等速直線運動」の式とグラフについて。「ベクトル」の表し方と計算について。「加速度」の定義と「等加速度直線運動」の式及びそのグラフについて。「等加速度直線運動」の例である、「自由落下運動、鉛直投げ上げ運動、斜方投射運動」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp９－１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第３回	３　物体の運動と力の関係 【key words】

		力、運動方程式、ニュートン、慣性の法則、力のつりあい、作用反作用の法則、運動の法則、質量と重さ 【授業概要】 「力」の表し方について。「ニュートンの運動の３法則」について。「運動方程式」について。「質量」と「重さ」の違いについて。「力のつり合い」と「作用反作用の法則」について。身のまわりにある「力」とその名前について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp１８－２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第３章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第４回	４　圧力のはたらきと物を回転させる力 【key words】 圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心 【授業概要】 「圧力」を定義する。「気圧」及び「水圧」について。「浮力」と「アルキメデスの原理」について。「力のモーメント」について。物体の「重心」の求め方について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp２６－３３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第４章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第５回	５　エネルギーとその保存法則 【key words】 仕事、ジュール、仕事の原理、仕事率、ワット、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存、エネルギー保存の法則 【授業概要】 「仕事」を定義する。「仕事の原理」について。「仕事率」を定義する。「運動エネルギー」と「位置エネルギー」及び「力学的エネルギーの保存」について。以上の説明をする。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp３４－４０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第５章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第６回	６　気体分子の運動と熱エネルギー 【key words】 【key words】 熱運動、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則、可逆変化、不可逆変化、熱力学第二法則 【授業概要】 「熱運動」について。「温度」と「熱」の違いについて。「比熱」と「熱容量」の定義と「熱量保存の法則」について。「ボイルの法則」と「シャルルの法則」について。「内部エネルギー」の定義と「熱力学第一法則」について。「可逆変化」と「不可逆変化」について。「熱力学第二法則」について。以上の説明をする。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp４８－５６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第７章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第７回	７　波の性質と音・光 【key words】 振幅、波長、周期、振動数、横波、縦波、反射、屈折、回折、重ね合わせの原理、定常波、干渉、音波、うなり、ドップラー効果、光波、光の干渉、凸レンズ、凹レンズ 【授業概要】 「波」を定義する。媒質の振動の様子や「波」の進み方について。「波」の「周期・振動数・速さ」の関係を表す式について。「縦波」と「横波」について。「波」の「回折」と「反射」及び「屈折」について。「波」の「重ね合わせの原理」と「定常波」について。「波」の「干渉」について。「音の三要素」について。「うなり」と「ドップラー効果」について。「光の分散」、「光の干渉」、「光の反射・屈折及び全反射」について。「凸レンズ・凹レンズ」の利用について。「光の散乱」について。以上の説明をする。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp５７－７８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第８章章末問題を復習すること。第９章章末問題を復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第８回	８　原子の構造と放射線　　まとめ 【key words】 半導体、集積回路、放射線、放射性崩壊、半減期、キュリー、レントゲン 【授業概要】

	「原子の構造」について。「半導体」と「集積回路」について。「放射線」と「放射性崩壊」及び「半減期」について。以上の説明をする。練習問題を解く。最終回であるので第１回～第８回の授業についての質問を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp１０９－１１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で解説したすべての用語とその意味、法則の名称とその内容をまとめておくこと。試験に備えて、授業で扱った問題や章末問題が解けるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を用いて、予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・教科書を使用して、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。 ・授業中に理解が不十分なことがあった場合はいつでも質問してよい。授業時間内に質問できなかった場合は、コメントカードに書くか授業後に質問すること。わからないことをそのままにしておかないこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習では教科書を読むとともに、用語の意味を確認すること。復習では授業の内容を筋道をたどって理解できたかを確認すること。その際、授業で扱った問題を自分でもう一度解き直し、教科書の章末問題を解いておくこと。また、覚えなくてはならないことは確実に覚えておくこと。
オフィスアワー	・授業終了後３０分間　　・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験　７０％、レポート　３０％
教科書	桒子　研：まるわかり！基礎物理．南山堂，2015
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　情報処理演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成などに生かせるようにすることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる ⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる
授業の概要	授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターして情報利活用能力を高め、WordとExcelを使ってレポート・論文などの各種の文書を作成したり、PowerPointでプレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	(概論)オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 キーボード、マウス、タッチタイピング 【授業概要】 パソコンでの情報利活用の前段階として、パソコンの基本的な操作を学習する ・講義のオリエンテーション ・情報を利活用する上でのパソコンの役割 ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	(Word)基本的な文章の入力 【key words】 日本語入力、ファイル 【授業概要】 レポート作成などの最も基本となる日本語の入力方法を学習する ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存 ・ファイルを開く 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本語入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	(概論)ホームページの利用と情報の検索 【key words】

ホームページ、検索、ダウンロード、ブックマーク
【授業概要】
情報収集の手段であるホームページを取り上げ、情報の検索などを学ぶ
・ホームページの見方
・Googleを利用したホームページの検索
・ホームページでの各種文献の検索
・ファイルのダウンロードと保存
・よく見るホームページのブックマーク

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ホームページの検索やファイルのダウンロードを練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　(Word)各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
【key words】
ページレイアウト、文字書式、段落書式
【授業概要】
レポート等で文書をアウトプットする際に必要な適切な書式付けについて学ぶ
・ページレイアウトの設定（用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き／横書き）
・文字書式の設定（太字、斜体、下線、フォント、色）
・段落書式の設定（揃え、行間、インデント）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文書に書式を付ける練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　(Excel)Excelの基本操作
【key words】
セル、行、列、オートフィル
【授業概要】
データの集計や分析などの情報活用のツールであるExcelについてその基本を学ぶ
・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等)
・行、列の操作(行／列の挿入、削除等)
・データのコピーと貼りつけ
・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートにデータを入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　(PowerPoint)プレゼンテーション作成の基本
【key words】
プレゼンテーション、スライド、レイアウト、インデント、アウトライン
【授業概要】
プレゼンテーションで情報をアウトプットできるようになるためのPowerPointの基本を学ぶ
・スライドの作成と編集（コピー、移動、削除等）
・レイアウトの変更
・インデントとアウトラインを使ってアウトプットする内容を整理
・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文章だけのプレゼンテーションを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　(Word/PowerPoint共通)表を含む文書の作成
【key words】
表、行、列、セル
【授業概要】
WordやPowerPointでデータを整理してアウトプットするための表の作成方法を学ぶ
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作）
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
WordやPowerPointで表を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　(Word/Excel/PowerPoint共通)図形や写真を含む文書の作成
【key words】
図形、写真、ワードアート、スマートアート
【授業概要】
レポート等を分かりやすくするために、図形や写真などを文書に入れる方法を学ぶ
・図形の挿入と書式設定
・図や写真の挿入
・図等のレイアウト
・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入
・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形や写真を含む文書を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　(Word)複数ページ文書の作成
【key words】
改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、ページ番号、スタイル、目次
【授業概要】
レポートや論文等の複数ページにわたる文書を作る上で必要な各種の機能の使い方を学ぶ
・改ページの挿入
・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用
・ページ番号の挿入
・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定
・目次の作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
複数ページの文書をスムーズに作れるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　(Excel)グラフの作成
【key words】
棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ
【授業概要】
多数の数値データの傾向を視覚化するためのグラフの作り方を学ぶ
・棒グラフの作成
・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定
・折線、円グラフの作成
・複合グラフの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフの作成を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　(Excel)基本的な計算
【key words】
数式、オートSUM、関数
【授業概要】
Excelでデータの集計や分析を行う際の基本となる計算方法を学ぶ
・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け)
・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など)
・よく使う関数（COUNT,ROUND,IF　など）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
数式や関数を使った計算を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　(PowerPoint)画面切り替えとアニメーション
【key words】
画面切り替え、アニメーション
【授業概要】
インパクトのあるプレゼンテーションを行う上で便利な画面切り替えやアニメーションの使い方を学ぶ
また、プレゼンテーション中に動画や音声を再生する方法も学ぶ
・画面切り替えの設定
・アニメーションの設定
・動画と音声の利用
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　(PowerPoint)プレゼンテーションの実行と資料の配布
【key words】
ノート、スライドショー、リハーサル、配布
【授業概要】
プレゼンテーションを行う際に使うスライドショー機能や、配布資料の作成方法を学ぶ
・フッターとスライド番号の挿入
・ノートの作成
・スライドショーの実行
・リハーサル機能
・資料の配布
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のプレゼンテーションを行えるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第１４回　(Word/Excel/PowerPoint共通)アプリケーションにまたがる操作とファイル操作 【key words】 コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル 【授業概要】 複数のアプリケーションを組み合わせたレポート等の作成方法を学ぶ また、情報の管理のためにパソコン内のファイルを整理する方法も学ぶ ・アプリケーション間のコピーと貼り付け ・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念 ・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アプリケーション間のデータのやり取りを練習する ファイル操作に慣れる 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成 【key words】 情報セキュリティ、情報モラル、課題 【授業概要】 情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティと情報モラルを学習する また、レポート課題についての説明も行う ・情報セキュリティ（コンピュータウィルスやフィッシング詐欺などについて） ・情報モラル（著作権や個人情報の扱いなどについて） ・課題内容の説明 ・課題作成実習 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報セキュリティや情報モラルを正しく理解する 課題を作成して期限までに提出する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業の資料はホームページで公開するので、それを使って復習する
オフィスアワー	授業開始前後20分間
評価方法	レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%)
教科書	PowerPointによるスライド資料(当科目のホームページで配布)
参考書	できるWord&Excel 2019、インプレス、2019年 できるPowerPoint 2016、インプレス、2019年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関連雑誌原稿執筆多数 パソコン関連書籍執筆多数 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他

	その他の具体的内容 　内容がやや複雑な一部の箇所について、YouTubeに復習用の動画を用意

講義科目名称：　統計の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 近年のコンピューターの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。授業の目的は統計学の基礎的な力を養成することにある。 【到達目標】 看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。また統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 無作為抽出、相関、分布 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 1頁～208頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	データの性質と分布の代表値 【key words】 量的変量、質的変量、平均値、中央値、最頻値 【授業概要】 データの分類方法と平均値、中央値、最頻値について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 16頁～19頁、24頁～29頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	分布の散布度 【key words】 分散、標準偏差 【授業概要】 分散と標準偏差の計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 24頁～29頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	無作為抽出 【key words】 無作為抽出 【授業概要】 無作為抽出の方法について、実例を通じて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 80頁～83頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	散布図と相関 【key words】 散布図、相関 【授業概要】 散布図の描き方、相関の計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 39頁～40頁、151頁～153頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	クロス集計 【key words】 クロス集計 【授業概要】 クロス集計の作成の仕方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 145頁～147頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	保健統計 【key words】 公衆衛生、保健統計 【授業概要】 保健統計の見方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 168頁～194頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	統計数字の読み方 【key words】 公衆衛生、保健統計 【授業概要】 保健統計の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 168頁～194頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	確率分布 【key words】 正規分布 【授業概要】 確率分布表の見方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 67頁～70頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第１０回	標準化 【key words】 標準化 【授業概要】 標準化のための計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 31頁～32頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。

	【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　excelを用いたデータ処理 【key words】 excel 【授業概要】 excelを用いた初歩的なデータ分析の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 20頁～34頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　excelを用いたグラフ作成 【key words】 excel、グラフ 【授業概要】 excelを用いてグラフ作成の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 35頁～44頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　excelを用いた統計的検定 【key words】 ｔ検定 【授業概要】 excelを用いて統計的検定の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 104頁～166頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　excelを用いた回帰分析 【key words】 excel、回帰分析 【授業概要】 回帰分析の理論を学び、さらにexcelを用いて回帰分析の操作方法を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 151頁～157頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　統計学の利用法 【key words】 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、無作為抽出、相関、クロス集計、正規分布、エクセル、グラフ 【授業概要】 実例に沿って統計的手法の活用方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 1頁～208頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	パソコンを用いた演習も行うため、指定した日にノートパソコンの持参が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	必要とされる予備知識については、教科書を通読して事前に理解することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP 等を参照して復習すると、理解がより深まる。
オフィスアワー	授業終了後30 分。
評価方法	試験（60%）、授業中の課題（40%）を総合して評価する。
教科書	高木晴良「統計学」（医学書院）最新版

参考書	ロウントリー「新・涙なしの統計学」（新世社）2001
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生活科学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
篠原　しづか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 幸福な家庭生活を運営できるようになることを目的とする。 ［到達目標］ 衣生活、食生活、住生活を科学的な視点から学び、快適な生活ができるようにするとともに、精神的にも豊かで安定した日常生活が送れるようになる。
授業の概要	家庭生活を営む上に必要な衣食住と健康について、科学的視点からの理解と選択ができるようにする。また精神の研鑽も大切なので、古典、童話、歌劇、小説、心学などに触れ、人としての心と科学の両立を目指す。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　：生活とは 【key words】 生活の目的、理念、範囲、斎家論 【授業概要】 健全な日常生活運営のために必要な理念を石田梅巖の斎家論,儒教経典の大学「修身齋家治国平天下」の言葉を用い生活科学の目的を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「序にかえて」 参考書：岩波思想体系「石門心学」・岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の重要性を理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	日常生活の理解と結婚 【key words】 家庭の役割　結婚　未婚　離婚　愛があれば結婚できるか 【授業概要】 思想家アンドレ―モロアと女流作家宇野千代等のコメントを参考に結婚を多方面から考察し、幸福な結婚、家庭生活の土台となるべき基本条件を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 結婚生活は男性と女性が互いに忍耐し合い、許し合いの連続の中で、いかに生きるべきかを求め暮らすことを理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	家庭生活の経営、家庭経済、老後の設計と消費者問題 【key words】 家族　家庭経営・経済生活　生活設計　高齢期の生活 【授業概要】 家庭経営の理想を達成するためには経済と精神の均衡が保たれることが大切である。

二宮尊徳の報徳仕法にみる家庭経済の在り方を中心に説明し、老後の設計や消費者問題についても詳説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考書：「二宮翁夜話」福住正兄著・岩波文庫

【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭生活安定のための経済の在り方を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　食生活と食文化
【key words】
食事　食文化　行事食

【授業概要】
家族が食卓を囲み食事をすることは、家族愛、健康、食文化（日本の伝統文化）伝達の上で重要であることを説明。幸福な家庭運営のためには、季節の行事食や祭り料理の意義あることを解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p37～60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の伝統文化と食生活は、切り離せない重要なものであることを理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　食生活：内臓助成の食生活
【key words】
生命維持　内臓助成　寿命生活

【授業概要】
身体臓器は自律神経が深く係わるために、日々の食生活が大切である。そのため内臓助成を考慮した食生活と食の安全を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p61～78、103～116
参考書：

【課題・予習・復習・授業準備指示】
健康な生活を送るためには内臓助成が大切であることを理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　衣生活：被服の役割と機能、皮膚衛生　不感蒸泄
【key words】
被服の役割　皮膚の構造と生理　不感蒸泄の計測

【授業概要】
第2の被服と言われる皮膚の構造と機能を理解するため、学生個々の1日の不感蒸泄を計測し、その値をもとに肌着着用の重要性と洗濯の必要性を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ１～26、189～199 参考書：【新しい被服衛生」中橋美智子・吉田敬一著、南江堂「衣服簡易実験法」日下部信幸著、家政教育社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
5分で1日の不感蒸泄を測定し生活の中の科学を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　衣生活:被服素材の絹、綿から化学繊維、新素材
【key words】
繊維の種類と性質　新素材と衣生活

【授業概要】
「繭と生糸とは日本一」この歴史ある絹からカロ―ザスのナイロンやポリエステル、ユニクロのハイテク繊維のヒートテックなど新保温素材の繊維の実験を行い、検証し、時代に対応した衣生活を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：　p8～26
参考書：

【課題・予習・復習・授業準備指示】
新保温素材の保温力を確認し、衣服を選定することを理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　衣生活：衣服の洗濯史(古代～酵素洗剤)
【key words】
石油系合成洗剤　酵素洗剤　洗濯法

【授業概要】
古事記「国生み」に見る洗濯から新洗剤による洗濯を説明。環境に優しい酵素洗剤プロテアーゼの分解力を簡易実験を通して検証する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p27～35、117～126
参考書：「古事記」倉野憲司著・岩波文庫　全訳註「古事記」次田真幸著・講談社学術文庫「家政学実習」大谷陽子編、建帛社

【課題・予習・復習・授業準備指示】
酵素入り洗剤の洗浄力の比較をして、新しい洗剤の効果を考える。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　衣生活：衣服の管理（タンスにゴンの防虫剤から薫衣香まで）

【key words】
漂白　しみ抜き　手入れと保存

【授業概要】
衣服の汚れ除去、漂白、しみ抜きの実験をする。衣服の手入れとしての虫干しと防虫剤の使用法、環境に配慮した日本古来の防虫法・防虫剤（天然）を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P34～35、136～139
参考書：日本古典文学大系「日本書紀」・岩波書店「日本書紀」（１）（２）坂本太郎著・岩波文庫　　参考書：「被服生理学」奥山春彦・水梨サワ子監修、相川書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
衣服管理の奥深さを考察する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　住生活：快適な住環境、埃とダニ・カビ

【key words】
快適な住環境通風　換気　太陽エネルギー　埃とダニ・カビ

【授業概要】
快適な住まいを教室内の微気候を測定し検証する。換気と掃除の重要性とカビダニの住生活に及ぼす影響を説明。また太陽エネルギーの効果についても説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　p79～95、103～110、167～170　参考書「ダニ類その分類生態」佐々学著、東京大学出版会　「太陽エネルギーの基礎と応用」村井潔三著、オーム社　「衛生学実習」三浦悌二等編、南山堂

【課題・予習・復習・授業準備指示】
住環境のあり方を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　住生活：ハウスクリーニングの実際

【key words】
清潔な住生活と掃除　暮らしと環境

【授業概要】
清潔な住生活のための「ときめくハウスクリーニングの実際」を実証する。また環境保全に向けての対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P103～110、126～135、140～166
参考書：「環境衛生と産業衛生」原島進著、光生舘「女子教養の公衆衛生」三浦悌二・中村泉著南山堂

【課題・予習・復習・授業準備指示】
魔法のホイップクリームの効果を実証する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　健康生活：着衣着火等衣生活の危険

【key words】
被服の燃焼（有毒ガス、火傷）

【授業概要】
着衣着火の危険性について学び、起毛繊維の表面フラッシュ現象や化学繊維の有毒ガスによる死亡者の多いこと等を説明。実際に石油系の繊維の燃焼実験を行い衣生活の危険とその対応について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考書：「新しい被服衛生」中橋美智子・吉田敬一著、南江堂
「消防白書」消防庁、大蔵省印刷局

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際の燃焼試験を通して危険性を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　健康生活：入浴と入浴剤の効果

【key words】
温浴剤　平均皮膚温

【授業概要】
入浴は健康に重要な効果がある。薬用温浴剤使用の場合の皮膚の状況、皮膚温、深部温、各層水分量、血圧など、さら湯と温浴剤入りで比較検討する。さらに各種民間薬草による入浴剤、特に蓬やハトムギの効果について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p190～199
参考書：

【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近な温浴剤の効果を知り、実生活に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１４回　健康生活：皮膚障害と静電気，柔軟加工剤の効果 【key words】 皮膚障害　静電気　衣服圧　衣服帯電列 【授業概要】 衣服の繊維やその加工剤による皮膚障害が多い。なかでも冬期湿度低下の乾燥期おける衣服着脱時の静電気の放電が原因による障害は多い。その対応と柔軟加工剤の効果ににについて説明する。同時に被服圧の障害と対策についても説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P190～199　参考書：「新しい被服衛生」中橋美智子・吉田敬一著、南江堂 【課題・予習・復習・授業準備指示】 皮膚障害防止のため今後の生活を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ：生活を統合する 【key words】 衣　食　住　経営　経済 【授業概要】 幸福な家庭生活運営のための衣、食、住、家庭経済及び健康生活をふりかえる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸せな生活を送れるように考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業内容を実生活にも活かすこと。 ・板書以外にも各自メモを取り「生活の中の雑学」も身に付けるように心掛けること。 ・５回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	復習を重点に学習すること。学んだことを実生活に活かすこと。
オフィスアワー	授業前３０分
評価方法	試験６０％、授業の中の課題４０％で総合して評価する
教科書	「生活科学概論」　建帛社
参考書	授業中に配布する資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　道徳教育（特別活動を含む）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「道徳」を主体的に学び研究し、自らの実践を通して具体的な授業（教育）の在り方を考察する。（含特別活動） その教育実践の基本的な態度である本学見学の精神を学び、自らの思考を実践する能力を養う。 【到達目標】 ①人が社会にあって、人としてのあるべき道を学び、実践する力を身につけることができる。 ②自己の思考するところを言語表現できる語い力・話力・能力をみがき、思考力、判断力、表現力を身につけることができる。 ③道徳教育（含特別活動教育）の目的と意義及び内容について研究、考察し、具体的な実践的手法を身につけることができる。 ④教養としての主権者意識・市民性意識を涵養し、社会にあってその姿勢を実践する力を身につけることができる。
授業の概要	・人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業計画・授業内容、授業方法、授業時の留意事項、評価） 【key words】 授業について、講義の受け方、評価 【授業概要】 ・授業のスタートに当たり授業活動における秩序（ルール、マナー等）を確認する。 ・授業内容は儒学哲学をもとに、社会にあって人間のあり方についての思考を深める。 さらには、道徳・特別活動教育について学習指導要領をもとに実践的授業について児童・生徒の指導と教師として教育すべき技術・能力を考察する。 ・授業形態（グループ発表・全体討議・評価等）について教師と学生によって授業活動ができる（アクティブラーニング）ことを基本とする。 ・授業出席確認は授業担当者のもと学生のリーダーが呼名で確認する。 ・次回授業からグループ発表のため、グループ編成、発表テーマ・内容について活動する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト「咸有一徳」、授業担当教師が作成する資料を配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時配布資料講義について、上毛新聞「三山春秋」、「虐待」、自分の気になる社会事象記述用紙「ハチドリのひとしずく」　（記述用紙） ・上記の配布資料について読解・記述を次回授業までに行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	テキスト「咸有一徳」について解説する。「道」と「徳」の字源、「哲学する」ことについて解説し、考察する。 【key words】 咸有一徳、道、徳、哲学する 【授業概要】 ・書経の篇名「咸有一徳」が有する意味を解説する。 ・「道」「徳」字の源を探る。 ・「哲学する」ことの意義にして考察する。 ・グループ発表テーマ等の考察、「ハチドリのひとしずく」発表と話し合い

【教科書ページ・参考文献】
テキスト「咸有一徳」P62～64、教師作成資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時配布資料
「徳」字の字源解説、グループ発表記録用紙、読売新聞「編集手帳」（船戸結愛ちゃん）

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　発表グループ編成　「仁」の字源（加藤常賢）と論語に見る「仁」について考察する。

【key words】
グループ編成とその意味　仁

【授業概要】
・なぜグループを編成するのか。何を追究するのか。
・「仁」字の字源と儒教的考察
・グループ発表の最終打ち合わせ

【教科書ページ・参考文献】
テキスト「咸有一徳」P40～48、P41～43、教師作成資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「仁」字の字源解説、論語「顔淵」の解釈
・本時配布資料

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　グループ発表初回、「大学での学び」について、第3回講義の補足と復習について講義する。

【key words】
・咸有一徳の「一」、論語、儒学
【授業概要】
・「仁」について　その字源と論語における意味を解説する。
・現代主権者、社会人として考察すべき儒教哲学について考察する。
・「大学での学び」を考える。
・グループ発表と質問と討論と評価を行う。
・グループ発表と討論30分

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・大学での学び、発表グループが作成した資料

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　「仁」は孔子の思想の中心を成す。その「仁」について考察する。「漢」という時代について考察する。コメントカードから学ぶことについて紹介する。

【key words】
・中国漢時代、コメントカード

【授業概要】
・「仁」は孔子の中心思想（儒学倫理学、儒学リーダーシップ学）であることを学ぶ。
・中国漢時代の様子と儒学の発展について考察する。
・グループ発表と討論30分
・コメントカードに答える。（学生の話し合い）

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」・配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・漢の時代　・コメントカードよりコメント集

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　「仁」について、孟子と伝習録によって考察する。「秦」という時代～諸子百家の出現について解説する。

【key words】
孟子、伝習録、秦、諸子百家
【授業概要】
・「仁」を多方向からとらえる。そして倫理学としての「仁」を再認識する。
・グループ発表と質問と討論と評価

【教科書ページ・参考文献】
テキスト「咸有一徳」P39～40、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・上毛新聞「三山春秋」（東京空襲と井上有一）
・本の紹介「アニメと哲学」小川仁志著

【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第７回	儒学の実践「知行合一」（陽明学）について考察する。（公愛を育て、吾が英知〈至善・良知〉の実践を考える） 【key words】 知行合一、至善、良知、格物、陽明学 【授業概要】 ・真心を行いで示す。誰もが生まれながらに持っている、人として行うべき正しい道を外に現すこと。そしてそれによって 社会的な物事に正しく処することについて考察する。 ・グループ発表と討論30分 【教科書ページ・参考文献】 テキスト「咸有一徳」、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料 学習指導要領「道徳」、学校教育法施行規則（抄） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	「真心」とは何か、「真心」の本体とは何かについて儒学を基に考察する。学習指導要領一部改正（平成27年3月）から、第1章総説「道徳の内容」について解説する。 【key words】 真心、学習指導要領、学校教育法施行規則、「道徳」 【授業概要】 ・「真心」とは何か、「真心」の本体とは何かについて考察する。 ・学習指導要領改訂「道徳」について理解し、指導の視点、方法を実践的に学ぶ。 ・グループ発表と討論 【教科書ページ・参考文献】 テキスト「咸有一徳」P49～56、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料、（新）学習指導要領「特別活動」編 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	「真心」について「中庸」「礼記」「伝習録」から考察する。　・「真心」について「伝習録」より「本体」について考察する。 【key words】 「中庸」「礼記」「伝習録」「何か」「本体」 【授業概要】 ・「真心」について中庸・礼記・伝習録によって考察する。 ・「道徳」の教科化について、その経緯・改訂の基本方針を再認識する。 ・グループの発表と討論 【教科書ページ・参考文献】 テキスト「咸有一徳」、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料 ・中庸・礼記・伝習録に見る「真心」の解説 ・上毛新聞「三山春秋」（「想定外」という説明） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	「至誠」とは何か、「尽くす」が極めて大切、を「中庸」・「礼記」から引用して考察する。教育の歴史を「修身科」と「教育勅語」を中心にとらえて教育の変遷を探る。 【key words】 至誠・修身科、教育勅語 【授業概要】 ・儒教哲学「仁」を「中庸」より「至誠」について考察し、「知行合一」によって実践することの意義について学ぶ。 ・日本の文化、教育に影響が大であった儒教と、「小学教則」の関係を考察する。 ・グループ発表と議論 【教科書ページ・参考文献】 テキスト「咸有一徳」P57～61、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時配布資料 ・「伝習録」「中庸」「礼記」から「至誠」「尽くす」の引用文 ・教育の歴史―修身科―の解説 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	学習指導要領と道徳について学修し、「道徳」の在り方について考察する。「レポート・小論」に必要な技術を解説する。 【key words】 道徳、教科化のための法改正 【授業概要】 ・「道徳」を教科化するための関係法令の改正、改訂について知る。 ・「考える」というクリティカルな思考行為について考察する。 ・グループ発表と討論 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領「道徳」（解説書）、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・「レポート・小論」の技術
・上毛新聞「三山春秋」から2編

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　修身科と教育勅語～修身科の廃止（昭和22年）と道徳の授業について研究、考察する。教育勅語について解説する。学習指導要領特別活動編について解説する。

【key words】
修身科、教育勅語、学習指導要領特別活動

【授業概要】
・教科「修身科」が廃止され「道徳」として教育された歴史をとらえてその内容を考察する。
・（新）学習指導要領の特徴と「特別活動」における教育活動について概説する。
・グループ発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
配布資料（教育の歴史―修身科―、学習指導要領「特別活動」編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料　先時配布資料「新学習指導要領　特別活動編」を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　学習指導要領「特別活動」改訂の経緯及び基本方針について解説し理解する。「特別活動」改訂の主旨及び要点についてその内容を解説し考察する。

【key words】
特別活動、改訂と改正
【授業概要】
・「特別活動」改訂の主旨及び要点について、今回の学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を理解しながら「学習指導の改善・充実」について考察し、教育実践に活かす。
・グループ発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
配布資料（第12回配布）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
明治憲法と教育勅語（文部科学省）、教育勅語（原文・読み・意味）

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　「咸有一徳」本文（第一編・第二編・第三編）の注釈を解説し、人が社会にあっての在り方を考察する。

【key words】
マナー（家庭・医療福祉・学校）
【授業概要】
・「咸有一徳」「本文」の注釈を読解しながら「家庭生活における基本的なマナー」
「医療福祉界が今望んでいるマナー」「学校生活における品位あるマナー」について考察する。
・グループ発表と討論

【教科書ページ・参考文献】
テキスト「咸有一徳」P71～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・「世界がもし100人の村だったら」、上毛新聞「三山春秋」（古墳時代の代表的な遺物である人物埴輪…）

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　授業を総括する。　グループ発表　　「世界がもし100人の村だったら」（第14回授業配布資料）の文章の最終文を創作し、人としての在り方を考察する。

【key words】
授業考察、世界がもし100人の村だったら（「ドネラ・メドウズ」より）
【授業概要】
・授業の全体を振り返り取り組みについて総括し、グループリーダーが発表する。
・「世界がもし100人の村だったら」の文章の終章を創作し、その理由を記して提出する。
・グループ発表、3グループが発表し討論する。
・授業アンケートを実施する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時配布資料
・「P4C」を授業に（「道徳」の学習スタイルとして有効な学習活動）

【予習復習に必要な想定時間】
60分

受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　日常の生活において学びを実践すること ・　授業中の迷惑行為　（遅刻、居眠り、私語、メール作成等）は厳禁する

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持って とらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　レポート提出１０％、筆記試験７０％、発表（内容、方法、態度）２０％
教科書	・　咸有一徳
参考書	・　授業において紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として38年間教育に携わった。その経験をもとに、教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎英語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 医療の現場で看護師として必要な英語を「読み、聞き、話せる」ことを目的とする。 【到達目標】 ①英文の情報を早く正確に理解できる。 ②英語表現に必要な基本的な文法を理解し応用できる。 ③授業で身につけた「単語、表現」を使って日常会話が行える。
授業の概要	医療関連の記事の読解練習をしながら読解に必要な文法、表現、医療系単語を学ぶ。 看護現場で使用頻度の高い会話練習をする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション / 大学での友達との会話 【key words】 What worries ～ ？ Why not ～ ？ 【授業概要】 日常の様々な場面で使う基本的な言い方を練習する。　命令文の使い方をまとめる。 Medical Words（医療関係の職業）を発音し覚える。　簡単なResume、履歴書を英語で書けるようにする。 Grammer：命令文　　Words：医療関係の職業 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ７～Ｐ１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p.10 Words & Phrases、 p.11 Medical Words を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第２回	ガン治療の副作用について考える 【key words】 be動詞、have(has) / cancer、 radiation、symptoms 【授業概要】 医療現場でよく使われる表現をbe動詞、haveを中心に学ぶ。　ガン治療に関する英文を読みながら、修飾語の働きを学ぶ。 Medical Words(身体、外側)を発音し覚える。　測定の単位を確認する。 Grammer:be/have動詞　　Words:身体（外側） 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ１３～Ｐ１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ.17 Medical Words　を使って今日学んだ会話練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第３回	健康診断で使われる表現 【key words】 I feel nauseous、/ pain、 blood pressure、weigh 【授業概要】 身体の不調、変調を知らせるときに使う表現を学ぶ。　現在分詞の使い方を進行形、形容詞を中心に確認する。 Medical Words(骨、筋肉)を発音し覚える。　お見舞いのカードを英語で書けるようにする。 Grammer:現在分詞　　Words:身体（骨、筋肉） 【教科書ページ・参考文献】

教科書：Ｐ１９～Ｐ２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
お見舞いのカード(A Get Well Card)を完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第４回　脳の働きについて情報を読みとる
【key words】
brain、 left side、 right side
【授業概要】
脳の働きについて述べた英文を読み、各段落ごとの要旨をまとめる練習をする。　疑問詞の使い方をwhichを中心に確認する。Medical Words(内臓)を発音し、簡単な例文と共に覚える。　食品成分表を読めるようにする。　Grammer:疑問詞　Words:身体 (内臓)
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ２５～Ｐ３０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家にある輸入食材の裏の食品成分表を書きとり、訳してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第５回　応急手当の手順、基本を理解する。
【key words】
first aid、 bleeding、 breathing、 depression、 movement
【授業概要】
応急手当についての箇条書きの英文を正しく読めるようにする。　名詞の形(単数形、複数形)の使い方を確認する。　Medical Words(病院の科の名称)を発音し、覚える。　救急処置の行動を英語で言えるようにする。　Grammer:名詞の形　Words:病院の科の名称
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ３１～Ｐ３６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　p.36 健康アンケートの解答を作ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第６回　LGBTとは何かを読みとる
【key words】
gender、 identity / hear of、 stand for、 refer to、 point out
【授業概要】
LGBTについての英文を題材にして関係代名詞のある文の訳し方の練習をする。　診察の時に使う会話練習をする。　Medical Words(病院関連)を発音し、病院内での場所を教える会話を学ぶ。
Grammer:句動詞　Words:病院関連
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ３７～Ｐ４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書 p.42 五感クイズに答える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第７回　虐待についての知識を得る
【key words】
abused、 punish、 force、 watch out、 on purpose
【授業概要】
段落のつながりを考えながら英文を読み「虐待とはどういうことか」をまとめる。　動名詞の使い方を確認する。　Medical Ｗｏｒｄｓ (痛み)を発音し、簡単な例文で会話練習する。
Grammer:動名詞　Words:痛みなど
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ４３～Ｐ４７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書 p.48 精神障害の度合いをチェツクする質問項目に答える。　次回小テスト
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第８回　血液型と輸血の関係を知る / 学習確認小テスト
【key words】
blood type、 receive、 recipient、 plasma、 universal donor
【授業概要】
血液型と献血、輸血について述べた英文を読みながら、SVO、SVOCの文を学ぶ。　Medical Words(病気①)を発音し、p.53の「患者と看護師の会話」の中で練習する。
Grammer:文型　Words:病気①
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ４９～Ｐ５３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書 p.54　英語でドナーカードに記入する練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第９回　健康なライフスタイルとはどういうものかを考える
【key words】
heredity、 accelerate、 moderation、 overweight、 obesity、 diabetes mellitus
【授業概要】
「健康なライフスタイルとは」の英文をKey Wordに注目して読んでいく。　日常生活で使う数字の読み方を学ぶ。　関係代名詞の使い方を確認する。　Medical Words(病気②)を発音しp.59の「友人との会話」の中で練習する。　Grammer:関係代名詞　Words:病気②
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ５５～Ｐ５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書 p.60 Depression Self-Checkの解答をする。
【予習復習に必要な想定時間】

		６０分～９０分
	第１０回	国ごとに治療の仕方は違うのか、考える 【key words】 emergency room、 immediately、 embarrassed、 dismayed、 family doctor 【授業概要】 現在完了、過去完了による時間の流れを考えながら英文を読んでいく。　完了形の使い方を確認する。 Medical Words(病気③)を発音し、p.65の「病室での看護師との会話」の中で練習する。 Grammer:現在完了と過去完了　　Words:病気③ 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ６１～Ｐ６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書 p.66 Invitation Card を作る。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第１１回	cure(治癒)という語の意味について考える 【key words】 cure、 treat、 medication、 therapy、 get rid of、 come up with 【授業概要】 接続詞thatの様々な使われ方に注意しながら英文を読んでいく。　認知症初期症状チェックリストを訳してみる。　Medical Words(病気④)を発音し、覚える。 Grammer:thatの様々な用法　　Words:病気④ 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ６７～Ｐ７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書 p.53、p.59、p.65、p.71、の病気に関する単語(1)～(4)を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第１２回	「やせていること」と「健康であること」の違いを読みとる 【key words】 carbohydrates、 Body Mass Index、 anorexic、 sustainable 【授業概要】 現在、過去、未来の動詞の形で時間の関係を理解しながら英文を読んでいく。　p.78「健康のための心がけ」を英語で言えるようにする。　Medical Words(治癒、手術)を発音し、p.77の会話で練習する。 Grammer:時制　　Words:治療、手術 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ７３～Ｐ７８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書 p.78英文 Outfitted for Health を完成させる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第１３回	乳ガンの自己検診の手順を読みとる 【key words】 breast self-examination、survival rate、make an appointment 【授業概要】 乳ガンの自己検診の手順を前置詞(句)を中心に読みまとめる。　様々な前置詞の使い方を学ぶ。病院内での道順の尋ね方と答え方の会話を練習する。　Madical Words(薬剤関連)を発音し覚える。 Grammer:前置詞　　Words:薬剤関連 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ７９～Ｐ８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p.35 病院の科の名称の単語を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第１４回	外国人看護師に日本語はどのくらい必要かを考える 【key words】 an aging society、 caregiver、elderly、 patients、 nursing license 【授業概要】 p.86の英文で、くり返される単語に注目して文の意味を推測し、全体を理解する練習をする。受動態の働きを確認する。　p.89入院に関する会話練習をする。　Medical Words(医療関係の道具)を発音し覚える。　Grammer:受動態　　Words:医療関係の道具 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ８５～Ｐ８９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書 p.90 How to use AEDを解答する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～９０分
	第１５回	看護師に必要な英語表現、英単語 【key words】 How are you feeling today ? 【授業概要】 Unit1 ～ 14の医療系英単語、重要表現を復習する。　よく使う会話表現を練習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ７～Ｐ９０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今日まとめた医療系英単語、重要表現、会話表現を使えるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～１２０分

受講生に関わる情報および受講のルール	読解の基礎になる医療系単語の復習は各自じっかり行うこと。 会話練習、発音練習、音読の時は大きな声を出して積極的に取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	あらかじめ授業予定の範囲のListeningをしてくること。 授業終了後は復習をしておくこと。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	期末筆記試験（客観、論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	Take Care ！　三修社
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　医療英語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 共通語としての英語を使って看護現場で意思疎通ができるように、聴く、話す、読む、書くの技能を向上させる。 【到達目標】 ①相手の訴えが聴き取れる。 ②伝えるべきことを過不足なく伝えられる。 ③英文記事から必要な情報を早く正確に把握する。 ④医学用語の短縮形や単語の特殊な構成を学び、新出用語や単語の意味を類推することができる。
授業の概要	読解を行う場合でも音読を重視する。 看護現場で使用頻度の高い医療系単語・構文を学び、会話練習をする。 医学系の記事・論文を文法事項の確認をしながら読んでいく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション／診療科の名前／受診受付 【key words】 First Visit to a Hospital 語幹　接尾辞 【授業概要】 １５回の授業の流れを理解し、各回の位置付けを確認する。初診の患者を案内する際の語いや表現を学ぶ。 基礎英語で学んだ診療科名の名称を確認する。医学用語の成り立ちをそれぞれが特別な意味を持つ語幹と接尾辞を学ぶことによって理解する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１～Ｐ５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P5 Hospital Department Designations に答える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～１２０分
	第２回	登録票・診察申込書の記入／英文読解：患者とのコミュニケーション 【key words】 How to Fill in a Registration Form Would you～?　May I ask～?　What kind of～? 【授業概要】 日本語が読めない患者が来訪した時を想定して、登録票・診察申込書の記入の仕方を学ぶ。 anti-, hyper-, mal- といった（抗,反、過剰、悪,不良）の接頭辞と語幹の組み合わせで成り立っている単語を学ぶ。患者とのコミュニケーションについての英文を読む。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ６～Ｐ９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P10　登録票/診療申込書　を記入してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分～１２０分
	第３回	生活習慣を尋ねる／体の部位① 【key words】 Let's Ask about Daily Activities. I'd like to ask you about～ .

【授業概要】
患者の症状を尋ねるときの応答練習を、特に生活習慣を中心に聞く練習をする。脳、神経に関する医学用語を学ぶ。体の部位（頭部）の単語を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１～Ｐ１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P15 Human body 1 頭部　の図を完成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第４回　症状について尋ねる／体の部位②
【key words】
What seems to be the problem?　How long have you been～?　How do you feel now?
【授業概要】
患者の症状を尋ねるときの応答練習をする。現在完了形の使い方を確認をして、実際の会話の中で使えるようにする。消化器系に関する医学用語を学ぶ。体の部位（人体）の単語を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１６～Ｐ２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P16 Human body 2　人体　の図を完成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第５回　測定の際の表現／医学用語の構成Ⅰ
【key words】
Medical Checkup
Let me check～.　Let's check～.　/　blood pressure, thermometer
【授業概要】
脈拍・血圧・体重などを測定するときに使う表現・単語を学ぶ　。循環器・血液系に関する医学用語を学ぶ。
臓器の単語を確認する。患者とのコミュニケーションに関する英文を読む。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２１～Ｐ２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P25 Human body 3 臓器　の図を完成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第６回　検査の際の表現／体の部位③／病院のスタッフ
【key words】
We need to take～.　Take a deep breath and exhale.
urine sample, blood sample, suger level, protein
【授業概要】
血液・尿検査などをするときに使う表現・単語を学ぶ。呼吸器系に関する医学用語を学ぶ。病院のスタッフの英語での名称を発音し覚える。分数・少数の英語での表し方を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２６～Ｐ３０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P30 Hospital Staff Designations を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第７回　検査結果の説明に必要な表現／英文読解：糖尿病①
【key words】
Let me explain～　How often～?　You are suffering from ～.
diagnosis, cholesterol, diabetes
【授業概要】
検査結果を説明するときに使う表現・単語を学ぶ。糖尿病についての英文を読み、糖尿病のtype1とtype2の説明が日本語でできるようにする。骨格・筋肉系に関する医学用語を学ぶ。疑問詞を使った疑問文の確認をする。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３１～Ｐ３４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P33の英文の聞き取りをする。（音声ダウンロード）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第８回　症状についてより詳しく尋ねる／英文読解：糖尿病②
【key words】
How is your～?　That's quite normal.
appetite, indigestion, constipated, diarrhea
【授業概要】
患者の症状を詳しく尋ねるときに使う表現・単語を学ぶ。肥満に関する英文を読み、肥満の医学的な意味を日本語で説明できるようにする。泌尿器・生殖器系に関する医学用語を学ぶ。また、病気の様々な症状を英語で表現してみる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３６～Ｐ４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P40 Patient Symptoms に記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第９回　痛みを細かく表現する／医学用語の構成Ⅱ
【key words】
Let's Ask　More about Mr ～'s Symptoms
normal range, serious disease, hepatitis, associated with～
【授業概要】
痛みについて、どのような痛みかを詳しく尋ねるときに使う表現・単語を学ぶ。肥満と肥満指数

の定義に関する英文を読み、肥満指数の定義を理解する。耳鼻・咽喉系に関する医学用語を学ぶ。また痛みの英語での表現の仕方を練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４１～Ｐ４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P45 Descriptions of pain に記入する。
次回小テスト

【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１０回　薬の働きについての説明／医学英語によく使われる動詞
【key words】
Explaining Blood Test Results
gastritis, inflammation, fiberscope, recommend～,
【授業概要】
薬の働きについて説明をするときに使う表現・単語を学ぶ。皮膚・関節系に関する医学用語を学ぶ。症状や痛み、検査に関する表現をするときによく使う動詞（take,have,feelなど）を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４６～Ｐ５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P50 Medication Ⅰを復習し、単語を覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１１回　薬の服用の仕方の説明／英文読解：脳卒中①
【key words】
How to Take Medicine
Take one tablet three times a day after meals. / antibiotics, tablet, packet
【授業概要】
薬の服用の仕方を教えるときに使う表現・単語を学ぶ。脳卒中に関する英文を読み、脳卒中とは何かを理解する。リンパ・免疫系に関する医学用語を学ぶ。また薬の服用の様々例を提示して英文を作る練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５１～Ｐ５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎英語で学んだ「薬の服用の仕方」の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１２回　症状の起きた原因を尋ねる／英文読解：脳卒中②
【key words】
What seems to be the problem? I feel like～. Have you had ～?
dizzy, vomiting, slight headache
【授業概要】
患者にその症状の起きた原因を尋ねるときに使う表現・単語を学ぶ。前回に続き脳卒中に関する英文を読み、脳卒中を確認する方法を読みとれるようにする。内分泌系に関する医学用語を学ぶ。看護師の日常携行品の英語での名称を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５６～Ｐ６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P60 Nursing Care Instruments Ⅰで看護師の日常携行品の名称を覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１３回　ＭＲＩ検査の説明／英文読解：脳卒中③
【key words】
We can take a close look at～. Please lie down here. Take a deep breath.
test results, relax
【授業概要】
ＭＲＩ検査をするための準備・方法などを説明をする表現・単語を学ぶ。前々回に続き脳卒中に関する英文を読み、脳卒中のリスクを減らすために何をすればよいかを読みとる。細胞・組織系に関する医学用語を学ぶ。
治療・処置に必要な道具用品の英語での名称を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～Ｐ６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P65 Nursing Care Instruments Ⅱ　を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１４回　手術前後の説明／病気の名称
【key words】
Recommending an Operation
operation, bleeding, catheter, neurosurgeon
【授業概要】
手術前の検査や手術後の注意事項などを説明するときに使う表現・単語を学ぶ。代表的な病気の名称を、基礎英語で学んだ単語の復習をしながら覚える。腹部系に関する医学用語を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６６～Ｐ７０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P70 Medical Condition and Illnesses に書かれている病気の名称を覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～１２０分

第１５回　まとめ　Unit 1～　Unit 15
【key words】

	Communication, Useful expression, Medical terms 【授業概要】 Unit１から Unit１５の会話を振り返り、看護師に要求される会話技能を確認する。 重要なMedical terms の復習をする。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１～Ｐ７５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて、指摘した重要事項を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分～１５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書の音声ファイルダウンロードを活用し、聴き取りの自主訓練を心がけること。 会話練習・発声練習は大きな声をだして積極的に取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で出てきた英単語・構文を復習しておくこと。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	期末筆記試験（客観・論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	First Aid！ (Kinseido)
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　スポーツ科学原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】日常生活を通じたスポーツ知識を学び、心身ともに健康で豊かな生涯を送ることのできる基礎的教養を身につける。【到達目標】①ライフステージにある自己の心身の諸機能の特質とその発達の仕組みを理解する。②諸機能の合理的･教育的な形成方法を学び、自らの健康を保持･増進していくための基本的なスポーツ方法論を修得する。③スポーツを通じて自分自身の健康的･社会的な自己信頼性を高めていくとともに、将来にわたって家庭や職場や地域社会での健康的な生活を設計し実践していくための基礎的な力量を身につける。
授業の概要	身体･運動･スポーツに関する諸学問の成果を学ぶとともに、健康に関する社会的な諸問題を捉え、健康と運動の科学的原理についての研究成果を学ぶ。それによって健康と運動の価値と重要性について理解を深め、自分自身のよりよい健康つくりの内容と方法を習得するとともに、生活実践の中にその知識を活かして自己形成の健康的な基盤を整えることを学ぶ。。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　（ スポーツとは：スポーツの概念と歴史、文化としてのスポーツ ） 【key words】 スポーツ　健康　文化 【授業概要】 「スポーツとは何か」の定義及び現代スポーツの考え方を理解する。特に「スポーツの文化性」に基づく、スポーツ観やスポーツ規範（スポーツマンシップ、フェアプレーほか）の重要性について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p56～69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツ文化の（資料）を熟読して現代スポーツとの関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	スポーツと体力・健康づくり　（ トレーニング論　：体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類） 【key words】 体力　トレーニング 【授業概要】 スポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高めるために行うトレーニング全般について学習する。その実践に求められる基礎知識および、トレーニングの形態別・体力要素別の分類に基づきそれぞれの効果を正しく認識する。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p74～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと体力・健康づくりの（資料）を熟読して日常生活での関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	スポーツと基礎的医学　（スポーツに必要な医学的基礎　：スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置 ） 【key words】 スポーツ　健康　医療　救急措置 【授業概要】 スポーツ活動と健康との密接なかかわりをはじめ、活動中に多いケガや病気の理解と対処法、救急時の処置など、スポーツ医学に関する知識を学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p96～122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツ医学（資料）を熟読して現代スポーツとの関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第４回　スポーツと栄養　（スポーツと栄養） 【key words】 スポーツ　健康　栄養　食育 【授業概要】 健康の保持・増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取について基本的な知識を得る。併せて正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントするうえでの第一歩であることを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p124～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと医学の（資料）を熟読して日常生活との関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第５回　スポーツと社会福祉（障がい者スポーツ：意義と原則、障がいの理解、全国障がい者スポーツ大会） 【key words】 スポーツ基本法　障害者福祉法　障がい者スポーツ 【授業概要】 スポーツ基本法や障害者福祉法を学び、行政施策と社会福祉方策を理解する。そのなかで障がい者スポーツがどのような歴史を変遷しながら今日に至っているか理解する。また全国障がい者スポーツ大会のＤＶＤを鑑賞しながら現代の福祉スポーツの状況を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ指導教本（日本障がい者スポーツ協会編） ｐ1～136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと社会福祉の（資料）を熟読して地域社会との関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第６回　スポーツと発育･発達（ジュニア期のスポーツ：発育･発達期の心身の特徴、ケガや病気、プログラムの作成） 【key words】 スポーツ　発育・発達　スキャモン発達曲線 【授業概要】 子どもの発育・発達特性を知り、スポーツ活動・運動が子供の心身に与えるさまざまな影響とケガや病気を正しく理解する。そのうえで発育ステージに応じたプログラムつくりを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p148～168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと発達・発育の（資料）を熟読して、ジュニア期のスポーツの関連を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第７回　スポーツと地域振興（スポーツ振興施策：スポーツ基本法、総合型地域スポーツクラブの意義と必要性） 【key words】 スポーツ基本法　スポーツ行政　総合型地域スポーツクラブ 【授業概要】 期に、地方自治体等の行政とスポーツ振興方策とのかかわりに現状についての認識を深める。そのうえで、地域住民主体の総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団についてのかかわり方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p170～186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと地域振興の（資料）を熟読して、地域の総合型地域スポーツクラブを理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第８回　スポーツと指導者の役割（スポーツ指導者とは：倫理観、心構えと視点、アスリートの発掘・育成の重要性） 【key words】 スポーツ　指導　倫理　トップアスリート育成 【授業概要】 スポーツ指導者が社会に求められる背景と役割を理解する。日本スポーツ界の現状と目指すべき方向性を正しく理解し、「スポーツ科学」や「トップアスリートの育成」など指導を実践するうえで、もっとも基本となるフィールドを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会編）p34～54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポーツと指導者の役割の（資料）を熟読して、将来医療福祉現場で支援者としての心構えを学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	【情報】授業は資料プリント・ＰＰで実施する。出席を常とし積極的に授業に参加すること。【受講のルール】遅刻、授業中の私語、携帯電話等の使用は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	日常生活の中に自分に適応したスポーツを取り入れ、積極的に身体活動を実践して、安定した豊かな生活を送る。
オフィスアワー	曜日・時間は講義初日に周知する。講師室　時間帯が合わないときは連絡をいただく。
評価方法	筆記試験（レポート）７０％、学習意欲３０％　（受講態度・積極性等）を総合評価する
教科書	資料プリントで対応
参考書	日本スポーツ協会編　スタートコーチ養成テキスト（日本スポーツ協会）　令和２年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯スポーツ指導）群馬県スポーツ振興事業団健康スポーツ課指導主事4年（県民を対象とした健康スポーツ普及指導）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）、群馬県社会福祉事業団、群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障害者スポーツの普及振興、ゆうあいピック、全国障害者スポーツ大会）、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐2年（市町村教育委員会の生涯スポーツ振興指導）、群馬県教育委員会教育長表彰（保健体育）、群馬県スポーツ協会スポーツ功労者表彰（スポーツ振興）前橋市スポーツ推進審議会会長等歴任、群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在） アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　スポーツ演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
長津　一博			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	目標：　明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。 到達目標：　幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出しせるようになる。
授業の概要	各種運動の実践を通して身体統御の方法を身につけ、チームの一員、仲間としての自覚をもち、社会生活のなかで規則やルールを守り、精神力や体力を養い、人間関係の円滑化を図れるようになる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（ 班づくり　Ａ、Ｂ２班に分ける ・ コミュニケーションゲーム ） 【key words】 授業概要についての説明、班編成及び軽レクリエーション 【授業概要】 演習選択者が多数の場合，Ａ・Ｂの２班に分け、さらに４つのグループづくりを行い、各班のリーダー選出。 全体でコミュニケーション・ゲームを実施。 科目の位置付けとシラバスの説明。 近年スポーツの概念は広くなったことを理解することで、今後の授業に興味・関心を持たせる。 また身体におよぼす影響について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜、授業中に紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	A班バレーボール　・　Ｂ班 ソフトボール　①
		【key words】 A班バレーボール　B班ソフトボール 【授業概要】 グループとして活動開始、各自のグループへの関わり方を学び、種目のルールを守り、楽しんで行けるようにする。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム 【教科書ページ・参考文献】 適宜、授業中に紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	A班バレーボール　・　Ｂ班ソフトボール　②
		【key words】 A班バレーボール　B班ソフトボール 【授業概要】 グループこどに楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　A班バレーボール　・　Ｂ班 ソフトボール　③
【key words】
A班バレーボール　B班ソフトボール
【授業概要】
Ａ班：バレーボールのサーブの試験を実施。
Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　①
【key words】
A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール
【授業概要】
種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　②
【key words】
A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール
【授業概要】
グループごとに楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　③
【key words】
A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール
【授業概要】
Ａ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。
Ｂ班：バレーボールサーブの試験
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　①
【key words】
A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル
【授業概要】
種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　②
【key words】
A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル

【授業概要】
Ａ班：フリースローの試験のため練習時間を有効に使う。
Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。

Ａ・Ｂ班とも一人ひとりの動きを確認しあう。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　③
【key words】
A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル
【授業概要】
Ａ班：バスケットボールフリースローの試験実施。
Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　①
【key words】
A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール
【授業概要】
種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　②
【key words】
A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール
【授業概要】
グループでの楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　③
【key words】
A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール
【授業概要】
Ｂ班：バスケットボールフリースローの試験実施。
Ａ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。
出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　成果発表　種目別実践　①
【key words】
種目別実践
【授業概要】
授業の総括を行うとともに集団で行うスポーツの理解を深め実践につなげる。
仲間意識が強くなり、熟達したグループの成果の発表を行う。
出席確認・ウォーミングアップ後、授業の成果発表と交流の場を実施
自分自身の成長をふりかえり確認し評価する。

【教科書ページ・参考文献】
適宜、授業中に紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　成果発表　種目別実践　②

	【key words】 総括及び種目別実践 【授業概要】 授業の総括を行うとともに集団で行うスポーツを行う上で対象者にあわせた支援を考え援助につなげる。 仲間意識が強くなり、熟達したグループの成果の発表を行う。 出席確認・ウォーミングアップ後、授業の成果発表と交流の場を実施 自分自身の成長をふりかえり確認し評価する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜、授業中に紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	目標： 明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。 到達目標： 幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出しせるようになる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（授業終了後に口頭確認）
授業外時間にかかわる情報	日常生活の中に自分に合った、スポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫し、積極的に身体活動を、実践することを期待する。
オフィスアワー	授業の前後３０分は対応可能
評価方法	学習した種目の実技テスト　　８０％　　学習意欲　２０％　（グループ内での関わり方等）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて照会する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験】高等学校において非常勤講師(保健体育)として2年間勤務した経験を有する。 高校教育の実務経験を活かし、現場で活きる知識、技術について実技演習を通し講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 【アクティブラーニングについて】本授業はスポーツの専門家としてトップレベルの関与を目指すものではなく、介護福祉士及び医療事務として子どもから高齢者、または障がい者に携わるものが非常に多く、その福祉現場での対応力を身につけられることが求められている。このことからスポーツ及びレクリエーション実技では、多様なスポーツそのものを楽しむことを基本にしつつ、高校から大学教育への移行を進め、現場での対象者に対応ができる知識や技術を能動的に学んでいくことを重視している。

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
吉田　由香里			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解する。 【到達目標】 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 看護の対象者の構造と機能について述べることができる。
授業の概要	1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。 4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 解剖学・生理学とは，解剖学的用語 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 ホメオスタシスとフィードバック機構 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 細胞の構造 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回

【key words】

【授業概要】
細胞の機能
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回
【key words】

【授業概要】
上皮組織
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回
【key words】

【授業概要】
支持組織
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回
【key words】

【授業概要】
筋組織
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回
【key words】

【授業概要】
神経組織
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】

【授業概要】
体内の膜
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回
【key words】

【授業概要】
皮膚
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回
【key words】

【授業概要】
体温産生と体温
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回
【key words】

	【授業概要】 血液の成分と機能 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 造血，凝結と線溶，血液型と輸血 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 自然免疫機構 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 獲得免疫機構 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を必ず読んで講義に参加すること。 テキストで予習をすること。 授業中に生じた疑問はそのままにせず、調べる、質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	出席状況，授業態度と定期テスト（筆記試験）で総合的に評価する。
教科書	林正健二編集：人体の構造と機能①　解剖生理学、メディカ出版　林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂２版、ジーサプリ編集委員会編
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　筋系、骨格器系、循環器系、呼吸器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 骨と骨格 第２回 頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格 第３回 関節の構造と機能 第４回 筋の種類 と機能 第５回 骨格筋の解剖生理 第６回 筋、骨格筋系のまとめ 第７回 心臓の構造 第８回 心臓の機能 第９回 血管の形態と機能 第１０回 リンパ系の器官と機能

	第１１回 循環器系の確認テストと解説 第１２回 呼吸器系の構造と機能 第１３回 肺の名称と肺胞の構造と機能 第１４回 呼吸のプロセスと調節 第１５回 呼吸器系の確認テストと解説
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の目的・到達目標
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能一解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　消化器系、泌尿器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 食欲の調節機構 第２回 口腔の構造と機能 第３回 咽頭・食道の構造と機能 第４回 胃の構造と機能 第５回 小腸の構造と機能 第６回 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 第７回 糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収 第８回 排泄　大腸の構造と機能 第９回 消化器系の確認テストと解説 第１０回 腎臓の構造と機能

	第１１回 尿の生成、血液成分の調節 第１２回 尿管・膀胱・尿道の構造と機能 第１３回 排尿の生理 第１４回 泌尿器系の確認テストと解説 第１５回 消化器系及び泌尿器系のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の資料は、Web上で配布するので、各自必要な箇所を予習・印刷し、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能ー解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			
49.人体構造機能学IV.xlsx			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　内分泌系、生殖器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 内分泌系とホルモンの作用機序 第２回 脳にあるホルモン分泌器官I 第３回 脳にあるホルモン分泌器官II 第４回 甲状腺のホルモンの機能 第５回 上皮小体のホルモンの機能 第６回 副腎のホルモンの機能 第７回 膵臓のホルモンの機能 第８回 消化管のホルモンの機能 第９回 内分泌系の確認テストと解説 第１０回 生殖と生殖器の概念と特徴

	第１１回 女性生殖器の構造と性周期 第１２回 妊娠と出産 第１３回 男性生殖器の構造と機能 第１４回 勃起と射精 第１５回 生殖器系の確認テストと解説
受講生に関わる情報および受講のルール	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能ー解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			
50.人体構造機能学V.xlsx			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　神経系、感覚器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 神経組織の構造と機能に基づく分類　　神経組織の構造と機能（神経細胞） 第２回 神経組織の構造と機能（情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射） 第３回 中枢神経系の構造と機能（大脳・間脳・脳幹） 第４回 中枢神経系の構造と機能（小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織，伝導路） 第５回 末梢神経系の構造と機能（脳神経） 第６回 末梢神経系の構造と機能（脊髄神経・体性神経系） 第７回 末梢神経系の構造と機能（自律神経系）　　生体のリズム 第８回 神経系の確認テストと解説 第９回 感覚器の種類と特徴 第１０回 視覚・聴覚の構造と機能

	第１１回 平衡覚器の構造と機能　嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能 第１２回 体性感覚器と内臓感覚器の構造と機能 第１３回 感覚器系の確認テストと解説 第１４回 神経系と感覚器系のまとめ 第１５回 解剖実習
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の資料は、Web上で配布するので、各自必要な箇所を予習・印刷し、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能ー解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論総論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川手　進　荒川　和久　竹吉　泉　吉田　大作　柴　ひとみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・疾病治療論で学ぶ病態の基礎として、共通してみられる病態の特徴について学び、その診断、治療に関する基本事項を学 び看護につなげることができる。 【到達目標】 ①細胞・組織に生じる変化について概説できる。 ②個体の変化に影響する条件について概説できる。 ③手術療法を概説できる。 ④放射線治療を概説できる。 ⑤リハビリテーションを概説できる。
授業の概要	疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、手術療法などについて学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　・感染 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　・病理、病態序論、先天異常 【key words】 ・細胞、遺伝子 【授業概要】 ・身体の基本単位 ・人間の死 ・先天異常 ・DNA 【教科書ページ・参考文献】 ・P12～16　　P81～88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　・がんと放射線治療１ 【key words】 ・がん　被ばく 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　・がんと放射線治療２
【key words】
・最新の放射線治療
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　代謝異常
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
・P89～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　・体液の異常
【key words】
・体液　電解質　酸塩基平衡
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
・P17～30
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　・血行障害　炎症と修復
【key words】
・血栓、塞栓、炎症
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
・P31～44
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　・免疫
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
・P45～52
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　・手術療法
【key words】
・外科看護　外科治療　チーム医療
【授業概要】
・外科的治療と看護
・外科学の歴史
・胃癌を例とした手術治療
・最近の手術治療
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　・化学療法
【key words】
・化学療法　免疫療法　副作用
【授業概要】
・化学療法の基礎
・外来化学療法におけるチーム医療
・胃癌の化学療法
・大腸癌の化学療法
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　・変性、壊死、萎縮、老化
【key words】
・変性、壊死、萎縮、老化、肥大、過形成、化生
【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 ・P62～71 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　・腫瘍と過形成 【key words】 【授業概要】 ・良性、悪性腫瘍 ・癌腫、肉腫 ・がん治療 【教科書ページ・参考文献】 ・P72～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　・リハビリテーションの概要 【key words】 ・理念　専門職種　ICF　動作の安定性 【授業概要】 ・提示した症例について、ICFにまとめる ・PT,OT,ST,POについて理解する。 ・重心、支持基底面 【教科書ページ・参考文献】 ・資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　・リハビリテーション　疾病治療論 【key words】 ・変形性膝関節症　リハビリテーション 【授業概要】 ・O脚、X脚 ・膝OAのリハビリテーション 【教科書ページ・参考文献】 ・資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　・疾病治療論総論　リハビリテーション 【key words】 ・脳梗塞　脳出血 【授業概要】 ・脳卒中の病態 ・脳卒中の治療 ・脳卒中のリハビリテーション 【教科書ページ・参考文献】 ・資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	まず、私語は厳禁とする。注意しても私語の止まないものは、退席させる。本講義は、概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。 各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習することが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（概論50点、手術・化学療法20点、リハビリ20点、放射線10点）
教科書	ナーシンググラフィカ　疾病の成り立ち①病態生理学　メディカ出版
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
金子　和光　林　伸宇			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①消化器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②腎泌尿器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③内分泌系・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療1：食道疾患の治療 【key words】 TNM　PPI　H2 blocker 【授業概要】 人体構造機能学の知識を基に、食道がんと胃がんを中心に食道と胃の疾患について講義を行い、TNM分類によるがんの進行と治療法の選択について概説する。 胃潰瘍について、その発生の機序と治療法について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院　ｐ142～152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学の食道について事前に学習すること。疑問点があれば、質問できるようにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	消化器系疾患の理解と治療2：胃・十二指腸疾患の治療 【key words】 胃炎　胃・十二指腸潰瘍 【授業概要】 胃炎の原因および診断・治療について講義する。 胃・十二指腸潰瘍について発生機序、合併症について解説するとともに、診療ガイドラインに応じた治療について解説する。 TNM分類による胃がんの進行と治療法の選択について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院　ｐ152～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学の胃・十二指腸について事前に学習すること。疑問点があれば、質問できるようにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	消化器系疾患の理解と治療3：肝臓・胆嚢の疾患と治療① 【key words】 肝炎 【授業概要】 人体構造機能学の知識を基に、肝臓の疾患について講義し、主に肝炎の原因・種類・経過と進行について講義する。また、現在の治療法も併せて紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院　p 210～230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
炎症の発生とその所見についてまとめておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　消化器系疾患の理解と治療4：肝臓・胆嚢の疾患と治療②
【key words】
肝硬変症　肝がん
【授業概要】
肝臓の機能と構造で学習した知識を基に、肝硬変の原因と臨床症状、重症度について講義を行う。
また、肝がんの診断、治療について概説し、その予後についても考えていく
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院　p 230～247
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人体構造機能学の肝臓の機能と構造について復習し、疑問点をまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　消化器系疾患の理解と治療5：腸の疾患と治療
【key words】
大腸がん　腸・腸間膜
【授業概要】
大腸がんについてTNM分類による進行と治療法について講義する。
人体構造機能学の知識を基に、腸と腸間膜についての講義を行い、主に大腸の炎症性疾患について講義する。
診断・治療として不可欠の消化器内視鏡検査について、治療法と共に紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院　p 172～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人体構造機能学の腸と腸間膜について復習し、疑問点をまとめておくこと。
消化器内視鏡について、その原理と取り扱いの留意点、治療方法とリスクについてまとめておくこと。疑問点があれば質問すること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　腎泌尿器系疾患の理解と治療　1　腎機能障害のある疾患とその治療①
【key words】
クレアチニン
【授業概要】
人体構造機能学で学習した知識を前提として、腎臓の構造と機能についてさらに詳しく講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器　医学書院　p 18～30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人体構造機能学で学習した、腎臓の機能と構造について復習を行い、講義において疑問点を質問できるよう、整理すること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　腎泌尿器系疾患の理解と治療　2　腎機能障害のある疾患とその治療②
【key words】
クレアチニンクリアランス
【授業概要】
前回の講義で学んだ腎臓の構造と機能に関する知識を基に、腎機能検査について、その仕組みと測定方法についての講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器　医学書院　p 70～78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回学習した、腎臓の構造と機能について復習し、腎機能検査における測定値の意味と関連させて考えをまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　腎泌尿器系疾患の理解と治療　3　人工透析、腎臓の手術　膀胱がん
【key words】
腎代替療法　腎がん　膀胱がん
【授業概要】
腎不全に伴う治療法について、主に腎代替療法を取り上げ講義を行う。
腎代替療法として血液透析および腹膜透析について扱い、それぞれの原理と合併症について概説する。
腎がんおよび膀胱がんについて診断および治療について講義する。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器　医学書院　p 102～112　p 175～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
腎代替療法についての原理と合併症について、他人に説明できる程度に理解できるよう、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　腎泌尿器系疾患の理解と治療　4　急性腎障害と慢性腎臓病
【key words】
急性腎障害　慢性腎臓病
【授業概要】
急性腎障害と診断基準について講義する。

		慢性腎臓病について重症度分類を紹介し、ステージごとの診療計画について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器　医学書院　ｐ114～123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 急性腎不全と急性腎障害の違い、慢性腎不全と慢性腎臓病の違いについて説明できるようにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	腎泌尿器系疾患の理解と治療　5　全身性疾患としての腎臓病 【key words】 IgA腎症　痛風腎 【授業概要】 糸球体腎炎として主にIgA腎症について、その発病のメカニズムと臨床経過について概説する。また、治療法についても併せて紹介する。 全身性疾患による腎障害として、主に痛風腎について取り上げ、その原因と治療について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器　医学書院　ｐ127～142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学およびの腎臓の機能について復習し、疑問点をまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	内分泌系疾患と治療1　病態生理の理解と主な治療①　糖尿病① 【key words】 糖尿病の分類　診断　治療 【授業概要】 糖尿病の分類および診断手順について解説し、治療法として食事療法、運動療法について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学における代謝に関わる物質および分泌器官について復習し、説明できるようにしておくこと。 小テスト 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	内分泌系疾患と治療2　病態生理の理解と主な治療②　糖尿病② 【key words】 糖尿病の治療 【授業概要】 糖尿病の薬物療法について講義する。 糖尿病の慢性合併症について取り上げ、症状と進行機序、治療について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学における代謝に関わる物質および分泌器官について復習し、説明できるようにしておくこと。 小テスト 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回	内分泌系疾患と治療3　病態生理の理解と主な治療③　クッシング病・尿崩症等 【key words】 ホルモン作用　下垂体　疾患 【授業概要】 内分泌器官の構造と機能について学習し、ホルモンの作用および異常について学習する。また、視床下部－下垂体前葉の疾患としてクッシング病について講義を行う。 視床下部―下垂体後葉疾患として尿崩症について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホルモンの機能と名称、分泌器官について学習し、理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回	内分泌系疾患と治療4　病態生理の理解と主な治療④　副腎脂質ホルモン異常などバセドウ病・原発性アルドステロン症等 【key words】 橋本病　バセドウ病　甲状腺機能低下症　甲状腺腫瘍 【授業概要】 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患などについて講義し、甲状腺クリーゼなどの救急系疾患についても取り扱う。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 甲状腺、副甲状腺、性腺についての機能とホルモン作用について復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１５回	内分泌系疾患と治療5　病態生理の理解と主な治療⑤　脂質代謝異常、痛風等その他の代謝異常まとめ 【key words】 脂質異常症

	【授業概要】 脂質異常症の発生メカニズムおよび診断について講義する。 脂質異常症の治療として、食事療法、薬物療法について取り上げ、講義する。 肥満症、尿酸代謝異常について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院　全頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの授業の復習として、教科書および講義内容の復習を行い、疑問点を解消しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（消化器33点、腎・泌尿器33点、内分泌34点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎泌尿器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ内分泌：医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
神戸　将彦　田口　浩平　蘇原　直人			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①循環器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②呼吸器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③血液・造血器系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	循環器系・呼吸器系・血液・造血器系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	ガイダンス、循環器系疾患の理解と治療1　循環器の構造と機能、症状とその病態生理、主な検査と治療 【key words】 循環器の構造と機能、症状、病態生理、検査 【授業概要】 ・循環器の構造と機能（復習） ・症状とその病態生理（胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック） ・検査(心電図、心エコー、脈波、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、心臓核医学検査、CT、MRI) ・治療の概要（内科的治療、外科的治療、補助循環装置） ＊詳しい治療法については、第2回からの疾患と関連付けて説明する 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　循環器　成人看護学③　第2、3、4章p16～81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	循環器系疾患の理解と治療2　虚血性心疾患（狭心症、急性心筋梗塞） 【key words】 虚血性心疾患、狭心症、心筋梗塞 経皮的冠動脈インターベンション：PCI、冠動脈バイパス術：CABG 【授業概要】 虚血性心疾患 ・労作性狭心症（治療法として経皮的冠動脈インターベンション：PCI、冠動脈バイパス術：CABG含む） ・冠れん縮性狭心症 ・不安定狭心症 ・急性心筋梗塞 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　循環器　成人看護学③　第5章p120～148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第３回	循環器系疾患の理解と治療3　心不全、血圧異常、不整脈

【key words】
心不全、血圧異常、不整脈
薬物療法、ペースメーカー
【授業概要】
・心不全（病態、分類、診断、治療：薬物療法等）
・血圧異常（高血圧、低血圧）
・不整脈とその治療（ペースメーカー含む）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　循環器　成人看護学③　第5章p149～197
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　循環器系疾患の理解と治療4　弁膜症、心膜炎、心筋疾患
【key words】
弁膜症、心膜炎、心筋疾患
【授業概要】
・弁膜症
・心膜炎（心タンポナーデ含む）
・心筋疾患
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　循環器　成人看護学③　第5章p198～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　循環器系疾患の理解と治療5　先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患
【key words】
先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患
【授業概要】
・先天性心疾患
・動脈系疾患（大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性疾患）
・静脈系疾患（血栓性静脈炎、深部静脈血栓等）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　循環器　成人看護学③　第5章p211～230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　呼吸器系疾患の理解と治療1　呼吸器の構造と機能、症状とその病態生理
【key words】
呼吸器の構造　呼吸器の生理　呼吸器症状（自覚症状・他覚症状）
【授業概要】
・呼吸器の構造と機能（復習）
・症状とその病態生理
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第2、3章p20～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第７回　呼吸器系疾患の理解と治療2　検査と治療・処置
【key words】
呼吸器系の検査　治療・処置
【授業概要】
・検査（喀痰検査、胸水検査、気管支鏡検査、生検、呼吸機能検査）
・治療・処置（吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法、呼吸理学療法、気道確保、胸腔ドレナージ）
・手術療法（開胸術・胸腔鏡手術）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第4章p72～134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　呼吸器系疾患の理解と治療3　感染症・間質性肺疾患
【key words】
感染症・間質性肺疾患
【授業概要】
・感染症（かぜと急性気管支炎、インフルエンザ、肺炎、結核）
・間質性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺疾患、塵肺）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第5章p138～175
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第９回　呼吸器系疾患の理解と治療4　気道疾患・肺血栓塞栓症・呼吸不全・呼吸調節に関する疾患
【key words】
気道疾患・肺血栓塞栓症・呼吸不全・呼吸調節に関する疾患
【授業概要】
・気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患:COPD）

・肺血栓塞栓症
・呼吸不全（呼吸不全の病態生理、急性呼吸窮迫症候群、肺性心）
・呼吸調節に関する疾患（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第5章p176～196
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　呼吸器系疾患の理解と治療5　肺腫瘍・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患・胸部外傷
【key words】
肺腫瘍・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患・胸部外傷
【授業概要】
・肺腫瘍（悪性腫瘍：原発性肺がん、転移性肺腫瘍）
・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患（胸膜の疾患：胸膜炎・膿胸・自然気胸等、縦隔の疾患、横隔膜の疾患）
・胸部外傷
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第5章p197～221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１１回　血液・造血器系疾患の理解と治療1　血液の生理と造血のしくみ・検査・診断と症候・病態生理
【key words】
血液の生理、造血のしくみ、検査、診断、症候、病態生理
【授業概要】
・血液の生理（血液の成分と機能、止血機構と線溶、免疫応答）
・造血の仕組み（血液細胞の分化を含む）
・検査・診断（末梢血検査、骨髄穿刺・生検等）
・症候とその病態生理（貧血、白血球増加症、白血球減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因）

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第2、3章p18～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１２回　血液・造血器系疾患の理解と治療2　赤血球系の異常、白血球系の異常
【key words】
赤血球系の異常、貧血、白血球系の異常
【授業概要】
・赤血球系の異常（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血）
・白血球系の異常（伝染性単核球症等）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第4章p50～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１３回　血液・造血器系疾患の理解と治療3　造血器腫瘍（造血器腫瘍の治療、急性白血病、骨髄異形成症候群）
【key words】
造血器腫瘍、急性白血病、骨髄異形成症候群
【授業概要】
・造血器腫瘍の概念と分類
・治療計画
・造血器治療の基本理念（化学療法、支持療法、造血幹細胞移植、分化誘導療法、分子標的療法、遺伝子治療）
・造血器腫瘍療法における支持療法（感染症対策、出血とその対策：輸血療法含む）
・急性白血病
・骨髄異形成症候群
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第4章p69～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１４回　血液・造血器系疾患の理解と治療4　造血器腫瘍（慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫）
【key words】
造血器腫瘍、慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫
【授業概要】
・慢性白血病（慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病）
・悪性リンパ腫
・骨髄腫及び類縁疾患（多発性骨髄腫等）
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第4章p103～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

	第１５回　　血液・造血器系疾患の理解と治療5　出血性疾患 【key words】 出血性疾患 【授業概要】 ・血管異常（アレルギー性紫斑病） ・血小板異常（特発性血小板減少性紫斑病等） ・凝固異常（血友病等） ・播種性血管内凝固症候群（DIC） 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第4章p125～133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記教科書ページを読み、授業に臨む。授業で提示された課題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（循環器34点、呼吸器33点、血液・造血器33点）
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　脳・神経　医学書院、ナースのためのやさしくわかる整形外科　ナツメ社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 大学病院または総合病院等で循環器系疾患または呼吸器系疾患または血液・造血器系疾患患者の治療に従事している医師が授業を担当する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　微生物学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
松本　竹久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 感染症の原因となる病原微生物の種類や基礎的な性質、感染予防対策等について医療従事者として必要な知識を身に付ける。 【到達目標】 1）微生物とはどのような生物であるか、その種類と性質について説明できる。 2）病原微生物の感染経路、感染予防対策について説明できる。 3）主な病原微生物の性質とその感染症について説明できる。
授業の概要	医療の発展に伴い、薬剤耐性菌感染症や日和見感染症が急増し、感染症の種類が著しく変貌している。そして看護師は様々な感染症患者のケアをするため、感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行わなくてはならない。本講義では、感染症の原因となる主な病原微生物の性質を学び、それぞれの病原微生物に対する感染予防対策を行えるよう学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回 微生物と微生物学　微生物の発見以前・発見、微生物の種類 第２回 微生物の生育　微生物発育の要因 第３回 感染症総論　感染と病原体、感染経路、感染症の検査・治療 第４回 予防接種　ワクチンの種類 第５回 洗浄・消毒・滅菌 第６回 医療関連感染と感染対策 第７回 感染症を起こす主な細菌①　グラム陽性球菌 第８回 感染症を起こす主な細菌②　グラム陰性球菌・桿菌 第９回 感染症を起こす主な細菌③　腸管感染の原因細菌、結核菌、マイコプラズマ 第１０回 感染症を起こす主なウイルス①　ウイルス性呼吸器感染症・下痢症、麻疹、風疹、ヘルペス感染症 第１１回 感染症を起こす主なウイルス②　HIV、肝炎ウイルス、エボラウイルス 第１２回 感染症を起こす主な真菌　カンジダ感染症、アスペルギルス症、白癬、ニューモシスチス肺炎

	第１３回 感染症を起こす主な寄生虫　マラリア、トキソプラズマ症、寄生虫による食中毒 第１４回 病原微生物の構造　細菌・真菌・原虫・ウイルスの構造 第１５回 講義全体のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	スマホなどの操作はせず、誠意ある態度での受講を求めます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に該当する内容をテキストを用いて予習すること。また、配布するおさらい問題を解いて復習すること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能。
評価方法	定期試験で評価する。
教科書	疾病のなりたちと回復の促進4　微生物学　系統看護学講座　専門基礎分野　医学書院　最新版
参考書	病気がみえる vol. 6　免疫・膠原病・感染症　医療情報科学研究所　編集
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病院で微生物検査と感染制御の業務に従事してきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生化学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
宮越　俊一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、生化学を理解する。 【到達目標】 生化学を看護の視点で系統的に捉えることができる。 看護の対象者の生化学について述べることができる。
授業の概要	1. 看護の視点で生化学を理解できるようにする。 2. 日常生活を送る上で、人体がどのような機能しているかを理解できるようにする。 3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。 4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　ガイダンス・生化学を学ぶための知識 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　代謝の基礎の酵素・補酵素 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　糖質の構造の機能 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　糖質代謝（1）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　糖質代謝（2）・脂質の構造と機能（1）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　脂質の構造と機能（2）・脂質代謝

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　タンパク質の構造と機能

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　タンパク質代謝

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　ポルフィリン代謝と異物代謝

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　遺伝子と核酸

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　遺伝子の複製・修復・組換え

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　遺伝子の発現（1）転写

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　遺伝子の発現（2）翻訳と翻訳語修飾 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　シグナル伝達 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　がん 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	原則として毎回，講義に主体的に参加し，ノートやメモをとること。 教科書で予習・復習をすること（章末問題なども活用する）。 授業中に生じた疑問はそのままにせず、調べる、質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	小課題（レポート）の提出
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	出席状況や授業態度，提出物と定期テスト（筆記試験）で総合的に評価する。
教科書	畠山鎮次：系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能②　第14版　医学書院
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　栄養学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
木村　順子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護業務に必要な栄養学の基礎知識について学び、臨床現場で実践できる能力を身に付ける。並びに自身の健康づくり・食生活に役立てる。 【到達目標】 ・栄養素の種類とはたらき、食物の消化、吸収、代謝について理解できる。 ・エネルギー代謝について理解し、エネルギー消費量の計算ができる。 ・日本人の食事摂取基準について理解できる。 ・ライフステージ別における栄養について理解できる。 ・栄養補給法の種類と特徴を理解できる。 ・各種疾患、症状別食事療法の基本を理解できる。 ・自分に必要な適切なエネルギー・栄養素の摂取量を知り適切に摂取できるようにする。
授業の概要	栄養学は食物や栄養素を適切に摂取することで、生涯を通じて健康を維持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　人間栄養学と看護、　栄養素の種類とはたらき 【key words】 栄養、栄養素、時間栄養学、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維 【授業概要】 シラバスの説明。栄養学の歴史、食事療法の進歩と医療制度、食事における看護師の役割、チーム医療、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、食物繊維の種類と働き、水の分布、働き、出納について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第１章　Ｐ２～１６　　第２章　Ｐ１８～４３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書を読み、理解を深めておく。復習：配付された第１回復習問題に取り組む。授業準備：食品成分表２０２０ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 【key words】 消化酵素、分解する物質、分解産物、三大栄養素の吸収、消化吸収率、血糖コントロール、リポタンパク質、代謝 【授業概要】 消化器系の仕組みとはたらき、機械的消化と化学的消化、三大栄養素の消化、栄養素の吸収、血漿成分と栄養素、栄養素の代謝、肝臓のはたらきについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第３章　Ｐ４６～７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。復習：配付された第２回復習問題に取り組む。授業準備：食品成分表２０２０ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第３回	エネルギー代謝、　食事と食品

【key words】
エネルギー、ジュール、エネルギー代謝、呼吸比、基礎代謝量、メッツ、食事摂取基準２０２０、食事バランスガイド
【授業概要】
食品のエネルギー、体内のエネルギー、エネルギー代謝、基礎代謝量、活動代謝、メッツ、食事摂取基準２０２０年版、食品群とその分類、食事バランスガイドについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第４章　７４～９０　第５章：Ｐ９２～１１２　付録　Ｐ２５３～２６１　参考文献：健康運動指導士基礎講座テキスト；太陽美術；２０１３　日本人の食事摂取基準２０２０年版；第一出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。復習：配付された第３回復習問題に取り組む。授業準備：食品成分表２０２０
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　栄養ケア・マネジメント、　栄養状態の評価・判定
【key words】
ＮＣＭ，ＰＤＣＡサイクル、ＢＭＩ，血清アルブミン、ＲＴＰ、eＧＦＲ，ＭＮＡ－ＳＦ
【授業概要】
栄養ケア・マネジメント、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、モニタリング、栄養ケア・マネジメントの評価、栄養アセスメントの方法、臨床検査、臨床診査、食事調査について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第６章　Ｐ１１４～１３０　　第７章：１３２～１５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：自身の適正体重・基礎代謝量・安静時代謝量、推定エネルギー必要量、エネルギー消費量を算出。
予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。　復習：配付された第４回復習問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　ライフステージと栄養
【key words】
乳汁栄養法、離乳食、摂食障害、保健指導対象者の選定と階層化、フレイル、サルコペニア、ＰＥＭ
【授業概要】
乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・妊娠期・授乳期・更年期・高齢期における栄養、高齢期の栄養ケアマネジメントの要点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第８章Ｐ１５２～１８６　参考文献：授乳・離乳の支援ガイド；臨床栄養；医歯薬出版２０１９・９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：食物摂取状況調査　予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。復習：配付された第５回復習問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　臨床栄養
【key words】
食事箋、ＴＰＮ、ＰＰＮ、ＥＤ，経腸栄養製品の投与経路、メタボリックシンドローム、食事療法
【授業概要】
病院食、経腸栄養法・経静脈栄養法、経腸栄養製品の種類・使用時の注意点・投与経路、静脈栄養剤、やせ・低栄養患者、肥満・メタボリックシンドローム患者の食事療法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第９章Ｐ１８８～２０８　　参考文献：中村丁次、栄養食事療法；医学書院：２０２０、日本肥満学会、肥満症診療ガイドライン２０１６；ライフサイエンス出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。復習：配付された第６回復習問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　臨床栄養
【key words】
ＧＩ、食品交換表、プリン体、ＣＫＤ、食物アレルゲン、
【授業概要】
高血圧症、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全、脳血管障害、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、腸炎、肝臓、胆嚢、膵臓疾患、下痢・便秘、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、腎臓疾患、貧血、アレルギー患者の食事療法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第９章Ｐ２０８～２２４　参考文献：高血圧治療ガイドライン２０１９；ライフサイエンス出版、　腎臓病食品交換表第８版；医歯薬出版、今井孝成他、食物アレルギーの栄養指導；医歯薬出版２０１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：食事療法のまとめ　予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。復習：配付された第７回復習問題に取り組む。　授業準備：糖尿病食事療法のための食品交換表
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第８回　臨床栄養、　健康づくりと食生活
【key words】
摂食・嚥下障害、食事の姿勢、摂食状況の悪化、健康日本２１、健康増進法、食育基本法、食品表示
【授業概要】
骨粗鬆症、摂食・嚥下障害患者の食事療法、小児の栄養管理、術前・術後における栄養管理、が

	んの食事療法、生活習慣病の予防、健康日本２１，健康増進法、食育基本法、食品表示について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第９章Ｐ２２４～２３６　　第１０章：Ｐ２３８～２５１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：配付された資料を読み、理解を深めておく。　復習：配付された第８回復習問題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・他の教科との関連を理解する。 ・私語･携帯電話の使用等、受講生の迷惑になる行動は慎む。 ・初回を除き、毎回次回の授業に該当する授業資料を配布するので、テキスト該当箇所とともに配布資料を読んでおく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回配布する復習問題に取り組む。３課題に取り組む。
オフィスアワー	終了後の２０分間、コメントカードに質問を記載。
評価方法	定期試験（７０％）及び課題提出（３０％）をもとに総合評価する。
教科書	著者代表　中村丁次　系統看護学講座専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能［３］　医学書院
参考書	監修　香川芳子　七訂食品成分表２０２０：女子栄養大学出版部　　糖尿病食事療法のための食品交換表第７版　文光堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 病理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
前島　俊孝			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。 【到達目標】 ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。 ・基本的な疾患の病態について説明できる。
授業の概要	細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 解剖学、病理学病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	解剖学の復習 【key words】 上皮、細胞増殖能 【授業概要】 病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。 細胞増殖能からみた、各種細胞の特徴について学習し、様々な疾患との関連を意識する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（病理学）: p.31、解剖学の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	病因 【key words】 病因、内因、外因 【授業概要】 様々な疾患の原因について、また、細胞死に関する用語を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p.27-31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】

30分

第４回　細胞傷害

【key words】
壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成
【授業概要】
細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.50-52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第５回　循環障害　1

【key words】
出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行
【授業概要】
循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.65-71
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　循環障害　2

【key words】
浮腫、ショック
【授業概要】
循環障害に関する用語を理解し、説明できるようにする。
また、スライドで、循環障害性の疾患について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.71-75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第７回　炎症

【key words】
炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫
【授業概要】
炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.76-87
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　免疫、アレルギー

【key words】
免疫細胞、I型～V型アレルギー
【授業概要】
免疫機能、アレルギー反応について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.88-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第９回　腫瘍　1

【key words】
良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫
【授業概要】
腫瘍の定義、分類について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１０回　腫瘍　2

【key words】
リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移
【授業概要】
腫瘍発生の原因や、転移様式を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１１回　腫瘍　3

	【key words】 腫瘍の診断、検査、治療 【授業概要】 腫瘍の診断、治療の流れを理解する。スライドを用いて、腫瘍の肉眼、顕微鏡像を観察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p.118-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１２回　代謝異常、糖尿病 【key words】 血糖、インスリン、１型糖尿病、２型糖尿病、診断、合併症、治療 【授業概要】 代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。 また、課題を与えるので、レポート作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p.317-323 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１３回　先天異常 【key words】 染色体異常、遺伝 【授業概要】 主な染色体異常、遺伝性疾患について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p.53-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１４回　感染症 【key words】 HIV、AIDS、結核、日和見感染 【授業概要】 特徴的な感染症をいくつか取り上げて、感染症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p.97-100, 103-117, 201-205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１５回　まとめ 【key words】 補足、講義のまとめ、試験について 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・学習した範囲の解剖学の復習をして、病理学の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・病理学の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義で扱った範囲の教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。
オフィスアワー	講義の前後
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%
教科書	堤 寛： クイックマスター 病理学　第2版，サイオ出版，2018
参考書	解剖学の教科書（病理学の講義でも使用する）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえ講義を行っている。

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　臨床薬理薬物論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
秋山　滋男　土井　信幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】看護師が臨床において関わる薬物療法を安全に行えるよう薬物の作用機序、体内動態を正しく理解することができる。 【到達目標】看護師が様々な病態に対して治療に関わるうえで、薬物治療に関連した代表的な薬剤を列挙することができ、作用機序、臨床病態と関連づけながら薬物の作用や副作用などを説明することができる。
授業の概要	薬物の薬理作用、体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）などの作用機序を学び、その後、病態生理をおさえた上で臨床で使用される主な薬物を中心に整理し臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。授業では課題を与え、自ら考える力を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画		
	第１回	薬剤師の業務　看護師に必要な薬についての基礎知識について学ぶ。 【key words】 薬剤師業務　看護師と薬剤師の連携　看護師に求められる薬に関する基礎知識 【授業概要】 薬に関する業務は主に薬剤師が行っている。しかし、実際、薬に関する事故を調査すると、最も多く事故に携わっているのが看護師である。そのため、看護師にも薬に関する基礎的な知識が求められる。第1回では、薬についての基礎的な事項について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に資料を読み薬剤師の業務、看護師が薬に携わることの重要性およびリスクについて予習を行うこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分。
	第２回	薬理学総論　薬理学の基礎知識 【key words】 薬理学　基礎　作用　受容体　体内動態　相互作用　副作用　中毒　法律 【授業概要】 薬理学　総論として薬理作用の基礎を学ぶ。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用・法律などを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章　資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分。
	第３回	薬理学各論末梢神経系と末梢神経作用薬についてを学ぶ。 【key words】 神経系による情報伝達　自律神経作用薬　交感神経作用薬　副交感神経作用薬 【授業概要】 末梢神経系にの情報伝達およびそれに関わる自律神経系の作用薬についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

		教科書第7章。　資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分。
	第４回	神経系による情報伝達　自律神経作用薬　交感神経作用薬　副交感神経作用薬　筋弛緩薬　局所麻酔薬について学ぶ。 【key words】 神経系による情報伝達　自律神経作用薬　交感神経作用薬　副交感神経作用薬　筋弛緩薬　局所麻酔薬 【授業概要】 末梢神経系の情報伝達およびそれに関わる自律神経系の作用薬についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第7章。　資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分。
	第５回	循環器系作用薬について学ぶ。 【key words】 降圧薬　狭心症治療薬　心不全治療薬　抗不整脈薬　利尿薬　脂質異常症治療薬 【授業概要】 降圧薬　狭心症治療薬　心不全治療薬　抗不整脈薬　利尿薬　脂質異常症治療薬についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第9章の降圧薬　狭心症治療薬　心不全治療薬　抗不整脈薬　利尿薬　脂質異常症治療薬の分野。資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分。
	第６回	物質代謝作用薬について(糖尿病・ホルモン・甲状腺・骨粗鬆症・ビタミン)について学ぶ。 【key words】 糖尿病　甲状腺　ホルモン　骨粗鬆症　ビタミン 【授業概要】 物質代謝作用薬について(糖尿病・ホルモン・甲状腺・骨粗鬆症・ビタミン)についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第9章の降圧薬　狭心症治療薬　心不全治療薬　抗不整脈薬　利尿薬　脂質異常症治療薬の分野。資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第７回	呼吸器　消化器　生殖器　泌尿器作用薬について学ぶ。 【key words】 呼吸器　消化器　生殖器　泌尿器 【授業概要】 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器作用薬についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第10章の呼吸器　消化器　生殖器　泌尿器作用薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第８回	皮膚科・眼科用薬について学ぶ。1回-8回までの復習。 【key words】 皮膚科用薬　眼科用薬 【授業概要】 皮膚科　眼科用薬についての基礎的な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章の皮膚科用薬　眼科用薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第９回	中枢神経系作用薬について学ぶ。 【key words】 中枢神経の働き　全身麻酔薬　催眠薬　抗不安薬　抗精神病薬　抗うつ薬　パーキンソン病治療薬　抗てんかん薬 【授業概要】

		中枢神経の働き　全身麻酔薬　催眠薬　抗不安薬　抗精神病薬　抗うつ薬　パーキンソン病治療薬　抗てんかん薬などについて基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第8章の中枢神経系作用薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１０回	抗感染症薬について学ぶ。 【key words】 感染症の基礎　抗菌薬　抗真菌薬　抗ウイルス薬　抗寄生虫薬 【授業概要】 感染症の基礎　抗菌薬　抗真菌薬　抗ウイルス薬　抗寄生虫薬などについて基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第3章の抗感染症薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１１回	救急時用いられる薬物・消毒薬、抗擬固薬・貧血、について学ぶ。 【key words】 救急時用いられる薬物　消毒薬　抗擬固薬　貧血治療薬 【授業概要】 救急時用いられる薬物　消毒薬　抗擬固薬　貧血治療薬などについて基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第13章、第15章の救急時用いられる薬物　消毒薬の分野。第9章の抗擬固薬・貧血治療薬の分野。資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１２回	免疫治療薬について学ぶ。 【key words】 免疫治療薬 【授業概要】 免疫治療薬について基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第5章の免疫治療薬薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１３回	抗アレルギー薬・漢方薬について学ぶ。 【key words】 抗アレルギー薬　漢方薬 【授業概要】 抗アレルギー薬　漢方薬について基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第6章の抗アレルギー薬の分野。第14章の漢方薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１４回	抗炎症薬・鎮痛薬・片頭痛薬について学ぶ。 【key words】 抗炎症薬　鎮痛薬　片頭痛薬 【授業概要】 抗炎症薬　鎮痛薬　片頭痛薬について基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第6章の抗炎症薬の分野。第8章の鎮痛薬　片頭痛薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１５回	抗がん薬について学ぶ。 【key words】 抗がん薬 【授業概要】 抗がん薬について基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

	第4章の抗がん薬の分野。資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は教科書および資料を使用して必ず確認しておくこと。授業を復習し、薬の作用、薬物動態、相互作用について確認しておくこと。授業の理解度を確認するためレポートを提出を課すので提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	体調不良時、冠婚葬祭以外は必ず出席すること。各自ノートを取ること。教科書等を良く読むこと。教科書、参考書は必ず持参して下さい。 レポートは定められた期日を遵守すること（欠席の場合は例外とする）。 授業中の私語は慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式。
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている教科書、資料は必ず事前に熟読し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。授業冒頭で学習理解度を知るためミニテストを行うこともある。
オフィスアワー	授業終了30分後まで。それ以外はメールにて対応。
評価方法	筆記試験70%、レポート30%
教科書	系統看護学講座　疾病のなりたちと回復の促進[3]　薬理学　医学書院
参考書	ナースのための基本薬　第２版（2020年1月発売）照林社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護学概論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	看護とは何かを探求するとともに、看護学を構成する主要概念としての人間・健康・環境・生活の理解を深め、看護学を学ぶ基礎を身につける。 到達目標：①「看護とは何か」、看護の役割と機能について説明できる。 ②看護の独自性・専門性を述べることができる。 ③看護の対象である人間はどういう存在であるか述べることができる。 ④健康の法則について述べることができる ⑤健康と環境との関係について述べることができる。 ⑥看護の役割・機能・しくみについて説明できる。
授業の概要	１．学生自身の体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」を考え、理論と結び付けて教授する。 ２．「人間は共通性と個別性」をもった唯一無二の存在であることおよび人間の可能性を考え、理解を深める。 ３．学生自身の生活を通して「生活・環境とは何か」、「看護の役割・機能」について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　看護学概論で何を学ぶのか　　看護の本質(看護学を学び始めるにあたって) 【key words】 看護学　　専門職　　独自の機能 【授業概要】 基礎看護学における看護学概論Ⅰの位置づけ・自分のイメージする「看護とは」と照合し看護の本質を学ぶ。独自の機能を持つ専門職とは何かを探る。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.2　-10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んで、わからないところは質問できるようにして授業を受ける。図書館で多くの本を読んでみる。自らの看護について述べられるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２回	看護とは何か―看護の原点・看護の変遷 【key words】 看護の原点　　看護の語源　　看護の歴史 【授業概要】 看護の変遷として、まず看護の原点と看護の語源について知る。看護の歴史として、ギリシャ医学の発展と看護やキリスト教と看護、宗教的看護について理解する。ナイチンゲールによる近代看護の確立や赤十字の創立と看護など看護師の国際的団結、アメリカの看護について理解する 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.2　-10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当する箇所の教科書および文献を探して、読み授業に参加する。終了後は看護の原点や歴史について過去の看護の発展をまとめ理解する 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第３回	看護とは何か―看護の概念および定義に関する諸説 【key words】

看護の定義　　職能団体　　看護理論家
【授業概要】
保健師助産師看護師法における看護の定義、看護職能団体による看護の定義、看護理論家に見る看護の定義、例えば、フローレンス・ナイチンゲールやヴァージニア・ヘンダーソン、概念モデルのオレムやロイ、中範囲理論、人間関係論としてのペプロー、オーランド・トラベルビーなどの理論を探り、看護とは何かを考える。

【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.10 -26
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当の教科書をよく読む。看護とは、看護理論家や職能団体は看護とは何と言っているのか読み取る。授業に参加する。自分の考えている看護とはと結び付けられるようにして参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第４回　看護とは何かー看護の継続性と情報共有
【key words】
看護の継続性　　情報共有　　看護チーム
【授業概要】
事例から、看護の一貫性を保持し、継続するための対応について考えることができる。入院時の施設間の連携や入院中の情報伝達と共有、医療機関がかかわるときの情報伝達、多職種チームとしての情報共有と継続的かかわり及び在宅療養を可能にする連携と継続的なかかわりを学ぶ。カンファレカスを通して、チーム内での情報交換や共有が図られているる
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.48 -62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書をしっかり読み、医療チームについて調べて授業に参加する。自分で参加している、できれば、医療ボランティアとの関係も確認していく。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第５回　看護の対象の理解ー人間の「こころ」と「からだ」
【key words】
人間　　こころ　　ホメオスタシス　　ストレス
【授業概要】
何のためにどう人間を見るのか、人間のこころ、からだは影響しあっていること、人体の構造と機能・病態生理、ホメオスタシスやストレスの影響、コーピング理論から考えてみる。患者の心理を病気による心の変化から理解する。マズローの欲求段階説やキュプラー＝ロスの死にゆく人の心理過程、危機理論など、さまざまな理論から人間を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.63 -79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書からさまざまな理論を読み、１つ１つ違いを理解して授業に参加する。大切だと思われるところやわからないところはマーカーをして、臨む。看護の人間の理解に大切なところなのでまとめをしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第６回　看護の対象の理解ー生涯発達しつづける存在としての人間・人間としての暮らしの理解
【key words】
発育　　発達　　アイデンティティ
【授業概要】
発達、発育について理解する。スキャモンの成長曲線による発育過程や心理・社会・身体の基本を押さえ、人間は生涯発達しつづける存在であり、ハヴィガースト、エリクソンの発達段階をもとに、成人期の発達、老年期の発達（老化と発達）の特徴を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.79　-86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ハヴィガースト、エリクソンの発達課題を調べ、人間の生涯の発達課題を理解して、授業に臨む。人生の多くの人たちが占める成人期、老年期の発達についても教科書を読み、理解しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第７回　看護の対象の理解ー人間の暮らしの理解・家族と地域
【key words】
生活者　　暮らし　　家族
【授業概要】
生活者としての人間を生活の４つの側面からとらえ、①生物的な生命活動としての生活、②その人らしい日常生活を送るための行動様式、③家族や社会においてどのような役割を果たしているのか、④暮らしをたてるためにに必要な成型などに焦点をあてた経済的側面および看護の対象としての家族、看護の対象としての集団、地域について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.86　-92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
暮らしについては、自分の生活と合わせて考えてみる。教科書を読んで、自分の生活している地域、家族や日常生活を通して、理解を深め、授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　健康とはーなぜ国民の健康・生活の全体像の把握が必要か　　健康のとらえ方
【key words】
国民の健康　　権利　　障がい　　ヘルスプロモーション
【授業概要】

		健康とは何か、ＷＨＯの健康の定義、権利としての健康、健康推進について考えてみる。健康でない状態についても考える。障がいとは何か、生活と健康としての生活習慣病や生活と疾病予防、障がいの予防やヘルスプロモーションとしての健康の実現の取り組みを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.94 -102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 健康のとらえ方については、自分の考えをもって授業に参加する。現在社会がどのように健康問題を考え、地域社会での取り組みなども考えて参加する。自分なりの現在の健康観を持てるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第９回	国民の健康の全体像 【key words】 健康の全体像　　患者の状況　　国民の健康 【授業概要】 教科書の国民の健康の全体像として、国民全体の健康状態に対し、有訴者率や通院者率等図や表から考えてみる。患者の状況としての受療率、平均在院日数、障がい者の状況としての在宅の障がい者数や障がい者手帳などや難病患者の状況等から国民の健康状態を考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.102-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の国民の健康の全体像の各、表や図を読んで考えられることまとめて授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第10回	国民の健康・環境・生活ーライフサイクルと健康・生活 【key words】 ライフサイクル　　平均寿命と健康寿命　　老い 【授業概要】 ライフサイクルと健康・生活から考える。平均寿命と出生や子どもの健康、児童虐待、就学と社会的自立として若者の社会への移行、結婚と出産、晩婚化、就業と雇用形態、仕事と生計、家族としての世帯状況、要介護認定者数とおもな介護者、介護の状況、老いと死として孤独死等健康を生活から考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.108　-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフサイクルから健康を考えてみる。自分の過ごしてきたライフに関して考えてみる。自分の生活から 健康問題が述べられるようにして、授業に参加する。教科書は読んで来る 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第11回	現代の日本人の健康と生活 【key words】 少子高齢化　　人とのつながり　　健康格差 【授業概要】 現代の日本人の健康と生活を少子高齢化、健康寿命、人のとながり、健康の社会的決定要因と健康格差として、社会格差、ストレス、幼少期、労働と失業、社会的排除など社会生活から健康問題を捉える。健康と生活をＱＯＬを通して考えてみる。生活の質を評価は、看護職は、人々の健康や生活を直接あるいは間接的に支え、ＱＯＬを向上させるためにはたらきかけを行うことができる職種である。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.126-136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会生活と健康の問題を捉え、生活と健康に関して、生活のＱＯＬに看護職が関わっていることを教科書を 読んで、授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第12回	看護の役割・機能について-看護ケアについて 【key words】 看護ケア　　ケアリング　　質保証 【授業概要】 看護の役割と機能についてケアとは何かから学ぶ。ケアの語源やケアとは何かを考え、看護におけるケアとして、ケア・キュア・コアとしてのとらえ方を学ぶ。ケアリング実践の存在論、文化的ケア、ワトソンのヒューマンケアリングの概念、10のカリタスプロセスやケアとケアリングの関係などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.27　-33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで既習の授業を通して、看護の役割と機能を考えながら、該当ページの教科書を読む。看護ケアとは何かを自らの考えをもって、授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第13回	看護の役割・機能について一看護実践と質保障に必要な要件 【key words】 看護実践　　質保証　　個別看護 【授業概要】 看護実践に関して、芸術としての看護、個別的看護など、事例を通して考える。看護の質保証に欠かせない要件としての安全性と安楽性と対象者の自立の促進、倫理的配慮、看護過程展開とクリティカルシンキング、プライバシー保護、科学的根拠を追求する態度、患者・家族への説明と助言及び看護師個々の自己研鑽等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.33　-46

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護実践の中で大切な個別性・安全性・安楽性・自立性などを考えながら、該当教科書の範囲を読んで理解しておく。実践には根拠が必要なこと、倫理的配慮および患者に対しての説明等を理解して参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第14回　看護の役割・機能について一看護の役割・機能の拡大 【key words】 疾病構造の変化　看護活動　多様化　生活習慣病対策 【授業概要】 疾病構造の変化と看護への影響、看護活動の地域への広がり、介護保険制度創設に伴う看護活動の場の多様化、生活習慣病対策・健康増進運動における看護への期待など、これからの看護を考える。社会の変化を捉え、看護の役割・機能の拡大を考える。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.46 -48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会の変化を捉え、医療・看護の変化について文献を調べ、看護の役割・機能の拡大がとらえられるように自ら考え、授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第15回　看護の提供のしくみ（サービスとしての看護・看護サービス提供の場） 【key words】 サービス　看護とは　チーム医療 【授業概要】 臨床技術としての看護、思想・哲学としての看護、サービスとしての看護の３つの視点の相互関連して理解する。看護サービス提供の場として、看護サービス提供の担い手、チーム医療やチーム医療の条件と看護サービス提供の場、継続看護としての医療機関と在宅との継続看護の必要性について理解する 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.211- 232 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護サービスについて、看護はサービスなのか、サービスとするならば、商売としてのサービスと変わりがあるのかなど自分の考えをもって授業に臨む。教科書の該当部分を読んで参加する 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	月曜日　12時～12時40分
評価方法	筆記試験70%、レポート30%（内容25%、書き方５%） 総合評価は筆記試験とレポートを合わせて60%を超えていること。 とレポートを合わせて60%を超えていること。
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座　専門分野Ⅰ看護学概論　基礎看護学①　医学書院　2020
参考書	授業中に適宜紹介。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護学概論は以前担当している。時代によって変化していくので、その時代の状況を踏まえて対応していく。 看護・人間・健康・環境（社会）を基本にしている アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護学概論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】　看護職としての過去・現在の経過を知り、未来を考える。また、看護職者としてのキャリアと専門性及び看護倫理について学び、課題を関｀得ることができる。 【到達目標】 ①職業としての看護について歴史を通して説明できる。 ②看護職に関わる法制度・看護教育・キャリア等について述べることができる。 ③看護職者の継続看護と専門性（認定看護師、専門看護師等）について述べる事ができる。 ④倫理の歴史的経緯と看護倫理の考え方等について述べる事ができる。 ⑤実践における看護倫理問題を考え、他者に説明することができる。
授業の概要	1.職業としての看護の歴史、看護職の資格と養成・就業状況等について教授する。 2.看護職者の継続教育と専門性について、これからの在り方と看護職の課題を考える。 3.看護倫理について、看護職者としてのあるべき姿を考える

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　看護の提供者　職業としての看護 【key words】 職業　看護婦　産婆　保健師 【授業概要】 職業としての看護の始まりを明治期から第2次世界大戦までの看護を理解する。また、終戦時から昭和中期の看護、職業としての看護の充実としての昭和後期から平成初期の看護、および、職業としての看護の発展としての現在の看護を学ぶ。看護が職業として、どのように発展してきたかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.138-149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。看護の職業としての成り立ちを理解する。授業終了後は、もう一度、教科書を読んで、確認理解しておく 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２回	看護職の資格と養成にかかわる制度 【key words】 看護職　法律　資格　養成 【授業概要】 保健師助産師看護師法に基づく各看護職の定義・免許、業務等を理解する。看護養成制度として、看護師、准看護師、保健師、助産師の資格試験の受験資格、学校養成所数や一学年定員、養成課程などを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論P.149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。保健師助産師看護師法を中心に資格について、養成についての概要を知って、授業に臨む。授業終了後は重要と思われるところの確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第３回	看護職者の就業状況と継続看護 【key words】

就業状況　　継続教育　　専門看護師　　キャリア
【授業概要】
看護職者の就業状況として、就業場所・就業者数等の状況を理解する。継続教育として卒後教育、現任教育や専門看護師、認定看護師、認定看護管理者および看護職キャリア開発について学ぶ。自分の看護キャリアについて考えてみることができる。

・看護基礎教育を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.158-165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。看護職者の就業状況や継続教育について質問できるよう準備をして臨む。授業終了後は確認をしておき、知識として習得する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第４回　看護職の養成制度の課題
【key words】
大学教育　　課題　　研修　　新人看護師
【授業概要】
看護職の養成制度の課題として、看護職養成の場としくみに関する課題。特定看護師に係る看護師の研修制度について、看護教員の育成と看護継続教育の保等について取り上げ、考えてみる。現在の看護職の課題を多方面から、一人ひとり自分課題として考え、自分なりの意見を持てるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.166-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。看護職者の課題について考えて授業に臨む。授業終了後は、看護の課題について、何が原因か、多方面から調べ、考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第５回　看護における倫理〔1〕　現代社会と倫理
【key words】

倫理　　道徳　　法　　医療倫理
【授業概要】
なぜ倫理について学ぶのかをはじめ、倫理と道徳と法の違いについて学習する。現代の医療・看護と倫理について、職業倫理としての看護倫理について学ぶ。具体例から考えながら、医療・看護に必要な倫理の考え方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.182-186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。看護職者の課題について考えて授業に臨む。授業終了後は、看護の課題について、何が原因か、多方面から調べ、考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第６回　看護における倫理〔2〕医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
【key words】
インフォームドコンセント　　患者の権利　　守秘義務　　意思決定
【授業概要】
患者の権利とインフォームドコンセントについて、インフォームドコンセントの誕生から、わが国における広がり、看護とのかかわり、現代医療におけるさまざまな倫理問題、医療専門職としての倫理規定。世界医師会・日本医師会の取り組み、国際看護師協会の取り組み、わが国の看護倫理への取り組み等を考え、学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.186-199
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。インフォームドコンセント　、患者の権利等について調べて授業に参加する。授業終了後は、自分の考えを述べられるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第７回　看護における倫理〔3〕看護実践における倫理問題への取り組み
【key words】
倫理問題　　看護実践　　アドボンシー　　倫理原則
【授業概要】
看護の本質としての看護倫理、看護の本質としてのアドボカシ-や医療をめぐる倫理原則とケアの倫理を学ぶ。倫理原則、倫理的ジレンマ、ケアの倫理・ケアリングの倫理問題の取り組み方としての倫理的態度について、看護実践場面での倫理的ジレンマ、倫理的課題に取り組むためのしくみについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
看護学概論P.199-210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。看護実践の中で倫理的問題は何か、日常病院での、お見舞いやボランテイア等を通して、その中から考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　看護における倫理〔4〕事例を通して、看護倫理を考える

	【key words】 事例　　看護倫理　　ジレンマ　　医療問題 【授業概要】 簡単な臨床の患者の日常生活から考えられる事例を用いる。事例から、看護倫理のあり方を考え、人間としての人権、看護者としての取るべき態度について、病院見学実習等から総合して、人の権利について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当するところを前もって調べ、理解をして授業に臨む。事例を使用して考えることができるように、既習の知識をまとめ、授業に臨む。看護の専門職業人としてのあり方を述べることができる。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	12:00～12:40
評価方法	筆記試験75%　課題レポート25%（内容20%、書き方５%） 評価は筆記試験と課題レポートを合わせて60%を超えていること
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論　基礎看護学①，医学書院 2020
参考書	授業中に適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護学概論は以前から担当している。時代によって変化していくので、その時代の状況を踏まえて対応していく。 看護・人間・健康・環境（社会）を基本に進める アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護方法論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
菅沼　澄江　小林　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 看護学専門科目に共通する問題解決思考プロセスとして、看護過程の概念と展開方法を理解する。 【目標】 １．看護過程の意義について説明できる。 ２．看護過程の構成要素について説明できる。 ３．看護の目的に照らして人間を統合的に把握し、対象に必要な看護を導き出し、計画的に実施・評価する思考の 道筋を説明できる。 ４．看護記録の目的と意義について説明できる。
授業の概要	あらゆる看護実践の基盤となる思考プロセスの学習として、看護過程の考え方と構成要素を教授する。 看護実践と看護記録、看護過程と記録の関連について学習する機会とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　看護過程とは 【key words】 ・看護過程　意義　構成要素　観察 【授業概要】 ・看護過程の意義、看護過程の構成要素と構成要素の各段階について説明する。 ・情報収集の方法、観察の目的と種類、用件等について説 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院　基礎看護技術Ⅰ　P206～P210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第２回　看護過程とは 【key words】 ・問題解決過程　クリティカルシンキング　リフレクション　アセスメント 【授業概要】 ・看護過程を展開する際に基盤となる考え方について説明する。 ・クリティカルシンキングの考え方について説明する。 ・倫理的配慮と価値判断について説明する。 ・リフレクションとリフレクションの方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・医学書院　基礎看護技術Ⅰ　P211～P226 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ・30分 第３回　看護記録とは 【key words】

・看護記録　目的　記載基準　法的規定
【授業概要】
・看護記録の法的位置づけや目的と機能、記載基準について説明する。
・看護学生の臨地実習における記録記載の方法について説明する。
・看護記録の種類、SOAP法について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院　基礎看護技術Ⅰ　P256～P262
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第４回　看護過程の各段階
【key words】
・アセスメント　看護問題の明確化　看護計画　実施　評価
【授業概要】
・看護過程の各段階（アセスメント　看護問題の明確化　看護計画　実施　評価）を説明する。
・アセスメント（情報の解釈・分析）、看護問題の明確化、全体像を説明する。
・看護計画の立案（看護目標、短期目標、O-P C-P　E-P　）、実施、評価について説明する
【教科書ページ・参考文献】
・医学書院　基礎看護技術Ⅰ　P226～P256
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
・30分

第５回　事例展開　情報収集について
【key words】
情報　　プロフィールシート　　日常生活　　病気の経過
【授業概要】
事例の説明をして紹介する。日常、誰でもが比較的遭遇している疾患、調べることが容易である疾患を選択して進める。プロフィールシートについての紹介。なぜ゛、看護を行うために必要な情報なのかを理解する。各自、事例を読んで、実際にプロフィールシートを作成してみる。説明を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
資料　　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報収集とプロフィールシートについて、概要がイメージできるようにして、授業に参加する。看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践の本の該当するところを読んで来る
【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第6回　事例展開　アセスメント
【key words】
病理的状態　　常在条件　　基本的欲求　　アセスメント
【授業概要】
事例を通して、ヘンダーソンの基本的欲求の14項目から常在条件・病理的状態を考えていく。S情報とO情報から考え、枠組みに沿って、事例を展開していく。情報分析は、形式を使って分析し、看護の必要性を導き出していく。アセスメントにつなげ、基本的欲求の充足、未充足を出していく。
【教科書ページ・参考文献】
資料　　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アセスメントについて、病理的状態・常在条件・基本的欲求について調べて、授業に参加する。看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践の本の該当するところを読んで来る。必ず、授業の確認を行って、学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第7回　事例展開　全体像と看護問題
【key words】
疾患　　年齢　　看護　　全体の関連
【授業概要】
事例を通して、患者の全体像を病状、治療、検査、家族、本人の意向等を関連させながら、患者の状態を全体的に見ていく。全体像を用いることによって、看護の可視化につなげられるようにする。看護問題を必要性を考えながら導くことができた後、看護の優先度を決めていく。マズローの段階層も使用していく。
【教科書ページ・参考文献】
資料　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
【課題・予習・復習・授業準備指示】
全体像と看護問題について、疾患、検査、治療、患者の考え方、予測される看護について調べ、授業に参加する。復習として、なぜこうなるのかなど理解をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第8回　事例展開　目標と看護計画の立て方
【key words】
目標　　観察計画　　実践計画　　問題
【授業概要】
事例を通して、いくつかの問題から1つ選び、短期目標を設定し、観察計画、実践計画、教育計画を立案する。具体的な表現を使って、5H・1Wの方法を使って展開していく。用紙を使って、各自、事例を通して展開していく。最終的に、講義を聞き、自ら展開した計画を確認、修正する。実施、評価については、既習の知識で確認をする。
【教科書ページ・参考文献】
資料　　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
【課題・予習・復習・授業準備指示】
看護目標と看護計画について、観察計画、実践計画、教育計画等を看護過程を使ったヘンダーソン看護論の本を読んで授業に臨む。終了後は全体を通して、看護を実践するための看護過程をま

	とめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の私用）は厳禁。 課題提出が指示されている場合は、指定された期日を厳守する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行って下さい。 さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心がけて下さい。 ミニテストを行いますので、指示された範囲を学習して臨んで下さい。
オフィスアワー	授業日 12：00～12：40
評価方法	筆記試験80%、課題レポート・ミニテスト20%　　評価は筆記試験と課題レポートを合わせて60%を超えていること
教科書	茂野香おる：基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②、医学書院　2020
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護職として、臨床経験や教育経験を通して、臨地実習指導者として、看護過程展開に関しては、指導してきている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
中嶋 朋子　菅沼 澄江　小林 洋子　上田 葉子　内田 佳代			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護における共通基本技術に必要な知識を学び、基本技術を習得する。 〔到達目標〕 ①看護技術の特徴と範囲、技術を適切に実践するための要素について理解できる。 ②人間関係を発展させるためのコミュケ―ション技術を習得できる。 ③基本的活動の基礎知識を理解し、活動に伴う援助技術（体位・体位変換・移動・移乗・移送）を習得できる。 ④体位保持の意義と罨法が身体に及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする援助技術（ポジショニング・罨法）を習得できる。 ⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	・看護学概論と基礎看護援助技術との関連を学習し、一つ一つの援助技術が科学的根拠に基き、援助を受ける対象にとって看護に繋がる技術になっているか問題意識と探究心を持って各看護技術が習得できるように進める。 ・コミュニケ―ションは「分かち合うこと、共有すること」を意味する言葉である。コミュニケ―ションの構成要素と成立過程を教授する。また、演習を通してコミュニケーショ技法を学習する。 ・人間の身体構造や機能を力学的に学習し、人間の基本的な体位、体位変換、身体の移動や移乗・移送の援助技術を学習する。また、疾患により自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングの技術と身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）の技術を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 看護技術、実習室使用の手引き・手続き方法、演習時の注意点 【授業概要】 ・科目の位置づけとシラバスの説明をしたのち、技術とは何か、特徴、範囲、技術を適切に実践するための要素について説明する。 ・これから演習を行うにあたり、実習室の使用方法と演習時の態度・注意点について「実習室使用のの手引き」を用いて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 基礎看護技術Ⅰ.医学書院P2～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「実習室使用の手引き」を読み、演習に必要な物品を準備する。また授業資料を読み、復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	コミュニケーション 【key words】 コミュニケーション、コミュニケーションの構成要素、コミュニケーション成立過程 【授業概要】 ・コミュニケーションの意義と目的を説明する。 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本について説明する。

・効果的なコミュニケーションの実際を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅰ.医学書院P18～62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　コミュニケーション（講義・演習）
【key words】
コミュニケーション、傾聴、、共感的理解、情報収集
【授業概要】
・傾聴・共感的理解について説明する。
・コミュニケーションに障害のある人の特徴を踏まえ、言語的コミュニケーションに必要な身体機能について説明し、コミュニケーション障害のある人への対応方法について説明する。
・関係構築のためのコミュニケーションの基本的な知識を活用しながら、ペアを組み効果的なコミュニケーションの実際を行う。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅰ.医学書院P18～62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として前回の配布資料と教科書を照らし合わせ必要事項を覚える。
予習としてとして教科書をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　活動と休息援助技術
【key words】
基本的活動の基礎知識、ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡
【授業概要】
・姿勢と体位について説明する。
・ボディメカニクスを活用した患者の体位変換方法について説明する。
・褥瘡の基礎知識を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～126　P277～280
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書をよく読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　活動と休息援助技術　（演習）
【key words】
ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡
【授業概要】
・ボディメカニクス技術の基本を活用して臥床患者の体位変換を実施する。
・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～126　P277～280
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　活動と休息援助技術　（演習）
【key words】
ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡

【授業概要】
・ボディメカニクス技術の基本を活用して臥床患者の体位変換を実施する。
・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～126　P277～280
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　活動と休息援助技術
【key words】
移動、移乗・移送、車椅子、ストレッチャー、睡眠
【授業概要】
・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移動、移乗・移送）の実際を説明する。
・人の睡眠と睡眠障害の種類、要因と援助の実際について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題を指定された期日までに提出する。
予習として教科書をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　活動と休息援助技術　　（演習）
【key words】
移乗・移送、車椅子、ストレッチャー
【授業概要】

・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移乗・移送）を実施する。
・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～126
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　活動と休息援助技術　　（演習）
【key words】
移乗・移送、車椅子、ストレッチャー
【授業概要】
・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移乗・移送）を実施する。
・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～126
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　安楽確保の技術
【key words】
体位保持、温罨法、冷罨法、安楽
【授業概要】
・自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングの実際を説明する。
・身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）の技術を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P138～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　安楽確保の技術　（演習）
【key words】
体位保持、温罨法、冷罨法、安楽
【授業概要】
・自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングの実際を実施する。
・身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）の技術を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P138～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　感染防止の技術
【key words】
感染防止の基礎知識、標準予防策、手洗い、個人防護用具（マスク、エプロン、手袋）
【授業概要】
・感染防止の基礎知識と標準予防策について説明する。
・手指衛生について説明する。
・個人防護用具（マスク、エプロン、手袋）の着脱について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅱ.医学書院P421～435
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　感染防止の技術　（演習）
【key words】
効果的な手洗い、防護用具の着脱方法
【授業概要】
・衛生学的手洗い方法や感染防護のためのマスクとエプロン、ゴーグル、手袋の着脱方法をグループに分かれて実施する。

【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅰ.医学書院P421～435
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。
また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　総合演習
【key words】
ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡、移動・移乗、睡眠、体位保持、罨法
【授業概要】
・第4回から第11回までの活動と休息援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。
・演習後、自己の課題を明確にする。
【教科書ページ・参考文献】
基礎看護技術Ⅰ.医学書院P2～64

	基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～150　P277～280　P421～435 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。 また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　総合演習 【key words】 ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡、移動・移乗、睡眠、体位保持、罨法 【授業概要】 ・第4回から第11回までの活動と休息援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。 ・演習後、自己の課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 基礎看護技術Ⅰ.医学書院P2～64 基礎看護技術Ⅱ.医学書院P94～150　P277～280　P421～435 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として配布資料をよく読み、演習を速やかに実施できるように準備しておく。 また、指定された教科書の動画を見て確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	[　受講性に関わる情報　] ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 [　受講のルール　] ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。欠席した場合は、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、繰り返し練習することにより習得すること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験　(80%)　総合演習課題（10%）　ミニテスト・レポート課題（10%）、それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②・③. 医学書院, 2019.
参考書	・三上れつ・小松万喜子編集：演習・実習に役立つ基礎看護技術. NOVELLE HIROKAWA, 第4版, 2015. ・その他、講義内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師等養成所で専任教員として実務経験のある者、医療機関で医療従事者として経験のある者など様々な場所で援助技術を実践している教員が授業に関わっている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
上田 葉子　内田 佳代　中嶋 朋子　小林 洋子　菅沼 澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・看護の対象の日常生活援助に必要な環境調整、食事、排泄について学習し、根拠に基づいた看護技術を習得する。 【到達目標】 ①環境調整の意義を理解し、対象の状態に応じた環境を整える技術を習得できる。 ②食事援助の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた食事援助技術を習得できる。 ③食事後の口腔ケアの必要性が理解でき、対象に応じた口腔ケアの方法・種類を選択できる。 ④排泄の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた排泄ケア技術を習得できる。 ⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	１．入院患者を取り巻く生活環境について理解し、ベッドメーキングを中心とした環境調整について演習を通して考える。 ２．人が生きていくうえで欠かすことのできない食事と排泄の意義について学習し、対象の状況に応じた具体的な援助方法について演習を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　環境調整技術　療養生活の環境　病室の環境のアセスメントと調整 【key words】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　ベッドメーキング　リネン交換 【授業概要】 ・人間にとっての環境調整技術の意義、患者の療養生活における環境調整について説明する。 ・ベッドメーキングとリネン交換の目的・実施方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p.10-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加すること ・物理的な環境条件の基準について事後課題を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	環境調整技術　　（演習）　ベッドメーキング 【key words】 ・療養生活　環境調整　ベッドメーキング 【授業概要】 ・学生どうしペアとなり、それぞれがベッドメーキングの演習を行う。 ・演習時には実務経験のある教員がベッドメーキング時のボディメカニクスの活用法、手技における留意点についても実演し学生の演習を支援する。 【教科書ページ・参考文献】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習前に配布した手順書を読んでおく。 ・演習を通してベッドが患者にとって安全で快適な場になるように作成することができたか課題用紙に記入し提出する。 ・ベッドメーキングについて自己練習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	環境調整技術　　（演習）　臥床患者のリネン交換（1） 【key words】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　ベッドメーキング　リネン交換 【授業概要】 ・ベッドメーキングで学習した方法を活用しながら、臥床患者のリネン交換を実施する。 ・演習はグループで実施するため、観察役、患者役となり「安全・安楽」の視点でどのように感じたのか看護師役の学生の記録用紙に記入する。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者がいる場合のリネン交換の方法を実演し、その後看護師役、患者役、観察役に分かれて演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・該当する手順書を読んでから演習に参加する。 ・看護師役として「安全・安楽」の視点で気づけたこと、気づけられなかったこと課題用紙に記入し提出する。 ・臥床患者のリネン交換について自己練習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	環境調整技術　　（演習）　臥床患者のリネン交換（2） 【key words】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　リネン交換 【授業概要】 ・ベッドメーキングで学習した方法を活用しながら、臥床患者のリネン交換を実施する。 ・演習はグループで実施するため、観察役、患者役となり「安全・安楽」の視点でどのように感じたのか看護師役の学生の記録用紙に記入する。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者がいる場合のリネン交換の方法を実演し、その後看護師役、患者役、観察役に分かれて演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・該当する手順書を読んでから演習に参加する。 ・看護師役として「安全・安楽」の視点で気づけたこと、気づけられなかったこと課題用紙に記入し提出する。 ・臥床患者のリネン交換について自己練習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第５回	食事援助技術　　食事の基礎知識　栄養状態、食欲・摂取能力のアセスメントおよび援助の実際 【key words】 ・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助　摂食・嚥下障害　摂食・嚥下訓練 【授業概要】 ・人が生命を維持するうえで必要不可欠な行為である食事の意義と食べるために必要な身体機能について説明する。 ・食事援助を必要とする患者の栄養状態及び食欲・摂取能力のアセスメント方法、摂食・嚥下訓練について学習する。さらに、食事における看護師の役割を学習し、食事援助を行う前の環境調整、摂食の準備、援助時の留意点について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p.26-56. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・講義後の復習として嚥下のメカニズム、食事援助における看護師の役割について課題を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	食事援助技術　　非経口的栄養摂取の援助（経管栄養法・中心静脈栄養法）　清潔援助（口腔ケア） 【key words】 ・非経口的栄養摂取　経管栄養法　中心静脈栄養法 ・口腔ケア　ブラッシング 【授業概要】 ・非経口的栄養摂取の援助として、経管栄養法と中心静脈栄養法についての基礎知識と留意点について説明する。 ・口腔内の汚れの原因を説明し、口腔ケアの基礎知識と援助方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p.26-56, p.195-202. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・講義後の復習として経管栄養法、口腔ケアについて課題を提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	食事援助技術　　（演習）　角度による咀嚼・嚥下状態の違いを知る 【key words】 ・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助 ・口腔ケア　ブラッシング 【授業概要】 ・看護師役、患者役のペアになり、それぞれ食事の援助を実施する。 ・演習時には患者役を通して角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態をそれぞれが体験する。 ・観察役・患者役の学生から「安全・安楽」の視点からの気づきを看護師役にフィードバックする。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら事例に基づいて食事援助の方法を実演し、学生の演習を支援する。

【教科書ページ・参考文献】
p.26-56, p.195-202.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・該当する手順書を読んでから演習に参加する。
・角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態の違い、他者から援助を受ける体験からの気づきを課題用紙に記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　食事援助技術　（演習）　食事の援助
【key words】
・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助、口腔ケア　ブラッシング
【授業概要】
・看護師役、患者役のペアになり、それぞれ食事の援助を実施する。
・演習時には患者役を通して角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態をそれぞれが体験する。
・観察役・患者役から「安全・安楽」の視点からの気づきを看護師役にフィードバックする。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら事例に基づいて食事援助の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.26-56, p.195-202.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・該当する手順書を読んでから演習に参加する。
・角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態の違い、他者から援助を受ける体験からの気づきを課題用紙に記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　排泄援助技術　排泄の意義とメカニズム　排泄援助の基礎知識（トイレ・床上・おむつによる排泄援助）
【key words】
・排泄の意義　メカニズム　自然排尿　自然排便　床上排泄　便器　尿器　おむつ
【授業概要】
・排泄の意義、メカニズムについて説明し、尿、便の一般的な基準と逸脱について学習する。また排泄機能の障害、排泄行動の障害による援助方法の違いについて説明する。
・主に床上排泄（尿器・便器）、おむつ使用による排泄について援助技術の方法を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
・講義後の復習として便・尿の性状の一般的な基準と逸脱について課題を提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　排泄援助技術　排泄障害のある患者への援助の実際　清潔援助（陰部洗浄）
【key words】
排泄援助　浣腸　摘便　ストーマ　陰部洗浄
【授業概要】
・主に浣腸や摘便時の方法と留意点について学習する。また疾患により排泄経路を変更した場合の人工膀胱、人工肛門についてその種類を説明する。
・皮膚の構造と特徴について学習し、臥床患者の陰部洗浄方法について清潔援助施行時の留意点とその手順を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
・配布した手順書を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　排泄援助技術　（演習）　尿器・便器の用い方　おむつ交換
【key words】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助
【授業概要】
・床上排泄として尿器・便器の用い方、おむつ交換方法について看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者の尿器・便器の援助方法を実演し、学生の演習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・該当する手順書を読んでから演習に参加する。
・演習後の振り返りとして看護師役を実施してみて自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　排泄援助技術　（演習）　便器を用いた陰部洗浄（1）
【key words】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助　陰部洗浄
【授業概要】
・便器を用いた陰部洗浄法について、看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。
・手順を覚えるだけではなく、清潔・不潔を理解しながら演習を実施する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者のおむつ交換の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・該当する手順書を読んでから演習に参加する。

	・演習後の振り返りとして看護師役を体験した自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　排泄援助技術　（演習）　便器を用いた陰部洗浄（2） 【key words】 ・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助　陰部洗浄 【授業概要】 ・便器を用いた陰部洗浄法について、看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。 ・手順を覚えるだけではなく、清潔・不潔を理解しながら演習を実施する。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者の陰部洗浄の方法を実演し、学生の演習を支援する。 【教科書ページ・参考文献】 p.58-92, p.185-188. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・該当する手順書を読んでから演習に参加する。 ・演習後の振り返りとして看護師役を体験した自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　総合演習　（1）事例に基づく実施 【key words】 ・療養生活　環境調整 ・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動 ・床上排泄　便器　尿器　おむつ交換 【授業概要】 ・基礎看護援助技術Ⅱで学習したことを振り返りながら、課題用紙を活用して学習をすすめる。 【教科書ページ・参考文献】 1. 有田清子他：系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③. 医学書院, 2019. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習前にはチェックリストを活用しながら技術練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　総合演習　（2）事例に基づく実施 【key words】 ・ベッドメーキング　リネン交換 ・食事摂取の介助　口腔ケアの援助 ・排泄援助　陰部洗浄 【授業概要】 ・基礎看護援助技術Ⅱで学習したことを振り返り、既習の知識を活用しながら事例に基づいて演習を実施する。 ・看護師役、患者役になり、演習を実施する。演習後は担当教員よりフィードバックを行う。 【教科書ページ・参考文献】 1. 有田清子他：系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③. 医学書院, 2019. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習前にはチェックリストを活用しながら技術練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	[　受講生に関わる情報　] ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・事後課題がある場合には提出期限までに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 [　受講のルール　] ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。 ・欠席した場合は、後日、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、演習室を利用して学習を深めること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	・筆記試験　(80%)　総合演習課題（10%）　ミニテスト・レポート課題（10%） ※それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学③. 医学書院, 2019.
参考書	・岡谷 豊. 看護が見える 基礎看護技術 Vol.1. 第1版,第1刷,メディックメディア,2018. ・岡谷 豊. 看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.2. 第1版,第7刷,メディックメディア,2014. ・その他、講義内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙

	げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
内田　佳代　中嶋　朋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　看護の対象の日常生活援助に必要な清潔・衣生活、排泄、感染予防の知識・技術・態度を学び、根拠に基づいた看護技術を習得する。 〔到達目標〕 １．衣生活の意義を理解し、対象の状態に応じた病衣・寝衣交換の援助技術を習得できる。 ２．身体の清潔の意義と全身への影響を理解し、清潔ケア(入浴・シャワー浴・清拭・洗髪等)の援助技術を習得できる。 ３．感染予防の根拠について理解し、無菌的操作の技術を習得できる。 ４．排泄の援助である一次的導尿・持続的導尿について説明できる。 ５．対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考えることができる。
授業の概要	「衣・食・住」と表現されるように衣生活は人間生活の基盤となる三大要素の一つである。人間が衣服を身につけることの意義を説明し、疾病によって衣生活を自ら営めなくなったときの援助について考える。「衣服」の役割と同様に、皮膚・粘膜自体にも身体内部をまもる働きがある。皮膚や粘膜の構造と機能について説明し、疾病によって清潔行動に制限のある対象者にとっての入浴、シャワー浴、清拭、洗髪等の清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を学習する。これらを理解したうえで、寝衣交換と清潔援助の具体的な援助方法について演習を行う。 　また、感染防止の基礎的知識と感染経路別予防策および無菌操作について学習する。無菌操作を用いて、排泄の援助技術である導尿の技術を学習する。 　第14・15回は、事例に基づいた総合演習課題を実施し、基礎的な日常生活援助技術の習得を図る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	衣生活援助技術　　衣生活の援助 【key words】 衣生活・寝衣交換 【授業概要】 ・人間が衣服を用いる意義と看護における衣生活の意義について説明する。 ・療養生活における病衣の特徴、選び方、病衣の条件について説明する。 ・寝衣交換の留意点と方法、臥床患者の真意交換の実際について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp202～211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	清潔援助技術　　清潔援助の基礎知識 【key words】 入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・足浴・手浴 【授業概要】 .皮膚粘膜の構造と機能について説明する。 ・身体の清潔が生態や精神におよぼす影響と意義について説明する。 ・清潔行動に影響を与える因子について説明する。 ・全身の皮膚の清潔を保持するための方法について説明する。 ・清潔援助の方法選択の視点について説明する。 ・それぞれの清潔援助の基礎知識と実際について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp153～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　衣生活援助技術　（演習）臥床患者の寝衣交換
【key words】
寝衣交換・臥床患者
【授業概要】
・デモンストレーション後、患者・看護師役のペアとなり実施する。
・臥床患者の寝衣交換を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉えつつ安全・安楽・安心を考慮しながら実施する重要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp202～211
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　清潔援助技術　（演習）全身清拭（１）
【key words】
臥床患者・全身清拭
【授業概要】
・デモンストレーション後、グループに分かれて実施する。患者・看護師役のそれぞれの役割を体験しながら、どのように援助すると心地よいケアが提供できるのかを考える。
・臥床患者の全身清拭を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp153～170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　清潔援助技術　（演習）全身清拭（２）
【key words】
臥床患者・全身清拭
【授業概要】
・グループに分かれて実施する。患者・看護師役のそれぞれの役割を体験しながら、どのように援助をすると心地よいケアが提供できるのかを考える。
・臥床患者の全身清拭を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp153～170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　清潔援助技術　（演習）足浴
【key words】
足浴
【授業概要】
・足浴の目的、援助方法について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
・臥床患者の足浴を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp182～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　清潔援助技術　（演習）手浴
【key words】
手浴
【授業概要】
・臥床患者の手浴の目的、援助方法について説明し、グループに分かれて実施する。
臥床患者の手浴を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp179～182
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　清潔援助技術　（演習）洗髪（１）

【key words】
洗髪
【授業概要】
・ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪方法について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
・ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp170～179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　清潔援助技術　（演習）洗髪（２）
【key words】
洗髪
【授業概要】
・ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪方法について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
・ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp170～179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　感染防止の技術
【key words】
スタンダードプリコーション・消毒・滅菌・無菌操作
【授業概要】
・スタンダードプリコーション、消毒と滅菌、無菌操作と感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱い方について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp423～453（第13章感染防止の技術）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　感染防止の技術　（演習）滅菌ガウンの着脱方法　鑷子の取り扱い　滅菌物の取り出し方
【key words】
滅菌ガウン・鑷子・滅菌物
【授業概要】
・清潔と不潔の区別をふまえ、ガウンテクニック、滅菌物の取り扱い方、滅菌包みの開き方について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp423～453（第13章感染防止の技術）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　排泄援助技術　一時的導尿・持続的導尿
【key words】
一時的導尿・持続的導尿
【授業概要】
・導尿の定義を説明する。
・導尿実施時の留意事項を説明する。
・一時的導尿と持続的導尿の導尿目的・方法について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp73～92（導尿）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　排泄援助技術　（演習）一時的導尿、持続的導尿の管理
【key words】
導尿・無菌操作
【授業概要】
・一時的導尿の目的、援助方法について説明し、グループに分かれて実施する。
・一時的導尿の目的、手順、根拠、留意点について理解し、シミュレーターを用いて実施する。
・一時的導尿を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・安心を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp73～92（導尿）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキストの該当部分を読み用語調べをしておくこと。して講義終了後は、該当する動画を視聴する。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第１４回　総合演習（1）　事例に基づく実施 【key words】 清潔援助技術 【授業概要】 ・第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。 ・演習後、自己の課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp153～170．202～211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、実施できるようにしておく。 演習終了後は、目標に照らし、看護職として自己の課題に関して考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　総合演習（2）　事例に基づく実施 【key words】 清潔援助技術 【授業概要】 ・第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。 ・演習後、自己の課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp153～170．202～211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、実施できるようにしておく。 演習終了後は、目標に照らし、看護職として自己の課題に関して考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	［ 受講生に関わる情報　］ ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は、受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 ［　受講ルール　］ ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 ・遅刻、早退については担当教員に理由を申しでること。欠席した場合は、担当教員まで授業資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義にて解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、繰り返し練習することにより習得すること。
オフィスアワー	各回授業後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験　(80%)，総合演習課題（10%），　課題レポート・ミニテスト(１０%) 総合評価は筆記試験、総合演習課題、課題レポートともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	茂野香おる他：基礎看護技術Ⅱ③．医学書院，2019
参考書	・三上れつ・小松万喜子編集：演習・実習に役立つ基礎看護技術　NOUVELLE HIROKAWA、第４版、2015. ・その他、講義内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として総合病院に勤務。医療機関での実務経験を基に基礎看護援助論Ⅲについて講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施

	□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
上田 葉子　橋本明日香　小林 洋子　中嶋 朋子　内田 佳代　菅沼 澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①呼吸・循環を整える技術として、酸素吸入療法、一時的吸引、吸入の基礎知識を習得する。 ②創傷とその治癒のメカニズムを知り、創傷処置方法、包帯法を習得する。 ③症状・生体機能管理技術の基礎知識として、検体検査・生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を習得する。 ④医学的な検査・処置を必要とする対象への介助技術について習得する。 ⑤与薬における基礎知識を学習し、与薬に必要な看護技術を習得する ⑥救命救急を必要とする対象への判断方法を学習し、1次救命処置の実際について習得する。 ⑦死に至るまでの身体的・精神的変化を学習し、死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性と死後の処置方法について習得する。 ⑧安全確保の基礎知識を学習し、対象にとって安全を考慮した援助技術の必要性について習得する。 【到達目標】 ①呼吸・循環を整える基礎知識を学習し、酸素吸入療法、吸引、吸入時における基本技術について実施できる。 ②創傷とその治癒のメカニズムを知り、治癒のために必要な環境づくりと創傷処置の方法・留意点について述べることができる。 ③生体検査・検体検査、与薬に必要な基礎知識を理解し、検査、与薬に対する基本技術を習得する。 ④生体情報のモニタリングの種類を列挙し、それぞれの概要と手順、看護の役割を述べることができる。 ⑤診察の目的と検査・処置時の看護を述べることができる。 ⑥救命救急を必要とする対象者の判断方法を述べることができる。また、判断内容によって一次救命処置を実施できる。 ⑦死にゆく人と周囲の人々の身体的・精神的変化を学習し、ケアの必要性を述べることができる。また、死亡による身体の変化が説明でき、死後の処置の留意点を述べることができる。 ⑧対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	①酸素吸入療法、一時的吸引、吸入の目的と方法を学び、その援助の実際を手順書に従って実践する。 ②創傷とその治癒のメカニズムについて学び、その援助の実際を習得する。 ③診察・検査・処置における基礎知識を学び、医学的に異常をきたした対象に対する援助の実際について学習する。 ④与薬における基礎知識を学び、対象に与薬する際の援助技術について習得する。 ⑤安全確保の基礎知識として誤薬防止、チューブ類の予定外抜去防止、患者誤認防止、転倒・転落防止、薬剤・放射線暴露の防止方法について学習する。 ⑥救命救急を必要とする対象への判断方法を学び、１次救命処置の実際を手順書に従って実践する。 ⑦死に至るまでの身体的・精神的変化と死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性、死後の処置方法について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　呼吸・循環を整える技術 【key words】 ・呼吸、循環、酸素療法、一時的吸引、持続的吸引、吸入、人工呼吸療法 【授業概要】 ・呼吸・循環を整える技術について、酸素吸入療法、吸引（口腔、鼻腔、気管内）、吸入について実施する際の目的や留意点について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
p.214-260.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
・演習前の事前課題について提示する。（酸素吸入療法、滅菌について）
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２回　呼吸・循環を整える技術　（演習）　酸素吸入療法　酸素ボンベの取り扱い
【key words】
・呼吸、循環、酸素療法、酸素ボンベ、酸素残量計算
【授業概要】
・モデル人形を活用し、酸素療法について演習を実施する。
・演習では実務経験のある教員がデモンストレーションを実施し、その後4～5人のグループに分かれて酸素カニューレ、酸素マスクの装着方法について演習する。また、臨床では酸素ボンベを使用することもあるため、酸素ボンベの取り扱い方や注意点、酸素の残量計算の方法について学生の学習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.214-260.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・事前に配布した酸素療法の手順書を読んでから演習に参加する。
・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　呼吸・循環を整える技術　（演習）口腔、鼻腔、気管内への吸引療法
【key words】
・呼吸、循環、一時的吸引
【授業概要】
・モデル人形を活用し、吸引療法について演習を実施する。
・演習では4～5人のグループに分かれて口腔、鼻腔、気管内の吸引療法を演習する。特に気管内の吸引については無菌操作が必要なため、実務経験のある教員が実際にデモンストレーションを実施し、学生の演習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.214-260.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　創傷管理技術
【key words】
・創傷、創傷治癒、創傷処置、皮膚障害、包帯法、末梢、中枢、循環障害、運動障害
【授業概要】
・皮膚の構造と機能について復習しながら、創傷の定義、治癒の種類、創傷治癒過程とそのメカニズムについて学習する。さらに、創傷治癒のための環境づくりの必要性と創傷処置と皮膚障害についての基礎知識について説明する。
・包帯法の目的、種類を知り、包帯を用いるときの原則を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
p.262-284.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　創傷管理技術　（演習）巻軸帯、三角巾を用いた包帯法
【key words】
・創傷、創傷治癒、創傷処置、皮膚障害、包帯法、末梢、中枢、循環障害、運動障害
【授業概要】
・学生どうしペアとなり包帯法の原則もとに演習を行う。
・実務経験のある教員が巻軸包帯（環行帯、らせん帯）、三角巾を用いた上肢の固定方法についてデモンストレーションを実施し、その後の学生の演習を支援する。
【教科書ページ・参考文献】
p.262-284.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・事前に配布した包帯法の手順書を読んでから参加する。
・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　与薬の技術（1）与薬の基礎知識　経口与薬　吸入　点眼　点鼻　経皮的与薬　直腸内与薬
【key words】
・薬物動態、薬剤の保管、正しい与薬、6R、経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬
【授業概要】
・与薬についての基礎知識と種類について説明する。
・薬物動態について復習を行い、薬物の作用に影響を与える因子について学習する。その後与薬の原則と投与経路別における与薬の方法、看護師の役割についてそれぞれ説明する。
・主に経口、吸入、点眼、点鼻、直腸内与薬の目的・適応・方法・留意点について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
p.286-343.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。
・事後課題を提示するため記入し提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第７回	与薬の技術（2）与薬の基礎知識　　静脈注射　皮内注射　皮下注射　筋肉注射　輸血の基礎知識 【key words】 ・正しい与薬、6R、静脈注射、皮内注射、皮下注射、筋肉注射、輸血 【授業概要】 ・与薬についての基礎知識と種類について説明する。 ・薬物動態について復習を行い、薬物の作用に影響を与える因子について学習する。その後与薬の原則と投与経路別における与薬の方法、看護師の役割についてそれぞれ説明する。 ・主に静脈内注射、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、輸血の目的・適応・方法・留意点について学習する。また、輸液投与を行う際の滴下計算方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p.286-343. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	症状・生体機能管理技術 【key words】 ・検体検査（血液、尿、便、喀痰検査）、モニタリング、心電図検査、動脈圧、中心静脈圧 【授業概要】 ・症状・生体機能管理技術の基礎知識を学習し、検体検査や生体モニタリングの種類や援助の実際を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p.374-402. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	診察・検査・処置の介助技術 【key words】 ・診察の介助、検査・処置の介助、X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査、超音波、肺機能、核医学、穿刺 【授業概要】 ・診察の介助の目的を説明し、それぞれの生体検査の概要と検査、処置時の看護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.404-420. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	与薬の技術　（演習）与薬の6Rをもとに薬を準備、実施、廃棄する 【key words】 ・与薬の６Ｒ、注射、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い 【授業概要】 ・与薬の技術では６Ｒを活用し安全を確保する技術を習得する。 ・演習ではデモンストレーション後に4～5人のグループに分かれて注射筒と注射針の取り扱い方針刺し防止策アンプルを使用した薬液の吸い上げ、注射による与薬方法について演習する。 ・前期で学習した感染性廃棄物の取り扱い方についても演習を実施する。 ・特に注射器や針の使用は無菌操作や安全確保が必要なため、実務経験のある教員が実際に学生の演習を支援する。 【教科書ページ・参考文献】 p.286-343. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・事前に配布した筋肉注射の手順書を読んでから参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１１回	症状・生体機能管理技術　（演習）真空採血管、注射器を用いた静脈血採血 【key words】 ・検体検査（血液、尿、便、喀痰検査）、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い 【授業概要】 ・上肢モデルを使用して静脈血採血の演習を実施する。 ・演習ではデモンストレーション後に4～5人のグループに分かれて真空管を用いた採血と注射器を用いた採血を演習する。特に注射器や針の使用は無菌操作や安全確保が必要なため、実務経験のある教員が実際に学生の演習を支援する。 ・注射筒と注射針の取り扱い方　針刺し防止策　感染性廃棄物の取り扱い方について演習も実施する。 【教科書ページ・参考文献】 p.374-402. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・事前に配布した静脈血採血の手順書を読んでから参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１２回	救命救急処置技術 【key words】 ・トリアージ、心肺蘇生法、一次救命処置、二次救命処置、止血法、エマージェンシー-カート 【授業概要】

	・救命救急処置の基礎知識、心肺蘇生法、止血法、院内急変時の対応について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.346-372. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習前の事前課題を提示する。 ・事前課題を提出できなかった場合は演習に参加できないため、指定された期日までにレポートを提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　救命救急処置技術　（演習）一次救命処置（BLS）／止血法 【key words】 ・救急、トリアージ、心肺蘇生法、一次救命処置 【授業概要】 ・救命救急処置の基礎知識をもとにモデル人形を使用して一次救命処置（BLS）の演習をする。また、止血法の基礎知識をもとに直接圧迫法と間接圧迫法を演習する。 ・演習では実務経験のある教員がデモンストレーションを実施し、その後4～5人のグループに分かれて演習を行い学生を支援する。 【教科書ページ・参考文献】 p.346-372. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・事前課題を提出していない学生は演習に参加できない。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　安全確保の技術 【key words】 ・セーフティマネジメント、医療事故、医療過誤、インシデント・アクシデントレポート、6R、薬剤・放射線被爆 【授業概要】 ・わが国における過去の医療事故を取り上げ、安全確保の重要性について説明する。 ・医療事故の定義、分類、発生要因、危険因子、看護事故の種類について説明し、看護者に求められる安全管理行動について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.462-478. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　死の看取りの援助 【key words】 ・平均寿命、キュブラー・ロス、死の恐怖、心理、身体的苦痛、精神的苦痛、死の看取り、死後の処置、グリーフケア 【授業概要】 ・日本の死亡に関して、現在の平均寿命、死因、死亡場所の変遷について復習をする。その後、死に至るまでの人の身体的・精神的変化を知り、死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性を学習する。また、死亡後の身体的変化を学習し、死後の処置方法や留意点について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.480-498. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義前にテキストの該当部分を読んでから授業に参加する。 ・死を迎える状態にみられる人の精神的変化について復習する。また残された家族のグリーフケアについて復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・事後課題がある場合には提出期限までに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 [受講のルール] ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。 ・欠席した場合は、後日、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、演習室を利用して自己学習を深めること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	・筆記試験（80%）　課題レポート（20%） ・それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③. 医学書院, 2019.
参考書	・岡谷 豊.看護が見える 基礎看護技術 Vol.1.第1版, 第4刷,メディックメディア,2018. ・岡谷 豊.看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.2.第1版, 第7刷,メディックメディア,2014. ・その他、講義内で紹介する。

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習を進める。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　看護論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	看護援助の基礎となる代表的な看護論の特徴を学び、看護実践との繋がりが理解できる。 到達目標：①各看護論の特徴を述べることができる。 ②理論と看護実践の繋がりが説明できる。
授業の概要	代表的な看護論の理論的枠組みおよび知識体系について、代表的な書籍を精読し、要約・意見等をまとめる。 各理論家の看護論についての考えに触れ、看護実践との関係を理解する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	△
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	△
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	○
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　看護理論とは　看護理論で何を学ぶのか　フローレンス・ナイチンゲールについて 【key words】 看護理論　　看護論　　定義 【授業概要】 看護論とは何か、看護学の原点および看護の枠組みと方向性を導く看護理論の考え方を学ぶ。看護理論と看護実践の繋がりを理解するるナイチンゲールについて概略を知る。 【教科書ページ・参考文献】 「看護覚え書」P.1-11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「看護覚え書」の本の訳者まえがき、目次、はじめに等を読んで、授業に参加する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 1 1時間
	第２回	フローレンス・ナイチンゲールの看護論〔１〕「看護覚え書」の序章について 【key words】 病気　　回復過程　　看護 【授業概要】 「看護覚え書」序章を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。「看護覚え書」序章について検討し、理解を深める。本全体の看護の基本を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「看護覚え書」P.13-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「看護覚え書」序章の要約と意見を記載して、授業に持参する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	フローレンス・ナイチンゲールの看護論〔２〕換気と保温 【key words】 換気　　保温　　清浄 【授業概要】 「看護覚え書」換気と保温を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、換気と保温について、さらに、検討し、まとめをして理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 「看護覚え書」P.21-42 【課題・予習・復習・授業準備指示】

「看護覚え書」換気と保温の要約と意見を記載して、授業に持参する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第４回　フローレンス・ナイチンゲールの看護論〔３〕物音
【key words】
予感　物音　患者　看護師
【授業概要】
「看護覚え書」物音を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、物音について、さらに、検討し、まとめをして理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護覚え書」P.81-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護覚え書」物音の要約と意見を記載して、授業に持参する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第５回　フローレンス・ナイチンゲールの看護論〔４〕変化と陽光
【key words】
回復　身体と心　健康　病人
【授業概要】
「看護覚え書」変化、陽光を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、変化と陽光について、さらに、検討し、まとめをして理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護覚え書」P.104-111　P.145-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護覚え書」変化、陽光の要約と意見を記載して、授業に持参する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第６回　フローレンス・ナイチンゲールの看護論〔５〕食事、食物の選択
【key words】
時刻　生命　食物　品質
【授業概要】
「看護覚え書」食事、食物の選択を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、食事と食物の選択について、さらに、検討し、まとめをして理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護覚え書」P.112-120　P.121

「看護覚え書」P.112-120　P.121-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護覚え書」食事、食物の選択の要約と意見を記載して、授業に持参する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第７回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔1〕第Ⅰ章　看護師の独自の機能、すなわち基本的看護ケア
【key words】
基本的欲求　看護ケア　独自の機能
【授業概要】
ヘンダーソンの紹介及び看護の基本となるものの紹介。「看護の基本となるもの」の第1章を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。講義の要約を参考に自分の意見をまとめ、ヘンダーソンの看護の考え方の理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.11-17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護の基本となるもの」第Ⅰ章　看護師の独自の機能の要約と意見を記載し、授業に参加する。授業終了後はまとめをする。次回の章を精読する
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔2〕第Ⅱ章人間の基本的欲求　第Ⅲ章基本的看護ケアを行うにあたって
【key words】
看護計画　基本的看護ケア　患者の状態
【授業概要】
「看護の基本となるもの」第Ⅱ章人間の基本的欲求およびそれらと基本的看護との関係。第Ⅲ章基本的看護ケアを行うにあたって考慮に入れるべき患者の状態、その他の条件を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。第2章と第3章の講義を聞き、自ら、ヘンダーソンの看護について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.19-23　P.25-33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第Ⅱ章人間の基本的欲求およびそれらと基本的看護との関係。第Ⅲ章基本的看護ケアを行うにあたって考慮に入れるべき患者の状態、その他の条件を事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第９回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔3〕基本的看護の構成要素　患者の呼吸を助ける・患者の飲食を助ける
【key words】
呼吸　飲食　患者
【授業概要】

「看護の基本となるもの」患者の呼吸を助ける。患者の飲食を助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、検討し、自らの意見を述べ、知識の共有を図る。その後、講義を聞き、自ら、ヘンダーソンの看護について、さらに理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.38-40　P.41-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護の基本となるもの」患者の呼吸を助ける。患者の飲食を助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第10回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔4〕患者の排泄を助ける　歩行時および座位、臥位に際して
【key words】
姿勢　体位　排泄　移動
【授業概要】
「看護の基本となるもの」患者の排泄を助ける　歩行時および座位、臥位に際してを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、検討し、自らの意見を述べ、知識の共有を図る。その後、講義を聞き、自ら、ヘンダーソンの看護について考え、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.46-48　P.49-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護の基本となるもの」患者の排泄を助ける　歩行時および座位、臥位に際してを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第11回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔5〕患者の休息と睡眠を助ける　患者が衣類を選択し、着たり脱いだり
【key words】
休息　睡眠　衣類　着脱
【授業概要】
「看護の基本となるもの」患者の休息と睡眠を助ける。患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、検討し、自らの意見を述べ、知識の共有を図る。その後、講義を聞き、自ら、ヘンダーソンの看護について考え、理解を深め、自分なりの看護について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.52-54　P.55-56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護の基本となるもの」患者の休息と睡眠を助ける。患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第12回　ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論〔6〕患者が体温を　患者が身体を清潔に保ち、
【key words】
体温　清潔　皮膚　保護
【授業概要】
「看護の基本となるもの」患者が体温を正常範囲内に保つのを助ける。患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚を保護するのを助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。グループワークにて、検討し、自らの意見を述べ、知識の共有を図る。その後、講義を聞き、自ら、ヘンダーソンの看護について考え、さらに理解を深め、自分なりの看護について考えることができる。看護計画との関連について理解する
【教科書ページ・参考文献】
「看護の基本となるもの」P.57-58　P.59-63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「看護の基本となるもの」患者が体温を正常範囲内に保つのを助ける。患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚を保護するのを助けるを事前に精読し、要約と意見を記載して授業に参加する。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第13回　①人間関係の看護論について　ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビー等
【key words】
人間関係　プロセスレコード　再構成　看護過程記録
【授業概要】
ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビーの人間関係理論家を紹介し、それぞれの人間関係の理論や特徴についての考え方を学ぶ。ウィデンバックの再構成。看護過程記録、プロセスレコードなどそれぞれの理論家が使われている理論についての考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人間関係理論家の看護の考え方を調べて、授業に出席する。授業終了後は、興味のある理論家の著書を読んでみる。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第14回　②人間関係の看護論について　ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビー等
【key words】
人間関係　看護理論家　看護実践
【授業概要】
ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビーの人間関係理論家を紹介し、それぞれの人間関係の理論や特徴についての考え方を学ぶ。ウィデンバックの再構成。看護過程記録、プロセスレコードなどそれぞれの理論家が使われている理論についての考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	複数の人間関係理論家の看護の考え方を知り、自分の考え方に合った看護理論家について、看護実践との関係について調べておく。また、授業終了後は、自分の看護の考え方をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第15回　看護論について 【key words】 自己の振り返り　看護　気づき　看護観 【授業概要】 フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン、ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビーなどの学んだ理論家の看護の考え方を参考に、自分の看護の考え方を述べる。A4サイズ1枚程度。15回の授業の学びのﾚﾎﾟｰﾄ用紙まとめファイルが提出できるように整理をする。 【教科書ページ・参考文献】 資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の看護の考え方をまとめて授業に参加する。授業終了後は評価レポートが提出できるように整理し、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業計画に示されている文献は必ず熟読し理解して授業に臨むこと。 ・わからない部分を授業で解決するように努力すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず精読して授業に臨む。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	月曜日12：00～12：40
評価方法	・課題レポート20%（内容15%　書き方５%）と授業中レポート80%（内容70%　書き方10%） ・課題レポートと授業中レポートを合わせて60%を超えること
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護概論　基礎看護学①　医学書院　2020 Ｆ．ナイチンゲール（湯槇ます・薄井博子他訳）看護覚え書　現代社。ヴァジニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
参考書	授業の時、紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床経験をもとに、看護の基本は何かを考えて行く。実践活動や日常生活と合わせて、各理論家の主張する理論を実践を通して、考えることできるようにする アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎看護学実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(45)	必修
担当教員			
小林　洋子　上田　葉子　中嶋朋子　内田佳代　　橋本明日香			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	Ⅰ　実習目的 　医療・看護の行われている場において、患者および患者を取り巻く環境の理解を深め、看護活動の実際を学ぶ。 Ⅱ　実習目標 　１．病院機能の概要および病院における医療チームとその役割を理解する。 　２．入院患者の療養生活の場を理解する。 　３．入院患者とコミュニケーションをはかり、患者の気持ちを理解する。 　４．看護師の活動と役割を理解する。 　５．看護学生としての基本的な態度を身につけることができる。
授業の概要	１．実習時期　令和2年9月18日（金）～9月25日（金） ２．実習単位及び時間数　１単位　45時間

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	◎
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	学内実習	実習1日目 【key words】 オリエンテーション　実習目的　実習目標　実習内容 【授業概要】 １．全体オリエンテーション 　１）実習目的、目標、実習内容について 　２）実習病院の機能と概要、交通アクセスについて 　３）グループの役割決定、連絡網、交通手段用紙作成 　４）実習目標に関連した事前学習内容の確認 ２．施設別オリエンテーション ３．病棟別オリエンテーション 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、看護覚え書、看護の基本となるもの 【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学実習施設の病院の理念・機能、看護部の概要等を事前に調べて、レポートにまとめる。各自、実習病院の通学路の確認をする。実習目的、目標、実習内容、実習方法等の確認をする。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
	病院実習	実習2日目(病院実習1日目)　各施設全体のオリエンテーション 【key words】 病院の役割　看護部の理念　病院見学　看護体制 【授業概要】 １．病院オリエンテーション 　１）病院の理念、組織機構、機能、設備 　２）看護部の概要と役割(看護部の理念、職員構成、看護体制、安全管理、感染対策等) ２．施設内見学 　１）グループに分かれて見学する。 　２）各部門の概要：職種、主な仕事の内容、特徴、看護部との連携について説明を受ける。

	【教科書ページ・参考文献】 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、看護覚え書、看護の基本となるもの 【課題・予習・復習・授業準備指示】 空いている時間に、カンファレンスについて、グループにて準備をする。オリエンテーションを受けたことに関しては、看護との関係を明らかにして、ノートにまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間 病棟実習　実習3日目(病院実習2日目)　病棟オリエンテーション・入院環境を知る・看護活動見学 【key words】 病棟オリエンテーション　入院患者　入院環境 【授業概要】 １．病棟オリエンテーション ２．病棟探索 ３．看護師と共に行動 ４．ショートカンファレンス 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、看護覚え書、看護の基本となるもの 【課題・予習・復習・授業準備指示】 患者の入院環境の基準値は調べておく。看護活動の見学に関しては、質問ができるように事前に調べておく。実習終了後は、目標に合わせて到達状況を確認し、翌日の臨む姿勢を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間 病棟実習　実習4日目(病院実習3日目)　看護活動見学・患者とのコミュニケーション 【key words】 コミュニケーション　カンファレンス　看護活動 【授業概要】 １．看護師と共に行動 ２．患者とのコミュニケーション ３．カンファレンス 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、看護覚え書、看護の基本となるもの 【課題・予習・復習・授業準備指示】 患者とのコミュニケーションの方法を考えて臨む。看護活動の前日の見学を通して、見学したい項目など考え、申し出ることができるように準備をする。最終カンファレンスのまとめをしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間 学内実習　実習5日目 【key words】 個人面接　課題　振り返り　まとめ 【授業概要】 １．実習全体のまとめ ２．個人面接 ３．課題レポート作成、提出 【教科書ページ・参考文献】 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、看護覚え書、看護の基本となるもの 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出物の遅れがないように準備をしておく。実習の全体を通して、実習目的、目標に沿っての到達状況についてまとめ、できなかったところの原因を考え、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・具体的内容については、看護学臨地実習共通要綱及び基礎看護学実習Ⅰ の実習要項に準じ遵守すること。 履修要件 ・看護学概論Ⅰ、Ⅱ の単位認定の受験資格要件を満たしている。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・基礎看護学実習Ⅰ の科目責任者または、実習担当教員に確認すること。
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習してから実習に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	Ⅰ．総合評価 １．実習時間の5分の4以上の出席を要する。 ２．基礎看護学実習Ⅰの実習評価表に基づき、目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。
教科書	茂野香おる 他：看護学概論、 有田清子　他:　基礎看護技術　Ⅰ・Ⅱ　医学書院　2020
参考書	フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書き、現代社、2020 ヴァ-ジニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの　日本看護協会出版会　2020 授業で紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教員全員が臨床経験を持っている。

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
酒井　美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　人間の精神の発達とメンタルヘルスの視点から、精神保健医療福祉の役割と精神看護の活動のあり方を知る。また、精神看護、対象理解、自己理解に関連する理論から精神看護の対象を心理社会的側面から捉え精神看護の役割を理解する。 【到達目標】 　１）精神保健学・精神看護学の定義と看護の役割を概説することができる。 　２）現代社会の変遷とニーズからメンタルヘルスの課題と対策を説明することができる。 　３）人間の精神活動、こころの仕組みと働きを理論と関連づけることができる 　４）精神機能から精神障がい者の生きにくさを説明することができる。 　５）ライフサイクルにおける発達段階を理論で説明することができる。 　６）人間関係論を知り、患者との関係性と看護師のあり方を考案することができる。 　７）精神医学の歴史、精神医療・看護における倫理性から課題を見出すことができる。
授業の概要	本講義では、精神看護学・精神保健学・対人関係に関する基礎的な知識を理論から学習する。様々な社会病理現象からメンタルヘルスへの関心を高め、精神保健医療福祉の活動の実際をイメージする。さらに、当事者（精神障がい者とその家族）の方と支援者の体験を聴き、精神障がい者の生きにくさとリカバリーの視点から必要な社会資源を考え、支援の現状と課題を知る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	○
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション・　　現代社会 とメンタル ヘルス（1） 【key words】 現代社会・メンタルヘルス・社会病理現象 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。現代社会の現状と社会的問題となっているニュースから社会病理現象を知り、精神的健康・生活に及ぼす影響を考える。自分の生活上での生きにくさから精神の健康について考えられるよう視覚教材を活用して説明する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P263-288 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料と教科書を照らし合せて読み、自己学習ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	現代社会とメンタルヘルス（２）自死と対策 【key words】 現代社会現象、こころの健康、自死、対策 【授業概要】 こころの健康のあり方、精神保健の役割から、自殺の死亡率と背景、自殺予防対策の現状を知り、自分にできる支援は何かを考えることを狙いとして資料を基に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P263-288 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料と教科書を照らし合せて読み、自己学習ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	現代社会 とメンタルヘルス（３）こころの健康と精神障害

【key words】
こころの健康、障害の概念、精神障害
【授業概要】
精神健康の基準、概念からこころが病むということはどういうことか。また、精神障害と精神障がい者をどのように捉えるか講義内容を自問自答しながらこころの健康のあり様を考える。また、1回～3回の授業を通して精神看護、精神保健、精神科看護の対象を理解できるよう視聴覚教材を活用して授業を展開する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P5-13　70-74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み、自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　こころの健康(こころの仕組みと働き：フロイト)
【key words】
精神力動論、自我、精神機能、防衛機制
【授業概要】
こころの健康、不健康とはどのような状態か、健康の概念から考える。フロイトの精神力動論から、こころの仕組みと働きを知り、人間行動を捉えられる。そのこころの機能から精神の健康行動特性である防衛機制を学び、自己（人間）の行動を精神の健康視点から理解できるよう具体例を示し説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P17-36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み、自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　脳機能と精神活動
【key words】
自我、脳機能、精神活動
【授業概要】
自我の構造とその人らしさである人格の構成概念を学ぶ。また、人間行動である精神活動を脳の働き（知・情・意）から理解し、脳機能と生活行動の関連を考える。既習の脳の構造と機能を統合できるように説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P48-55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み、自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　ライフサイクルにおける人格の発達と危機（フロイト・エリクソン）
【key words】
人格、ライフサイクル、発達理論
【授業概要】
フロイト・エリクソンのライフサイクルにおける人格の発達と危機を知り、人間的成長に影響する環境の重要性を理解する。また、人間の発達課題から精神の健康と成長を考える。既習の心理学の内容を繋げて理解する。自己の発達過程を振り返りポジティブに捉える視点を伝え説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　ストレスと危機理論
【key words】
ストレス、危機、理論、対処行動
【授業概要】
危機モデルと理論、ストレス対処理論を学び、ストレスが及ぼす心身への影響とストレスの対処方法、危機介入と対処行動を知る。自己のストレスマネージメントから、こころの健康維持と支援を具現化し理論と繋げられるように説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P17-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　中間試験　人間関係論(1) 個人・集団人間関係論
【key words】
人間関係論、個人、集団（グループ）、役割機能
【授業概要】
1～7回の授業内容を知識として身に着けるために中間試験を行う。
人間関係論における自己と他者について理解する。また、集団力動論による集団の役割機能から精神の健康への影響を資料と教科書を基に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P36-47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　人間関係論(2) 家族
【key words】

人間関係論、家族役割、家族病理
【授業概要】
家族の多様性と役割機能の現状を知り、家族役割と機能からこころの健康との関連から家族病理について理解する。また、慢性疾患を患う精神障がい者の家族の心理状況から家族支援について考えることを狙いとし、文献資料を活用して説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2017.P48～57
参考図書　精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2019.P142-149　120-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　当事者授業-家族の思い-
【key words】
精神障害、家族、心理
【授業概要】
精神障がい者の家族をゲストスピーカとして招き、体験談を聴く。精神障がい者とその家族の体験から当事者の心理状況を知り、精神障がい者と家族のリカバリーの視点から支援の必要性と看護の役割と課題について考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考図書　精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2019.P120-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家族の体験を聴いた感想をまとめ提出することを課題とする。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　人間関係論(3)治療的関係
【key words】
人間関係論、患者看護師関係
【授業概要】
ペプロウ・トラベルビー・ロジャーズ・サリバンの人間関係に関する理論を学び、ケアにおける患者と看護師の関係性から看護師のあり方を考えられるよう資料を基に説明する。

【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P126-129
参考図書、精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2019.P120-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１２回　精神科医療の歴史・法律
【key words】
精神医療、看護、歴史、精神保健福祉法
【授業概要】
精神医療と看護の変遷と法律から精神科医療と看護の現状を知り、・精神科医療における法律の役割と必要性を理解する。法律の改正に伴い、精神医療と精神疾患に対する社会の意識変化と精神医療・看護の課題について考える。精神医療に関する事件やニュースなどの視覚教材を活用し精神科看護の役割を理解できるよう説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P205-234
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１３回　精神看護における人権－看護倫理と法
【key words】
精神看護、人権、看護倫理、法律
【授業概要】
精神科医療、看護における倫理的問題の実際を視覚教材で示し、精神科看護の定義から精神科看護に求められる専門性について考える。基本的人権の視点から精神科看護の倫理綱領を理解し、倫理性を高める意識を持てるよう資料を基に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2017.P239-249
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１４回　地域精神保健看護と地域移行支援ー地域で生活する精神障がい者と生活支援ー
【key words】
地域精神保健、地域移行支援、チーム医療、精神障がい者
【授業概要】
地域で生活する精神障がい者の生きにくさや必要とする生活支援について、当事者と支援者である精神保健福祉士の体験談を聴いて考える。精神障がい者の良き理解者の一人となり、医療・看護・福祉・行政の連携の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P167-182
【課題・予習・復習・授業準備指示】
当事者と支援者の実際の体験談を聴いた感想をまとめ提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルス
【key words】

	リエゾン精神医療・看護・感情労働・看護師・メンタルヘルス 【授業概要】 リエゾン精神看護師の役割とその必要性について理解する。感情労働者である精神科看護師の陥りやすいストレス状況とメンタルヘルスの大切さを知り、こころの健康と維持について考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2017.P59-63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料と教科書を照らし合せて読み自己学習ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ思考を発展させる学習姿勢で臨む。 授業中の疑問はそのままにせず、自主的に調べ、質問する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を教科書と照らし合わせて確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	中間試験、定期試験、課題レポートの総合評価で60%以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当教員は精神科看護の臨床経験を積み、現在精神看護学を専攻とする教育実践者である。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 精神障がい者とその家族をゲストスピーカーとして招き、病の体験を語ってもらう。精神疾患を患う当事者の心理状況とリカバリーに向けた回復の実際を知り、対象理解につなげる。

講義科目名称：　精神看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
酒井　美子　八木　智子　片岡　信子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　主な精神疾患の症状、治療による生活への影響を理解し、看護の役割と回復への支援を知る。また、既習の精神看護に関連する基礎的知識を基に精神疾患を患う対象の状況に応じた支援の方法を学び看護の役割を考える。 【到達目標】 　１）各精神疾患の回復過程を説明することができる。 　２）各精神疾患を病む精神障がい者への看護のポイントを説明することができる。 　３）精神障がい者のリカバリー（回復）を支える支援の実際を知り看護の役割を記述することができる。
授業の概要	本講義では、主な精神疾患を患う対象の症状と治療、看護のポイントを資料、教科書を活用し、ワーポイントにて説明する。既習の基礎知識を統合して精神疾患を病む対象への看護を多角的な視点から考える。視聴覚教材ＤＶＤや看護師の看護実際活動を聴くことで、疾病が生活に及ぼす影響と多職種、地域社会支援の重要性から精神科看護の役割を学ぶ。精神科看護活動の実際と知識を関連づけ、精神科看護への関心を高められるように展開する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　精神疾患の回復過程（ＤＶD) 【key words】 統合失調症　回復過程 【授業概要】 映画「ビューティフルマインド」を視聴し、統合失調症を患う対象とその家族の心理社会的支援を知る。精神障がい者の「生きにくさ」その人の生活、人生に及ぼす影響を理解するとともに、リカバリーの実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.138-142ｐ 203-214p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既習の疾病治療論Ⅳ、精神疾患の授業資料を再学習して授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	精神疾患回復過程（ＤＶD) 【key words】 統合失調症　回復過程 【授業概要】 映画「ビューティフルマインド」を視聴し、統合失調症を患う対象とその家族の心理社会的支援を知る。精神障がい者の「生きにくさ」その人の生活、人生に及ぼす影響を理解するとともに、リカバリーの実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.138-142ｐ 203-214p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既習の疾病治療論Ⅳ、精神疾患の授業資料を再学習して授業に臨む 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	統合失調症と看護（１）　急性期 【key words】 統合失調症、急性期、看護

【授業概要】
急性期の統合失調症の精神症状・治療を知り観察の視点を理解する。また、精神症状・治療が生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P203～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業資料を教科書と照らし合せて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　統合失調症と看護（２）　慢性期
【key words】
統合失調症、慢性期、看護
【授業概要】
慢性期の統合失調症の精神症状・治療を知り観察の視点を理解する。また、精神症状・治療が生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P110～222

【課題・予習・復習・授業準備指示】
統合失調症の慢性期の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　気分障害と看護
【key words】
気分障害（抑うつ、躁状態）、治療、看護
【授業概要】
気分障害の精神症状・治療を知り観察の視点を理解する。また、精神症状・治療が生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P203～2109　P308-313
【課題・予習・復習・授業準備指示】
気分障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　アルコール依存症と看護
【key words】
依存症、アルコール依存症、治療、看護
【授業概要】
アルコール依存症の精神・身体症状・治療を知り観察の視点を理解する。また、精神症状・治療が生命、生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P274～282
【課題・予習・復習・授業準備指示】
依存症・アルコール依存症の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　摂食障害、パーソナリティ障害と看護
【key words】
摂食障害、パーソナリティ障害、治療、看護
【授業概要】
摂食障害、パーソナリティ障害の症状とその特徴と治療をを知り、観察の視点を理解する。また、精神症状・治療が生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P278～282　P258-263　P318-324
【課題・予習・復習・授業準備指示】
摂食障害、パーソナリティ障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　神経性障害と看護
【key words】
神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、治療、看護
【授業概要】
神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の症状とその特徴、治療を知り観察の視点を理解する。また、精神症状が生活に及ぼす影響から支援を考えることを狙いとし、観察ポイント、アセスメントの視点、看護のポイントを主に説明する。

【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P146-152　P303-307　P324-358
【課題・予習・復習・授業準備指示】
摂食障害、神経性障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　発達障害と看護
【key words】
発達障害、特性、看護

【授業概要】
発達障害の特性を知り、生活のしづらさから支援を考える。自閉スペクトラム症を主にその特徴と支援方法を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P252　P329～336

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発達障害の支援のポイントについて自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　中間試験・精神科看護実践
【key words】
精神科看護　看護師　看護活動
【授業概要】
これまでの学習内容を知識として身に着けられるよう中間試験を行う。
精神科病院で勤務する看護師から「看護活動の実際と精神科看護の魅力」についての講和を聴き、精神科看護師の役割を考える。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験を見直し自己採点する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　治療と看護（１）：行動療法（入院・保護室・身体拘束）
【key words】
精神看護、入院形態、行動制限、隔離、身体拘束
【授業概要】
精神保健福祉法の観点から行動制限の治療的目的を知り、安全を守るためのリスクマネージメントについて、理解する。また、患者の人権擁護の視点から看護の役割を考えることを狙いとして説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P172-202

【課題・予習・復習・授業準備指示】
精神保健福祉法による行動制限に関する規定を自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　治療と看護（２）：身体療法(薬物療法・電気けいれん療法)
【key words】
薬物療法、電気けいれん療法、看護
【授業概要】
薬物療法・電気けいれん療法の身体に及ぼす影響を知り、患者が受け入れられる支援を考える。また、薬物療法が生活に及ぼす影響から看護の役割を理解することを狙いとして説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P74-93　　P337-345
【課題・予習・復習・授業準備指示】
向精神薬の副作用、電気けいれん療法の看護のポイントを自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１３回　治療と看護（３）：精神療法
【key words】
精神看護、精神療法、認知行動療法
【授業概要】
精神療法の種類とそれぞれの目的・方法を知り、看護の役割を考え実践につなげられるように説明する。

【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94～105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
支持的療法（傾聴、受容、共感）について自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１４回　治療と看護（４）：環境療法・集団療法
【key words】
治療的環境、集団精神療法
【授業概要】
環境が精神症状・生活に及ぼす影響から治療的環境の意義を知る。また、集団療法の目的を理解し、集団療法の他者との相互作用による治療的効果を理解できることを狙いとして説明する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
環境療法、集団療法の種類と方法、効果を自己学習ノートにまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　精神科看護の実際（精神科リハビリテーション看護）
【key words】
精神科リハビリテーション看護と社会資源
【授業概要】
精神医療・看護におけるリハビリテーションの意味を理解し、精神障がい者のリカバリーを基本とした退院支援の実際を、ゲストスピーカーの地域で活躍する精神障がい者の体験を踏まえて理解する。また、精神科におけるチーム医療の必要性と看護の役割について、近年行われている地域包括支援（ACT）を含めて説明する。

	【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P214-222　P354-358 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障がい者が活用できる社会資源の種類と方法を自己学習ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて履修すること。 予習・復習で学習を整理し、新たな課題を見出す能動的な学習を展開する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	中間試験、定期試験、課題レポートの総合評価で60%以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科看護師として精神科病院での臨床実務経験者であり、現在看護教育大学で精神看護学を担当している教育の実務経験者である。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 成人看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
源内　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の健康課題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。 成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を理解する。 〔到達目標〕 ①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境について理解できる。 ②成人期にある人の健康状態と看護について、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解できる。
授業の概要	グループワークを通して、成人の理解、健康障害の特徴、成人を取り巻く環境について理解する。 成人看護の理解は、看護するうえで基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できるようにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション授業の受け方、予習・復習について、評価方法について、グループワークについて説明 【key words】 成人　経過別の看護 【授業概要】 ″科目のオリエンテーションにおいて、　授業の内容と進め方、科目目標と看護学DPとの関連について説明する。 今後の成人看護援助論Ⅰ～Ⅴに繋がる授業、又成人看護学実習に繋がる授業であることを認識する。「成人学習」とは何かを学ぶ。″ 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63 参考文献：看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、グループのメンバーと積極的に議論できるよう授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	成人の生活と健康　（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）① 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題 【授業概要】 グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする 【教科書ページ・参考文献】 ・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63・看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にできるように臨む 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い30分～60分
	第３回	成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）② 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題

【授業概要】
グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする
【教科書ページ・参考文献】
・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63　・看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にできるように臨む
【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い30分～60分

第４回　成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）③
【key words】
成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題
【授業概要】
グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする
【教科書ページ・参考文献】
・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63・看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にでき次回の発表に臨む
【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い30分～60分

第５回　成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）④
【key words】
成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題
【授業概要】
グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートしたものをグループ毎に発表する

【教科書ページ・参考文献】
・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63　・看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い30分～60分

第６回　成人期にある人々の理解　成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題
【key words】
成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題
【授業概要】
成人期にある人々の理解　成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題　グループ学習の総まとめ
【教科書ページ・参考文献】
・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63　・看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　第3章　成人への看護アプローチの基本：成人看護の目的と特性、アプローチの基本
【key words】
大人の学習　行動変容　意志決定支援　チームアプローチ
【授業概要】
″成人を取り巻く健康問題と、看護の関わりについて学習する、中でも様々な看護のアプローチについて学習する。又、大人の健康行動のとらえ方を理解する。
患者の意思決定を支援するということはどのようなことか、又看護師の役割は何かを考える。　″
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第3章P90～P148　・看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
成人への看護アプローチの基本：成人看護の目的と特性、アプローチの基本
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　成人の健康レベルに対応した看護①　ヘルスプロモーションを理解するための演習：グループで共有
【key words】
成人看護の場　健康の保持増進　ヘルスプロモーション
【授業概要】
成人の健康保持、増進に関わる看護の考え方として代表的な概念であるエンパワメント、ヘルスプロモーションを取り上げその考え方を理解する。
″ヘルスプロモーションを理解 するための演習として「両親の生活習慣病予防対策」についてグループで話し合い共有する。生活習慣病予防対策のパンフレットを作成する。
″
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　1章、2章、第4章P152～P168　国民衛生の動向　　看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと、今回はグループワークで「生活習慣病」についてまとめる、グループメンバーでPCを共有し、次回発表に向け準備する。

【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い30分～60分

第９回　成人の健康レベルに対応した看護②　ヘルスプロモーションを理解するための演習：共有したことを発表

【key words】
成人看護の場　健康の保持増進　ヘルスプロモーション
【授業概要】
成人の健康保持、増進に関わる看護の考え方として代表的な概念であるエンパワメント、ヘルスプロモーションを取り上げその考え方を理解する。
″ヘルスプロモーションを理解 するための演習として「両親の生活習慣病予防対策」についてグループで話し合い共有し作成したパンフレット内容を発表する。
″

【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　1章、2章、4章　国民衛生の動向　　看護のための人間発達学
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで作成したパンフレット内容を発表すると同時に、両親あてにメッセージを準備する。
【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い30分～60分

第１０回　成人の健康レベルに対応した看護③　成人期にある人々の健康逸脱：健康を脅かす要因と看護

【key words】
エンパワメント　ヘルスプロモーション
【授業概要】
健康を脅かす様々な要因について実態を知り、成人期の人々の健康逸脱・疾病時の看護について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　5章P170～P188
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　成人の健康レベルに対応した看護④　健康生活の急激な破たんから回復を促す看護：（急性期の看護・救急医療）

【key words】
急性期・生命の危機状態・危機モデル
【授業概要】
急激な健康破綻から回復のために有効な看護とは何かを学ぶ。危機状況にある人々はどのような状況か、またどのような看護支援が必要かを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　6章P190～P212
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　成人の健康レベルに対応した看護⑤　成人期にある人々の健康逸脱：疾病時の看護（慢性的な経過）

【key words】
セルフケア　セルフマネジメント　コンプライアンス　病みの軌跡　エンパワメント
【授業概要】
慢性的な経過をたどる病気になった成人の心理、身体的特徴、治療に取り組む姿勢、家族の様子などについて理解をする。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　7章P214～P231、10章P274～P292
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　成人の健康レベルに対応した看護⑥成人期にある人々の健康逸脱：疾病時の看護（生活とリハビリ、終末の経過）

【key words】
リハビリ　残存機能　アドバンスケアプランニング　トータルペイン　緩和ケア　グリーフケア
【授業概要】
障害のある人々を支援する看護の特徴、リハビリ看護についてその目的・特徴について学ぶ。死を迎える看護について、看護師の役割とは何か。又詞を迎えつつある人に対して看護師はどのような態度で接したらよいかを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　8章P234～P248、9章P250～P270
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで授業に臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　成人の健康生活を促すための看護技術①　エンパワメント、治療過程の看護技術、症状マネジメント ″

【key words】
危機介入　急性期
【授業概要】
患者の主体的治療療養行動の重要性がわかり、早期回復促進のための看護技術を学ぶ。症状マネージメントに必要な知識を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

	パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　10章11章12章　P274～P369 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　成人の健康生活を促すための看護技術②　療養の場を移行する人々への支援　退院支援 【key words】 退院支援　在宅移行支援　地域包括ケアシステム 【授業概要】 ″退院支援が必要とされる理由を理解し、退院に向けた退院支援の方法を学ぶ。 成人期の発達課題のまとめと、成人期の看護援助がイメージできるよう今までの授業で学んだことを復習する″ 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　13章P372～P404 【課題・予習・復習・授業準備指示】 成人看護学総論から成人看護援助論Ⅰ～Ⅴへ、更に成人看護学実習へとつなぐ準備が完結する 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・グループワークは、リーダーを決め、計画的にかつ主体的に取り組むこと ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと 〔受講のルール〕 ・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、グループワーク、課題レポート等20% 総合評価は、筆記試験、グループワーク、課題レポート等を合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	1)　小松浩子他　系統看護学講座成人看護学〔1〕成人看護学総論　医学書院 2) 舟島なをみ　看護のための人間発達学　医学書院
参考書	1) 松本千明　健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に　医歯薬出版株式会社 2) 厚生労働統計協会　国民衛生の動向
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院での看護師実務経験38年の教員が担当する。成人看護領域では約30年、うち領域管理15年の経験値があるが、成人看護総論を教授することは可能と考える。看護管理業務8年（病院管理に従事） アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
平出　恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】高齢者看護を理解するための基礎知識を学ぶ。 【目標】①老いを生きる高齢者その人に焦点をあて、エイジングや発達課題について理解する。 ②今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深める。 ③高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。 ④高齢者の自立と権利を知り、それらを阻む虐待や拘束などの実態から高齢者を守るための諸制度について理解する。 ⑤高齢者の健康問題と回復過程及びライフサイクルの最終段階にある死の疑念と支援について理解する。 ⑥高齢者看護の理念・定義を知り、その実践と責務について理解する。
授業の概要	今日の高齢社会の諸相を統計的側面でとらえ、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の動向と課題を学ぶ。 加齢による身体的・心理的・社会的変化の特徴と発達課題を学び、高齢者体験をとおして、高齢者の日常生活の不自由さが心と身体に及ぼす影響を知る。 それらを通して、高齢者看護の理念並びに高齢者看護の視点で洞察することができるようにする。 高齢者の健康生活を守るために、看護の視点でアドバイスするプロジェクト学習を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	◎
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	◎
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	◎
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	◎
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	◎

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション、高齢者看護学概論の概要（授業内容・課題・グループワーク・評価方法等）、 高齢者の定義、高齢社会の統計的輪郭 【key words】 高齢者の定義、少子高齢化、高齢化率 【授業概要】 高齢者の定義を学び、看護するために高齢者を知ることの重要性を学ぶ。高齢化の現状を国民衛生の動向を用いて少子高齢化の現状と高齢化率について学ぶ。次回の高齢者体験演習の概要がわかる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院；第１章ｐ1～3　第2章ｐ24～28 厚生労働統計協会　国民衛生の動向2020/2021；第2編衛生の主要指標第1章人口静態、第3章生命表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題「地域で生活する高齢者を知ろう①」用紙記入して、授業に臨むこと 高齢者体験演習の服装等の準備ができる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第２回	高齢者の理解　高齢者体験演習 【key words】 高齢者体験、高齢者に対するイメージ 【授業概要】 高齢者体験をとおして、高齢者が感じる日常生活の不自由さが心と身体に及ぼす影響を知る。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第１章ｐ４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者体験で気づいた高齢者の加齢による身体的・精神的・社会的特徴と学びをレポートにまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第３回　高齢者の理解　加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴、老年期の発達課題

【key words】
老いる、加齢と老化、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴、老年期の発達課題（エリクソン・ハヴィガースト）
【授業概要】
老いるということ、加齢と老化の関係、生理的老化と病的老化、老化学説、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴、ライフサイクルにおける老年期の発達課題を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第１章ｐ４～１９
参考文献：舟島なをみ　看護のための人間発達学　医学書院第9章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題「地域で生活する高齢者を知ろう②」を記入し、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴を考えてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第４回　高齢社会の統計的輪郭（少子高齢化、高齢者の健康状態、暮らし）

【key words】
高齢者の健康状態（有訴率、受療状況）・暮らし（経済状態、住まい、就業、社会活動、参加）、健康寿命
【授業概要】
高齢者の健康状態について統計的指標をもとに学ぶ。
実在する高齢者の情報から高齢者の健康状態について考える。

【教科書ページ・参考文献】
専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第１章ｐ19～22、第2章ｐ28～36
国民衛生の動向2020/2021；第2編　第4章健康状態と受療状況

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題「地域で生活する高齢者を知ろう②」を持参して授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　高齢社会と社会保障 ①高齢者に関わる保健医療福祉システムの構築と概要　②介護保険制度の整備

【key words】
保健医療福祉システム、地域包括システム、介護保険制度、高齢者医療確保法
【授業概要】
高齢社会における保健医療福祉の変遷を高齢化率と関連づけて学ぶ。
介護保険制度の概要を学ぶ。
高齢者を支える多様な職種と看護活動の拡大と専門化、ソーシャルサポートについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第１章ｐ36～54
国民衛生の動向2020/2021；第3編第2章保健対策２老人保健、第４編第2章医療保険制度、第5編第1章介護保険制度の概要
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書および国民衛生の動向の該当ページについて、読んでまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）①

【key words】
高齢者、健康生活、プロジェクト学習、ポートフォリオ、俯瞰
【授業概要】
加齢変化の特徴、高齢者の発達課題等に関する小テスト①
高齢者の健康生活を守るプロジェクト学習の概要と進め方がわかる。
高齢者の健康生活を守るために看護の視点でアドバイスを考える。
身近な高齢者の健康問題毎にグループに分かれて、グループメンバー間で自己紹介する。
グループ内でアドバイスする身近な高齢者1人の候補を決める。
グループで身近な高齢者が生活する中で困っていることは何かを情報共有し整理する。
高齢者の困っていることと、身体の加齢変化との関連を考える。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36
プロジェクト学習に関する資料を配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域で生活する高齢者を知ろう①②課題から、生活の中で困っている問題を書き出して授業に持参する。
自己の成長させたい能力を考えて、ワークシートに記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
グループメンバーで話し合い60分程度

第７回　高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）②

【key words】
高齢者、健康生活、プロジェクト学習、課題発見、計画、俯瞰
【授業概要】
高齢者の現状（情報）を理解するために必要な知識（解剖学や病態学等）をグループで調べる。
高齢者自身が自立した生活を送れるためには、生活改善として必要なことを看護の視点で考える。
対処と解決策の違いを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36

		参考文献：解剖生理学、〔1〕病理学〔2〕病態生理学〔3〕薬理学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループの目標と工程表（スケジュール）をグループで作成する。 高齢者の情報に関する必要な知識（解剖学・生理学・病態学・薬理学等）の不足をグループで協力して調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第８回	高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）③ 【key words】 高齢者　　健康問題　プロジェクト学習　課題解決策 【授業概要】 高齢者の目指す状態（目標）と現状を照らし合わせて原因究明する。 得られている情報（S・O情報）を整理して、看護の視点で課題解決策案を考える。 課題解決策案は、高齢者自身に役立つものかをグループで検討する。 【教科書ページ・参考文献】 専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36 参考文献：解剖生理学、〔1〕病理学〔2〕病態生理学〔3〕薬理学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 得られた情報を整理し、課題を明確にまとめる。 課題解決策の案を整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第９回	高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）④ 【key words】 高齢者　　健康問題　プロジェクト学習　課題解決策 【授業概要】 グループで模造紙に下案を作成する。 模造紙2枚に、アドバイスする高齢者のS・O情報を整理し、課題解決の具体的な方法をアドバイスとして整理する。 課題解決の具体的な方法が、役立つ内容かをグループで考える。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36 参考文献：専門分野Ⅱ　成人看護学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで下案作成に向けて相談する。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第１０回	高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）⑤制作 【key words】 高齢者　　健康問題　プロジェクト学習　課題解決策　プレゼンテーション 【授業概要】 グループでプレゼンテーションの制作物の案を考える。 課題解決の具体的な方法をわかりやすく表現する。 全体のバランスを考えて、模造紙2枚をグループで仕上げる。 プレゼンテーション（３分間）の発表内容・方法（ロールプレイング等）・工夫を考える。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36 参考文献：専門分野Ⅱ　成人看護学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで制作物を完成させるために下案を持参する。 次回のプレゼンテーション（３分間）の役割分担を決めて練習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第１１回	高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）⑥発表 【key words】 高齢者　健康問題　プロジェクト学習　プレゼンテーション　相互評価 【授業概要】 グループ毎にプレゼンテーションを行う。 相互評価で、互いのグループの改善点を見つけ、高め合うことができる。 互いに学び合い成長できる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピンクとブルーの付箋（大き目）を各３０枚程度、各自で持参し使用する。 グループで、相互評価の他者からの評価で良かった点、改善点についての他者評価をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第１２回	高齢者の生活と健康（高齢者の健康生活を理解するためのグループワーク）⑥発表 【key words】 高齢者、健康生活、プロジェクト学習、プレゼンテーション、相互評価、再構築 【授業概要】 グループ毎にプレゼンテーションを行う。 相互評価で、互いのグループの改善点を見つけ、高め合うことができる。（互いに学び合い成長できる。） 再構築のポイントについてわかる。 【教科書ページ・参考文献】

	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第1章p7～22　第４章ｐ19～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピンクとブルーの付箋（大き目）を各30枚程度、各自で持参する。 他者からの評価で良かった点、改善点についての他者評価をまとめる。 再構築の方向性について、グループメンバー間で確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第１３回　高齢社会の権利擁護の概要について　１）高齢者虐待　２）身体拘束　３）権利擁護のための制度（成年後見制度、日常生活自立支援事業） 【key words】 スティグマ、エイジズム、アドボカシー、高齢者虐待、身体拘束、成年後見制度、日常生活自立支援事業 【授業概要】 高齢者の虐待の概要、身体拘束、権利擁護のための制度（成年後見制度、日常生活自立支援事業）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第１章ｐ54～67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：高齢者虐待に関する新聞記事等を調べ、記事の概要を要約、自己の意見をまとめ、レポート提出する。 プロジェクト学習の再構築をグループで進める。 【予習復習に必要な想定時間】 グループメンバーで話し合い60分程度
	第１４回　高齢者看護の理念　①老年看護の成り立ち　②老年看護の定義と役割 ③高齢者看護における理論・概念の活用　④高齢者のための国連原則 【key words】 老年看護の定義、老年看護の役割、高齢者のための国連原則、高齢者看護における理論・概念 【授業概要】 老年看護の成り立ち、老年看護の定義と役割、高齢者看護で活用できる理論・概念の活用、高齢者のための国連原則について学ぶ。 高齢者の意思決定にする能力を信頼支援することについての意義や実践に必要となる理論や支援・専門化としての責務について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院；第３章ｐ70～83 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院；第２章ｐ50～54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プロジェクト学習の再構築をグループで進める。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
	第１５回　生活・療養の場における看護、高齢者看護に関する基礎的知識の統合 【key words】 ヘルスプロモーション、地域包括ケアシステム、家族の看護、プロジェクト学習　再構築　成長確認 【授業概要】 高齢者とヘルスプロモーションの概要について理解する。 地域包括ケア、保健医療福祉施設および居住地域における看護、地域密着型サービスについて理解する。 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護について理解する。 プロジェクト学習の再構築による成果物が完成する。 プロジェクト学習グループメンバーでお互いの成長を伝え合う。 高齢者看護に必要な知識を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院第９章ｐ360～385 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習内容を俯瞰して、自身の高齢者像について考察し、成長報告書を作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・1回～15回の講義を通して、高齢者看護を理解するための基礎を学びます。高齢者看護を保健・医療・福祉の側面から捉え、その動向を知ることが、高齢者看護をより深く理解できるように組み立てています。 ・プロジェクト学習は、全員がリーダーとして計画的に主体的に取り組むこと ・グループでの疑問等については、早めにオフィスアワー等を活用して相談し解決すること ・プロジェクト学習ではポートフォリオを活用するため、A４ファイルを1冊準備すること ・事前に授業概要およびシラバスを確認し、授業に臨むこと ・欠席・忘れ物をしないで、予習・復習をして授業に参加するように努力すること ・
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業終了後から17：30まで
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、課題レポート10%、プロジェクト学習（ポートフォリオ・成果物・成長報告書）30％で総合評価する。 課題レポートの内容については、オリエンテーション時に提示する。 総合評価は筆記試験・課題レポート・プロジェクト学習等を合わせて60%を超えることが前提となる。

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 厚生労働統計協会　国民衛生の動向　2020/2021
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　健康教育論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 健康教育やヘルスプロモーションの考え方、行動変容を促す健康教育の理論と方法を理解する。 【到達目標】 健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。
授業の概要	ヘルスプロモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成し、模擬授業後の発表を行い評価につなげる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　オリエンテーション「健康教育論」 科目オリエンテーション 学校保健、健康教育の概要について解説する。 第２回　ヘルスプロモーションの展開と方法 ヘルスプロモーションの展開、健康教育プログラムの計画と評価について解説する。 小テストを行う。 第３回　保健教育と学習指導要領 学習指導要領を基に学習指導案について説明する。 小テストを行う。 第４回　健康教育の実施１ 健康教育の実施１（演習）（小学校学習指導要領を基に指導案を考える） 小テストを行う。 第５回　健康教育の実施２ 健康教育の実施２（演習）（中学校学習指導要領を基に指導案を考える） 第６回　健康教育の実施３ 健康教育の実施３（演習）（高等学校学習指導要領を基に指導案を考える） 第７回　健康教育の実施４ 健康教育の実施４（演習）（特別支援学校学習指導要領を基に指導案を考える） 第８回　まとめ 健康教育実践の評価とまとめを行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式

授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) ・学校保健活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。その中から一つテーマを選び、その内容を要約し意見および感想をまとめる。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト20%、レポート発表20% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011 小学校学習指導要領解説　総則編、体育編、特別活動編、2017 中学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、特別活動編、文部科学省1、2017 高高等学校学習指導要領解説、総則編、保健体育編、文部科学省、2018
参考書	学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第４次改定版》、第一法規、2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 学校における教育相談の意義と役割、また教育相談における養護教諭の役割について理解する。 　養護教諭が行う健康相談の重要性を認識して、児童生徒のさまざまな課題について理解し、支援方法について考察する 　ことができることを目的とする。 〔到達目標〕 　　エビデンスに基づく分析ができ、人権や主体性を尊重しながら、養護教諭として児童生徒、保護者、教師等とかかわ 　ることができるようになる。また関係機関と連携をとることができるようになる。
授業の概要	学校における教育相談の役割と意義を概説し、学校現場で養護教諭として教育相談、健康相談の理論に基付く実践が行えるようにする。また児童生徒の抱える様々な課題（不登校や発達障害・反社会的な行動・被虐待などさまざまな事例）を通して、臨床的背景の理解と効果的な支援方法を学ぶ。様々な演習を通し、自己理解、他者理解を図る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	○
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	○
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・学校における教育相談の意義と役割 【key words】 科目オリエンテーション、教育相談、養護教諭 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。 全授業形態としてグループワークにて実施する。 学校における教育相談の意義と役割について理解する。 養護教諭としての関わりについて学ぶ。事例をあげながら、アセスメントの重要性、養護教諭が関わる時の留意点などを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 生徒指導提要：文部科学省 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）：少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育相談について、用語の定義を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	教育相談に活用できる理論やスキル① 【key words】 教育相談、カウンセリング、受容・共感・自己一致、信頼関係、自己理解、他者理解 【授業概要】 児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。 学校における教育相談の役割（問題を解決する・問題を未然に防ぐ・育てる）について学ぶ。 カウンセラーの基本的態度について理解する。ペアワークにて自己理解、他者理解をはかり、個別性を体感し話を聴くときの基本的態度を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料

		生徒指導提要：文部科学省 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代の児童生徒の健康問題について、国民衛生の動向を基に調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	教育相談に活用できる理論やスキル② 【key words】 カウンセリングスキル・ピア・カウンセリング、8つの誓約、積極的傾聴、信頼関係 【授業概要】 児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。 ピア・カウンセリングの概念（基本前提・基本定義・基本理念）、8つの誓約について理解する。 グループワークおよびペアワークを通し、養護教諭が関わる教育相談、および健康相談に生かせるスキルとして学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 生徒指導提要：文部科学省 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代の児童生徒の健康問題、課題について、図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	教育相談に活用できる理論やスキル③ 【key words】 カウンセリングスキル、ピア・カウンセリング、8つの誓約、積極的傾聴 【授業概要】 児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。 ペアになり積極的傾聴を実習し、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代の児童生徒の健康問題、課題について、図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	教育相談に活用できる理論やスキル④ 【key words】 カウンセリングスキル、児童、生徒、アセスメント、感情、保健室、健康相談 【授業概要】 保健室における、事例を通して健康相談の初期対応について理解する。 養護教諭に求められる資質の中で、児童生徒の様々な健康問題、課題に対応できる力を養う。 感情に焦点を当て児童生徒に寄り添うことについて理解する。 グループワークにて感情の言葉探しのエクササイズを行い、各自が持つ様々な感情に気づき、感情のつながりについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の小学生、中学生、高校生の頃の保健室における思い出を振り返り、相談活動に視点を当てて、考　えられることを記述して授業に臨む。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	児童生徒理解とアセスメント　　健康相談に必要な資質・能力・技能 【key words】 児童、生徒、アセスメント、健康相談、コ・カウンセリング 【授業概要】 児童生徒理解におけるアセスメントを中心に、健康相談に必要な資質・能力・技能について理解する。今までに学んだスキルを意識して、相互カウンセリング（ペア）でカウンセリングを行う。カウンセリングの実際について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 生徒指導提要：文部科学省 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒を理解する際に必要な、求められる人間性について、自分自身の考えをまとめておく 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	教育相談、健康相談の実際①　保健室を想定したロールプレイ 【key words】 児童、生徒、アセスメント、健康相談活動、コ・カウンセリング

【授業概要】
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　教育相談、健康相談の実際②　保健室を想定したロールプレイ
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携
【授業概要】
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　教育相談、健康相談の実際③　保健室を想定したロールプレイ　チーム支援
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携、チーム支援
【授業概要】
チーム支援について理解を深める。事例検討を通して児童生徒理解と対応を学ぶ。
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
グループ発表。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。）

【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第１０回　教育相談、健康相談の実際④　保健室を想定したロールプレイ　チーム支援
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携、チーム支援
【授業概要】
チーム支援について理解を深める。事例検討を通して児童生徒理解と対応を学ぶ。
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
グループ発表。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。図書館資料および文部科学省のホームページ等で調べる。（「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」参照。）
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第１１回　育てる教育相談で活用できる手法①　グループエンカウンター
【key words】
育てる教育相談、グループエンカウンター
【授業概要】
グループエンカウンターの理論と実際について理解する。
構成的グループエンカウンターについてのねらい、効果的な進め方等について学ぶ。
グループで価値討論を実施し、コンセンサスや価値観の違いについて理解する。
グループワークを通して、お互いの価値観を尊重することを体験する
学校現場でどのように取り入れられているかを学ぶ。
相談係、養護教諭として、学校現場で導入していくときの実際及び留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019
【課題・予習・復習・授業準備指示】
構成的エンカウンターについて調べる。（図書館資料等）
【予習復習に必要な想定時間】

	６０分 第１２回　育てる教育相談で活用できる手法②　ソーシャルスキルトレーニング 【key words】 育てる教育相談、ソーシャルスキルトレーニング 【授業概要】 ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際について理解する。 児童生徒に必要なソーシャルスキルについて調べ、どのような形で学校現場で実施していくかを学ぶ。 学校現場でどのように取り入れられているかを学ぶ。 相談係、養護教諭として、学校現場で導入していくときの実際及び留意点について学ぶ。 教育総合実習を想定し自己紹介を考え、実際に実施する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒に必要なソーシャルスキルについて調べる。（図書館資料等） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　育てる教育相談で活用できる手法③　アサーショントレーニング 【key words】 育てる教育相談、アサーショントレーニング、アサーション権、エゴグラム 【授業概要】 アサーショントレーニングの理論と実際について理解する。 3つの自己表現について理解し、ロールプレイを行い、様々な場面でアサーティブな自己表現ができるよう学ぶ。学校現場でどのように取り入れられているかを学ぶ。 相談係、養護教諭として、学校現場で導入していくときの実際及び留意点について学ぶ。 エゴグラムから自己理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒に必要なアサーションスキルについて調べる。（図書館資料等） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　育てる教育相談で活用できる手法④　ピア・サポート 【key words】 育てる教育相談、　ピア・サポート 【授業概要】 ピア・サポートの理論と実際について理解する。 学校で導入されているエクササイズを体験し、仲間支援について学ぶ。 学校現場でどのように取り入れられているかを学ぶ。 相談係、養護教諭として、学校現場で導入していくときの実際及び留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 新養護概説（第11版）： 少年写真新聞社　2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校で実施されているピア・サポート活動について調べる。（図書館資料等） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　まとめと振り返り 【key words】 教育相談・健康相談・養護教諭・信頼関係 【授業概要】 ワールドカフェについて理解する。 ワールドカフェにて授業を振りかえり、教育相談における養護教諭の役割を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。　また、配布資料や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	シャトルカード方式

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	・学校現場における不登校など相談活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。内容を要約し、意見、感想を 述べられるよう努力するすること。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日12時から12時40分
評価方法	筆記試験（客観・論述）７０％、レポート３０％（授業内で課題を示す） 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	配布資料 采女智津江　編：新養護概説(第11版）少年写真新聞社2019 学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第4次改定版》、第一法規、　2017
参考書	生徒指導提要：文部科学省、2012 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 38年間、養護教諭として勤務。小学校・中学校・高等学校勤務経験あり。教育相談係として児童生徒、保護者、教師支援に携わる。すべての子どもに対する、教育上の諸問題について、児童生徒自身またはその保護者、教師などに助言、援助することで、児童生徒自らが自己成長していくプロセスを、実務経験を生かしながら講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　健康障害児・生徒支援論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育の意義、在り方等の理解に基づき、健康障害を抱える幼児、児童及び生徒の自立と社会参加の促進、健康の維持・増進、安全の保障を目指した支援に必要な基本的知識・技術を習得する。 【到達目標】 ①健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援における基本理念を理解することができる。 ②健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族の特徴を身体・心理・社会的、発達的、教育的、治療的側面から理解し、健康障害の特性、ライフステージ等に応じた個別的、かつ生涯を見通した支援を進める中で必要な基本的知識・技術を得ることができる。 ③健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援において、諸分野との連携をはじめとした一体的な取り組みの重要性を理解することができる。
授業の概要	健康障害を抱える幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を学び、特別な支援に必要な知識、理解、教育的対応等について解説する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	○
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	○
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	△
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	オリエンテーション「健康障害児・生徒支援論」 【key words】 科目オリエンテーション、特別支援教育、子どもの権利、ノーマライゼーション 【授業概要】 科目オリエンテーション 特別支援教育の現状・統計、子どもの権利、ノーマライゼーション、特別支援教育の理念・基本方針について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P17～、P24～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第２回	特別支援学校の教育 【key words】 小学校・中学校における特別支援教育 【授業概要】 特別支援学校および小学校・中学校における特別支援教育について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P49～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第３回	各障害に応じた教育の基本① 【key words】

		視覚障害、聴覚障害、知的障害 【授業概要】 各障害に応じた教育の基本(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P89～、P126～、P153～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第４回	各障害に応じた教育の基本② 【key words】 肢体不自由、病弱・身体虚弱、重複障害 【授業概要】 各障害に応じた教育の基本(肢体不自由、病弱・身体虚弱、重複障害)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P187～、P218～、P244～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第５回	各障害に応じた教育の基本③ 【key words】 言語障害、情緒障害、発達障害 【授業概要】 （演習）健康教育の実施１ 各障害に応じた教育の基本(言語障害、情緒障害、発達障害)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P275～、P303～、P313～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第６回	現代的な健康課題と保健教育① 【key words】 性の多様性、人権、学校教育 【授業概要】 性の多様性と人権の観点から、児童生徒への支援の実際と支援者の役割を考える。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第７回	現代的な健康課題と保健教育② 【key words】 性の多様性、人権、保健室における児童生徒への支援の実際 【授業概要】 性の多様性と人権の観点から、保健室における児童生徒への支援の実際と養護教諭の役割について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
	第８回	特別支援教育における養護教諭の役割 【key words】 特別支援学校における養護教諭の役割 【授業概要】 特別支援学校における養護教諭の役割について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 所要時間60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活	

	用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行う。(所要時間60分程度) ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）70%、発表30%、 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015
参考書	はじめての特別支援教育、柘植 雅義、渡部 匡隆、二宮 信一、納富 恵子 編、有斐閣、2014 特別支援教育の理論と実践、武田契一、上野一彦著、一般財団法人協会、2012 特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部、文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)、文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、学校における特別支援教育及び健康上支援の必要な児童生徒について、自らが児童・生徒に主体的で対話的な学びを実践できるよう解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　在宅看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
塚越　八重子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　疾病や障害を持ちながら在宅で生活をする療養者とその家族の特徴を学び状態・状況に応じた支援ができるための基礎的知識技術を修得する。 〔到達目標〕 ①疾病や障害を持つ療養者とその家族の特徴が理解できる ②疾病や障害を持つ療養者とその家族が必要とする援助が理解できる ③療養者とその家族への指導ができる知識・技術を習得する ④訪問看護の一連を学内で模擬的に実践し、面接技法と在宅看護活動に必要な知識技術の習得をする ⑤在宅療養移行時における援助の意義・方法が理解できる ⑥在宅における終末期の看護の特徴・援助方法が理解できる
授業の概要	学内演習により、在宅で療養する患者に対して行う基礎的な看護技術を学ぶ。また、在宅生活を可能にする医療機器などを用いた治療法における看護の役割を学習し、医療処置の目的・内容を理解する。さらに必要に応じ家族に対するこれらの技術の相談・指導を受けることができるよう修得した知識技術の整理をする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	○
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	◎
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　認知症在宅療養者とその家族への援助 【key words】 アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、認知症の症状－中核症状・周辺症状、家族支援、地域ネットワーク、地域ケアシステム、地域包括支援センター、高齢者虐待、ユマニチュード 【授業概要】 本科目の進め方を示す。授業の中で説明するが、本科目は演習が多い。講義で理論的知識をい習得し、演習を通して実践的な学習をすることによって、知識の定着と思考力、技術の習得をねらう。 １）認知症の現状と中核症状と行動・心理症状を説明する。 ２）認知症高齢者・家族の特徴とその支援について説明する。 ３）認知症予防、認知症療養者に関する地域ネットワークについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：①臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019、p18、p47、p251-252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域における認知症に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。 授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論Ⅰの授業資料を持参する。 【予習復習に必要な想定時間】 1-2時間程度
	第２回	外部講師（角田氏）：難病を持つ方からのお話 【key words】 難病友の会　関節リウマチ　当事者　家族 【授業概要】 難病友の会を運営している当事者を招き、難病友の会の活動、当事者として難病と共に生きること、療養者の気持ち、家族の思いなどを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：①臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディ

カ出版、2019、p136-150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義後レポート提出
復習：授業資料を熟読し、学習したことを復習し、知識の整理、定着を図る。図書館の関連書籍を読むことも推奨する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第３回　精神障害を持つ療養者とその家族への援助
【key words】
精神障害、精神障害者と社会資源、地域ネットワーク、家族支援、訪問看護指示書、訪問看護計画書
【授業概要】
１）在宅における精神障害者の動向を説明する。
２）精神障害を抱える療養者とその家族の特徴とその支援について説明する。
３）精神障害を抱える療養者に関連するネットワークについて説明する。
４）精神障害者を取り巻く社会資源について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019、p143、p253-254
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：精神障害を抱える療養者に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論Ⅰの授業資料を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度1－2時間程度

第４回　難病療養者(児)とその家族への援助
【key words】
難病療養者(児)の特徴、特定疾患治療研究事業、公費負担、難病患者居宅生活支援事業、訪問看護と医療保険、医療的ケアと関連職種
【授業概要】
難病を抱える療養者(児)と家族の特徴、我が国の難病対策に関する基礎的知識を踏まえたうえで、フォーマル、インフォーマルな社会資源によるサービスを使いながら難病療養者(児)の生活を支援する看護について考える。
１）難病の在宅看護の指針を説明する。
２）社会資源の活用と、在宅保健・医療看護チームの調整について説明する。
３）難病を持つ在宅看護における看護師の役割について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019、p112-135、p136-155、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：難病療養者(児)に関するサポートシステム、地域における取り組みについて調べてくる。
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第５回　在宅療養児とその家族への援助
【key words】
養育医療、小児慢性特定疾患治療研究事業、重症心身障害児　家族支援　社会資源
【授業概要】
１）在宅療養児を取り巻く動向、社会資源について説明する。
２）在宅で療養児とその家族の特徴について説明する。
３）在宅で療養児とその家族への援助について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019、p136-153、p249-250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：地域における療養児に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第６回　訪問看護過程①　アセスメント・計画立案　演習
【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
事例について訪問看護の計画をグループで考える。
事例の訪問看護指示書、サービス利用票・提供票から、訪問看護で把握すべき情報とその収集方法をグループで考える。
１）訪問看護における面接のための情報収集ができる。
２）訪問時に必要なアセスメント計画が立案できる。
３）訪問看護における看護師の役割を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第７回　訪問看護過程②　アセスメント・計画立案　演習

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
事例について訪問看護の計画をグループで考える。
１）訪問看護における面接のための情報収集ができる。
２）訪問時に必要なアセスメント計画が立案できる。
３）訪問看護における看護師の役割を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第８回　訪問看護過程③　アセスメント・計画立案　〔ロールプレイ演習準備〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
事例について訪問看護の計画をグループで考える。
１）訪問看護における面接のための情報収集ができる。
２）訪問時に必要なアセスメント計画が立案できる。
３）訪問看護における看護師の役割を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第９回　訪問看護過程④　〔ロールプレイ演習〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
１）各グループで展開した訪問計画に沿ってロールプレイを行う。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じることでそれぞれの立場の気持ちを理解する。
３）立案した計画のポイントを説明する。
４）見学し、気づいたこと、学んだことを共有する。
５）訪問看護の基本を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１０回　訪問看護過程⑤　〔ロールプレイ演習〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
１）各グループで展開した訪問計画に沿ってロールプレイを行う。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じることでそれぞれの立場の気持ちを理解する。
３）立案した計画のポイントを説明する。
４）見学し、気づいたこと、学んだことを共有する。
５）訪問看護の基本を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１１回　訪問看護過程⑥　ロールプレイ演習の振り返り

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　訪問看護指示書　サービス利用票・提供票　看護計画・立案
【授業概要】
演習の振り返りをまとめ、グループ発表し、学びを統合する。
１）訪問事例の看護過程展開をグループで振り返り、要点をまとめ、学びを共有する。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じて気づいたこと、感じたことを発表する。
３）訪問時に必要なマナー、家庭訪問の基本的態度、訪問看護計画、訪問間看護師の役割、今後の自己の課題について振りかえる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p177-191、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p14-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。発表の準備は各グループで行う。
課題：事後レポートを提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１２回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助①

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア
【授業概要】
１）在宅ターミナルケアを取り巻く現状を説明する。
２）在宅ターミナルもおける身体的・心理的・社会的特徴と経過について説明する。
３）在宅ターミナルケアの条件、疼痛コントロール、チームケアの特徴について説明する。
４）在宅ターミナルケアにおける家族支援について説明する。
５）在宅ターミナルケアに関わる訪問看護師の役割について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p221-223、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p48-53、p98-101、p153-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１３回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助②　外部講師：訪問看護師からの話

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア
【授業概要】
１）在宅ターミナルケアを取り巻く現状を説明する。
２）在宅ターミナルもおける身体的・心理的・社会的特徴と経過について説明する。
３）在宅ターミナルケアの条件、疼痛コントロール、チームケアの特徴について説明する。
４）在宅ターミナルケアにおける家族支援について説明する。
５）在宅ターミナルケアに関わる訪問看護師の役割について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p221-223、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p48-53、p98-101、p153-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１４回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助③〔発表〕

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア
【授業概要】
１）療養者と家族の意思決定支援の意味を考える。
２）在宅ターミナルケア（必要な援助）をグループで考える。
３）グループ発表を通して学びを共有する。
４）事例を通して在宅ターミナルケアに関わる訪問看護師の役割が理解できる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、 p221-223、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019、 p48-53、p98-101、p153-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
1-2時間程度

第１５回　療養者とその家族への援助　まとめ

【key words】
マインドマップ　振り返り
【授業概要】
１）在宅看護についてグループで振り返りを行い、マインドマップを作成し、発表する。
２）在宅看護における知識・技術・態度の修得について、これまでの在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡを振り返り整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：①臺有桂他編：地域療養を支えるケア、メディカ出版2019、②臺有桂他編：地域療養を支える技術、メディカ出版2019

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。 復習：在宅看護のまとめについて整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 1-2時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・演習はジャージ、ナースシューズ着用。髪型等身だしなみは実習に準じる。 ・指定された事前学習及び事後レポートの提出をする。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基 本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	授業のある日の放課後～18時まで
評価方法	①筆記試験80%、（教科書、講義内容全般から出題する）。 ②演習課題20%（提出期限を遵守する）。 ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提（詳細な評価基準は授業概要参照）
教科書	臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論①　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019 臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論②　地域療養を支える技術、メディカ出版、2019
参考書	岡崎美智子、正野逸子編：根拠がわかる在宅看護援助技術第２版．メヂカルフレンド社．2010 樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 国民衛生の動向　2015/2016　厚生統計協会 杉本正子、眞舩拓子：在宅看護論　実践をことばに．ヌーベルヒロカワ．2011
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟や訪問看護ステーション勤務、介護支援専門員資格取得し、在宅看護学に関する研修会、勉強会、研究を行っている。 難病当事者からの語り、訪問看護ステーション管理経験者からの講義が一部含まれている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　在宅看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕健康上の問題を持ちながら家庭で生活する対象を理解し、看護の実際を学ぶ。 1. 自宅あるいは自宅以外の居宅（グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームなど）における療養者とその家族の多様な生活を理解できる。 2. 在宅の看護過程を理解できる。 3. 訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を理解できる。 4. 在宅療養・外来通院治療時における（退院支援部門含む）における在宅療養支援の重要性を理解できる。 5. 訪問看護ステーションの特徴・機能が理解できる。 6. 在宅ケアサービス及び関係機関・関係職種の関わりを理解できる。 7. 看護者としての自己の役割を理解できる。
授業の概要	健康上の問題を持ちながら家庭で生活する対象を理解するために、群馬県内訪問看護ステーションにおける看護師との同行訪問を通じて、自宅あるいは自宅以外の居宅（グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームなど）における療養者とその家族の多様な生活をする人々への看護の実際を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
〈看護学の知識〉看護学の観点から基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	◎
〈コミュニケーション能力〉相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。	◎
〈課題対応能力〉広く多元的に情報を収集し、科学的根拠の基に課題解決に向けた対応能力を身につけている。	
〈看護実践能力〉科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための能力を身につけている。	
〈共感的態度〉看護の振り返りや自己洞察を行い、共感的な態度をとる姿勢を身につけている。	
〈倫理観〉生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的視点から考える態度を身につけている。	
〈連携・協働力〉保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し他者と協働関係を築く力を身につけている。	○
〈地域的・国際的視野〉地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身に付けている。	
〈研鑽し続ける姿勢〉看護専門職者に求められる新たな課題に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけている。	

授業計画	第１回　　別紙実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	1)在宅看護論実習では生活の場や保健福祉行政機関等、様々な住民がいる場につくため、施設の内外を問わず言動には十分注意し、不用意に対象者の話をしない等、社会人として責任ある態度で臨むこと。 2)訪問看護では対象者・家族がホスト、看護師がゲストという立場である。常に対象者・家族の了解と協力を得るよう務め、言葉づかいや身だしなみに注意を払うこと。 3)訪問看護ステーションから提供された情報や実習記録等、個人のプライバシーに関わる記録物については取り扱いに十分注意し、放置・紛失しないこと。 4)服装・身だしなみは他家を訪問するマナーに見合ったもの、看護行為の提供に支障のないものに心掛けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、午後は、実習のまとめと翌日の準備とする。
授業外時間にかかわる情報	当日のまとめと考察、翌日の体験内容について調べ学習をして臨む。
オフィスアワー	実習日の14 - 16時。
評価方法	①出席状況。 ②実習内容:実習目的･目標に対する達成状況。 ③実習態度。

	④実習記録･レポート。 ※実習時間の4/5以上の出席を要する。
教科書	教科書:台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版 2018
参考書	樋口キエ子、式恵美子：退院支援から在宅ケアへ-看護職はライフサポーター、筒井書房、2010 国民衛生の動向　2018 /2019　厚生統計協会
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護教育に在宅看護論が開設されて以来、40余年に渡り在宅看護教育に携わってきた。訪問看護ステーションの研修、在宅看護に関連する研究会、学習、研究を継続している。2022年度から、基礎看護教育のカリキュラムの改定が行われ、在宅看護学の単位数が増える。地域で生活する人々を支援する看護の基本について本科目で教授する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容